

世田谷区

下野毛遺跡Ⅶ

—都営野毛一丁目団地（第2期）建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—



2024・6

東京都埋蔵文化財センター

世田谷区

下野毛遺跡Ⅶ

—都営野毛一丁目団地（第2期）建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—



2024・6

東京都埋蔵文化財センター

世田谷区下野毛遺跡第 17 次調査

下野毛遺跡は世田谷区野毛一丁目に所在しています。今回の調査は、西部住宅建設事務所による都営野毛一丁目団地（第 2 期）建替事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査として、令和 4 年 9 月から令和 5 年 6 月にかけて実施されました。

下野毛遺跡は、世田谷区の南側に位置しています。遺跡の南側に流れる多摩川によって、国分寺崖線が形成され、崖線下には多摩川低地が広がります。本遺跡は、多摩川中流域の左岸、国分寺崖線上の武蔵野台地縁辺に立地しており、標高は約 33m です。遺跡の東側には、等々力溪谷として有名な上用賀付近を源流とする谷沢川が、西側には国分寺崖線に沿って多摩川と並行する丸子川が流れています。本遺跡は、これらの河川によって開析された谷や崖線に挟まれる舌状台地上の遺跡です。また、遺跡の範囲内には東京都指定史跡の野毛大塚古墳をはじめとする、野毛古墳群が広がっています。

遺跡は 1955 年を皮切りに、それ以降 16 次にわたる発掘調査が行われ、今回は第 17 次調査となります。東京都埋蔵文化財センターが実施した本遺跡の調査は、第 16 次調査に続き 2 回目になります。これまで行われた調査成果から、本遺跡は縄文時代中期の集落遺跡であることが明らかになっているほか、後期旧石器時代、古墳時代、中世の遺構・遺物が見つかった複合遺跡です。

旧石器時代では、立川ロームⅩ層下部から約 3.4 万年前の石器製作を行った場所が見つかり、縄文時代では中期の堅六住居跡が、古墳時代では野毛 2 号墳の周濠が検出されました。



写真 1 調査地点から多摩川上流を臨む



写真2 調査地点と野毛大塚古墳（南から）



写真3 調査区全景（南から）

旧石器時代

今回の調査では、遺物集中部が1ヶ所発見されました。調査区の中央部付近で立川ローム区層下部から、散漫ではありますが石器が集中して出土しています。残念ながらナイフ形石器などの狩猟具といった道具は、出土しませんでした。道具の素材生産工程を復元できる接合資料が得られました。調査区が北側に隣接する第16次調査においても同じ層位から良好な接合資料が得られており、これらの遺物集中部を残した人間の活動を復元する上で重要な示唆を含んでいるかもしれません。



写真4 後期旧石器時代前半期の石核出土状況（北から）



写真5 旧石器時代出土石器接合資料

縄文時代

今回の調査では、縄文時代中期の住居の跡（住居址）や土器、石器といった遺物が出土しました。下野毛遺跡の調査では、これまで77軒の住居址が確認されていますが、今回は新たに16軒の住居址が検出されました。本遺跡の住居址は、これで93軒になります。検出された住居址の多くが後世の開発工事によって削平を受けており、住居址の覆土や掘り込みがほとんど残っていませんでした。多くの住居址は、住居内炉と思われる炉址や柱穴など付属施設の配置から判断したものになります。その中でも調査区の東西端から残存状況が比較的良好であった住居を検出できました。特に東側で検出された84号～87号住居址は、互いに時期を違えながら4軒が隣接している状況でした。87号住居址を除いて、後世の遺構や現代の団地基礎によって破壊されていますが、覆土や床面を検出するこ



写真6 84～87号住居址（北から）



写真7 83号住居址炉址遺物出土状況（北から）



写真8 87号住居址炉址（南から）



写真9 81号住居址検出状況（南から）



写真10 85号住居址遺物出土状況（西から）



写真 11 縄文時代出土土器

とが出来たことで、本遺跡における住居の作り替えや変遷などを理解する手がかりとなる発見になりました。

遺物は、主に中期から後期にかけての勝坂式、加曾利 E 式、称名寺式、堀之内式などの土器と、石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、石皿、凹石といった石器が出土しました。土器の一部には、赤彩が残るものが確認され、磨石には赤い顔料が残されてるものも発見しました。



写真 12 縄文時代出土石器



写真 13 赤彩が残る縄文時代中期の遺物



写真14 野毛2号墳周濠（北から）



写真15 野毛2号墳周濠内円筒形埴輪出土状況（南から）



写真16 野毛2号墳周濠出土円筒埴輪

古墳時代

古墳時代の遺構は、調査区の北西側で、第6次と第16次調査で検出された野毛2号墳周濠の続きを調査しました。墳丘部が削平され残っておらず平面形態が良く分かっていませんでしたが、今回の調査によって南側に前方部ないしは造出部を持つ古墳であったことが明らかになりました。周濠の覆土内からは、円筒形埴輪（はたぢ）の破片が出土しました。形状や製作技法などの特徴から過去の調査時と同様に、6世紀初頭のものであることから古墳も同時期だと推測されます。



写真 17 中世濠

中世

調査区東側を南北に走る断面形がV字の溝状遺構を検出しています。こうした構造の溝状遺構は、過去の調査時にも検出されており、主に濠と想定されています。中世の世田谷区豪徳寺付近に世田谷城を築いた吉良氏の家臣大平氏が当該地域に「等々力城(砦)」を築いたという伝承が残されています。これらの濠は、「等々力城(砦)」の一部として想定されています。

近世

調査区の南側からは、東西に走る道路跡と思われる大型の溝状遺構を検出しています。底面に轍痕が残り底面付近の覆土から近世の陶磁器類が出土しています。現代の道路区画と比較すると接続する道路が東側に続いています。



写真 18 近現代道路状遺構 (1号遺構)、
近世道路跡 (2号遺構)

Summary

The Shimonoge site is located in Noge 1-chome, Setagaya City. The cause of the excavation due to the reconstruction project of the Toei Noge Public-Housing (Phase 2), conducted by the Tokyo Metropolitan Government Western Housing Construction Office. The survey took place from September 2022 to June 2023.

The site is located in the southern part of the city, on the left bank of the Tama River, at an elevation of approximately 33 meters. The site lies on the edge of the Musashino Plateau above the Kokubunji Cliff Line, on a tongue-shaped plateau between the Todoroki Valley and the Maruko River. The Noge Kofun tumulus group, including the Noge-Otsuka Kofun, which is a Tokyo Metropolitan designated historical site, are also within the site area.

The site was first excavated in 1955, and the current excavation is the 17th survey. This is the second survey conducted by the Tokyo Metropolitan Archaeological Center, following the 16th. The results of the previous investigations have revealed the existence of a Middle Jomon Period settlement, and other archaeological records from the Upper Paleolithic, the Kofun Period, and the Medieval Period.

The main features of the survey were, a lithic concentration from the Early Upper Paleolithic; 16 pit-houses from the Middle Jomon Period; a tumulus moat from the Kofun Period; a moat from the Medieval Period; and a road from the Early Modern Period.

The results of the current survey have further clarified the site's characteristics as a Middle Jomon Period settlement. In addition to the findings from past surveys, these results are expected to enrich the local history of Setagaya City and enhance their utilization.

序 言

世田谷区野毛一丁目に所在する下野毛遺跡は、武蔵野台地の南部付近、遺跡の南側には多摩川が流れる国分寺崖線上の武蔵野台地の平坦面に立地しています。

下野毛遺跡の存在は、古く 20 世紀初頭から知られており、昭和 30 年（1955）にはじまり、過去 16 度にわたって発掘調査が実施されています。

第 17 次となる今回の調査は、東京都西部住宅建設事務所が施工する野毛一丁目団地（第 2 期）建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施し、旧石器時代から古墳時代以降にわたる多くの遺構と遺物が検出されました。

今回の発掘成果によって、下野毛遺跡の性格や遺跡内の遺構・遺物の分布についてより具体的に明らかにすることができました。

この発掘調査報告書が、多くの人々に活用され、地域の歴史を解明する資料となることを期待し、埋蔵文化財に対する都民の皆様のご関心とご理解を深めていただくことができれば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導をいただきました東京都西部住宅建設事務所、東京都教育委員会、世田谷区教育委員会に厚く御礼を申し上げますとともに、ご教示いただきました研究者の皆様、地域の住民の皆様に心より感謝申し上げます。

令和 6 年 6 月

公益財団法人 東京都教育支援機構
理事長 坂東 眞理子

例言

- 1 本書は都営野毛一丁目団地（第2期）建替事業に伴う、世田谷区下野毛遺跡（世田谷区No.123 遺跡）の第17次発掘調査報告書（東京都埋蔵文化財センター調査報告 第385集）である。
- 2 発掘調査事業は東京都西部住宅建設事務所の委託を受け、公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 遺跡所在地：東京都世田谷区野毛一丁目24番
- 4 調査面積：2,810 m²
- 5 調査及び一次整理期間：令和4年9月9日～令和5年7月7日
二次整理期間：令和5年7月1日～令和6年3月31日
- 6 本事業における事業者との事業調整等は東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。
埋蔵文化財担当 担当学芸員 石井 香代子
- 7 調査担当者
公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター野毛一丁目2分室
担当課長 大西雅也
担当調査研究員 堀 恭介
石崎俊哉(令和4年10月1日～11月30日、令和5年1月1日～2月28日、
令和5年4月1日～6月30日)
内野 正(令和4年12月1日～12月31日)
小島正裕(令和5年3月1日～3月31日)
調査協力 株式会社田中建設 テイクイトレード株式会社
- 8 本報告書の執筆はⅠ・Ⅳ-3・Ⅵ-3を大西雅也、Ⅳ-4の1号遺構・2号遺構について石崎俊哉、それ以外の章を堀 恭介が行った。編集は高田優衣協力のもと、堀が行った。
- 9 出土遺物及び発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、世田谷区教育委員会にて保管している。
- 10 本文用例等
 - (1) 土層の土色や含有物の面積割合、土器の色調等の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（日本色彩研究所発行 1998年）を用い、土色・マンセルノーションで示している。
 - (2) 出土遺物の注記記号は、「123-17-○○○」である。
例えば、78号住居址P1出土の1番の場合は「123-17-78住P1-1」となる。
 - (3) 挿入中に表記した標高値は、東京湾平均海面（T.P.）に基づいた標高を示している。
 - (4) 調査時における遺構平面図の実測、遺物の取り上げはトータルステーションシステムにより行った。
 - ・光波測距器：トプコン トータルステーション ES
 - ・データコレクター：トプコン FC-250
 - ・使用ソフト：Totalstation 3 Dimension designed for IntelliCAD

- (5) 本書掲載の地図は以下の通りである。

国土地理院「地理院地図」(第1図・第2図)

貝塚爽平監修・清水靖夫編集 1996『東京都市地図3 東京南部』柏書房

第2部 1万分の1図(元地図は国土地理院所蔵)

「世田谷・自由が丘 1880-1881」「自由が丘・武蔵小杉 1881」(第6図)

「世田谷・自由が丘 1909」「自由が丘・武蔵小杉 1906」(第7図)

「世田谷・自由が丘 1937」「自由が丘・武蔵小杉 1937」(第8図)

「世田谷・自由が丘 1945」「自由が丘・武蔵小杉 1945」(第9図)

世田谷区教育委員会『2023 世田谷の埋蔵文化財―遺跡地図―』(第14図)

- 11 グリッドの設定は世田谷区の公共座標(世界測地系)を使用し、5mを単位として設定し、必要に応じてその中を細分した。標高はT.Pを用いている。遺跡の座標については、以下の通りである。

Q23 杭 下野毛遺跡第17次調査0 基点座標

世界測地系 平面直角座標 9系 X = -43970.000 Y = -17305.000

M18 杭 下野毛遺跡第17次調査 中心部座標

世界測地系 平面直角座標 9系 X = -43940.000 Y = -17280.000

北緯 35° 36' 14" 東経 139° 38' 33" 真北方向角 0° 6' 40"

- 12 自然科学分析委託

1 放射性炭素年代測定 株式会社 パレオ・ラボ

2 炭素・窒素安定同位体比分析 株式会社 パレオ・ラボ

3 下野毛遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定 株式会社 パレオ・ラボ

- 13 発掘調査及び整理・報告書作成作業に関して、下記の方々と機関にご指導ご協力を賜った。記して深謝いたします。(五十音順・敬称略)

小山佑里子 品川裕昭 寺田良喜 寺前直人 中村新之介 箕浦 絢 村上 舞

世田谷区教育委員会事務局 東京都西部住宅建設事務所 東京都教育庁

目次

世田谷区下野毛遺跡第17次調査

Summary

序言

例言

目次

I	発掘調査の概要	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の方法	4
3	調査の経過	6
II	遺跡の位置と環境	8
1	地理的環境	8
2	歴史的環境	10
3	周辺の遺跡	14
III	層序	18
IV	遺構と遺物	22
1	旧石器時代	25
1)	BLI	26
A	遺物集中部	26
B	出土遺物	26
2)	単独出土資料	32
2	縄文時代	34
1)	遺構と遺物	35
A	住居址・住居址出土遺物	35
B	土坑・焼土遺構	126
C	ビット	136
2)	遺構外出土遺物	138
A	土器	138
B	石器	155
3	古墳時代	170
1)	野毛2号墳周濠	170
A	遺構	170
B	遺物	170
2)	遺構外出土遺物	181
4	中世以降	181
1)	中世から近世	181
A	溝状遺構	181
B	遺物	181
2)	近世から近代	183
A	1号遺構	183
B	2号遺構	185
C	3号遺構	188
V	自然科学分析	189
1	放射性炭素年代測定	189
2	炭素・窒素安定同位体比分析	192
3	下野毛遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定	195
VI	調査の成果と課題	198
1	旧石器時代	198
2	縄文時代	199
3	古墳時代	201
	引用・参考文献	
	写真図版	
	報告書抄録	

巻頭図版目次

写真1	調査地点から多摩川上流を臨む	i	写真11	縄文時代出土土器	v
写真2	調査地点と野毛大塚古墳(南から)	ii	写真12	縄文時代出土土器	v
写真3	調査区全景(南から)	ii	写真13	赤彩が残る縄文時代中期の遺物	v
写真5	旧石器時代出土土器接合資料	iii	写真14	野毛2号墳周濠(北から)	vi
写真4	後期旧石器時代前半期の石核出土状況(北から)	iii	写真15	野毛2号墳周濠内円筒形埴輪出土状況(南から)	vi
写真6	84～87号住居地(北から)	iv	写真16	野毛2号墳周濠内円筒形埴輪	vi
写真7	83号住居址・遺物出土状況(北から)	iv	写真17	中世濠	vii
写真8	87号住居址・遺物出土状況(南から)	iv	写真18	近現代道路状遺構(1号遺構)、 近世道路跡(2号遺構)	vii
写真9	81号住居址 検出状況(南から)	iv			
写真10	85号住居址遺物出土状況(西から)	iv			

挿図目次

第1図	遺跡位置図(1/10,000)	1	第40図	79号住居地(1/60)・竪址(1/30)	49
第2図	下野毛遺跡第17次調査区位置図	2	第41図	79号住居地ビット(1)(1/60)	50
第3図	グリッド・区別設定図(1/800)	5	第42図	79号住居地 ビット(2)(1/60)	51
第4図	武蔵野台地周辺の地形区分	9	第43図	79号住居地出土遺物分布図(1/60)	51
第5図	武蔵野台地 地形区分	9	第44図	79号住居地出土遺物(1)(1/3)	52
第6図	明治14年調査位置周辺(1/20,000)	11	第45図	79号住居地出土遺物(2)(1/3)	53
第7図	明治39・42年調査位置周辺(1/20,000)	11	第46図	79号住居地出土遺物(3)(1/3)	54
第8図	昭和12年調査位置周辺(1/20,000)	11	第47図	79号住居地出土遺物(4)(2/3・1/3)	55
第9図	昭和20年調査位置周辺(1/20,000)	11	第48図	80号住居地(1/60)・竪址(1/30)	57
第10図	昭和22年の調査位置空撮写真と道路状遺構	12	第49図	80号住居地ビット(1/60)・竪址(1/30)	58
第11図	近・現代の道路状遺構平面図(1/600)・ セクション図(1/200)	12	第50図	80号住居地ビット(1/60)	59
第12図	昭和38年の調査位置空撮写真と野毛一丁目跡地	13	第51図	80号住居地エレベーション・出土遺物分布図(1/60)	60
第13図	野毛一丁目跡地基礎平面図(1/800)	13	第52図	80号住居地出土遺物(1/3)	61
第14図	下野毛遺跡周辺の遺跡(1/15,000)	16	第53図	81号住居地ビット(1)(1/30)・竪址(1/60)	62
第15図	基本土層(1/40)・旧石器時代試掘坑位置図(1/1,000) ・土層堆積状態(1/80)	19	第54図	81号住居地ビット(2)(1/30)	63
第16図	下野毛遺跡第17次調査全体図(1/300)	23	第55図	81号住居地出土遺物分布図(1/80)	64
第17図	旧石器時代試掘坑配置図(1/1000)	26	第56図	81号住居地と周辺グリッド出土遺物分布図(1)(1/60)	65
第18図	BL1器種別遺物分布図(1/80)	27	第57図	81号住居地と周辺グリッド出土遺物分布図(2)(1/60)	66
第19図	BL1石片別遺物分布図(1/80)	28	第58図	81号住居地出土遺物(1)(1/3)	67
第20図	BL1接合資料分布図(1/80)	29	第59図	81号住居地出土遺物(2)(1/3・1/4)	68
第21図	BL1 出土土器(接合資料1)(1/2)(その1)	30	第60図	81号住居地出土遺物(3)(1/3)	69
第22図	BL1 出土土器(接合資料1)(2/3)(その2)	31	第61図	81号住居地出土遺物(4)(1/3)	70
第23図	BL1 出土土器(接合資料2)(2/3)	31	第62図	81号住居地出土遺物(5)(1/3)	71
第24図	単独出土土器分布図(1/40)	32	第63図	81号住居地出土遺物(6)(1/3)	72
第25図	単独出土土器(2/3)	32	第64図	81号住居地出土遺物(7)(1/3)	73
第26図	縄文時代住居地配置図(1/600)	34	第65図	81号住居地出土遺物(8)(1/3)	74
第27図	5号住居地・ビット(1/60)	36	第66図	81号住居地出土遺物(9)(2/3・1/3)	75
第28図	6号住居地・ビット(1/60)	37	第67図	82号住居地(1/60)・竪址(1/30)・ビット(1/60)	77
第29図	8・9・10号住居地・ビット(1/60)	38	第68図	82号住居地エレベーション(1/60)・ 遺物分布図(1/30)	78
第30図	49号住居地・ビット(1/60)	39	第69図	82号住居地出土遺物(1/3)	78
第31図	50号住居地・ビット(1/60)	40	第70図	83号住居地(1/60)・竪址(1/30)	79
第32図	50号住居地ビット(1/60)・竪址(1/30)	41	第71図	83号住居地ビット(1)(1/60)	80
第33図	50号住居地掘方・エレベーション(1/60)	42	第72図	83号住居地ビット(2)(1/60)	81
第34図	61号住居地・ビット(1/60)	43	第73図	83号住居地エレベーション(1/60)	82
第35図	78号住居地・ビット(その1)(1/60)	45	第74図	83号住居地遺物分布図(1/60)	83
第36図	78号住居地・ビット(その2)(1/60)	46	第75図	83号住居地出土遺物(1/3)	84
第37図	78号住居地掘方・エレベーション(1/60)	47	第76図	84号住居地埋設土器・ビット(1/60)	86
第38図	78号住居地出土遺物分布図(1/60)	48			
第39図	78号住居地出土遺物(1/3)	48			

第77図 84号住居址出土遺物分布図(1/60)	87	第120図 90号住居址・遺物分布図(1/60)	132
第78図 84号住居址出土遺物(1/4・1/3)	88	第121図 90号住居址出土遺物(1/3・2/3)	132
第79図 85号住居址(1/60)	89	第122図 91号住居址が址(1/30)・ピット(1)(1/60)	133
第80図 85号住居址が址(1/30)・ピット(1)(1/60)	90	第123図 91号住居址ピット(2)・掘方・エレベーション(1/60)	134
第81図 85号住居址ピット(2)(1/60)	91		
第82図 85号住居址掘方・エレベーション(1/60)	92	第124図 91号住居址出土遺物分布図(1/60)	135
第83図 85号住居址出土遺物分布図(1)(1/60)	93	第125図 91号住居址出土遺物(1/3)	135
第84図 85号住居址出土遺物分布図(2)(1/60)	94	第126図 92号住居址ピット(1)(1/60)	137
第85図 85号住居址出土遺物(1)(1/3・1/4)	95	第127図 92号住居址ピット(2)(1/60)	138
第86図 85号住居址出土遺物(2)(1/3)	96	第128図 93号住居址ピット(1/60)	139
第87図 85号住居址出土遺物(3)(1/3)	97	第129図 縄文時代土坑(1)・焼土遺構(1/60)	140
第88図 85号住居址出土遺物(4)(1/3)	98	第130図 縄文時代土坑(2)(1/60)	141
第89図 85号住居址出土遺物(5)(1/3)	99	第131図 縄文時代ピット配置図(1)(1/200)	142
第90図 85号住居址出土遺物(6)(1/3)	100	第132図 縄文時代ピット(1-1)(1/60)	143
第91図 85号住居址出土遺物(7)(1/3)	101	第133図 縄文時代ピット(1-2)(1/60)	144
第92図 85号住居址出土遺物(8)(1/3)	102	第134図 縄文時代ピット(1-3)(1/60)	145
第93図 85号住居址出土遺物(9)(2/3・1/3)	103	第135図 縄文時代ピット(1-4)(1/60)	146
第94図 85号住居址出土遺物(10)(1/3)	104	第136図 縄文時代ピット配置図(2)(1/200)	147
第95図 86号住居址(1/60)	105	第137図 縄文時代ピット(2-1)(1/60)	148
第96図 86号住居址ピット・土坑(1/60)	106	第138図 縄文時代ピット(2-2)(1/60)	149
第97図 86号住居址掘方・エレベーション(1/60)	107	第139図 縄文時代ピット配置図(3)(1/200)	150
第98図 86号住居址出土遺物分布図(1)(1/60)	108	第140図 縄文時代ピット(3-1)(1/60)	151
第99図 86号住居址出土遺物分布図(2)(1/60)	109	第141図 縄文時代ピット(3-2)(1/60)	152
第100図 86号住居址出土遺物(1)(1/3・1/4)	110	第142図 遺構外出土遺物(1)(1/3)	153
第101図 86号住居址出土遺物(2)(1/3・1/4)	111	第143図 遺構外出土遺物(2)(1/3)	154
第102図 87号住居址(1/60)・が址(1/30)	113	第144図 遺構外出土遺物(3)(1/3)	155
第103図 87号住居址埋設土器・ピット(1/60)	114	第145図 遺構外出土遺物(4)(1/3)	156
第104図 85・87号住居址掘方・エレベーション(1/60)	115	第146図 遺構外出土遺物(5)(2/3・1/3)	157
第105図 87号住居址出土遺物分布図(1/60)	116	第147図 野毛2号墳全体図(1/300)	171
第106図 87号住居址出土遺物(1)(1/3)	117	第148図 野毛2号墳周濠(1/60)	172
第107図 87号住居址出土遺物(2)(1/3)	118	第149図 野毛2号墳周濠出土遺物分布図(1)(1/60)	173
第108図 87号住居址出土遺物(3)(1/3)	119	第150図 野毛2号墳周濠出土遺物分布図(2)(1/60)	174
第109図 87号住居址出土遺物(4)(1/4)	120	第151図 野毛2号墳周濠出土遺物(1)(1/3)	175
第110図 87号住居址出土遺物(5)(1/3)	121	第152図 野毛2号墳周濠出土遺物(2)(1/3)	176
第111図 87号住居址出土遺物(6)(1/3)	122	第153図 野毛2号墳周濠出土遺物(3)(1/3)	177
第112図 87号住居址出土遺物(7)(2/3・1/3)	123	第154図 野毛2号墳周濠出土遺物(4)(1/3・1/2)	178
第113図 87号住居址出土遺物(8)(1/3・1/4)	124	第155図 古墳時代遺構外出土遺物(1/3)	178
第114図 87号住居址出土遺物(9)(1/6・1/3)	125	第156図 中世から近世の遺構(1/60・1/120)	182
第115図 88号住居址(1/60)・が址(1/30)・溝・ピット(1)(1/60)	127	第157図 中世出土遺物(1/3)	182
第116図 88号住居址ピット(2)・掘方・エレベーション(1/60)	128	第158図 道路状遺構(2号遺構)(1/800・1/100)	184
第117図 89号住居址(1/60)・埋設土器(1/30)・ピット(1)(1/60)	129	第159図 近世出土遺物(1/3)	185
第118図 89号住居址ピット(2)(1/60)・遺物分布図(1/30)	130	第160図 暦年校正結果	191
第119図 89号住居址出土遺物(1/6・2/3)	131	第161図 炭素・窒素安定同位体比	194
		第162図 炭素安定同位体比とC/N比の関係	194
		第163図 黒曜石産地分布図(東日本)	195
		第164図 黒曜石産地推定判別図(1)	197
		第165図 黒曜石産地推定判別図(2)	197

表目次

第1表	下野毛遺跡調査一覧	3	第12表	縄文時代遺構外出土土器観察表	167
第2表	発掘調査工程表	7	第13表	縄文時代遺構出土土器観察表	168
第3表	整理作業工程表	7	第14表	縄文時代遺構外出土土器観察表	169
第4表	周辺の道路一覧	17	第15表	古墳時代出土遺物観察表	179
第5表	旧石器時代遺物観察表	33	第16表	測定試料および処理	189
第6表	旧石器時代BL1石器石材別器種組成	33	第17表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	190
第7表	縄文時代住居址一覧表	158	第18表	結果一覧表	193
第8表	縄文時代土坑・焼土遺構一覧表	160	第19表	分析対象	195
第9表	縄文時代ヒット一覧表	161	第20表	東日本黒曜石産地の判別群	196
第10表	縄文時代遺構出土土器観察表	163	第21表	測定値および産地推定結果	196
第11表	縄文時代遺構出土土製品観察表	167			

図版目次

図版1	1 調査前状況(西から)	3	80号住居址炉址埋設土器(西から)
	2 作業風景(東から)	4	80号住居址炉址下層断面(西から)
	3 作業風景(北から)	5	80号住居址炉址・P1・P2完掘(西から)
	4 作業風景(西から)	1	80号住居址P1・P2断面(西から)
	5 作業風景(北から)	2	80号住居址P27完掘(南から)
図版2	1 BL1(TP10)石核出土状況(北から)	3	80号住居址P13・P14完掘(東から)
	2 BL1(TP5)遺物出土状況(西から)	4	80号住居址P15・P16完掘(南から)
	3 BL1(TP10)西壁(東から)	5	81号住居址完掘状況(南から)
	4 TP1北壁(南から)	1	81号住居址検出状況(南から)
	5 TP2西壁(東から)	2	81号住居址P1土器出土状況(北から)
	6 TP3(北から)	3	81号住居址P1断面(北から)
	7 TP4(北から)	4	81号住居址炉址燃焼面(西から)
	8 TP7(南から)	5	81号住居址炉址燃焼面断面(西から)
図版3	1 TP8北壁(南から)	1	82号住居址完掘状況(南から)
	2 TP9(南から)	2	82号住居址炉址検出状況(北から)
	3 5号住居址P13・P14断面(北から)	3	82号住居址炉址燃焼面(北から)
	4 5号住居址P13・P14完掘(北から)	4	82号住居址炉址完掘(北から)
	5 6号住居址P7・P8断面(北から)	5	82号住居址炉址燃焼面断面(北から)
	6 6号住居址P9・P10完掘(北から)	1	82号住居址検出状況(南から)
	7 6号住居址P11完掘(南から)	2	83号住居址炉址遺物出土状況(北から)
	8 6号住居址P13完掘(北から)	1	83号住居址炉址完掘(北から)
図版4	1 10号住居址P5断面(北から)	2	83号住居址P11・P10断面(東から)
	2 10号住居址P5完掘(北から)	3	83号住居址P7・P6・P5断面(西から)
	3 49・50号住居址検出状況(南から)	4	83号住居址P7・P6・P5完掘(西から)
	4 50号住居址炉址検出状況(北から)	5	84号住居址硬位面検出(北から)
	5 50号住居址炉址燃焼面(北から)	6	84号住居址掘方完掘(北から)
図版5	1 78号住居址全景(東から)	7	84号住居址P1埋設土器(西から)
	2 78号住居址炉址断面(東から)	8	84号住居址P3(西から)
	3 78号住居址炉址燃焼断面(東から)	1	85号住居址全景(北から)
	4 78号住居址P6断面(西から)	2	85号住居址遺物出土状況(西から)
	5 78号住居址P15完掘(東から)	3	85号住居址遺物出土状況(西から)
図版6	1 79号住居址全景(東から)	4	85号住居址炉址埋設土器検出状況(北から)
	2 79号住居址炉址燃焼面(北から)	5	85号住居址炉址掘方断面(北から)
	3 79号住居址炉址内埋設土器(東から)	1	85号住居址浅鉢出土状況(西から)
	4 79号住居址P10埋設土器検出状況(南から)	2	85号住居址石皿出土状況(北から)
	5 79号住居址P10石器出土状況(南から)	3	85号住居址P25柱穴完掘(南から)
図版7	1 80号住居址完掘状況(北から)	4	85号住居址炉址完掘(西から)
	2 80号住居址炉址断面(西から)	5	85号住居址作業風景(西から)

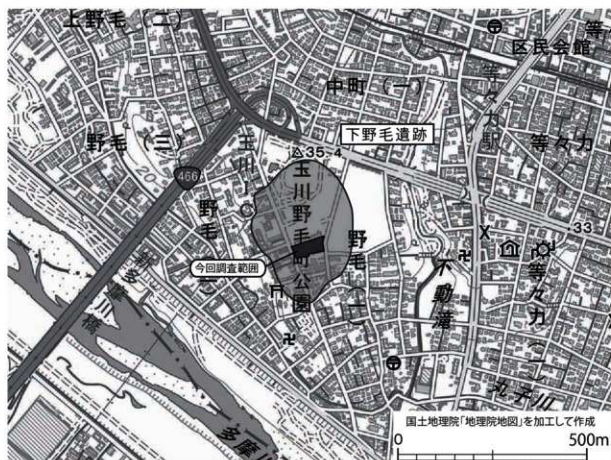
- 図版15 1 86号住居址全景(南から)
2 86号住居址遺物出土状況(東から)
3 86号住居址SK1完掘(北から)
4 86号住居址壁溝断面(西から)
5 86号住居址壁溝完掘(北から)
- 図版16 1 87号住居址完掘(北から)
2 87号住居址が址①燃焼面(南から)
- 図版17 1 87号住居址全景(北から)
2 87号住居址が址①完掘(南から)
3 87号住居址が址②断面(西から)
4 87号住居址が址③断面(西から)
5 87号住居址P1埋設土器検出状況(北から)
6 87号住居址P1完掘(南から)
7 87号住居址P7埋設土器断面(南から)
8 87号住居址P7完掘(南から)
- 図版18 1 88号住居址が址断面(南から)
2 88号住居址が址完掘(南から)
3 88号住居址P8断面(南から)
4 88号住居址P8完掘(南から)
5 88号住居址P7断面(北から)
6 88号住居址P9断面(西から)
7 88号住居址P1完掘(西から)
8 88号住居址P5完掘(南から)
- 図版19 1 89号住居址全景(南から)
2 89号住居址P1埋設土器検出状況(東から)
- 図版20 1 89号住居址P1埋設土器断面(東から)
2 89号住居址P8断面(東から)
3 90号住居址断面(西から)
4 90号住居址完掘(南から)
5 91号住居址完掘(南から)
- 図版21 1 1号土坑完掘(西から)
2 2号土坑断面(南から)
3 3号土坑・4号土坑断面(西から)
4 3号土坑・4号土坑完掘(西から)
5 1号焼土遺構断面(西から)
6 6号土坑完掘(東から)
7 7号土坑作業風景(南から)
8 7号土坑完掘(南から)
- 図版22 1 5号土坑遺物出土状況(東から)
2 5号土坑断面(南から)
3 5号土坑完掘(南から)
4 8号土坑断面(北から)
5 9号土坑完掘(東から)
- 図版23 1 10号土坑断面(南から)
2 10号土坑完掘(南から)
3 11号土坑完掘(北から)
4 12号土坑断面(北から)
5 1号溝完掘(南から)
6 3号溝断面(西から)
7 2号溝完掘(北から)
- 図版24 1 野毛2号墳周濠完掘(北から)
2 野毛2号墳周濠輸出状況1段目(南西から)
- 3 野毛2号墳周濠輸出状況2段目(南から)
4 野毛2号墳周濠輸出状況3段目
5 野毛2号墳周濠遺物出土状況(西から)
- 図版25 1 1号遺構近現代道路跡・
2号遺構近代道路跡(東から)
2 2号遺構近世道路杭跡(北から)
3 2号遺構(西から)
4 2号遺構(東から)
5 3号遺構(東から)
- 図版26 後期旧石器時代Bl出土石器・単独出土石器
図版27 78号住居址出土縄文土器・
79号住居址出土縄文土器
図版28 80号住居址出土縄文土器・
81号住居址出土縄文土器(1)
図版29 81号住居址出土縄文土器(2)
図版30 81号住居址出土縄文土器(3)
図版31 81号住居址出土縄文土器(4)
図版32 81号住居址出土縄文土器(5)・
82号住居址出土縄文土器・
83号住居址出土縄文土器(1)
図版33 83号住居址出土縄文土器(2)・
84号住居址出土縄文土器・
85号住居址出土縄文土器(1)
図版34 85号住居址出土縄文土器(2)
図版35 85号住居址出土縄文土器(3)
図版36 85号住居址出土縄文土器(4)
図版37 85号住居址出土縄文土器(5)・
86号住居址出土縄文土器(1)
図版38 86号住居址出土縄文土器(2)・
87号住居址出土縄文土器(1)
図版39 87号住居址出土縄文土器(2)
図版40 87号住居址出土縄文土器(3)
図版41 87号住居址出土縄文土器(4)・
89号住居址出土縄文土器・
90号住居址出土縄文土器
図版42 79号住居址出土石器・
81号住居址出土石器(1)
図版43 81号住居址出土石器(2)・85号住居址出土石器(1)
図版44 85号住居址出土石器(2)・
86号住居址出土石器・87号住居址出土石器(1)
図版45 87号住居址出土石器(2)
図版46 87号住居址出土石器(3)・89号住居址出土石器・
90号住居址出土石器・91号住居址出土石器
図版47 遺構外出土縄文土器(1)
図版48 遺構外出土縄文土器(2)
図版49 遺構外出土縄文土器(3)
図版50 遺構外出土石器
図版51 野毛2号墳周濠出土遺物(1)
図版52 野毛2号墳周濠出土遺物(2)
図版53 野毛2号墳周濠出土遺物(3)・古墳時代遺構外出土
土器・中世出土遺物・近世出土遺物

I 発掘調査の概要

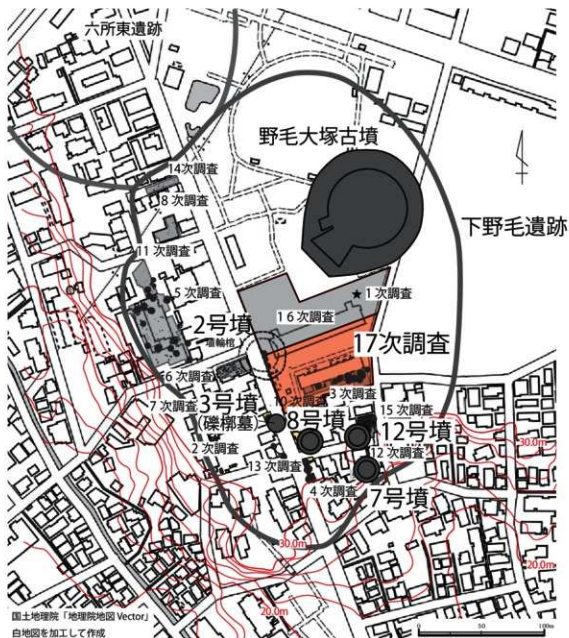
1 調査に至る経緯

世田谷区野毛一丁目に所在する都営野毛一丁目団地は、昭和36～37（1961～1962）年にかけて建設された団地（6棟）であるが、平成28（2016）年より建て替え事業が2期に分けて進められている。事業対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である下野毛遺跡（世田谷区No.123遺跡）の範囲内にあり、事業者の東京都西部住宅建設事務所（以下、西部住建という）・東京都教育委員会（以下、都教委という）・世田谷区教育委員会（以下、区教委という。）の協議により、第1期事業範囲（1～5号棟：5,750㎡）の埋蔵文化財発掘調査が公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時、現：公益財団法人東京都教育支援機構）東京都埋蔵文化財センター（以下、埋文センターという。）により、平成29（2017）年5月～平成30（2018）年3月にかけて実施された（第16次調査：東京都埋蔵文化財センター2019）。

第2期事業範囲（6号棟：2,810㎡）については、第1期の調査成果を受けて、事前の本発掘調査が必要であることが西部住建・都教委・区教委の間で合意されており、調査は前回に引き続き埋文センターが担当することとなった。西部住建・都教委・埋文センターによる調査の具体的な協議は令和2（2020）年度より開始し、令和4（2022）年3月29日に東京都住宅政策本部長・東京都教育委



第1図 遺跡位置図 (1/10,000)



第2図 下野毛遺跡第17次調査区位置図 (1/3,000) (世田谷区教委 2016 を改変)

員会教育長・公益財団法人東京都スポーツ文化事業団理事長の3者名により、「都営野毛一丁目団地(第2期)埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結した。その後も西部住建・都教委・埋文センターによる埋蔵文化財調査実施に係る調整・協議を行い、令和4(2022)年9月9日付で、西部住建と埋文センターによる調査委託契約を締結し、調査に着手した。

発掘届は令和4年7月1日付で、埋文センター所長より都教委教育長に提出され(4ス文事理文第2190号)、令和4年7月12日付で教育長からの発掘調査の通知を得た(4教地管理第1269号)。また、調査は次年度も継続したため、令和5年度の調査に関しては令和5年3月1日付で発掘届を提出し(4ス文事理文第2499号)、令和5年3月15日付で発掘調査の通知を得た(4教地管理第4604号)。

第1表 下野毛遺跡調査一覧

調査次	調査地	調査面積	調査期間	遺構	遺物	備考
1次	野毛1-15	-	1955.8.27-08.29	縄文：住居址1	縄文土器、石器	文献1
2次	野毛2-15	60㎡	1962.11.25 1962.12.07-10	縄文：炉址1 中世以降：溝3	縄文土器、石器	文献2
3次	野毛1-24	420㎡	1982.05.08-10.01	縄文：住居址11、屋外炉1、集石土坑1、集石1 中世：堀1 近世以降：溝4	縄文土器、土製品、石器 土師器、埴輪 陶器類、土製品	文献3
4次	野毛1-11	23㎡	1987.03.20-04.30	縄文：住居址3、土坑2、ピット1 古代～中世：堀1 近世以降：土坑1、ピット1、遺状遺構1	縄文土器、石器、石製品	文献4
5次	野毛2-20	1,630㎡	1989.08.21-1990.10.22	旧石器：ブロック15、礎石13 縄文：住居址13、屋外炉3、土坑3、集石1、ピット139 中世：堀2 近世以降：土坑2、溝6、土間状遺構1、遺状遺構1	石器 縄文土器、土製品、石器、石製品 須恵器、埴輪、陶器類	文献5
6次	野毛2-15	273㎡	1990.12.17-1991.03.30	縄文：屋外埋設土器4、屋外炉5、埴土址1、ピット197 古墳：野毛2号墳周溝、埴輪帯1、竪穴状遺構1 中世：堀2 近世以降：溝1	縄文土器、土製品、土塊、石器 石製品 埴輪、須恵器、土師質土器 石製品、陶器類	文献6
7次	野毛2-15	50㎡	1991.01.17-03.01	縄文：住居址1、ピット1 古墳：野毛3号墳主体部	縄文土器、石器	文献7
8次	野毛2-17	242㎡	1992.03.16-05.09	縄文：ピット12 中世：堀1 近世以降ピット19	縄文土器、石器 土師質土器、陶器、銭貨	文献8
9次	野毛1-11	26.2㎡	1998.05.20-06.10	縄文：住居址5、ピット2 古墳：野毛7号墳周溝 近世：土坑1、ピット19	縄文土器、石器	文献9
10次	野毛1-12	62.4㎡	1999.12.14-2000.01.22	古墳：野毛8号墳周溝 中世：堀1 近世以降：溝6	縄文土器、石器	文献10
11次	野毛2-20	271.9㎡	2000.02.19-05.31	旧石器：ブロック2、礎石2 縄文：住居址3、土坑1、集石土坑1、ピット12 中世：堀1 近世以降：溝6	石器 縄文土器、土製品、石器 陶器	文献11
12次	野毛1-12	27.6㎡	2000.02.25-03.02	古墳：野毛2号墳周溝 中世：堀1	縄文土器、石器	文献10
13次	野毛2-15	17㎡	2005.06.08-06.17	縄文：竪穴2、ピット6 中世：堀1 近世以降：溝2	縄文土器、石器、埴輪、陶器類	文献12
14次	野毛2-17	132㎡	2012.11.19-12.06	縄文：ピット15 中世：堀1 近世以降：溝2	縄文土器、石器 須恵器、埴輪、陶器	文献13
15次	野毛1-12	224.5㎡	2013.05.13-07.06	縄文：住居址10、屋外埋設1、ピット83 古墳：古墳周溝1 中世：堀1 近世：溝1	縄文土器、土製品、石器、石製品	文献14
16次	野毛1-24	5,750㎡	2017.05.26-2019.08.31	旧石器：遺物集中部3 縄文：住居址29、竪穴状遺構2、土坑12、ピット417 古墳：古墳周溝2、土坑1	石器 縄文土器、石器 埴輪、土師器、鉄製品	文献15

文献1：世田谷区史編さん室 1975『下野毛遺跡』『世田谷区史料』第8集 考古編

文献2：世田谷区教育委員会 1966「Ⅱ 玉川野毛町区立青年の家遺跡」『区内遺跡調査報告』郷土資料館紀要第1集

文献3：世田谷区教育委員会 1984『下野毛遺跡』

文献4：世田谷区教育委員会 1987「12. 下野毛遺跡（第2次）」『1986年度年報』世田谷区遺跡調査報告8

文献5：世田谷区教育委員会 1992『下野毛遺跡Ⅱ』

文献6：世田谷区教育委員会 1993『下野毛遺跡Ⅲ』

文献7：世田谷区教育委員会 1992「9. 下野毛遺跡（第7次）」『1990年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』

文献8：世田谷区教育委員会 1994「1. 下野毛遺跡（第8次）」『1992年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』

文献9：世田谷区教育委員会 2000「2. 下野毛遺跡（第9次）」『1998年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』

文献10：世田谷区教育委員会 2001「5. 下野毛遺跡（第10・12次）」『1999年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』

文献11：世田谷区教育委員会 2000『下野毛遺跡Ⅳ・野毛大原横穴群』

文献12：世田谷区教育委員会 2007「2. 下野毛遺跡（第13次）」『2005年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』

文献13：世田谷区教育委員会 2013『下野毛遺跡第14次調査概報』

文献14：世田谷区教育委員会 2014『下野毛遺跡Ⅴ』

文献15：東京都埋蔵文化財センター 2019『下野毛遺跡Ⅵ』

2 調査の方法

調査対象地は、東京都遺跡地図に「下野毛遺跡（世田谷区No 123 遺跡）」として登録された遺跡内のほぼ中央に位置する（第1・2図）。

調査の方法は、区教委と東京都教育庁地域支援部管理課との協議・指導の上決定し、下野毛遺跡のこれまでの調査方法と成果を踏まえて行っている。発掘調査は、住居址・古墳の周濠等の遺構名称・番号は第16次調査からのものを引き継いで記録を行なっている。また遺構調査の方法や作図、遺物の取り上げ方法や写真撮影などの記録については、これまでの調査と互換性を保持できるようにおおよそ準拠している。

発掘調査の作業手順については、東京都埋蔵文化財センターの作業工程水準表および掘削作業標準に従って実施した。発掘調査期間中は、基本的に1～2ヶ月に1回、整理期間中は3～4ヶ月に1回を目安に、西部住建、都教委、区教委との相互連絡および協議の場として定例会を開催した。会議では調査の進捗状況と今後の予定について報告し、各位から指導、助言を受け、作業の円滑な進行をはかった。

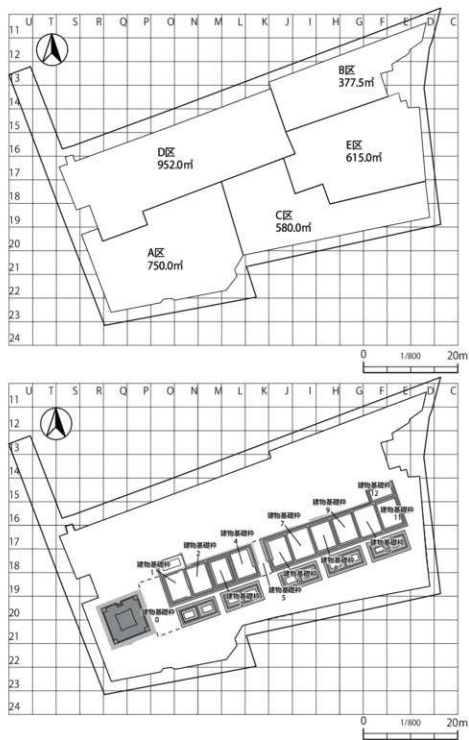
調査区の設定は、第16次調査で設定したグリッドを引き続き用いて設定した。調査区のグリッドは、以下のように設定した。公共測量座標第9系に基づき、5m四方を一区画（グリッド）とした。グリッド名は北東隅を基点に、東西軸にアルファベットをC～U、南北軸にアラビア数字を11～24まで付した。今回の調査範囲で南西隅となるQ23の座標値はX=-43970、Y=-17305である。水準（標高）設定値は、東京湾平均海面（T.P.m）を使用した。

検出した遺構は確認、調査を行った順に、種別ごとに通し番号を与えたが、住居址と古墳に関しては16次調査までの遺構名、遺構番号を踏襲している。遺構平面測量にはトータルステーションを用い、得られた3次元座標値の処理には、測量ソフト（Padras T3Di）を使用した。遺構断面や堆積土層状況は、縮尺1/20を基本とする記録を手作業にて作成した。土色の表記には農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を用い、土色、マンセル表記法で示した。

出土遺物については、盛土・表土・攪乱中のものは調査区ごと一括して取り上げた。包含層や遺構内のものは、基本的に1点ごとの出土位置と高さについて、トータルステーションを用いて記録したが、土器と礫については3cm以下の資料は出土層位を記録してグリッド一括で取り上げている。遺物への注記は、世田谷区教育委員会の指定通り「遺跡略号 - 調査次 - 遺構名 - 取上番号、一括」の順で行った。

調査の各段階において、遺構の検出状況、遺物出土状況などを写真記録として撮影した。撮影には35mmモノクロフィルムとカラーリバーサルフィルム、およびデジタル一眼カメラを併用した。特徴的な遺構については高所作業車を、調査区の全景撮影にはマルチコプター（ドローン）を併用して撮影を行った。

報告書の作成について、挿図・図版・表などは全てパソコン上で作業を行った。遺構図版は測量ソフト（Padras T3Di）のデータを変換してドローソフト（Adobe Illustrator CC）に取り込み、トレース及び版組みを行った。手描き図面はスキャナーで取り込み、それを下図としてドローソフト（Adobe Illustrator CC）でトレースした。遺物図版は、手描きにより作成した実測図をスキャナーで取り込ん



第3図 グリッド・区割設定図 (1/800)

だものをトレースしたもの、ないしはデジタルカメラで撮影した画像を補正し手描きで下図を作成し、それをスキャナーで取り込んでトレースした後に、拓本画像と合成してレイアウトした。これらのデータは編集ソフト (Adobe InDesign CC) に貼り付け、文章とともにレイアウトして編集したものを印刷業者に投稿した。

3 調査の経過

調査の対象面積は、2,810㎡である（第3図）。発掘調査の当初は、調査区全体を3区分し進める予定であったが、発掘調査終了後の本体工事との兼ね合いから、団地基礎部分については埋戻しを行わず、露出したまま引き渡すこととなった。これにより、発生土の仮置き場が縮小されることから、調査は調査区を5分割（A～E区）して進めることに変更した。また、団地基礎部分の発生土については場外搬出処分とすることになった。残った発生土は、場内の埋戻しや整地作業に使用した。

掘削は、遺構検出面または遺物包含層まで表土や盛土、碎石などを重機で除去した。遺構検出面以下は、人力で掘削作業を行い遺構の検出や遺物の回収に努めた。

本調査に係わる準備工は令和4年9月9日の契約締結後、東京都西部住宅建設事務所や請負業者との打合せ、周辺住民への挨拶・チラシ配布を行い、9月20日より現地にて開始した。

A区の調査は令和4年10月3日～12月19日まで行った。西側から表土を掘削したところ、表土下に包含層が良好に残されていた。一方で南側は近世の道路跡と思われる遺構（2号遺構）により縄文時代の遺構が残存していないことが明らかになった。

A区の調査終了に目途がついた後に、B区の調査に令和4年12月10日から着手し、令和5年1月23日まで調査を行った。B区は、包含層が残存しておらず、遺構検出面も立川ロームIV層であった。

その後、調査の進捗状況を鑑みてB区の調査と埋め戻しを並行しながら、C区の調査を令和5年1月10日より開始し、令和5年2月22日に終了した。C区南半分は、A区から続く2号遺構の調査を行った一方で、3次調査で検出された住居址の再調査を行った。

続いてD区を令和5年2月24日に着手し令和5年4月18日まで行った。D区はA区同様西側に包含層が良好に残されていた。また、16次調査で検出した野毛2号墳周濠の調査を主に行った。

発生土の場外搬出に向けた場内整備などの兼ね合いから、E区は令和5年4月27日から6月23日まで調査を行った。E区では縄文時代中期の住居址が多く検出され、遺物・遺構ともに今回の調査で最も多くの時間を費やした。調査終了後は、現況回復、場内の撤収作業を行い、7月11日に現地を撤収した。

各調査区及び下野毛遺跡第17次調査全体を終了するにあたっては、現地において、都教委と区教委、西部住建の立会いのもと終了確認を行っている。

発掘調査と並行しながら現地にて一次整理作業を行い、遺物の洗浄ならびに注記作業を行った。

記録した図面、写真、データや出土遺物等の整理調査は、東京都埋蔵文化財センター大塚分室にて令和5年7月3日より開始した。遺構測量データの整理と検出遺構の精査、記録写真の整理やデジタル処理、出土遺物の分類と実測、トレースや写真撮影を実施し、それらを下野毛遺跡Ⅶ発掘調査報告書としてまとめるために、遺構及び遺物図版の作成や各種観察表の作成、版組み、原稿執筆及び編集を行った。大塚分室での二次整理作業は令和6年3月29日まで行った。

二次整理作業終了後は、4月末まで大塚分室にて報告書の編集作業を実施した。

出土遺物等の移管については、出土した遺物および写真、図面など各種記録一式について、令和6年3月27日に区教委の立会いのもと、世田谷区北烏山収蔵庫に収納された。

II 遺跡の位置と環境

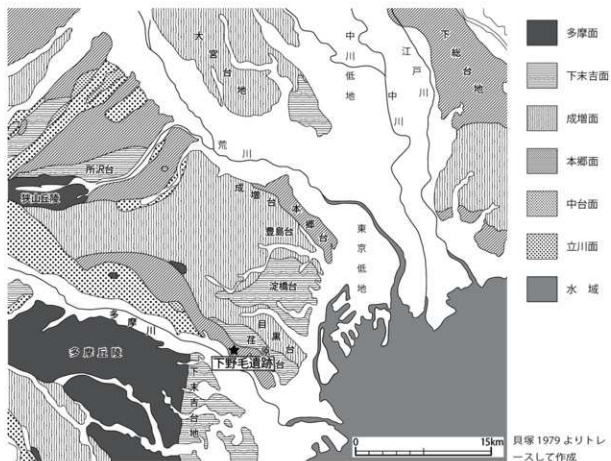
1 地理的環境

下野毛遺跡の所在する世田谷区は東京都の南東部、区部でいうと南西部にあたり、武蔵野台地の南部縁辺部付近に位置する（第1図）。周囲を東から目黒区、渋谷区、北は杉並区、三鷹市、西は狛江市と調布市、南は神奈川県川崎市、南東は大田区の8つの行政区市に接している。世田谷区は東京23区内でも大田区に次ぐ面積で、世田谷・北沢・玉川・砧・烏山地域に区分されている。本遺跡はそれらの区分の中で、玉川地域に位置する。世田谷区の地勢は海拔30～40m前後の武蔵野台地と、多摩川左岸沿いの沖積平野にまたがっている。武蔵野台地は下末吉段丘（上位面）、武蔵野段丘（中位面）、立川段丘（下位面）の段丘面からなり、武蔵野段丘と立川段丘の境には約10万年前に多摩川と野川が武蔵野台地を開析した崖線、国分寺崖線が形成されている。この国分寺崖線は比高差約8～10m前後の急崖で、崖下には多くの湧水がみられる。世田谷区内の武蔵野台地は、区部北西部付近が標高40～50mで、南東側は標高25～40m前後であり、南東に向かって緩やかに傾斜している。また、区部中央付近から南東に向かって未広がりのように下末吉面の荏原台が展開し、さらに区部北東側には淀橋台地が形成されている。荏原台、淀橋台ともに標高は約40～50mを測る。本遺跡は、こうした武蔵野台地の武蔵野2面に位置し国分寺崖線付近に立地する遺跡である（第4図、第5図）。

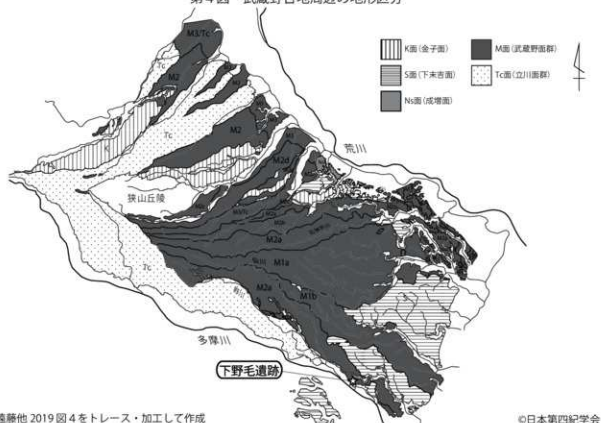
世田谷区内には多摩川水系、目黒川水系、呑川水系の三つの水系があり、世田谷区北側の北沢川、烏山川、蛇崩川は目黒川水系、南東側の呑川・九品仏川は呑川水系、仙川・野川・谷戸川・谷沢川・丸子川は多摩川水系である。このように世田谷区内には三つの水系、九つの河川が流れていて、これらの河川により武蔵野台地が開析されて数多くの舌状台地を作り出し、以前から土地利用が行われていたことを示す、多くの遺跡が発見される地域である。

下野毛遺跡は東に多摩川水系の谷沢川、西に丸子川に挟まれた台地上に立地する。谷沢川は世田谷区内武蔵野面上の玉堤付近が源流で、中町を経由して東急大井町線に沿いながら東進し、等々力駅西側手前付近から流路を南側に変え、23区内唯一の渓谷である「等々力渓谷」を流れる。そして玉堤付近で多摩川に合流する。一方の丸子川は、かつては六郷用水として利用されていたため、以前は大田区まで水を流すための高低差の確保を目的として谷沢川の上に流路を交差させていたが、現在は丸子川と谷沢川は合流して玉堤付近から多摩川に注いでおり、この場所から丸子川下流の大田区方面には、谷沢川との合流付近から水を汲み上げて流している。

このように下野毛遺跡は、東側を谷沢川、西側を丸子川に挟まれ、南側に多摩川を臨む武蔵野台地の舌状台地上に展開する遺跡である。遺跡の範囲は東西約260m、南北約370m、面積約68,000㎡と推定されている。今回の下野毛遺跡第17次調査は、この舌状台地のほぼ中央付近の平坦部に位置する土地で行われた調査である。



第4図 武蔵野台地周辺の地形区分



第5図 武蔵野台地 地形区分

2 歴史的環境

本遺跡の所在する世田谷区南部を地形的に概観すると、武蔵野台地の南東部に位置し、南側には多摩川が流れ、また国分寺崖線下には現在でも自然の湧水が多くみられるなど、水利の面では生活上極めて利便性が高い地域である。実際、本遺跡を含め周辺には旧石器時代～古墳時代に至るまで多くの遺跡が発見されており、連綿と人々による生活が営まれていたことを裏付けている。また多摩川沿いには古墳が多く点在しており、国分寺崖線の急崖を利用した横穴墓も密集している。このように本遺跡周辺は水資源にも恵まれている場所であり、多摩川を臨む武蔵野台地の安定した平坦面は、後期旧石器時代にはキャンプ地として、縄文時代には拠点集落として土地利用がなされていた。弥生～古墳時代にかけての集落は下野毛遺跡では検出されていないが、古墳時代の下野毛遺跡は野毛大塚古墳を筆頭として、多くの古墳が築造された場所である。下野毛遺跡の西側では、国分寺崖線の急崖を利用した横穴墓も検出されている。このように横穴墓の在り方からも、下野毛遺跡周辺の土地利用は台地の平坦面だけでなく急崖も利用しており、標高差の激しい複雑な地形を積極的に利用した様相が伺える。中世の下野毛遺跡では、主に溝状遺構が検出されている。溝状遺構は断面がV字形を呈しており、第8次調査では溝の覆土中から土師質土器の小皿や陶器、渡来銭（開元通宝）等、中世に帰属する遺物が出土している。中世の世田谷区豪徳寺付近には吉良氏が世田谷城を築き、その家臣である大平氏が当該地域に「等々力城（砦）」を築いたという伝承が残されている。今回の調査でも検出された溝状遺構（2号溝）は、過去の調査成果を踏まえると規模や形態から、等々力城（砦）の一部を形成する濠として想定されている。

近世～近代の下野毛遺跡一帯は主に畑地・山林であった。1881（明治14）年の迅速図には野毛大塚古墳が記されており（第6図）、また1906・1909（明治39・42）年の地形図では、野毛大塚古墳に祠が設置されていた（第7図）。1937（昭和12）年の地形図では、野毛大塚古墳を含めた下野毛遺跡北側、東側付近はゴルフ場として利用されていたことが記されている（第8図）。このゴルフ場は1931（昭和6）年に目蒲電鉄により開発、経営されていたゴルフ場「等々力ゴルフリンクス」で、1939（昭和14）年に廃止され内務省の所有になっている。第二次世界大戦末期の1945（昭和20）年の地形図では、今回の調査区を含めた下野毛遺跡の北側は、東西南北に細かい区画で道路が作られている（第9図）。この道路は第二次世界大戦後の空中写真に、地図に記された道路区画が看取される（第10図）。この区画は今回の調査で検出された近代以降の道路状遺構（1号遺構）として捉えられたものと一致する（第11図）。戦後、当該地域は建設省に移管されて建設省官舎と都営住宅として土地利用がなされていた。野毛大塚古墳を含めた下野毛遺跡北側は、その後公園として利用されることとなった。

下野毛遺跡は『日本石器時代遺物発見地名表（第5版）』（東京帝国大学編1928）での報告から、1928（昭和3）年以前には既に縄文時代の遺物が採集されており、遺跡として捉えられていたことが分かる。1936（昭和11）年の西岡秀雄による考古学雑誌第26巻第5号に掲載された「荏原台地に於ける先史及び原始時代の遺跡遺物」では、旧地名東京府荏原郡玉川村大字下野毛、新地名京都市世田谷区玉川野毛町と記載されており、遺物を採集・出土した範囲がより絞られて報告された（西岡1936）。発掘調査は、前述した公園整備時に縄文土器が発見され、それが発掘調査が行われた契機と



第6図 明治14年調査位置周辺 (1/20,000)



第7図 明治39・42年調査位置周辺 (1/20,000)



第8図 昭和12年調査位置周辺 (1/20,000)



第9図 昭和20年調査位置周辺 (1/20,000)

なる1955(昭和30)年8月27日～29日の3日間に吉田格氏・甲野勇氏らを中心に武蔵野文化協会により行われた(吉田1956)。1962(昭和37)年には「玉川野毛町公園内遺跡」の南西地点で、早稲田大学が発掘調査を行っている。この地点の調査成果は『世田谷区立郷土資料館紀要第1集』に掲載されている(世田谷区教育委員会1966)。

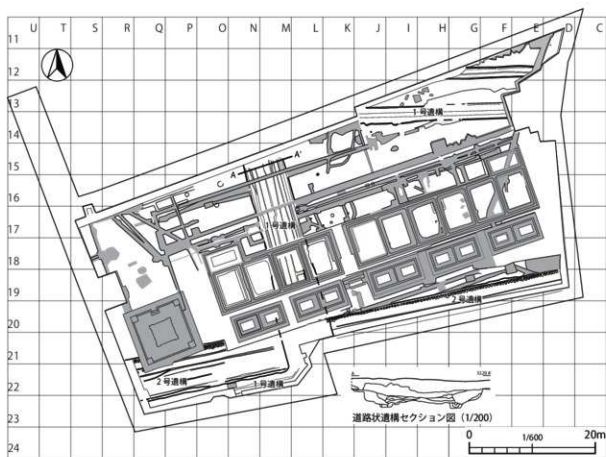
これらの調査成果は、採集・出土した遺物が縄文時代中期でほぼ同様の内容を示すこと、地点間の距離も近いこと、地点間でも遺物散布が見られること等を根拠に、1975年に刊行された『世田谷区史料第8集 考古編』(世田谷区史編さん室1975)において同一遺跡として「下野毛遺跡」と統一され、その範囲が示された。舌状台地上で至近の地点に分布するという地形的・地理的な観点から、縄文時代中期後葉の集落の展開が想定される遺跡範囲が設定された。

1992(平成4)年には世田谷区教育委員会により発行された『下野毛遺跡Ⅱ』の附編において調査次数が整理され、「玉川野毛町公園内遺跡」の発掘調査を第1次、「区立青年の家遺跡」を第2次調査とした(世田谷区教育委員会・下野毛遺跡第5次遺跡調査会1992)。

第2次調査では縄文時代以外の遺構として、中世以降の溝が検出され(世田谷区教育委員会1966)、第3次調査では中世の濠(世田谷区教育委員会・世田谷区遺跡調査会1984)、第5次調査では旧石器時代の遺物集中部と礫群(世田谷区教育委員会・下野毛遺跡第5次遺跡調査会1992)、第6次調査では野毛2号墳周濠が検出されている(世田谷区教育委員会・下野毛遺跡第6次遺跡調査会1993)。このように下野毛遺跡は、調査次数が増すとともに縄文時代以前・以降の人々の生活痕



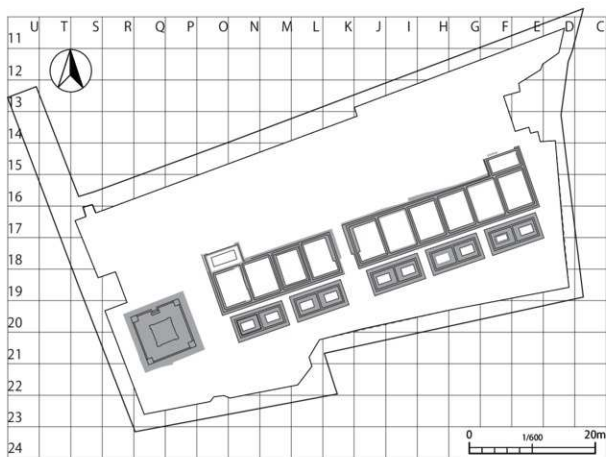
第10図 昭和22年の調査位置空中撮写真と道路状遺構



第11図 近・現代の道路状遺構平面図 (1/600)・セクション図 (1/200)



第12図 昭和38年の調査位置空中撮写真と野毛一丁目団地



第13図 野毛一丁目団地基礎平面図(1/800)

跡が色濃く残されていたことを明らかにし、調査報告書によって旧石器～古墳時代、中世にかけて複合的な遺跡が形成されている地域であることが報告されている。今回の発掘調査は第17次調査であるが、これまでの調査と同様、旧石器時代・縄文時代・古墳時代・中世・近世の遺構が検出されている。これらの時期の遺跡は、下野毛遺跡だけではなく、周辺及び多摩川沿いに時期的・地理的に本遺跡との関係が想定される遺跡が多数残されている。次項ではそれらの遺跡について触れておきたい。

3 周辺の遺跡

本遺跡の周辺の遺跡については、第16次調査の発掘調査報告書にて詳細にまとめられている（東京都埋蔵文化財センター 2019）ため、本稿では概要と新たに追加された遺跡についてを記すに留める。

旧石器時代の遺跡

本遺跡周辺の旧石器時代の遺跡には、下野毛遺跡の西側に瀬田遺跡・瀬田城跡（区遺跡番号105）、その南側に鎌ヶ谷遺跡（区遺跡番号117）、瀬田遺跡・瀬田城跡の西側に下山遺跡（区遺跡番号107）がある。瀬田遺跡・瀬田城跡は、Ⅸ層上部から4ヶ所のブロックが検出されている。鎌ヶ谷遺跡では、第2次調査でⅨ層から小規模なブロック、第5次調査でⅨ層からナイフ形石器・搔器が出土し、石斧製作に関わる剥片の接合資料が得られている。下山遺跡は12次にわたる調査が行われ、旧石器時代の遺構・遺物では多くの文化層から遺物集中部が検出されており、Ⅸ層下部～中部から、寸詰まりの縦長剥片に基部加工などの調整加工が施されたナイフ形石器や石斧が出土している。下野毛遺跡東側の等々力根遺跡（区遺跡番号297）では、Ⅶ～Ⅹ層にかけて1ヶ所のブロックと2箇所の礫群が検出されている。やや幅広い層序に遺物が分布するのは、旧地形の傾斜変換点前後に位置することに要因があるとされる。遺物は、ナイフ形石器・搔器・ピエスエスキュー等が出土している。瀬田遺跡・瀬田城跡、鎌ヶ谷遺跡、下山遺跡、等々力根遺跡から出土している旧石器時代の資料は、今回の旧石器時代の調査で中心となる立川ロームⅨ層の石器群が出土しており、遺跡間の関係性が窺える。

縄文時代の遺跡

縄文時代の本遺跡近隣の遺跡は、縄文時代早期～後期の瀬田遺跡・瀬田城跡、縄文時代早期～晩期の稲荷丸北遺跡（区遺跡番号250）、下野毛遺跡北西側に隣接する縄文時代中期の六所東遺跡（区遺跡番号125）、本遺跡の北東側に縄文時代中期の谷川上遺跡（区遺跡番号121）、谷沢川を挟んでさらに東側には縄文時代早期～後期の等々力原遺跡（区遺跡番号296）がある。また若干東に離れるが、縄文時代中期中葉～後葉の集落である奥沢台遺跡（区遺跡番号145）が九品仏川流域に展開する。瀬田遺跡・瀬田城跡は38次にわたり調査が行われている。縄文時代の集落が展開する遺跡で、時期は早期～後期と幅広いが、中心となる時期は下野毛遺跡と同様、縄文時代中期後葉である。

稲荷丸北遺跡は縄文時代早期～晩期の遺跡であるが、中心となるのは縄文時代前期である。今まで4次にわたり発掘調査が行われている。

本遺跡北西側に位置する六所東遺跡は古くから知られている遺跡で、貝塚を伴う遺跡である。1933（昭和8）年に大山史前学研究所により小発掘が行われた。この地点とは異なるが、近隣で1938（昭和13）年に吉田格氏によりハマグリ・カキ・ツメタガイ等を含む貝塚の存在と、縄文時代前期・中期の土器が発見されたという報告がなされている（吉田1938）。また吉田氏により1959（昭

和34)年に行われた発掘調査では、貝塚が住居址内貝層で、ヤマトシジミ・ハマグリ・マガキ等を中心とした貝塚であることが明らかにされ、黒浜式・諸磯a・b式土器等、縄文時代前期の遺跡であることが報告されている。

下野毛遺跡の東側の谷川上遺跡は縄文時代中期の勝坂式終末期の集落で、そのさらに東に位置する等々力原遺跡は勝坂Ⅰ・Ⅱ式と阿玉台Ⅰa～Ⅱ式期の集落である。等々力原遺跡から谷川上遺跡、そして下野毛遺跡という時期的・地理的変遷が指摘されている(世田谷区教育委員会・放射3号線世田谷地区遺跡調査会2000)。

弥生時代の遺跡

下野毛遺跡に近接する弥生時代の遺跡として、谷沢川を挟んで東側に位置する等々力原遺跡第2次調査の成果があげられる(世田谷区教育委員会1998)。ここでは弥生時代後期久ヶ原・弥生町期の集落が確認されている。下野毛遺跡西側の鎌ヶ谷遺跡では、弥生時代後期のV字溝、瀬田遺跡・瀬田城跡で弥生時代後期の集落及び方形周溝墓、環濠が検出されている。瀬田遺跡・瀬田城跡は環濠集落で、集落の北東側に方形周溝墓群を持つという、墓域と集落がセット関係を成す。

古墳時代の遺跡

下野毛遺跡周辺の古墳時代の遺跡は、古墳と横穴墓、集落遺跡が認められる。古墳は野毛大塚古墳をはじめとして、野毛2～15号墳まで、15基の古墳が発見されている。野毛2号墳(区遺跡番号307)は1990(平成2)年に行われた下野毛遺跡第6次調査で検出された。野毛2号墳の周濠の規模は幅3.5m前後、深さ0.5m前後で、当初ブリッジ付円墳と考えられていた。周濠内からは埴輪棺が出土している。また周濠内から出土した須恵器の年代から、野毛2号墳は時期的には6世紀初頭と捉えられている(世田谷区教育委員会1993)。野毛13号墳は下野毛遺跡第16次調査で検出された。主体部及び墳丘は削平されて消失しているが、周濠が残存していた。平面形態が野毛古墳群では唯一の方墳であり、野毛大塚古墳に近接した場所に築造されていることが特徴である。築造時期は5世紀第1四半期と推測している(東京都埋蔵文化財センター2019)。

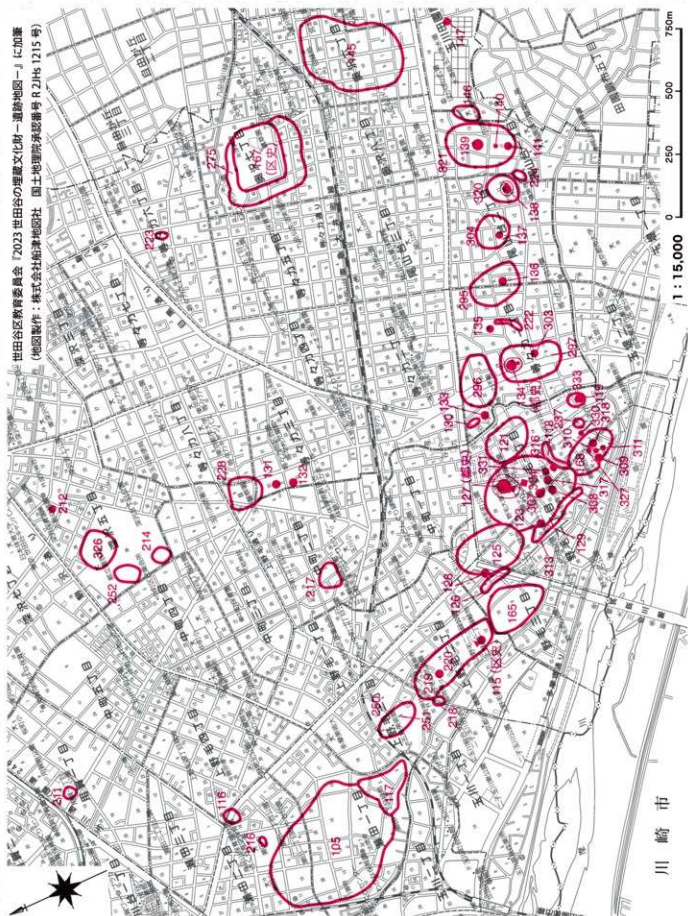
六所東遺跡からは、6世紀前半とされる野毛14号墳の周濠が調査され円筒埴輪・人物埴輪・須恵器が出土している(箕浦2024)。また、本遺跡の南東側に位置する下野毛根遺跡では5世紀末葉とされる野毛15号墳の周濠が新たに検出されている(世田谷区立郷土資料館2024)。

古代の遺跡

下野毛遺跡では今のところ古代の集落等は検出されていないが、第4次調査では古代～中世の溝が検出されている。下野毛遺跡の西側では下山遺跡や瀬田遺跡・瀬田城跡で古代の集落が検出されている。中でも瀬田遺跡・瀬田城跡は古代の大集落で、多くの住居跡が検出されている。『和名類聚抄』において「勢多郷」が推定される地域として、『瀬田遺跡Ⅳ』で述べられているように、古代の中心的な集落が展開した地域である(世田谷区教育委員会・瀬田遺跡第24次調査会2008)。

中世の遺跡

下野毛遺跡から中世の遺構は、第2～6次、第8・10～14次調査で発見されている。主に濠と想定される断面がV字形の溝状遺構で、第8次調査時には濠から土師質土器の小皿や陶器、渡来銭(開元通宝)等、中世の遺物が出土している。この濠や遺物は等々力城(砦)に関わるものとされている。



第14図 下野毛遺跡周辺の遺跡 (1/15,000)

第4表 周辺の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	種別	遺跡の概要
105	瀬田遺跡・瀬田磯跡	瀬田一・二丁目	台地	貝塚・集落	[旧]ブロック 礎礎 [縄]住居 土坑 ビット [弥]吉[古]住居 [奈良]住居 [高]ビット 土坑 井戸 溝 配石
115	上野毛庭内塚	上野毛二丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 全長約30m 前方後円墳
116	宮久保遺跡	上野毛四丁目 瀬田二丁目	台地	散布地	3世紀末 縄文(中)
117	鎌ヶ谷遺跡	瀬田一丁目	台地	集落	[旧]ブロック 礎礎 [縄]土坑 ビット [弥]吉[古]IV字溝 溝状遺構
118	大井上磯穴墓群	野毛一丁目	台地斜面	磯穴墓	磯穴墓
119	天神山古墳	野毛一丁目	台地斜面	古墳	古墳(円墳) [古]圓墳
121	浮川一遺跡	野毛一丁目	台地	集落	[縄]住居 ビット [弥]吉[古]掘穴土坑 溝
123	上野毛遺跡	野毛一・二丁目	台地	集落	[縄]住居 集石 井 土坑
125	下所東遺跡	野毛二・三丁目 上野毛一丁目	台地	貝塚・集落	[縄]住居
126	下野毛穴塚穴墓群	野毛三丁目	台地斜面	磯穴墓	磯穴墓
127	野毛大塚古墳(西側8号墳)	野毛一丁目	台地	古墳	古墳(前方後円墳 帆立貝式) 径82×68m 高11m 墳高104m 幅13m [古]石棺 木棺 敷土層 都史一野毛大塚古墳(昭50.2.6)
128	スウモ塚(西側6号墳)	野毛一丁目	台地	古墳	古墳(円墳)
129	西側7号墳	野毛二丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 高1m
130	等々力深谷磯穴墓群	等々力一丁目	台地斜面	磯穴墓	磯穴墓 都史一等々力深谷二号磯穴(昭50.2.6)
131	西側3号墳	等々力三丁目	台地	古墳	塚 高1m
132	西側4号墳	等々力三丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 高1m
133	西側9号墳	等々力二丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 径4m 高1m
134	御山古墳(西側10号墳)	等々力一丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 径40m [古]ビット 溝 溝溝 粘土層 都史一御山古墳(昭55.2.21)
135	大井塚(西側11号墳)	等々力二丁目	台地	古墳	古墳(円墳)
136	飯塚古墳(西側12号墳)	池山台二丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 径34m 高4～6m [古]吉住 礎礎
137	尾山北原塚古墳(西側13号墳)	池山台二丁目	台地斜面	古墳	古墳(円墳) 墳丘径約21m 形跡(円墳) 高2m [古]古墳周溝
138	六郷塚古墳(西側14号墳)	池山台一丁目	台地	古墳	古墳(円墳)
139	大塚塚古墳(西側15号墳)	池山台一丁目	台地	古墳	古墳 墳丘径約46m 高さ3.3m以上 形跡(帆立貝なし造り円墳) [古]古墳周溝
140	西側16号墳	池山台一丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 径4m 高2.5m
141	西側17号墳	池山台一丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 径25m 高4m
144	奥沢台遺跡	奥沢六丁目 志田田園調布二丁目	台地	集落	[縄]住居 掘穴 井 堀外郭 土坑 ビット [弥]吉[古]掘穴 [高]ビット 土坑 井戸 溝
146	山形遺跡	志田田園調布一丁目	台地	散布地	縄文(中)
147	西側18号墳	志田田園調布一丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 高1m
165	太田遺跡	野毛三丁目	台地	集落	縄文(前・中)、古墳、近世
167	奥沢城跡	奥沢七丁目	台地	城跡	城跡 [中]空堀 土塁 史一奥沢城跡(昭62.1.18)
168	下野毛庭内塚	野毛一・二丁目	台地	集落	[縄]堀外郭 土坑 ビット [古]圓溝 [中]近土坑 溝
211	字吉前山遺跡	川西一丁目	台地	散布地	縄文
212	千部塚	深沢五丁目	台地	塚	塚 径3m 高1m
214	丸山南遺跡	深沢五丁目	台地斜面	散布地	縄文(中)
216	瀬田中学校遺跡	瀬田二丁目瀬田中学校	台地斜面	墓地	古代
217	宮沢台遺跡	中町二丁目	台地	散布地	縄文
218	船荷坂遺跡	上野毛二・三丁目	台地斜面	散布地	中世
219	船荷丸塚	上野毛二・三丁目	台地	散布地	縄文時代中期
220	船荷丸塚	上野毛二丁目	台地	古墳	塚 径8m 高2m
222	等々力磯穴墓群	等々力一丁目	台地斜面	磯穴墓	古墳
223	等々力東原遺跡	等々力六丁目	台地斜面	散布地	縄文(前)
224	空の取遺跡	池山台一・二丁目	台地斜面	散布地	新石器土遺
228	深沢城跡	中町二丁目	台地	城跡	中世
237	上野毛船荷坂遺跡	野毛一丁目	台地	出土地	新石器土遺
250	船荷丸古墳	上野毛三丁目五島美術館	台地	貝塚・集落	[縄]住居 土坑 ビット [古]住居 掘立柱建物 土坑 [高]ビット 溝?
251	丸山北遺跡	上野毛二丁目五島美術館	台地	古墳	古墳(円墳) 径20m 高2m [古]礎礎 石礎 基石
252	丸山北遺跡	深沢五丁目	台地	散布地	古墳
275	城前遺跡	奥沢七丁目	台地	散布地	縄文(早～後期)
295	等々力西原遺跡	等々力一丁目 池山台二丁目	台地	散布地	[縄]遺構礎土坑
296	等々力原遺跡	等々力一丁目	台地	集落	[縄]住居 土坑 [弥]住居
297	等々力船遺跡	等々力一丁目	台地	集落	石石器、縄文(早～後)、古墳、中近世
303	等々力船1号墳	等々力一丁目	台地	古墳	[古]圓溝
304	尾山北原遺跡	池山台二丁目	台地	散布地	縄文(早)、近世 [高]ビット 礎礎石遺物
307	野毛2号墳	野毛二丁目	台地	古墳	径約16m [古]圓溝
308	野毛3号墳	野毛二丁目	台地	古墳	径約28m [古]主体部(礎礎)
309	野毛4号墳	野毛二丁目	台地	古墳	径約24.5m [古]圓溝
310	野毛5号墳	野毛二丁目	台地	古墳	[古]圓溝
311	野毛6号墳	野毛二丁目	台地	古墳	[古]圓溝
313	野毛大塚磯穴墓群	野毛二丁目	台地斜面	磯穴墓	磯穴墓
314	野毛7号墳	野毛一丁目	台地	古墳	外径22.6×墳丘径19.6m 形跡(フツツ付?円墳) [古]圓溝
317	野毛8号墳	野毛一丁目	台地	古墳	墳丘径22.5m 形跡(フツツ付?円墳) [古]圓溝
318	野毛9号墳	野毛一・二丁目	台地	古墳	墳丘径21.6m 形跡(円墳) [古]圓溝
320	尾山東原遺跡	池山台二丁目	台地	散布地	縄文(中)
321	御の取遺跡	池山台一丁目	台地	散布地	縄文(中)、近世
326	丸山東遺跡	深沢五丁目	台地	散布地	縄文、中近世
327	野毛10号墳	野毛二丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 外径約30m 古墳周溝
330	野毛11号墳	野毛一丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 墳丘径16.8m 古墳周溝
331	野毛12号墳	野毛一丁目	台地	古墳	古墳(円墳) 外径24.5m 古墳周溝
333	天神山遺跡	野毛一丁目	台地	集落	旧石器、縄文(後)、古墳

Ⅲ 層 序

下野毛遺跡が立地する地域は、武蔵野台地の南部の縁辺部にあり、多摩川中流域左岸の国分寺崖線上で、東側を谷沢川、西側を丸子川に挟まれ、南側に多摩川を臨む武蔵野台地の舌状台地上に位置している。本調査域内の標高は、地表面で約 32m、縄文時代遺構確認面となった立川ロームⅢ～Ⅳ層上面で約 31.5m 前後を測る。

本遺跡における台地平坦面は近世以降、畑地としての土地利用や、山林だったとされ、また近・現代にはゴルフ場や都営住宅として利用されてきた。そのためか、台地の旧地形上部は削平されており、上記のとおり縄文時代の遺構確認面がⅢ～Ⅳ層上面となっている。今回の調査区内では、調査区東側と西側においてⅡ a 層～Ⅱ c 層が認められたものの、第 16 次調査時と同様に表土の掘削を行うと殆どの地点が立川ロームⅢ層～Ⅳ層上部まで削られており、さらに整地により転圧されていることが多かったため、立川ローム層よりも上位の層序で本遺跡の地形の変化を捉えることは困難であった。立川ローム層の層序については、旧石器時代の遺構・遺物の存否確認を目的とした試掘坑を調査区内に 11ヶ所設定し、試掘坑周辺の状況や遺構・遺物の検出状態に応じて X 層までの深度で掘削を行い、土層堆積状態の記録を行った。本遺跡の地形の変化を把握するために作成した図が、第 15 図である。

今回の特異な点として、調査区の南西部のⅡ層が残存していた調査区において、Ⅱ層より下位から立川ロームⅢ層、いわゆるソフトローム層が検出されずに、暗褐色の粘性が高い層序を挟んで立川ロームⅤ層が堆積していたことである。第 7 次調査の古墳時代の遺構検出面が立川ロームⅥ層であったことを踏まえると、立川ロームⅤ層からⅡ層が堆積する前のどこかのタイミングで、遺跡の南西側に大規模な堆積土が流出するイベントがあったことが示唆される。今回の調査で検出し a 層とした層序は、立川ロームⅣ・Ⅴ層からⅡ層の間層として捉えた。

第 15 図の柱状図からは、上位の層序が削平されているものの概ね平坦な様相を示している。そして第 15 図の柱状図ライン①～③を見ると、若干ではあるが南側に向かって地形が傾斜している様子が窺える。このことから、本調査地点が舌状台地のほぼ先端部に位置することが理解される。西側を丸子川、東側を谷沢川、南側を多摩川に囲まれた地形で、それらの開析によって作り出された舌状台地ということになろう。調査区の南西側で立川ロームⅢ～Ⅳ層が消失しているのもこうした地形が影響している可能性も想定できる。

以下、本遺跡で確認された層序を各層別にみていくこととする。層名については、基本的に武蔵野台地標準層序に準じている。

- I a～c 層（表土）：盛土および人為的堆積土で、コンクリート片やガラ等を含む。粘性・締りの無い砂質の黒色土や転圧されたローム質土等で構成されている。主に近代以降～都営住宅造成時に関連するものと思われる整地層である。
- Ⅱ a 層：黒褐色（10YR2/2）粘性・締りともに弱い。若干砂質である。やや黄褐色に変色した橙色スコリア、白色粒子を少量含む。古墳時代～古代の遺物包含層とされる。
- Ⅱ b 層：黒褐色（10YR3/2）粘性・締り共ややあり。粒度が細かく、橙色スコリアを含む。いわ

ゆる富士黒土層（FB）で、縄文時代前期～後期の遺物包含層とされる層序である。

- Ⅱ c 層：暗褐色（10YR3/4）粘性・縮りあり。橙色・赤色スコリアを含む。縄文時代草創期～早期の遺物包含層とされる層序で、Ⅲ層への漸移層である。
- Ⅲ層：黄褐色（10YR5/6）粘性あるが縮まりは弱い。赤色スコリアを含む。いわゆるソフトローム層で、この層以下が立川ローム層である。
- Ⅳ a 層：黄褐色（10YR5/8）粘性あり、縮まり強い。Ⅲ層との層界は波状帯を成す。スコリアと思われる橙色、赤色、黒褐色粒を含み、白色パミスを少量、青灰色片を僅かに含む。いわゆるハードローム層である。
- Ⅳ b 層：黄褐色（10YR5/6）粘性あり、縮まり強い。Ⅳ a 層よりも色調やや暗く、縮りが増す。また含有する橙色・黒褐色スコリアの粒径がⅣ a 層に比べて大きい点で異なる。橙色・黒褐色スコリアが部分的にブロック状に集中する部分が観察される。
- Ⅴ層：にぶい黄褐色（10YR4/3）粘性・縮まり共に強い。いわゆる立川ローム第Ⅰ黒色帯とされる層序である。色調が暗く、橙色・黒褐色スコリアを多く含み、青灰色片をやや多く、黄褐色パミス、白色パミスを少量含む。
- Ⅵ層：明黄褐色（10YR6/8）粘性弱く・縮まりは普通。全体的に色調が明るく、粒度がやや粗い印象である。粒径の大きい石炭ガラ状の黒褐色スコリアと黄褐色パミスをやや多く含み、橙色スコリア、白色パミスを少量含む。ATが含まれる層である。
- Ⅶ層：褐色（10YR4/6）粘性・縮り共に強い。Ⅵ層と比べて粒度が細かい。色調が暗く、いわゆる立川ローム第Ⅱ黒色帯とされる上部の層である。Ⅵ層よりも粒径の大きい橙色スコリアを多く含み、青灰色岩片をやや多く、黒褐色スコリア、黄褐色パミス、白色パミスを少量含む。
- Ⅸ a 層：黒褐色（10YR2/3）粘性強く、縮まりある。Ⅶ層よりもさらに粒度が細かく、粘質度高く、色調も暗くなる。立川ローム第Ⅱ黒色帯下部である。橙色スコリア、黄褐色パミスをやや多く含み、黒褐色スコリア、灰白色パミスを少量、青灰色岩片を僅かに含む。
- Ⅸ b 層：暗褐色（10YR3/4）粘性強く、縮まりある。Ⅸ a 層よりやや明るい色調である。橙色スコリア、黄褐色パミスをやや多く含み、黒褐色スコリア、灰白色パミスを少量、青灰色岩片を僅かに含む。本遺跡の旧石器時代の遺物は、主にこの層序から出土している。
- Ⅹ層：黄褐色（10YR5/8）粘性・縮まり共にあり。黒褐色スコリアを多く含み、橙色・赤褐色スコリアを少量含む。青灰色岩片を僅かに含む。部分的に黒褐色・赤色・褐色スコリアの集中部が見られる。

IV 遺構と遺物

下野毛遺跡は集落跡とされる遺跡である。第16次調査までの成果から、後期旧石器時代・縄文時代・古墳時代・中世・近世の遺跡であることが分かっている。今回の調査では、後期旧石器時代・縄文時代・古墳時代・中世・近世～近代の遺構と遺物が検出された。

今回検出された遺構の遺構名については、後期旧石器時代の遺物集中部、縄文時代の土坑・焼土遺構・ピット、中世以降の溝状遺構などについては、今回の調査における通し番号、縄文時代の住居址については、下野毛遺跡で行われてきた調査で検出された住居址番号を踏襲し、今回の調査では「78号住居址」から引き続き番号を付している。古墳時代の周濠は、以前の調査成果と連続するものにはその古墳の番号を付した。

旧石器時代（第17～25図、第5～6表、図版2～3・2・26）

旧石器時代では、遺物集中部を1ヶ所検出した。調査範囲のほぼ中央に位置するN18グリッド付近に設定した試掘坑TP5、TP6にてⅨ層から石器の出土を確認したため、団地基礎を挟んだ北側にTP10を設定して遺物の広がりを確認した。非常に散漫な分布を示しながらも接合資料が2個体得られ、これらの遺物集中部をBL1とした。

縄文時代（第26～146図、第7～14表、図版3-3～23-4・27～50）

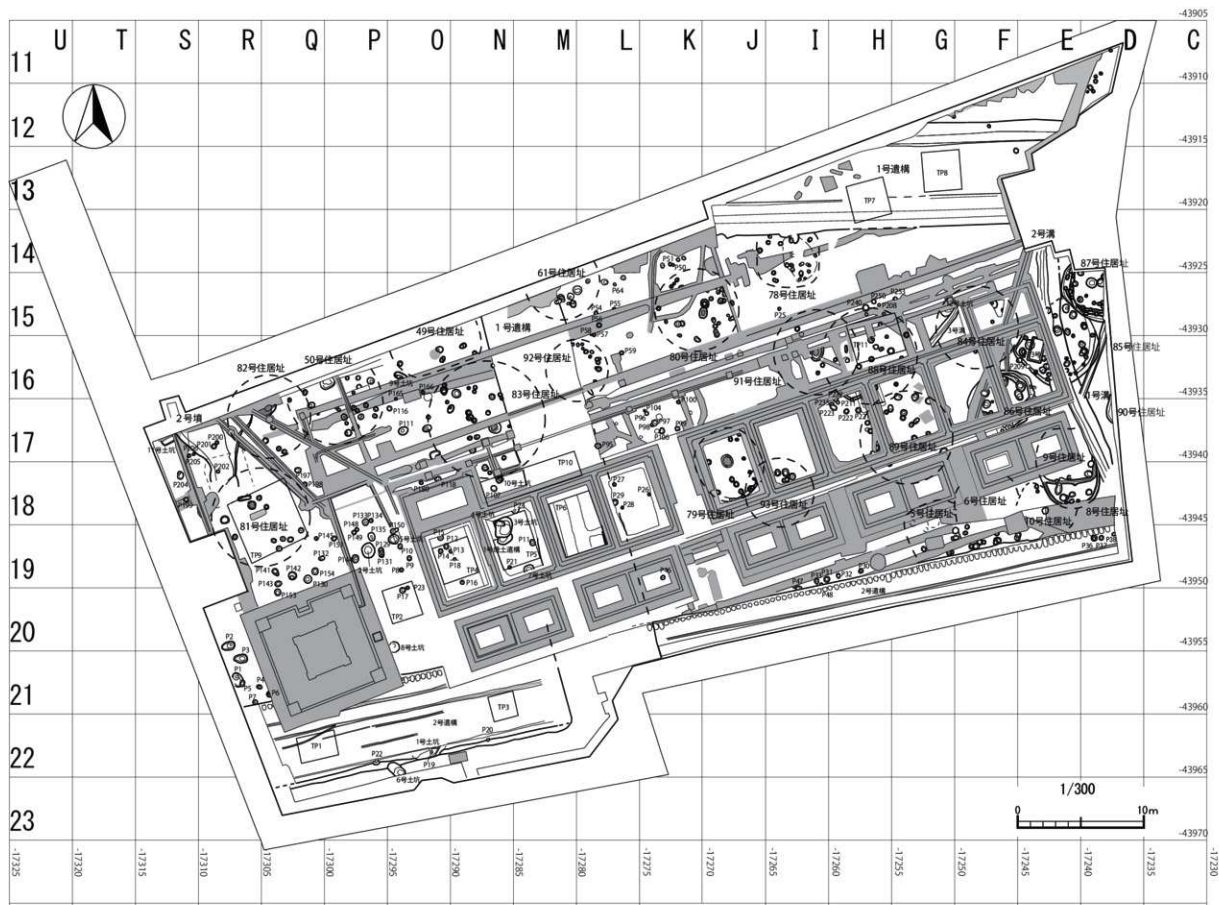
縄文時代は、中期後葉を中心として前期から後期の遺物が出土している。中期より古い早期、前期の遺構は検出されず、遺物は極めて少ない。後期は遺物数は一定の割合を占めるものの遺構の検出は出来なかった。中期の遺構は、中期中葉から中期後葉に属する住居址を合計24軒検出した。その内、3次調査で検出した住居址が5軒（5号、6号、8号、9号、10号）、16次調査で北側のみ調査され南側が未調査であった住居址が3軒（49号、50号、61号）、今回の17次調査で新たに検出した住居址が16軒（78～93号住居址）である。近現代の工事などの影響によって床面まで削られてしまっているものや、現代の埋設管敷設工事によって壊されている住居址も多いが、住居址の施設である埋設土器や埋燵、炉址が残存しているものも検出されている。覆土が残っていた住居址は、81号、85号、86号、87号住居址と調査範囲の東西隅から検出された住居址である。後期に属する住居址は検出されていないが、後期初頭の称名寺式から堀之内式にかけての土器が81号住居址周辺から出土している。なお、縄文時代の住居址以外の内訳は、土坑（SK）12基、焼土遺構（SA）1基、ピット152基である。

縄文時代の遺物総点数は、35,343点・893,016.9g、内訳は土器・土製品28,444点・492,306.2g、石器1,422点・72,683.4g、礫5,478点・328,040.1gである。

古墳時代（第147～154図、第15表、図版24・51～53）

古墳時代の遺構は、第6次調査と第16次調査で調査した野毛2号墳周濠から続く周濠を検出した。今回の調査は、周濠の南端部の辺りで南西側で立ち上がっていることから、第16次調査で指摘されたように、南側に造出部ないしは前方部を持った古墳であった可能性が高くなった。2号墳周濠内からは、縄文時代の遺物の混入も見られたが、埴輪367点・12,575gが出土した。

中世では、断面形がV字状を呈する溝状遺構（2号溝、SD2）を検出した。過去の調査において検



第16図 下野毛遺跡第17次調査全体図(1/300)

出された等々力城（砦）に関わる濠の続きと考えられる。中世に帰属する遺物は、1号遺構の覆土内から常滑焼の甕片が出土したにとどまる。

近世から近代に属すると考えられる2号遺構は、調査範囲内を東西に横断する道路跡である。底面が固く踏みしめられ轍痕が見られる。北側には土留めの杭列が並ぶ。遺物は、覆土中に縄文土器や埴輪などが混入していたが、底面付近から近世の陶磁器が出土している。近現代のガラス瓶などは表土付近でのみ認められたことから、少なくとも近代以前の遺構と推定される。

1 旧石器時代

下野毛遺跡では、第5次調査、第11次調査、第16次調査において旧石器時代の遺物集中が確認されている。特に第16次調査は立川ルームIX層から2ヶ所の遺物集中部を検出しており、今回の調査範囲と隣接することから後期旧石器時代前半期の遺物出土が見込まれたため、調査を実施した。

今回行った旧石器時代の調査は、調査範囲内に11ヶ所の試掘坑（以下、TPという。）を設定した。試掘坑は、第16次調査の成果を踏まえ立川ルームX層まで掘削している。掘削開始面から150cmの深度まで人力で掘削を行い、遺物が出土した場合や堆積状況の確認の必要が生じ、さらに深く掘削する場合に壁面崩落防止などの安全対策から段掘りを行っている。周辺が平坦で開けていた場合は、開口部を広めに設定し立川ルームX層まで掘削を行った。

今回の調査において、調査範囲の中央部に設定したTP5から立川ルームIX b層を出土層位の中心とする遺物を確認し、東側にTP6を設定して遺物の広がりを確認した。隣接する西側に設定したTP4からは、遺物の出土は無かったが、TP5とTP6の北側から遺物が出土する傾向が窺えたため、D区の縄文時代の調査終了後にTP10を設定して遺物集中部の検出を行った(第17図)。結果として、TP10からも遺物が出土したことから、散漫ではあるが遺物のまとまりを確認できたため、遺物集中部1(BL1)とした。今回遺物が出土した立川ルームIX b層は、隣接する第16次調査から旧石器時代遺物が出土した層とほぼ同一である。

なお、TP間に団地基礎が残置され、調査期間中に撤去することが困難だったことから、安全面の確保を優先し基礎下の調査は断念した。

石器器種

出土した遺物の器種認定は、一般的な基準にしたがって行った。今回の調査で出土した器種は、ナイフ形石器、剥片、石核である。ナイフ形石器は、II層中から出土した単独出土のみであり、その他の剥片や石核はIX層からの出土である。IX層から出土した資料には、ツールが組成せず接合資料の割合が多い傾向が見られた。

接合資料の表記

接合資料とその構成遺物については、以下の方法で表記する。

「集中部名-接合資料番号-掲載番号-剥離順」

BL1から出土した接合資料1の最初に剥離された第22図4の場合では、「BL1-1-4-1」となる。今回は、折れ面接合の資料は無いため省略する。

石器石材

石材は、肉眼で調査担当者が分類した。今回の調査において出土した旧石器時代の石器に用いられ

ていた石材は、硬質細粒凝灰岩が多く、黒曜石が続く。黒曜石は、出土点数が少なくいずれも細片であったことから産地推定分析は見送った。

1) BL1 (第17～23図、第5～6表、図版2～3・2・26)

A 遺物集中部

南北約5m、東西約6mの範囲から21点の遺物が、立川ロームXb層から出土した。出土した遺物は、石器16点、礫1点である。石器組成は、石核1点、剥片15点である。石材組成は、硬質細粒凝灰岩12点、黒曜石4点である。接合資料は硬質細粒凝灰岩の資料で2個体得られた。

B 出土遺物

接合資料を図化し報告する。

接合資料1 (第21～22図)

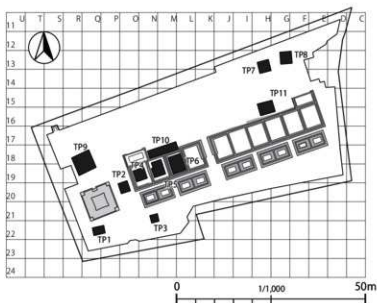
円礫を素材とした石核に、剥片が4点接合した。接合した剥片は、自然面の除去と打面作出を目的にしている。打面形成を行い小口面から石刃剥離を行おうとしたと推測されるが、ヒンジを起こし、作業面の平坦が確保できなくなったことで廃棄された資料である。

剥離の順番は、「(BL1-1-4-1) → (BL1-1-5-2) → (BL1-1-2-3) → (BL1-1-3-4)」である。

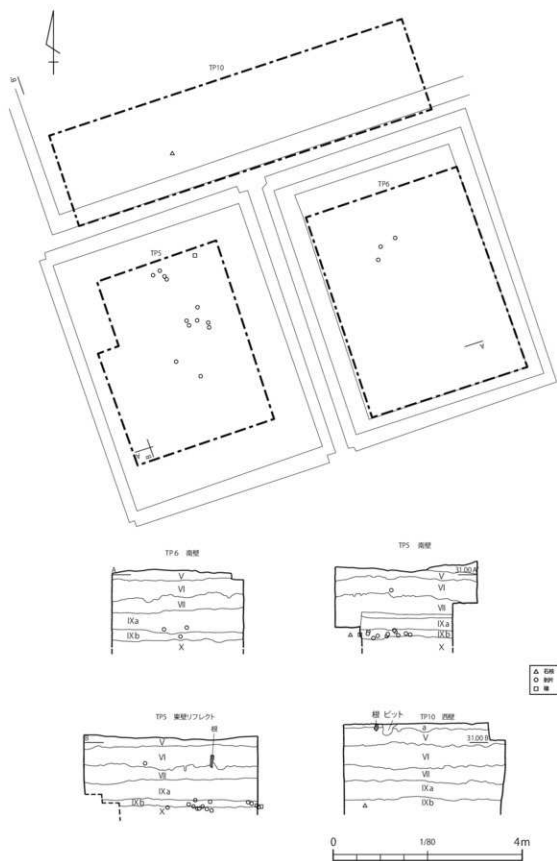
接合資料2 (第23図)

2点の円礫から剥離された剥片が剥離面接合している資料である。両者とも剥片剥離の際に左右どちらかが折れている。

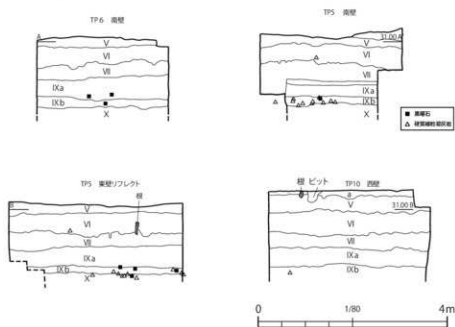
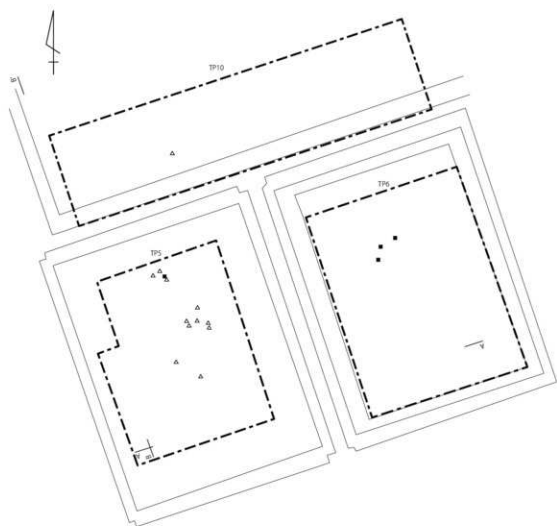
剥離の順番は、「(BL1-2-6-1) → (BL1-2-7-2)」である。



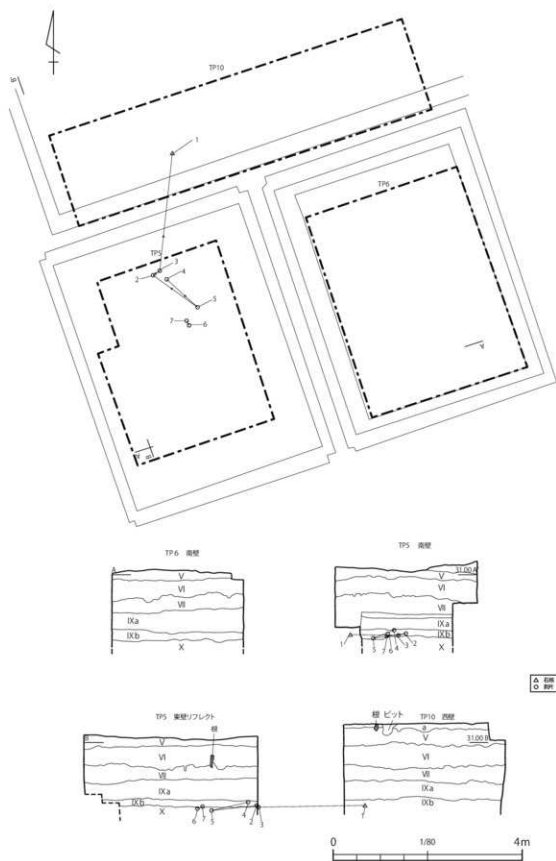
第17図 旧石器時代試掘坑配置図 (1/1000)



第18図 BL1器種別遺物分布図(1/80)

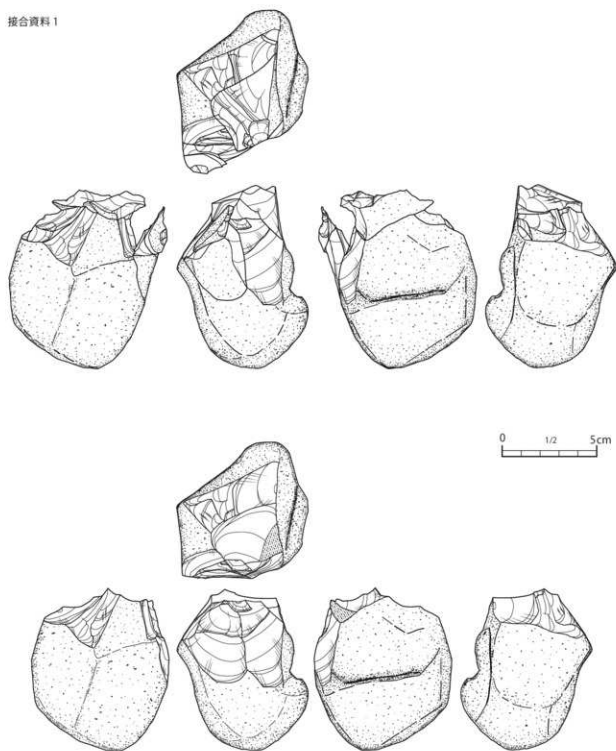


第 19 図 BL1 石材別遺物分布図 (1/80)

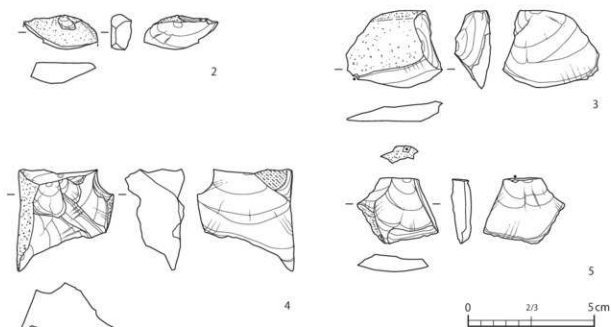


第 20 図 BL1 接合資料分布図 (1/80)

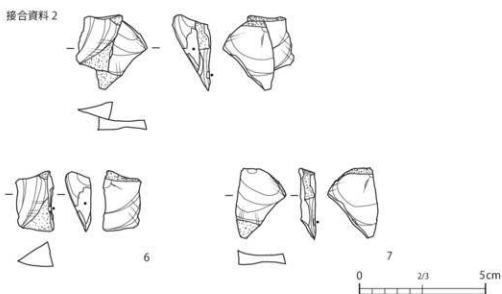
接合資料1



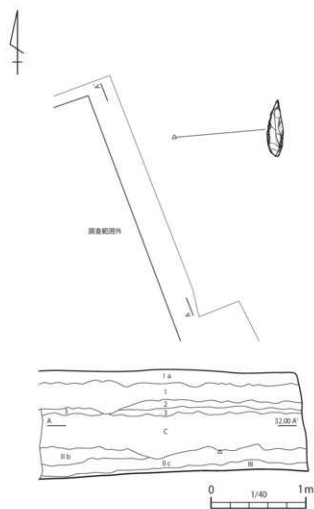
第21図 BL1出土石器(接合資料1)(1/2)(その1)



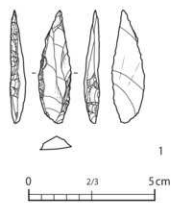
第22図 BL1出土石器（接合資料1）(2/3)（その2）



第23図 BL1出土石器（接合資料2）(2/3)



第24図 単独出土石器分布図 (1/40)



第25図 単独出土石器 (2/3)

2) 単独出土資料 (第24～25図、第5～6表、図版26)

81号住居址周辺の精査時に出土した資料が該当する。出土層位はⅡc層である。石器の技術形態的特徴から、81号住居址の時期である縄文時代中期後葉に属するものではなく、後期旧石器時代後半期に属する資料と判断した。

石器の石材は、頁岩である。石刃の打面部と先端部を斜めに折り取ったものを素材として両側縁に二次加工を施したナイフ形石器である。技術形態的特徴からすると立川ロームⅣ層上部のいわゆる砂川期に特徴的なナイフ形石器である。本遺跡では、第5次調査の際に当該期の石器群が検出されている。

第5表 旧石器時代 遺物観察表

検出 番号	遺物 番号	TP	出土 層位	BL	種別	器種	石材	接合	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
	2	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩		2.4	1.7	0.6	2.6	
	4	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩		3.5	1.4	0.8	3.3	
	5	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩		2.6	1.6	0.7	2.1	
23-7	6	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩	2	2.8	2.0	0.7	3.2	Ⅱ1-2-7-2
23-6	7	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩	2	2.1	1.5	1.0	3.1	Ⅱ1-2-6-1
22-5	17	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩	1	2.6	3.2	0.8	3.8	Ⅱ1-1-5-2
	18	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩		4.4	1.5	0.7	3.9	
	19	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩		1.6	2.0	0.7	1.7	
22-4	22	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩	1	4.0	3.9	2.3	6.2	Ⅱ1-1-4-1
	23	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	黒曜石		1.9	1.0	0.4	0.5	
22-2	24	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩	1	1.4	3.0	0.8	26.9	Ⅱ1-1-2-3
	25	5	Ⅱ b	1	礫		頁岩					163.9	
22-3	27	5	Ⅱ b	1	石器	刮片	硬質細粒凝灰岩	1	3.1	3.8	1.4	12.4	Ⅱ1-1-3-4
	3	6	Ⅱ b	1	石器	刮片	黒曜石		1.1	1.8	0.6	0.9	
	4	6	Ⅱ b	1	石器	刮片	黒曜石		2.0	2.2	0.7	2.2	
	5	6	Ⅱ b	1	石器	刮片	黒曜石		1.4	1.3	0.6	0.5	
21-1	1	10	Ⅱ b	1	石器	石核	硬質細粒凝灰岩	1	8.6	7.2	6.9	507.5	
25-1			Ⅱ b		石器	ナイフ形石器	頁岩		4.5	1.4	0.6	2.7	單獨出土

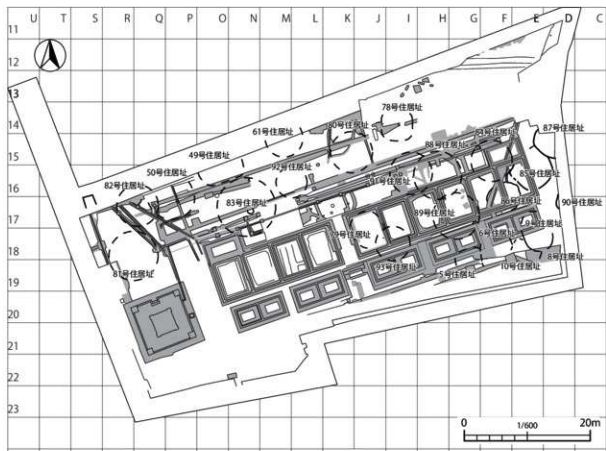
第6表 旧石器時代 BL1 石器石材別機種組成

		刮片		石核		礫		合計
硬質細粒凝灰岩	点数 (%)	11	94	1	6	—	—	12
	重量 (%)	69.2	13	507.5	87	—	—	576.7
黒曜石	点数 (%)	4	100	—	—	—	—	4
	重量 (%)	4.1	100	—	—	—	—	4.1
頁岩	点数 (%)	—	—	—	—	1	100	1
	重量 (%)	—	—	—	—	163.9	100	163.9

2 縄文時代

縄文時代の遺構と遺物について、遺構は、主に中期後葉のものが検出され、遺物は中期前葉から後期にかけての遺物が出土している。縄文時代後期の遺物は、第16次調査と同様に調査区の西側から出土する傾向が見られた。

遺構は、今回の調査で主に検出されたものは、縄文時代中期中葉から後葉にかけての住居址であり、合計24軒検出した(第26図)。その内、第3次調査で検出した住居址を再検出したものが5軒(5号、6号、8号、9号、10号)、第16次調査で北側のみ調査され南側が未調査であった住居址が3軒(49号、50号、61号)、今回の第17次調査で新たに検出した住居址が16軒(78～93号住居址)である。検出した住居址の多くは、近現代における開発工事の影響により削平・攪乱・転圧を受け、残存状況は良好では無かった。今回の調査においても、柱穴と思われるピット群から住居址と判断したのも有り、さらなる軒数が存在していた可能性は否めない。一方で覆土が残存していた住居址も検出しており、近現代の工事の影響が少なかった東西隅で発見している。縄文時代の住居址以外の内訳は、土坑(SK)12基、焼土遺構(SA)1基、ピット152基である。



第26図 縄文時代住居址配置図(1/600)

1) 遺構と遺物 (第26～146図、第7～14表、図版3-3～23-4・27～50)

A 住居址・住居址出土遺物

第3次調査で調査され、今回の調査で再検出した住居址5軒(5号、6号、8号、9号、10号)の詳細については、第3次調査報告書『下野毛遺跡』の記載を参照願う(世田谷区教育委員会1984)。本稿では、今回の調査における事実記載を主とする。

5号住居址(第27図、第7表、図版3-3～3-4)

G19付近に位置する。1982年に世田谷区教育委員会によって行われた第3次調査の際に検出された住居址である(世田谷区教育委員会1984)。第3次調査終了後の団地の増改築工事の影響で攪乱を受けていたが、検出したピットの覆土や配置から判断した。残存していたピットは、第3次調査で与えられた遺構番号5号住居址P2～5であった。平面形態は今回の調査では不明であるが、第3次調査の報告では隅丸方形を呈している。床面は残存していなかったが、炉址の被熱したロームを検出して第3次調査時に検出した炉址と判断した。今回の調査では、南側から新たにピットを2基検出しP13、P14とした。遺物はピットから出土した土器1点/58.4g、礫1点/1.6gを回収した。一括遺物は土器3点/29.1g、礫1点/3.2gである。いずれも小片であったため図化していない。

6号住居址(第28図、第7表、図版3-5～3-8)

F19付近に位置する。1982年に世田谷区教育委員会によって行われた第3次調査の際に検出された住居址である(世田谷区教育委員会1984)。検出したピットの覆土や配置から判断した。第3次調査以前の攪乱により住居址の中央部を大きく欠損している。5号住居址との切り合いから、こちらの方が新しい。また、東側に10号住居址が位置しており、切られている。残存していたピットは第3次調査で与えられた遺構番号6号住居址P1、P3であった。平面形態は、第3次調査の報告では隅丸方形を呈している。床面は残存していない。今回の調査では、南側からピットを7基検出しP8～13の番号を与えた。遺物はピットから出土した土器2点/24.5g、石器(黒曜石細片)7点/7.4gを回収した。一括遺物は土器18点/154.7g、礫1点/0.1gであった。いずれも小片のため図化していない。

8号住居址(第29図、第7表)

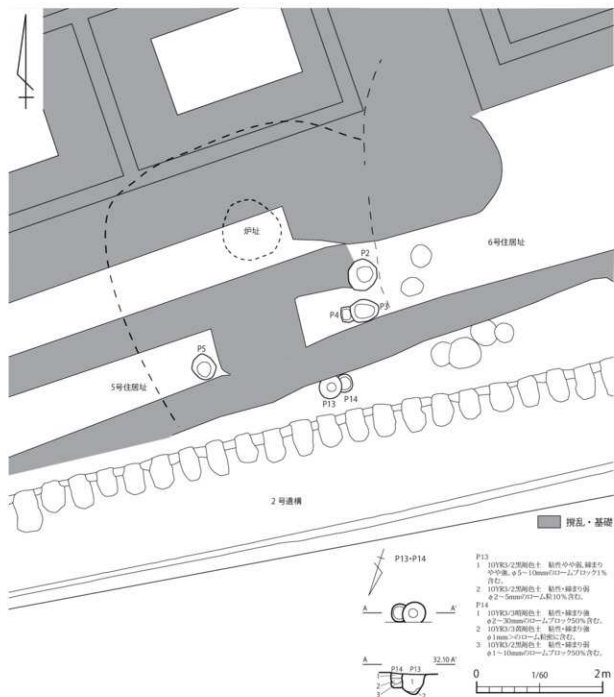
E19付近に位置する。1982年に世田谷区教育委員会によって行われた第3次調査の際に検出された住居址である(世田谷区教育委員会1984)。第3次調査の報告から大きく形を変えずに検出されたことから、団地の増改築工事の影響を大きく受けていないと思われる。平面形態は、円形である。北側を9号住居址に切られる。床面は残存している。

9号住居址(第29図、第7表)

8号住居址の北側に位置し、8号住居址を切る。1982年に世田谷区教育委員会によって行われた第3次調査の際に検出された住居址である(世田谷区教育委員会1984)。第3次調査の報告から大きく形を変えずに検出されたが、北側の約2/3は団地の増改築工事の際に壊れている。平面形態は隅丸方形である。

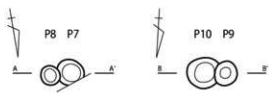
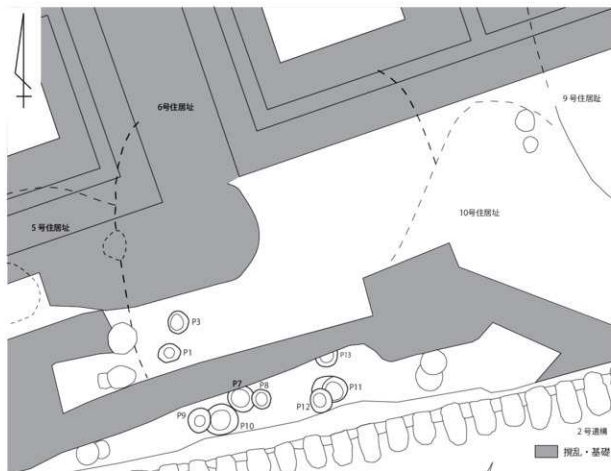
10号住居址(第29図、第7表、図版4-1～4-2)

E20付近に位置する。1982年に世田谷区教育委員会によって行われた第3次調査の際に検出された住居址である(世田谷区教育委員会1984)。第3次調査終了後の団地の増改築工事の影響で攪



第27図 5号住居址・ピット (1/60)

乱を受けていたが、検出したピットの覆土や配置から判断した。平面形態は今回の調査では不明であるが、第3次調査の報告では隅丸方形を呈している。床面は残存していなかったが、炉址の被熱したルームを検出し、第3次調査時に検出した炉址と判断した。北東側を9号住居址に切られる。残存していたピットは、第3次調査で与えられた遺構番号10号住居址P2~P4であった。今回の調査で新たにP5を検出し、P2に切られている。第3次調査の調査範囲外に位置していたと推測される。



P7

- 10YK3/4層褐色土 黏性強、締まり強いローム質、 $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
- 10YK4/4層褐色土 締まり欠ける、ロームブロックの体積。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり中や強、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒状に含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、 $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ のローム粒10%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒3%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、凝結。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり中や強、 $\phi 1\text{mm}$ の角礫土1%散在に含む。

P8

- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり有り、 $\phi 10\text{mm}$ のロームブロック1%、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒5%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり中や強、弱土。

P9

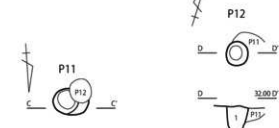
- 10YK3/3層褐色土 黏性・締まり強、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒粘土5%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり強、 $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ の暗褐色10YK3/4層褐色土1%含む。
- 10YK3/4層褐色土 黏性・締まり強、ローム質粘土。

P10

- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、 $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ の暗褐色10YK3/4層褐色土1%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ のローム粒5%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、凝結。

P11

- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり強、 $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ の暗褐色ローム粘土5%、角礫土1%散在に含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり強(1.2層)、暗褐色土(10YK3/2)混入、 $\phi 5 \sim 30\text{mm}$ の角礫土(10YK3/4)のローム塊、ブロック10%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粘土含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり中や強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粘土5%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり欠ける、弱土。



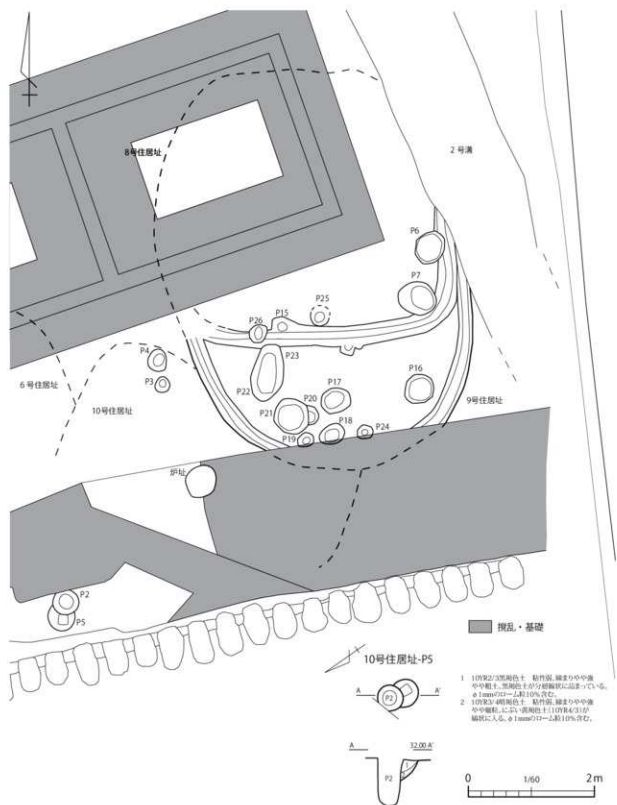
- 10YK3/2層褐色土 黏性・締まり中や強、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のローム粒3%、 $\phi 70\text{mm}$ 程度のブロック、凝を含む。



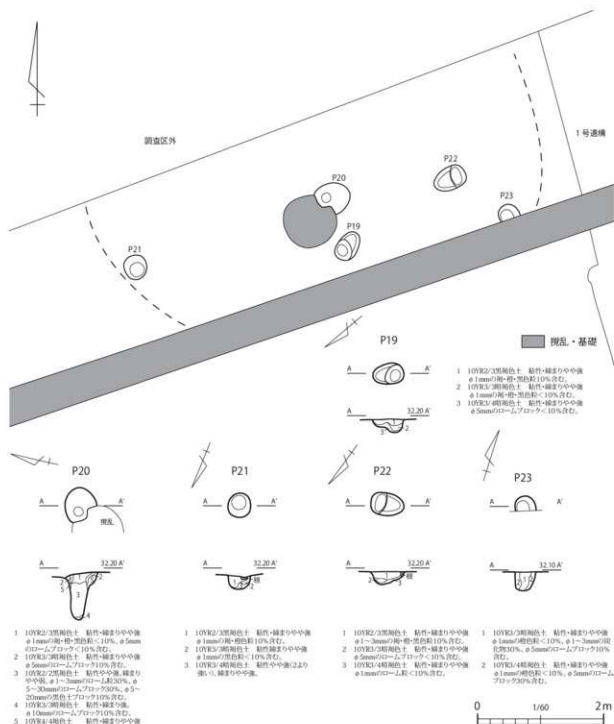
- 10YK3/4層褐色土 黏性・締まり中や強、中や強土、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒10%、 $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
- 10YK3/4層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、中や強土、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒30%、 $\phi 10 \sim 70\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
- 10YK3/2層褐色土 黏性・中や強、締まり中や強、中や強土、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック散在含む。

0 1/60 2m

第28図 6号住居址・ピット (1/60)



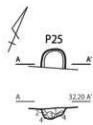
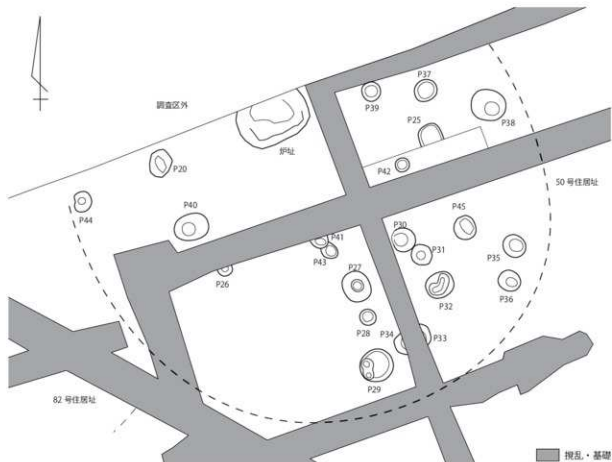
第29図 8・9・10号住居址・ピット (1/60)



第30図 49号住居址・ピット (1/60)

49号住居址 (第30図、第7表、図版4-3)

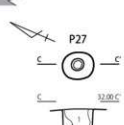
〇16付近に位置する。第16次調査の際に検出され、北側を調査された住居址である(東京都埋蔵文化財センター2019)。平面形態は、前回の調査結果を踏まえて円形を呈すると推測する。覆土は、近現代の工事によって削平され残存していない。前回の調査では、土坑1基、ピット18基が検出されており、柱穴と考えられるものもあるが、配置は明瞭ではなかった。今回の調査においては、P19~P23の計5基のピットを検出した。規模と形状からP20が主柱穴と考えられる。遺物は



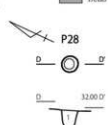
- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmのローム崩壊物、φ 1mmの炭化物
10%含有。
- 2 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1~3mmのローム殻<10%含有。
- 3 10YR2/4暗褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1~3mmの暗褐色土、φ 1~3mmの
ローム殻10%含有。
- 4 10YR2/5暗褐色土 黏性・締まり
や中強、φ 1mmのローム殻10%含有。



- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの炭化物10%含有。
- 2 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの暗褐色土、φ 5mmのロ
ームブロック少量含有。



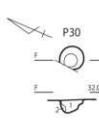
- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの炭化物30%、φ 1mmの暗褐色土10%、
φ 1mmのローム殻10%含有。
- 2 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強、φ 1~
3mmの炭化物1より少ない、φ 5~10mmの
ロームブロック10%含有。
- 3 10YR2/4暗褐色土 黏性・締まりや中強、φ 5
~10mmのロームブロック10%含有。
- 4 10YR4/3暗褐色土 黏性・締まりや中強、
φ 1~3mmの炭化物<10%、φ 1mmの暗褐色
<10%、φ 5mmのロームブロック<10%含有。



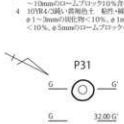
- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの炭化物10%、φ 1mmのロ
ーム殻<10%含有。



- 1 10YR2/4暗褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの暗褐色土10%、φ 1mmのロ
ーム殻<10%含有。
- 2 10YR2/4暗褐色土 黏性・締まりや
中強、φ 1mmの暗褐色土1量、φ 1mmの
ローム殻10%含有。
- 3 10YR4/4暗褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1~3mmの暗褐色土10%、φ 5mmのロ
ームブロック30%含有。



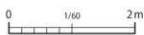
- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1~3mmの炭化物30%、φ 1mmのロ
ーム殻10%、φ 1mmの暗褐色土10%含有。
- 2 10YR2/3暗褐色土 黏性・締まり
や中強、φ 1mmの炭化物<10%、φ 5mm
のロームブロック<10%含有。



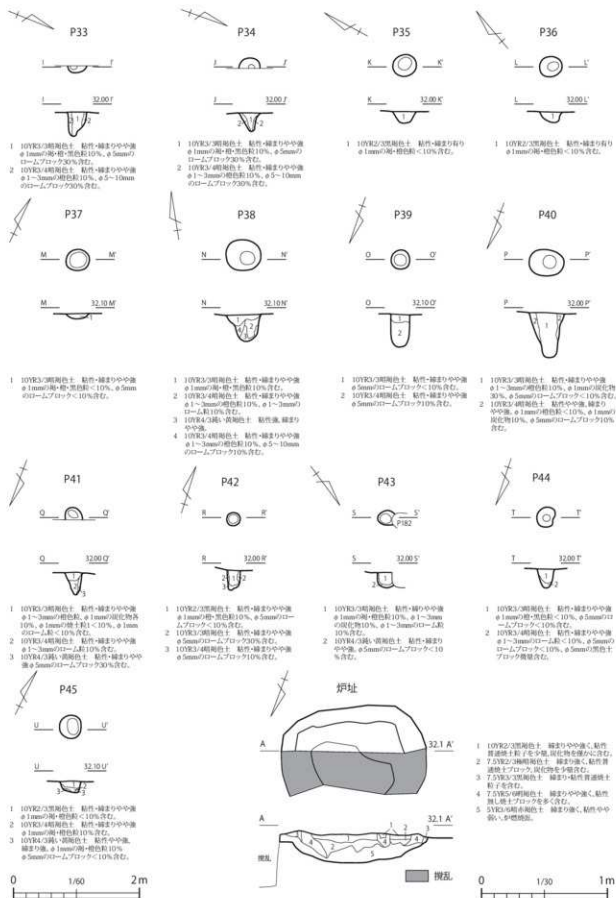
- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1~3mmの炭化物30%、φ 1mmの暗
褐色土10%、φ 1mmの暗褐色土10%含有。
- 2 10YR2/3暗褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの炭化物<10%、φ 5mmのロ
ームブロック<10%含有。



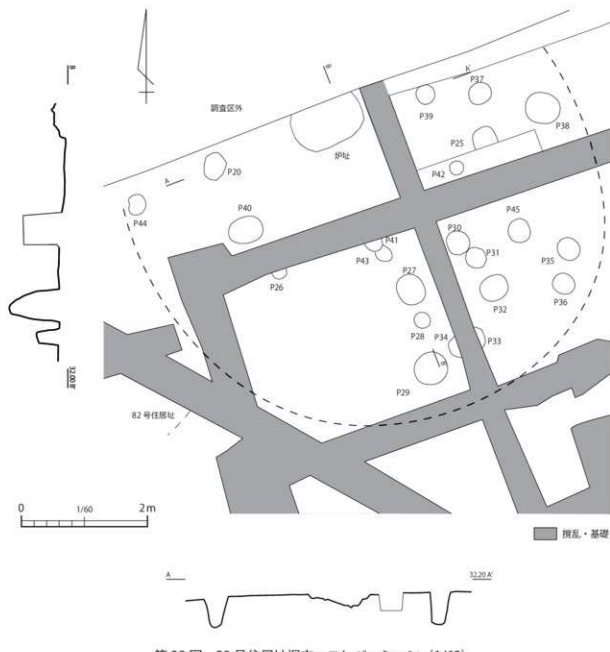
- 1 10YR2/3黄褐色土 黏性・締まりや中強
φ 1mmの炭化物10%、φ 5mmの
ロームブロック10%含有。
- 2 10YR2/4暗褐色土 黏性・締まりや中強
φ 5mmのロームブロック2%含有。
- 3 10YR4/4暗褐色土 黏性・締まりや中強
φ 5mmのロームブロック2%含有。



第 31 図 50号住居址・ビット (1/60)



第32図 50号住居址ピット (1/60)・炉址 (1/30)



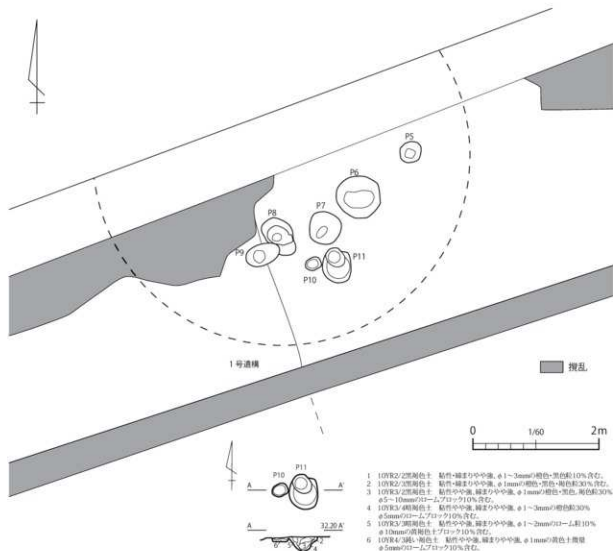
第33図 50号住居址掘方・エレベーション (1/60)

P 20から黒曜石製の剥片が1点/2.0g出土している。図化はしていない。

本住居址は前回調査を踏まえると縄文時代中期後葉、加曾利E3式期に属すると考えられる。

50号住居址(第31～33図、第7表、図版4-4～4-5)

Q 17付近に位置する。第16次調査の際に検出され、北側を調査された住居址である(東京都埋蔵文化財センター2019)。平面形態は、前回の調査結果を踏まえると炉址を中心とした円形ないしは隅丸方形を呈すると考えられる。覆土は近現代の工事の影響により削平され残存しておらず、検出面の立川ロームⅢ～Ⅳ層は転圧を受け固く締まっていた。今回の調査において付属施設は、炉址1基、ピット21基検出した。炉址の北側は、第16次調査の際に検出され調査されている。厚く焼土が堆積していることから、長期間使用された炉であったことが窺える。検出されたピットのうち、P27、



第34図 61号住居址・ピット (1/60)

P32、P39、P40が主柱穴と考えられる。遺物は、炬址から土器1点/5.9g、礫2点/241.9g、ピットから土器3点/46.1g出土した。いずれも小片のため図化していない。

本住居址は前回調査を踏まえると縄文時代中期後葉、加曾利E3式期に属すると考えられる。

61号住居址 (第34図、第7表、図版)

M15付近に位置する。第16次調査の際に検出され、北側を調査された住居址である(東京都埋蔵文化財センター2019)。前回の調査時に、ピットの配置から住居址と確認された。西側は1号遺構によって壊れている。平面形態は、不明である。覆土は、近現代の工事の影響により削平され残存しておらず、検出面の立川ロームⅢ~Ⅳ層は転圧を受け固く締まっていた。今回の調査において付属施設は、P10、P11を検出したが、いずれも浅く主柱穴とは認めがたい。前回の調査において検出されたピットが本住居址の主柱穴であったと思われる。遺物の出土は、無かった。

本住居址は前回の調査を踏まえると縄文時代中期中葉に属すると考えられる。

78号住居址（第35～39図、第7・10表、図版5・27）

J15付近に位置する。北側が、1号遺構に中央部を重機の掘削による擾乱の影響を受け壊されている。平面形態は、北東側に壁溝と思われる掘り込みが僅かに残存していたことから隅丸方形と推測する。覆土の大半は、近現代の工事の影響により削平され残存状況は良くないが、炉址周辺にロームブロックと黒色土が混ざった硬化面を確認した。検出時の厚さは最大で2cm程度である。近現代の工事によって固く転圧を受けているため、床面と認識することは困難だったが、炉址やピット内の覆土と比較すると、検出した硬化面が床面であった可能性が高い。

本住居址からは、炉址1基、ピット19基を検出した。炉址は地床炉であるが、上面が削平されているため詳細は不明である。主柱穴と思われるピットは、P1、P2、P5、P6、P7、P8、P12、P15、P18である。配置から6本柱穴の住居址と思われる、複数回の建替が有った可能性がある。遺物は、土器5点/76.6g、石器3点/3.7g、礫2点/89.9g出土した。いずれも炉址とピットからの出土である。土器5点を図化した。一括遺物は土器40点/414.3g、石器5点/5.8gを回収した。

【土器】1は口縁部に連続爪形文と沈線を施文する。2は沈線で区画された内部に沈線を充填する。3は刻目を持つ隆帯を貼り付ける。4は縄文RLを施文後、沈線による波状文を施文し内部を磨り消す。5は縄文RLが施文される。

本住居址は平面形態と出土した遺物から縄文時代中期中葉に属すると考えられる。

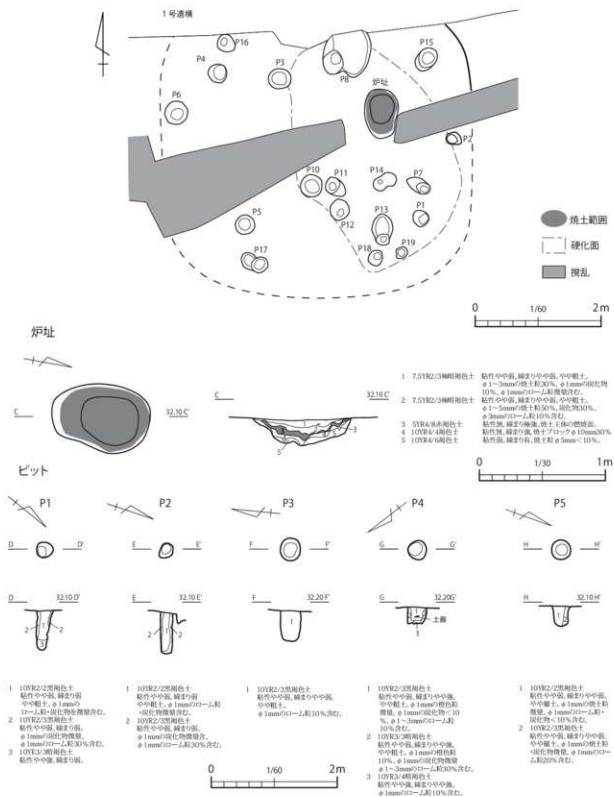
79号住居址（第40～47図、第7・10・13表、図版6・27・42）

K16付近、建物基礎礎6（第3図）に位置する。平面形態は、南側に壁溝と思われる溝が残存していたことから、炉址を中心とした円形ないしは隅丸方形を呈すると思われる。周囲を団地基礎に囲われて検出されたため、壁の立ち上がりなどは不明である。炉を中心として北西側はローム面まで削平され、東側と南側に覆土が5～15cm程度残存していた。4層が本住居址の床面であり、暗褐色土にロームブロックが混ざる貼床である。

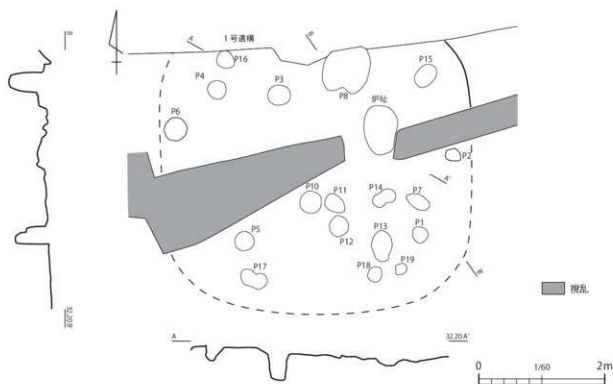
本住居址からは、炉址1基、ピット15基（P10は埋設土器）を検出した。炉址は、上面が近現代の工事の際に削平を受けていたが、炉を囲っていた石が一部残存していたことから石囲炉であったことが分かる。炉址の覆土からは焼土に囲まれて口縁部と底部が欠損した深鉢が埋設されていた。埋設された土器内部の覆土は、焼土粒混じりの黒褐色土で、土器の外側には焼土を含まない暗褐色土が存在したことから、炉の焼土を掘削して埋設された土器であることが分かる。埋設土器内部は、被熱により脆くなっていたことから埋塞炉として用いられたと考えられる。炉体土器は、口縁部と底部を欠損する加曾利E2式の深鉢である。P10は埋設土器である。西側の浅い掘り込みに土器が埋設され、東の覆土上面に土器片が散らばっており、底面からは磨石が出土した。主柱穴と思われるピットは、P1、P2、P3、P5、P9、P11である。配置から6本柱穴の住居址と思われる。東側に隣接する93号住居址との前後関係などは不明であるが、P13、P15は配置から93住居址に関連する柱穴の可能性もある。

遺物は、点上げた遺物が土器108点/4,432g、石器57点/2,253.2g、礫14点/1,409gであった。これらは覆土、炉址、ピットからの出土である。一括遺物は、土器66点/486.5g、石器5g/5.8g、礫3g/200.5gである。土器11点、石器7点を図化した。

【土器】1は、隆帯脇に結節沈線が施文される。2は地文に縄文RL、渦巻き状の沈線が施される。



第35図 78号住居址・ビット(その1)(1/60)



第37図 78号住居址掘方・エレベーション (1/60)

3は地文に縄文RL、隆帯と沈線で区画された内部に斜行の沈線が施される。4は斜行に沈線が施文される。5は地文に柳歯状の条線、縦に波状の沈線が施される。6は地文に柳歯状の条線、並行沈線と連文が施される。7は炉址1の炉体土器である。地文に縄文LR、縦に並行する3本の沈線と波状の沈線が施される。8はP10から出土した埋設土器である。地文に条線、横位に隆帯を貼付け、縦に太めの沈線が施される。9は斜行と弧状の沈線を地文とし、口縁部に横の並行沈線、懸垂文が施される。10は無文の浅鉢である。11は無文で浅鉢の胴部と思われる。

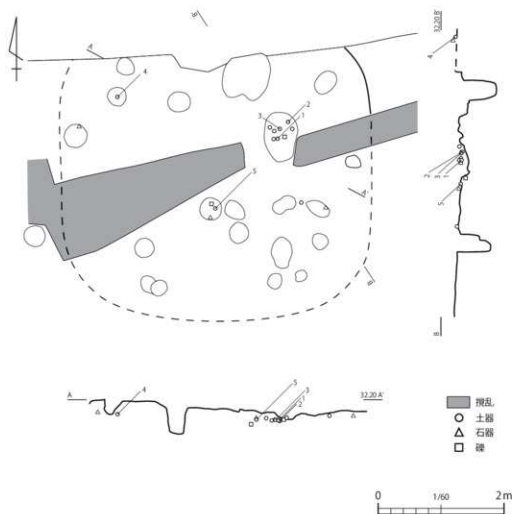
【石器】12と13は、黒曜石製の石鐮である。両者とも無茎である。14と15は、打裂石斧である。14は、表面に敲打痕のような窪みが見られる。着柄時に出来たものと思われる。15は、中央部から刃部を大きく欠損する両側縁に着柄痕が無く加工も粗いため未製品と思われる。16は、磨石でスタンプ形石器と形態が類似する。17は、磨石である。P10の底面から出土した。表面が滑らかで右側縁に擦痕が見られる。上面にはわずかに敲打痕が残る。18は、石皿である。裏面に凹状の窪みが認められる。破損した石皿を転用したと推測される。炉の石囲に用いられていた。

本住居址は、炉址の炉体土器から加曾利E2式期に属すると考えられる。

80号住居址 (第48～52図、第7・10表、図版7～8・4・28)

K16付近に位置する。平面形態は、近現代の工事による掘削が床面を越えるほど及んでいたことから不明である。遺構の検出面は、立川ルームIV層である。遺構検出面は、固く転圧を受けており、周囲は埋設管による攪乱の影響から残存状況は悪い。

本住居址からは、炉址2基とピット29基を検出した。炉址は2基が並んでいる。前後関係は、炉址2が炉址1より新しい。炉址1は、主柱穴と思われるP2を埋め戻して出来た窪みを炉として使用

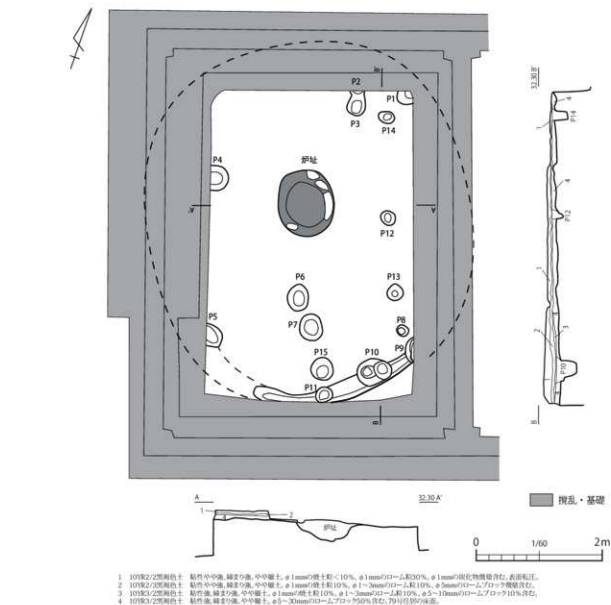


第 38 図 78 号住居址出土遺物分布図 (1/60)

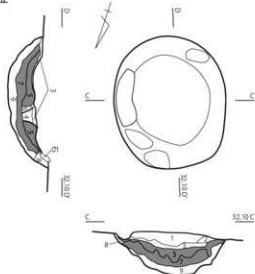


第 39 図 78 号住居址出土遺物 (1/3)

していたと考えられる。焼土層は除去されて炉址 2 を作る際に埋められたと推測する。10 層と 11 層が踏み固められており、9 層に焼土粒が多く含まれている。現代の工事時の転圧により固く締まった 1 層を取り除くと 1 層直下のピット開口部縁辺に焼土が残存していたが厚さが 1cm にも満たない。炉址 2 は、埋燗炉である。炉体土器は、胴部中央から底面にかけて欠損した曾利Ⅲ式の深鉢である。焼土層が厚く堆積していることから長期間の利用が窺える。ピットのうち主柱穴と思われるものは、P2、P7、P8、P13、P14、P15、P16 である。いずれも切り合っていること、P2 を埋めた跡を利用して作られた炉址 1 の存在から、最低 1 回は建替が行われていると考えられる。柱穴の規模と配置から 4 本柱穴の住居址だと思われる。

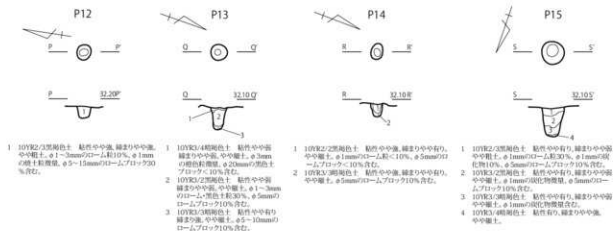


炉址

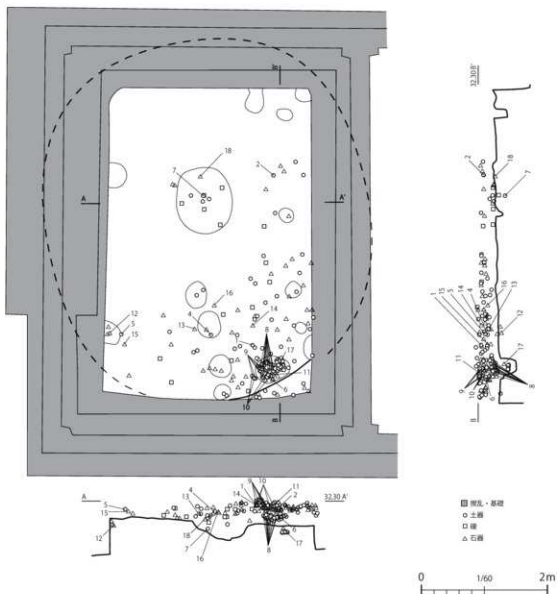


- 10号2/2黒褐色土 黏性中中弱、締まり中中強、中々硬土。φ1~3mmの焼土粒10%、φ5mmのローム土ブロック10%、φ1mmのローム土炭化物10%含む。
- 7.5号2/2黒褐色土 黏性有り、締まり中中強、φ1~3mmの焼土粒10%、φ5mmの焼土ブロック10%、φ1mmの炭化物10%、φ1mmのローム土炭化物微量含む。
- 7.5号2/2黒褐色土 黏性中中弱、締まり中中強、中々硬土。φ1~3mmの炭化物30%、φ5~15mmの焼土ブロック50%含む。
- 10号2/2黒褐色土 黏性中中強、締まり中中強、中々硬土。φ1mmの焼土粒10%、φ1mmの炭化物<10%、φ1~3mmのローム土10%含む。
- 5号4/4赤褐色土 黏性無し、締まり極強、粗土。黒色土ブロックが少量散在しり込入った焼土層。
- 7.5号3/4赤褐色土 黏性無し、締まり強、土質の硬弱。
- 5号3/4赤褐色土 黏性無し、締まり極強、締まり込みが少ない焼土層。
- 7.5号3/4赤褐色土 黏性無し、締まり中中弱、中々硬土。φ1~3mmの焼土粒10%、φ1mmのローム土粒<10%含む。
- 5号3/4赤褐色土 黏性ほぼ無し、締まり極強、粗土。φ3mmの焼土粒10%、φ5mmの焼土ブロック<10%含む。

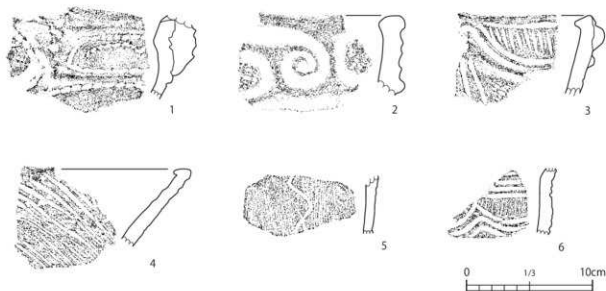
第40図 79号住居(1/60)・炉址(1/30)



第42図 79号住居址ピット(2)(1/60)



第43図 79号住居址出土遺物分布図(1/60)



第44図 79号住居址出土遺物(1) (1/3)

遺物は、点上げた遺物が土器 27 点 / 1,682.2g、石器 13 点 / 131g、礫 10 点 / 1,436g であった。これらは炉址、ピットからの出土である。一括遺物は、土器 12 点 / 64.3g、礫 1g / 14.5g である。土器 2 点を図化した。

【土器】 1 は、炉址 2 の炉体土器である。頸部は交互刺突を加えた隆帯で区画し、口縁部は無文である。胴部は縦位の隆帯で区画し刻みを加える。区画内には、横方向の沈線を充填する。2 は扁平な隆帯で区画し、その内側に刻みを充填する。

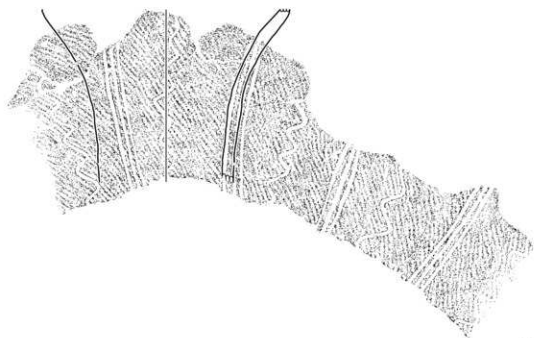
本住居址は、炉址 2 の埋裏から曾利Ⅲ式と並行する加曾利 E2 式期に属すると考えられる。

81 号住居址 (第 53 ~ 66 図、第 7・10 ~ 11・13 表、図版 8-5 ~ 9・28 ~ 33・42 ~ 43)

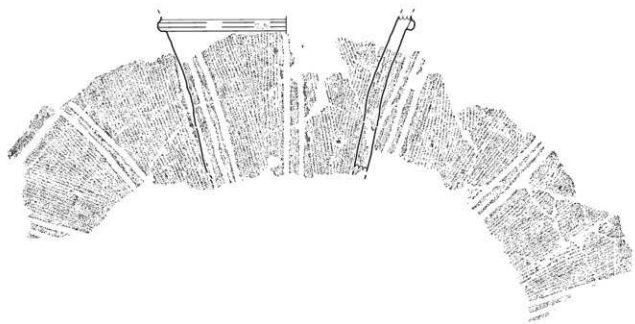
R19 付近に位置する。平面形態は、円形を呈すると思われる。北西側がローム面にまで及ぶ削平を受けており、残存した包含層の断面から拳大の礫が集中して出土したことから集石として遺構の検出を行った結果、土器や石器、礫がまとまりをもって検出をしたため住居址として調査を行った。検出面はⅡc 層である。

出土した遺物は、床面で集中している。中央部から炉址を 1 基検出したが、炉址から北西側を削平されていたため残存状況は良好ではない。浅い掘り込み内に焼土が堆積している。炉址上面から、礫や土器片がまとまって出土しており、土器囲い炉であった可能性が高い。ピットは 10 基検出したが、いずれも住居の柱穴ないしは付属施設とは断定はできない。また、P1 は上面から加曾利 E3 式の土器がまとまって出土しており、住居覆土中や床面出土土器とは時期差があるため関連しない遺構の可能性がある。

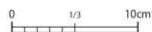
81 号住居址からは、土器 423 点 / 16,683.1g、石器 42 点 / 9,311.5g、礫 217 点 / 53,844.73g、住居址の周辺グリッドからは土器 1,070 点 / 38,083.33g、石器 96 点 / 5,447.4g、礫 359 点 / 36,058.6g 出土している。住居址内外の出土遺物と接合関係が認められたため本項にて報告する。一括遺物は、土器 77 点 / 447.5g、礫 7 点 / 89.6g である。そのため、住居址の周辺グリッドから出土した遺物は、



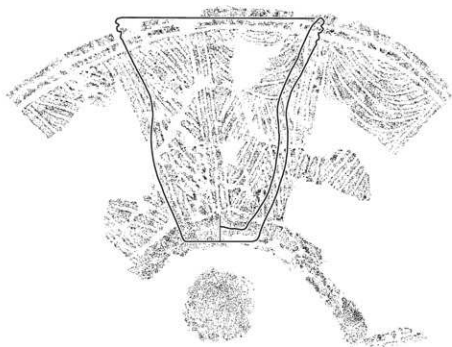
7



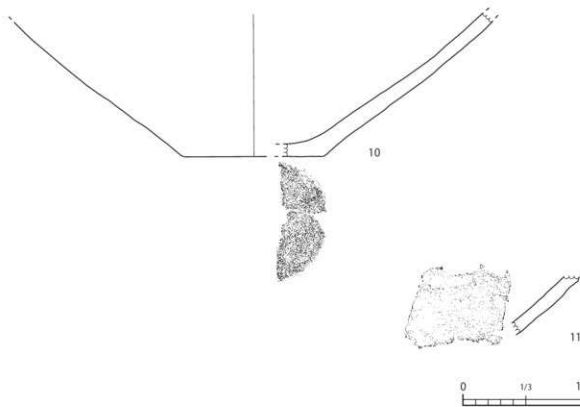
8



第45図 79号住居址出土遺物(2)(1/3)



9

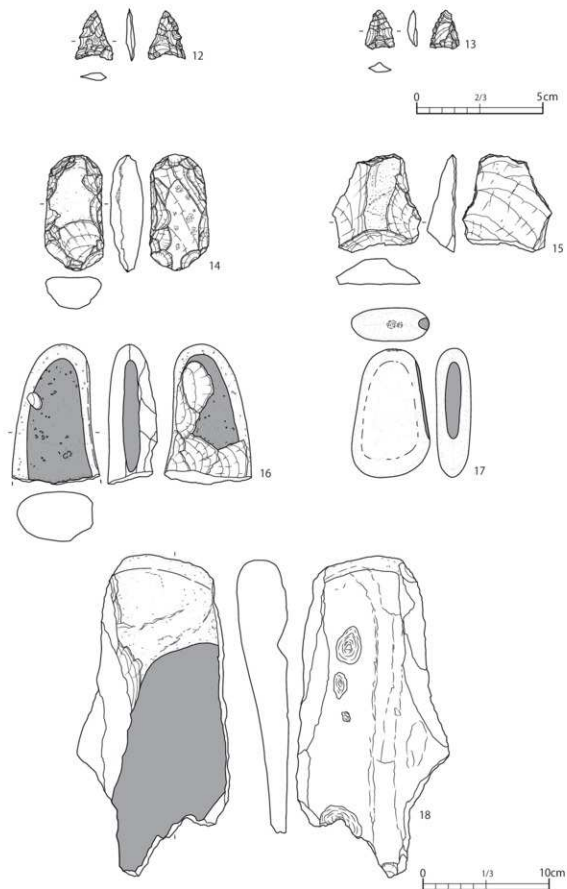


10

11

0 1/3 10cm

第46图 79号住居址出土遗物(3)(1/3)



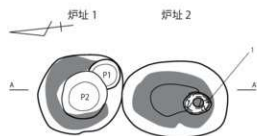
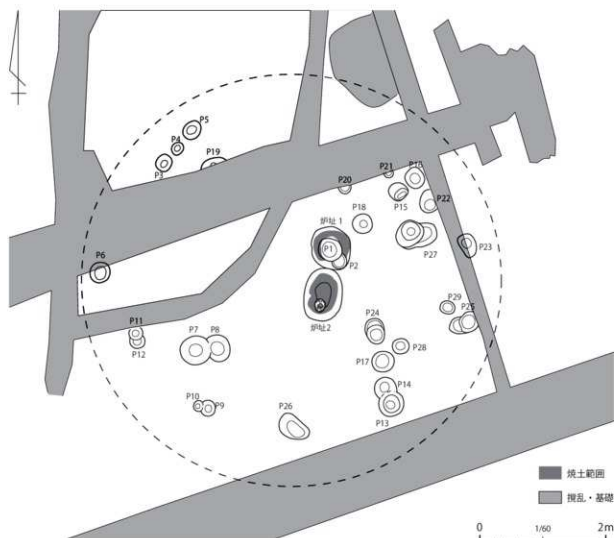
第47図 79号住居址出土遺物(4)(2/3・1/3)

81号住居址関連遺物と捉える。出土した遺物は、縄文時代中期後葉の加曾利E4式を中心に後期の堀之内式までの遺物が含まれる。各時期を網羅するように資料を抽出して、住居址内出土の土器39点、土製品2点、石器13点、周辺グリッド出土の土器44点を図化した。

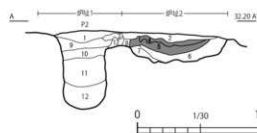
【土器】1は、連続幅広刺突文と波状沈線が施文される勝坂3式の土器である。2～39は、中期後葉の口縁部である。4は縄文RLを地文とし、口縁部の渦巻文、胴部の懸垂文の内側を磨り消している。3は沈線で区画された内部に縦に沈線ないしは条線が施される。2は降帯に渦巻き状の沈線が施文される。8は沈線により三角形に区画された内側が磨かれ縄文RLを充填する。6は縄文LRが施文される。7は地文が縄文LR、沈線で区画された内側を磨り消す。5は口唇部に縄文LRが施され、下に緩やかな波状の沈線が複数走る。9は地文が縄文RL、縦に走る沈線で区画された内部を磨り消される。10、11は地文が縄文RL、沈線で区画された内側が僅かに隆起する。縄文は口唇部が横方向と胴部が縦方向に施文される。12は幅広の無文域の下位が僅かに隆起し、沈線で区画された内部に縄文LRが施される。13は幅広の無文域の下位に沈線が施され、地文は縄文LRである。14は幅広の無文域の下位に沈線が施される。沈線の下位は施文方向が異なる縄文RLが施される。15と16は炉址上面の囲いに転用されていた可能性がある土器である。15は深鉢の口縁部付近の土器である。15と16は縄文RLを施文し口唇部の無文域の下位は微隆起線文による文様が施される。17～21は、逆U字状に区画された内側が磨かれ、外側には無節の縄文Rが充填されている。22は縄文LRを地文として、沈線で帯状に区画後に内側を磨り消している。23は沈線で区画された無文域と縄文LRが施文方向を変えながら施される。24は沈線の間に連続した刺突文が施され、弧状の沈線で区画された内側に縄文LRが施文される。25は沈線で区画された内側に結節縄文が施文される。26と27は口唇部に細い縄文RL原体で施文され、下に太い沈線が走る。28と29は口縁部に連続した円形刺突と沈線で区画された内側に縄文RLを施文する。30と31は沈線で三角形に区画された内側に縄文が施され、周囲が磨り消されている。32は沈線で逆U字状に区画した内側に先端が細い施文具によって逆ハの字状に沈線が連続して施される。33と34は櫛歯状の条線を地文として、口縁部に並行沈線で区画された内側に連続した刺突文と連弧文が施される。35は地文が縄文RLで交互刺突文と連弧文が施文される。36は微隆起帯が貼付される。37～39は無文の口縁部破片である。

40～67は中期後葉、深鉢の胴部破片である。40～46は地文が縄文で、懸垂文の内側が磨り消されている。47は微隆起帯で円形に区画された内部に縄文RLが施文されている。48は微隆起線による区画後、縄文が施文される。炉址の囲いに転用されていたと思われる土器である。49は降帯の間に縄文LRが施文される。50～59は地文に縄文が施され、沈線で区画された内側が磨かれ無文になっている。60～62は沈線によって渦巻き状に区画された内側が磨り消され、縄文LRが充填される。63と64は縄文のみが施文されている。63は縄文RL、64は縄文Rである。65と66は懸垂文と円形の刺突文が施文される。67は櫛歯状の条線が地文で、降帯上に円形の押捺が施される。68～70は深鉢の底部付近である。70は底面近くまで縄文が施文される。

71～83は後期の土器である。71～76、79～81は沈線によって帯状区画が描かれ区画内に縄文が充填される。74には、縄文施文後に円形刺突が施される。82は沈線で帯状区画が描かれ内部に刺突文が施文される。77は降帯を貼付後、上に円形刺突を加える。78は、口縁部に連続した刻みが施される。83は、浅鉢の口縁部突起で表面の一部に赤彩が残る。

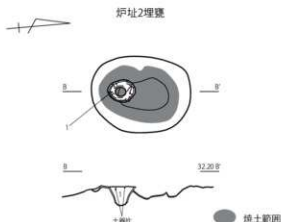


■ 焼土範囲

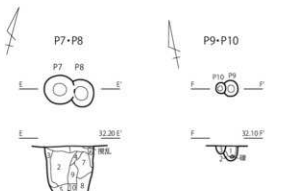


- 1 10YR2/2灰褐色土 粘付遺、締まり極薄、 ϕ 1~3mmの焼土粒10%、 ϕ 1mmの炭化物10%、 ϕ 1~3mmのローム土粒20%、 ϕ 5~10mmのロームブロック50%含む。私注上。
- 2 10YR2/2暗褐色土 粘付遺、締まり極薄、 ϕ 1~3mmの焼土粒30%、1より焼土・炭化物が多い。
- 3 10YR2/2灰褐色土 粘付遺、締まり強、1よりローム土・ロームブロックが多い。
- 4 7.5YR2/3暗赤褐色土 粘付や中弱、締まりや中弱、 ϕ 1~3mmの焼土粒50%、 ϕ 1mmの炭化物30%、 ϕ 5~10mmの焼土ブロック10%含む。
- 5 5YR4/6赤褐色土 粘付無し、締まり強、赤褐色土ブロック10%含む。
- 6 7.5YR2/4暗褐色土 粘付無し、締まり強、塊けたローム。
- 7 7.5YR2/3暗赤褐色土 粘付や中弱、締まりや中弱、粘土が凝縮が強く粘付が強い。
- 8 7.5YR2/3暗赤褐色土 粘付や中弱、締まりや中弱、 ϕ 1mmのローム粒30%、 ϕ 1mmの焼土粒30%含む。
- 9 7.5YR2/4暗褐色土 粘付や中弱、締まり強、 ϕ 1~3mmの焼土粒30%、 ϕ 1mmの炭化物10%、 ϕ 1~3mmのローム土粒10%含む。
- 10 7.5YR2/4暗褐色土 粘付や中弱、締まり強、0粒より粘付ブロックは多い。
- 11 10YR2/3暗褐色土 粘付遺、締まり強、 ϕ 1~3mmのローム粒30%、 ϕ 1mmの炭化物<10%、焼土はまずローム土を多量含む行ひの凝縮し上。
- 12 10YR2/3暗褐色土 粘付や中弱、締まりや中弱、 ϕ 5mmのロームブロック30%含む。

第48図 80号住居址(1/60)・炉址(1/30)

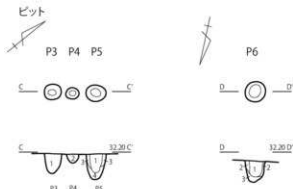


1 10YR2/3黒褐色土 粘質中～強、締まり強、 ϕ 1～3mmコロム・土器片含む。

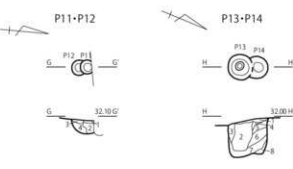


- 10YR2/3黒褐色土 粘質中～強、締まり強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒50%、 ϕ 1～3mmのローム土粒20%を含む。粘土土。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質中～強、締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 1mmのローム土粒10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質中～強、締まり中～強、 ϕ 1mmの黒色粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック<10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質中～強、締まり強、 ϕ 1mmの黒色粒<10%、 ϕ 5～15mmの黒褐色土・ムフロック10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質土、粘質土、粘質土、締まり強、 ϕ 5mmのローム・ムフロック<10%を含む。
- 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒色粒約50%、 ϕ 5～30mmの黒色粒約50%、 ϕ 1mmの黒褐色炭粒を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質土、締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 5～30mmの黒色粒約30%、 ϕ 20mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質土、締まり中～強、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR3/4黒褐色土 粘質土、締まり中～強、 ϕ 1～3mmの黒色粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質土、締まり強、 ϕ 10mmのローム・ムフロック30%を含む。

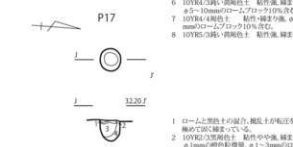
- P16 1 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒<30%を含む。
 2 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 1mmのローム土粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック30%、土器片を含む。
 3 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 5～15mmのローム・ムフロック30%を含む。
- P15 4 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 1～3mmのローム土粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
 5 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 5～15mmのローム・ムフロック10%を含む。
 6 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。



- 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 1mmのローム土粒<10%、 ϕ 1mmのローム土粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒10%、 ϕ 1mmのローム土粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒10%、 ϕ 1mmのローム土粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1～3mmのローム土粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。

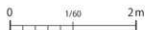
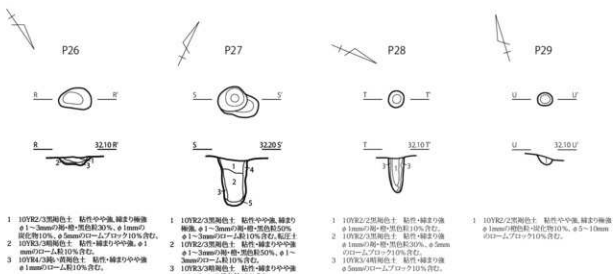
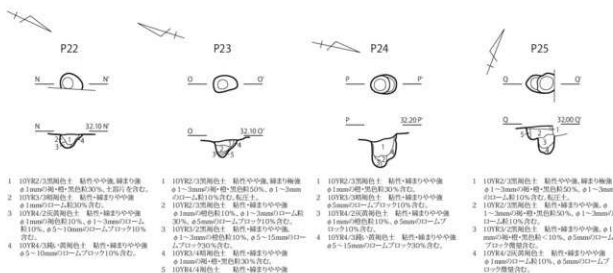


- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%を含む。
- 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%を含む。
- 10YR3/4黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質中～強、締まり強、 ϕ 1mmの黒・褐色炭粒10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質土、粘質土、粘質土、締まり中～強、 ϕ 10mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR4/4褐色土 粘質土、粘質土、粘質土、締まり中～強、 ϕ 5～10mmのローム・ムフロック10%を含む。
- 10YR3/4黒褐色土 粘質土、締まり強。

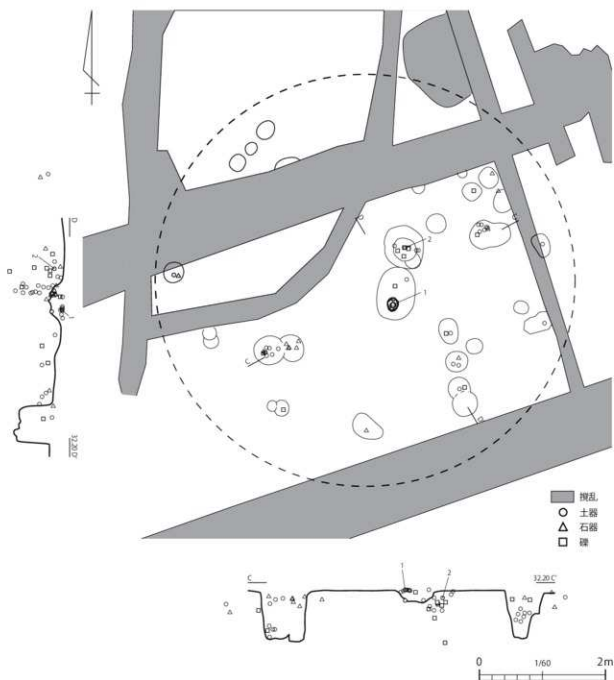


- ローム土質土の混合、縦土が傾斜を受けて壊れて残っている。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質中～強、締まり強、 ϕ 1mmの黒色炭粒50%、 ϕ 1～3mmのローム土粒30%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%、 ϕ 5mmの黒褐色炭粒を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1～3mmの黒・褐色炭粒30%、 ϕ 1mmの炭化物10%を含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり中～強、 ϕ 1～3mmの黒・褐色炭粒10%、 ϕ 5mmのローム・ムフロック10%を含む。

第 49 図 80 号住居址ピット (1/60)・炉址 (1/30)



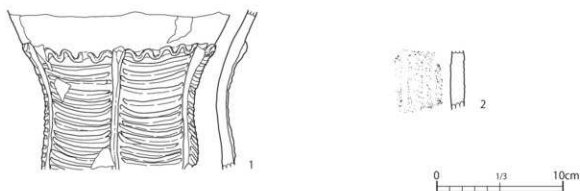
第 50 図 80号住居址ピット (1/60)



第51図 80号住居址エレベーション・出土遺物分布図(1/60)

【土製品】84は、深鉢胴部の破片を素材とした土器片錘である。85は深鉢胴部の破片を素材とした土製円盤である。

【石器】86は、基部を欠損する黒曜石製の石鎌である。87～90は、撚形の打製石斧である。87には、両側縁と基部側に着柄痕が明瞭に残されている。資料も刃部が潰れるなどの使用による痕跡が残されている。91は、打製石斧の未製品と思われる。扁平な剥片に粗い二次加工が施されている。92～93は、分銅形の打製石斧の刃部である。94は、撚形の刃部である。95～96は、定角形の磨製石斧である。いずれも刃部が潰れている。97は敲石、98は石皿の破片である。



第52図 80号住居址出土遺物(1/3)

住居址の構造から、ローム層にまで及ばない浅い掘り込みを特徴とする住居址であり、床面および覆土の出土遺物から、中期末葉～後期初頭に属する住居址と考える。

82号住居址(第67～69図、第7・10表、図版10・32)

R17付近に位置する。平面形態は、近現代の工事による削平と埋設管の敷設工事の影響から残存状況が悪く不明である。遺構の検出面は、立川ロームⅢ層である。50号住居址が東側で隣接するが、前後関係は不明である。また、北側が第16次調査範囲に接するが、前回調査では確認することが出来なかった住居址だと思われる。

本住居址からは、炉址1基とピット4基を検出した。炉址は北半分が重機による削平を受けており、壊れていた。炉址周辺からは、わずかに床面と思われる混じり土が確認できたが、厚さが1cmにも満たず近現代の工事に受けた転圧時の攪乱と区別が困難であった。焼土層が厚く堆積しており、焼土層より下位のローム層にまで被熱が及んでいたことから長期間使用された炉だと推測される。主柱穴と思われるピットは、P2である。周辺が埋設管によって深い掘削を受けていたため、柱の配置などは不明である。

出土遺物は、炉址とP1から出土した土器2点/56.7gである。その内、炉址から出土した土器1点を図化した。

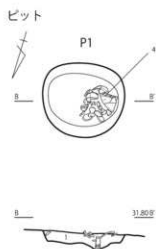
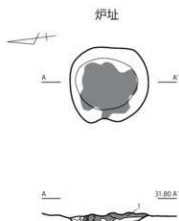
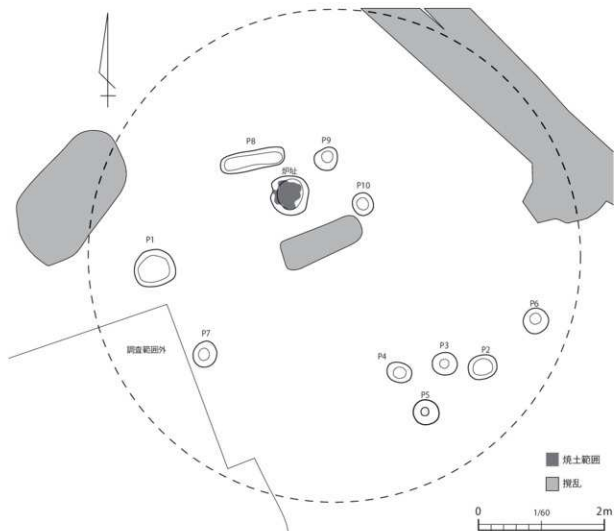
【土器】1は、無文の深鉢の胴部である。

本住居址は、周辺の住居址の時期を踏まえると、縄文時代中期に属すると考えられる。

83号住居址(第70～75図、第7・10表、図版11～12・4・32)

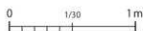
N18～O18付近に位置する。平面形態は、東側が1号遺構によって壊されており、近現代の工事による削平と埋設管の敷設工事の影響から残存状況が悪く不明である。削平は、床面より下位の立川ローム層まで及んでおり、削平後に転圧を受けている。

本住居址からは、炉址1基とピット23基を検出した。炉址は北側の一部が埋設管によって一部壊れているものの覆土が残っており残存状況は比較的良好である。上面が削平されているため詳細は不明だが地床炉だと思われる。炉址の焼土層上面には、遺物が一括して廃棄されている状況が確認できた。主柱穴と思われるピットは、P5、P6、P7、P8、P9、P10、P11、P12、P13、P14、P16、P17、P18である。配置からみると、北西側からやや外れるように、深く規模が大きなP13、P18が位置していることから、建替が行われていた可能性も有る。

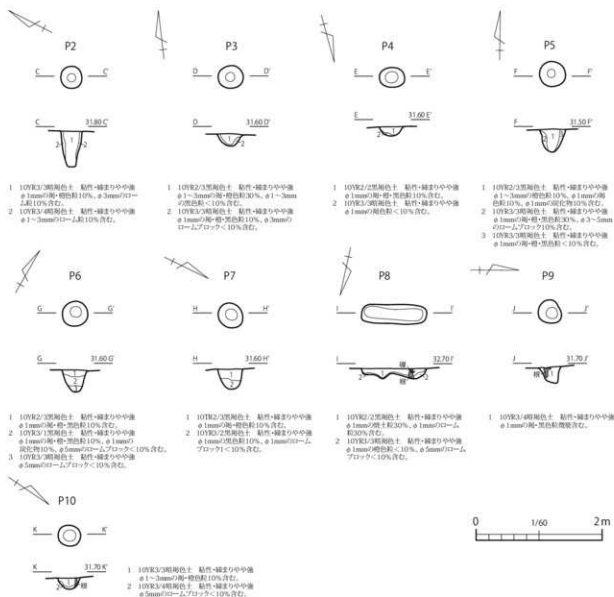


- 1 7.5YR3-4暗褐色土 粘質やや硬、締まりやや強、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の焼土粒30%、 $\phi 10\text{mm}$ の焼土ブロック30%含む。
- 2 5YR3-4暗赤褐色土 粘性無し、締まり極強、下層ほど褐色化する、少の焼灰。
- 3 5YR2-4暗赤褐色土 粘性無し、締まり強、焼灰混じり焼土がブロック状に入る。
- 4 7.5YR3-4暗褐色土 粘性强、締まりやや強、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の焼土粒10%、 $\phi 5\text{mm}$ の焼土ブロック10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック数層含む。
- 5 7.5YR3-4暗褐色土 粘質やや強、締まりやや強、 $\phi 1\text{mm}$ の Ca -L粒40%、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の焼土粒30%、 $\phi 5\sim 20\text{mm}$ の焼土ブロック30%含む。焼灰混じり下層に焼土が多い。

- 1 10YR2-2黒褐色土 粘質やや弱、締まりやや強、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒10%、 $\phi 1\text{mm}$ の石灰色粘質燧石。



第53図 81号住居址ピット(1)(1/30)・炉址(1/60)

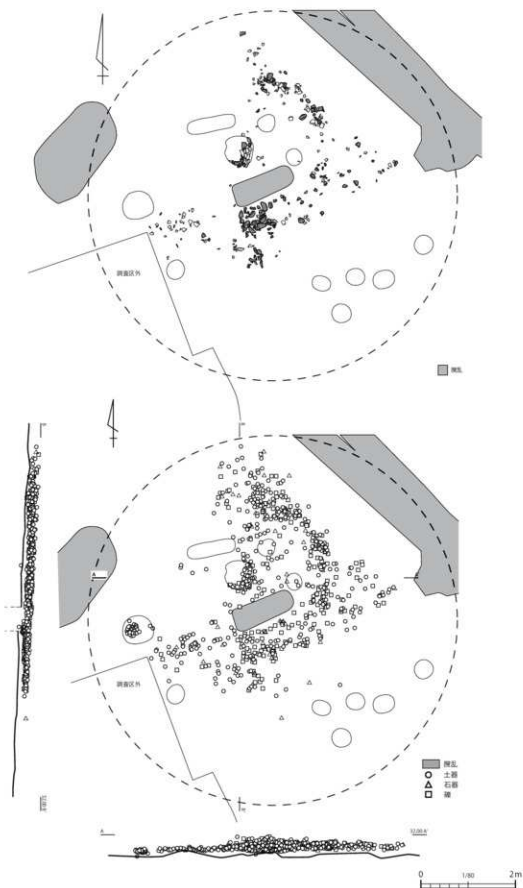


第54図 81号住居ピット(2)(1/30)

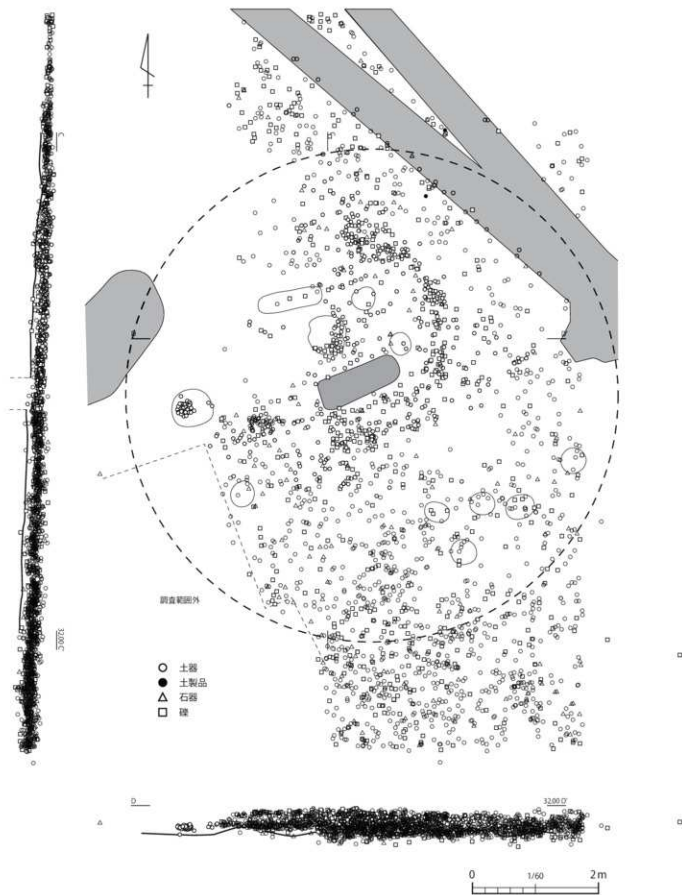
遺物は、炉址とピットから出土した遺物が、土器48点/2,485.2g、石器3点/6.8g、礫29点/5,660.1gである。一括遺物は、土器49点/300.7g、礫5点/71.3gである。本住居から出土遺物の多くは、炉址に一括廃棄されたものである。その内、土器7点を図化した。

【土器】1は、口縁部付近に横位の並行沈線を配し間に縦に円形刺突が施される。下に横位の波状沈線を配し、縦位の短沈線を充填する。2は縄文RLを地文として、口縁部に蔵手状の区画を配する。胴部には縦位の懸垂文を配し、間を磨り消す。3~5は口唇部が無文で沈線より下に条線が施される。5は口縁部に連続刺突文が施文される。6は深鉢の胴部である。縄文LRを地文として懸垂文間が磨り消される。7は隆帯で区画され内側に綾杉状の沈線を充填する。

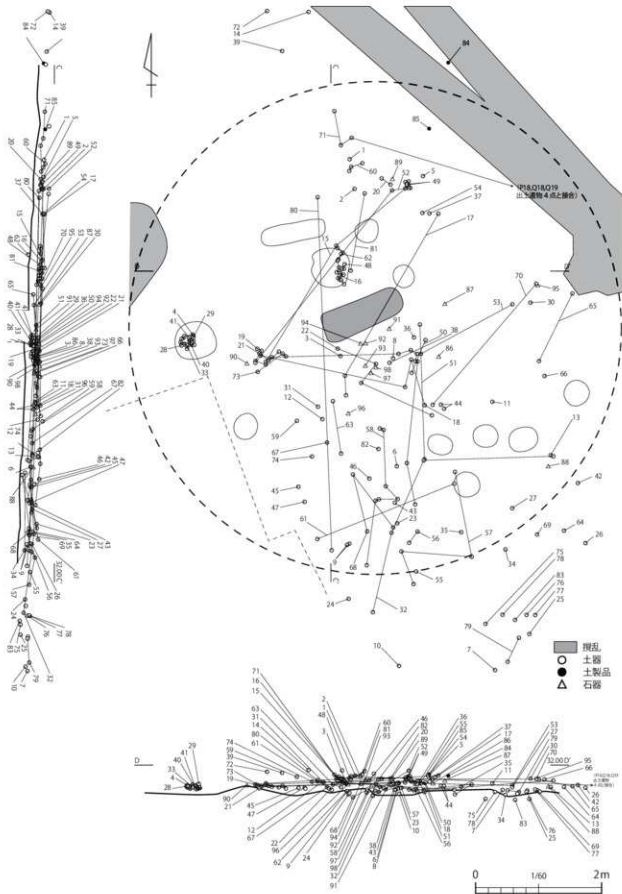
本住居址は、炉址から出土した遺物から、中期後葉の加曾利E3式期に属すると考えられる。



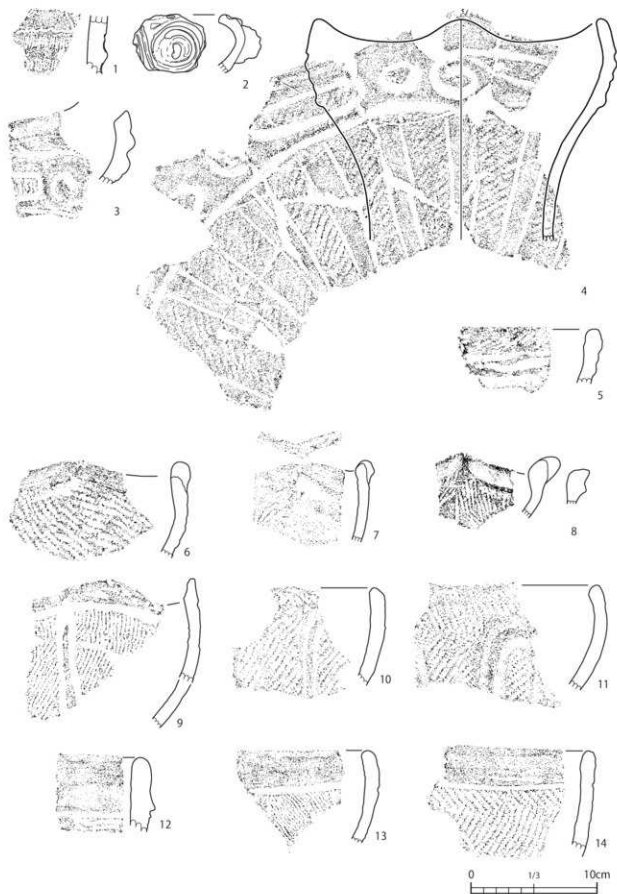
第 55 图 81 号住居址出土遗物分布图 (1/80)



第 56 図 81 号住居址と周辺グリッド出土遺物分布図 (1) (1/60)



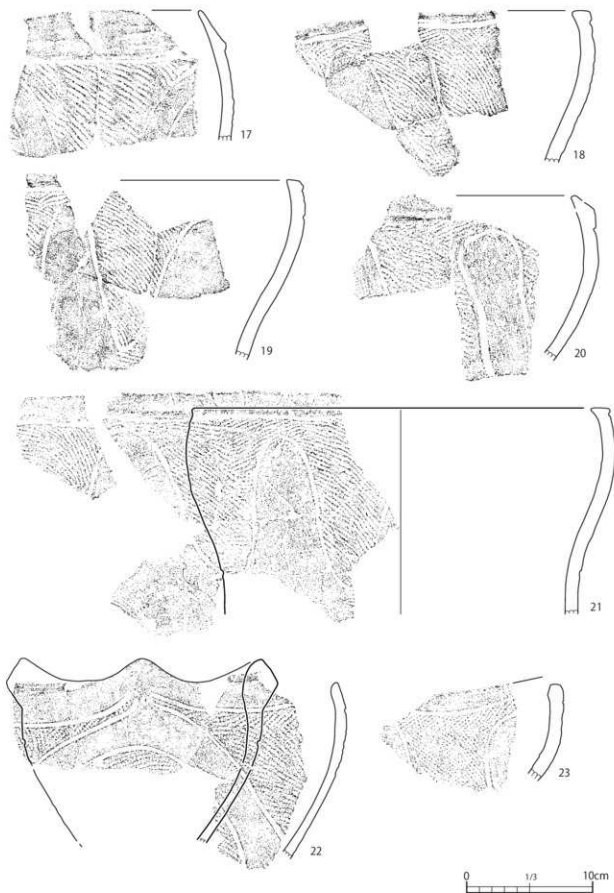
第57図 81号住居址と周辺グリッド出土遺物分布図(2) (1/60)



第58図 81号住居址出土遺物(1)(1/3)



第 59 図 81 号住居址出土遺物 (2) (1/3・1/4)



第60图 81号住居址出土遺物(3)(1/3)

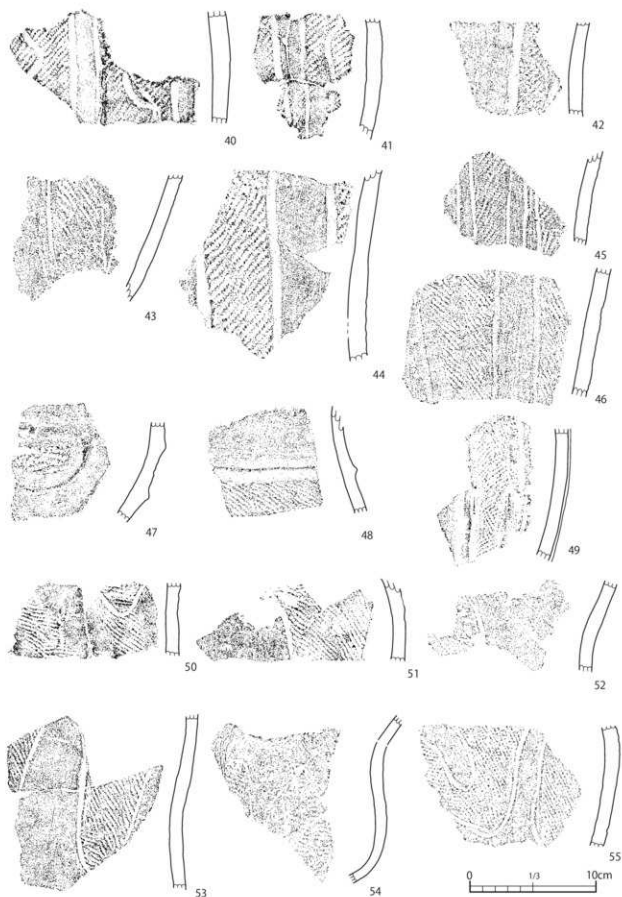


第61図 81号住居址出土遺物(4)(1/3)

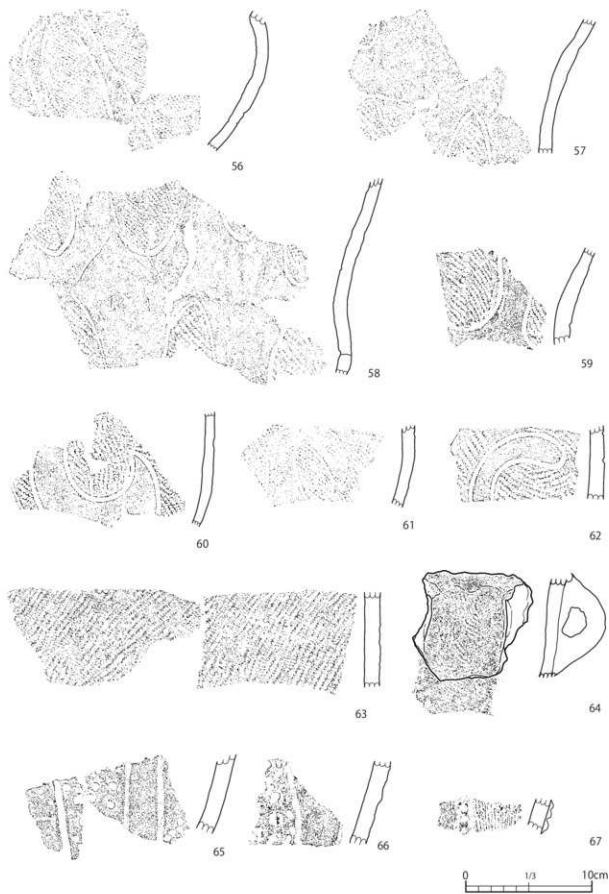
84号住居址(第76～78図、第7・10表、図版12・5～12・8・33)

G16付近に位置する。平面形態は、全周が団地基礎、近現代の工事による削平と埋設管の敷設工事の影響から壊れており不明である。攪乱除去時に埋設土器を検出し、周囲を精査したところ部分的に床面と思われるロームブロックを含む褐色土を検出したため住居址として調査を行った。

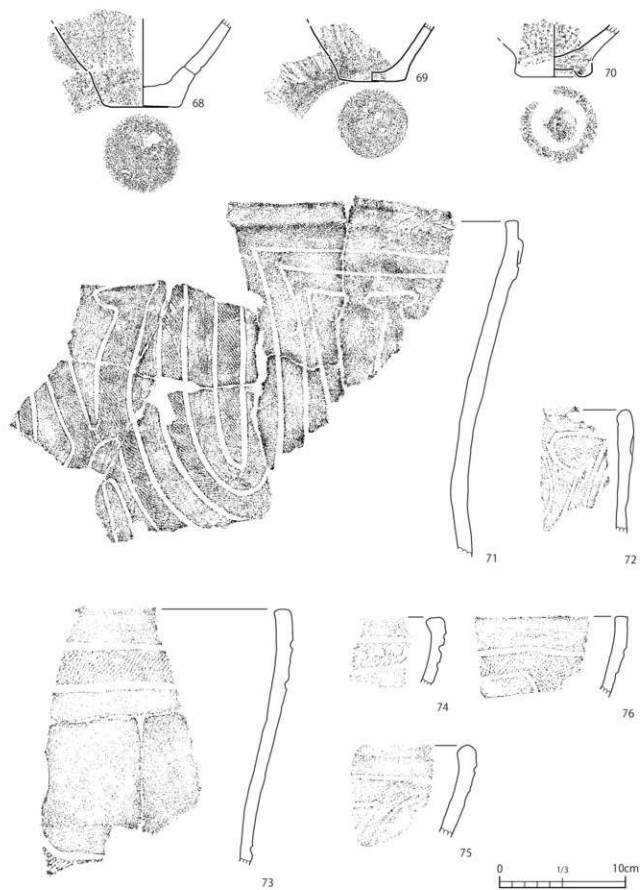
本住居址からは、ピット4基を検出した。その内、1基は埋設土器である。P3は、上川ロームIV層下部と床面から約50cm下位から検出された深く掘り込まれたピットであることから柱穴の可能性がある。P4は、片側を攪乱によって壊され残存状況が悪いが、配置から本住居に関連するピットの



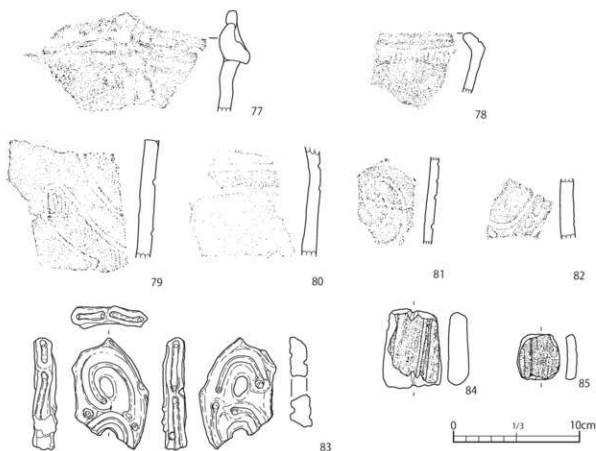
第62図 81号住居址出土遺物(5)(1/3)



第63图 81号住居址出土遗物(6)(1/3)



第64図 81号住居址出土遺物(7)(1/3)



第65図 81号住居址出土遺物(8)(1/3)

可能性がある。

遺物は、P1埋設土器と覆土の1層から出土した、土器27点/1,299.1g、石器5点/2.9g、礫4点/48.7gである。一括で遺物は、土器2点/9.7g、石器4点/0.3gである。その内、土器5点を図化した。

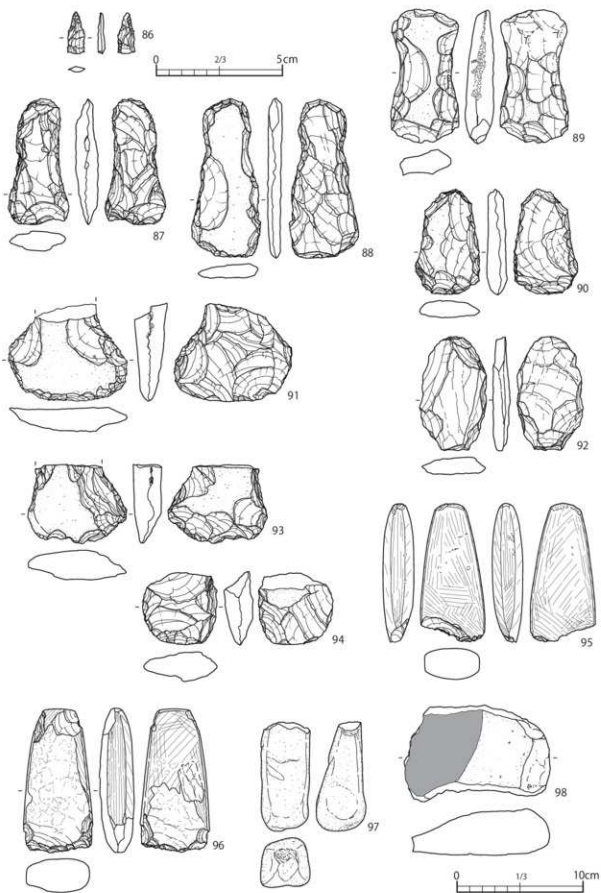
【土器】1は、P1の埋設土器である。地文に燃糸Rが施され、口縁部は太い沈線と隆帯によって区画される。2は口縁部が無文、沈線を挟んで縄文LRが施される。3は円形の隆帯内部に縄文RLが施される。4は縄文RLが施文される口縁部である。5はP1埋設土器内の覆土から出土した土器である。炭化物が付着していたため年代測定を実施した(V章第1節参照)。無文の深鉢胴部である。

本住居址は、埋設土器から、加曾利E1式期に属すると考えられる。

85号住居址(第79～94図、第7・10～11・13表、図版13～14・33～37・43～44)

E16付近に位置する。平面形態は、隅丸方形を呈する。住居址の中央部が、南北に走る中世の濠である2号溝と団地基礎によって壊れている。西側には、3号遺構とした現代の縦坑が位置している。本遺跡において、覆土が残され平面形態が把握できる残存状況が比較的良好な住居址である。北東側で87号住居址に切られる。覆土は、住居址に関係するものは12層確認した。13層と14層は、色調などから2号溝の覆土と考えられる。床面は5層でロームブロックを含む貼床である。

本住居址からは、炉址1基、ピット28基を検出した。炉址は、2号溝の底面で検出された。埋裏



第66図 81号住居址出土遺物(9)(2/3・1/3)

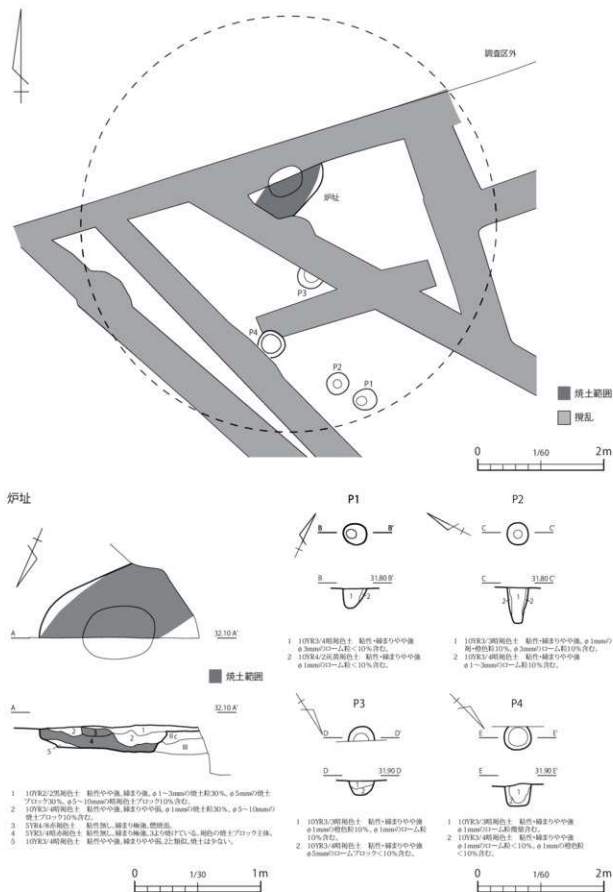
炉であり、大型の曽利Ⅱ式の深鉢が炉体土器として埋設されていた。焼土層は無かったが、炉体土器周辺の覆土に焼土ブロックが含まれていたことから、地床炉を作り直して使用したと推測される。炉体土器の内面には、熱による弾けが認められた。

主柱穴と思われるピットは、P3、P5、P6、P7、P13、P14、P25である。P25は床面より下位から検出されたことから、主柱穴の作り直しがあったと考えられる。主柱穴の内側には、規模がやや小さなピットP4、P19、P23、P26、P28が巡る。これらのピットは床面の下から検出されている。また、主柱穴の外側壁の立ち上がりに沿って小型のピットP1、P2、P8、P10、P11、P12、P16、P17、P20が巡る。以上のことから本住居址は、当初は内側にめぐむピット列を主柱とする住居であったが、後に拡張した住居址だと理解できる。本住居址は、配置から6本柱穴の住居であると思われる。

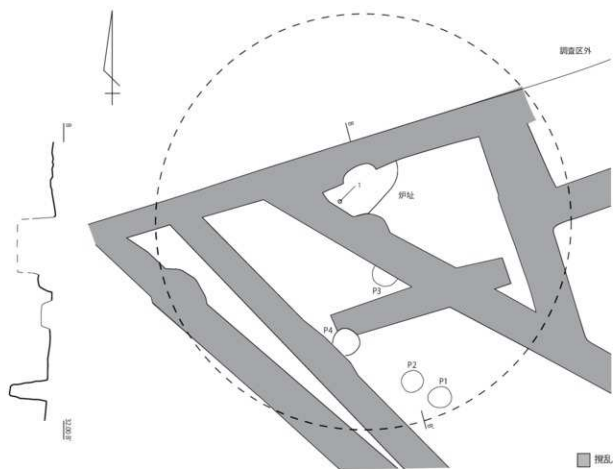
遺物は、点上げて土器604点/31,438.5g、石器138点/8,457.2g、礫99点/7,333.8g、一括で土器617点/5,353g、石器138点/48.3g、礫96点/922.8gの遺物が出土した。その内、土器36点、土製品7点、石器20点を図化した。

【土器】1は半裁竹管腹による2本1組の沈線を格子目状に施文した後、竹管による円形刺突文を施文する。2は口縁部で隆帯脇に複列の押引文が施文される。3は隆線の脇に単列の押引文を施文する。4は口縁部に連続爪形文と縦位の2本1組の沈線を施文する。5は地文が縄文RLで口唇部に連続する刻目と鋸歯状の押引文を施文する。6は波状の沈線と複列の押引文が施文される。7は縄文RLが地文で口唇部に2本1組の沈線が施文される。8は横位の沈線文の間に幅広刺突文による刻目を充填する。9は縦位に沈線を施文した後、刻目を持つ隆帯を貼付する。10は口唇部に刻目を持つ隆帯で円環状の突起を貼付する。11は幅広の無文帯の下位に沈線が施文される。12は地文が無節の縄文Lを施文した後、口縁部を沈線で区画する。13は縄文RLを施文後、背側の隆帯を貼付けする。隆帯には、部分的に綾杉状の刻みや交互刺突を加えている。14は眼鏡状突起を有する口縁部破片である。刻目を持つ隆帯で三角状区画を配し、内部に三叉文を施文する。15は胴部がふくらむ深鉢で頸部から胴部上半を連続刺突による刻目を持つ隆帯で区画し、内部に同じく刻目を持つ隆帯で波状文、沈線による三叉文を施文する。頸部には眼鏡状突起を貼付する。16は深鉢で底部付近を欠損する。口縁部と胴部下半を、刻目を持つ隆帯で区画し、口縁部は縦位の沈線を施文後に隆帯を貼付する。隆帯には交互刺突や刻目を加える。胴部上半には多条の縄文RLを施文する。17は口縁部区画内に交互刺突、胴部は縄文RLと蛇行沈線による懸垂文が施文される。18は炉体土器である。頸部を刻目を持つ隆帯で区画し、口縁部は無文である。胴部は刻目を持つ円文を伴う波状文を施文する。文様間には三叉文、連続刺突文が加えられる。19-1は円筒形の深鉢で、胴部上半を区画し、内部に扁平な隆帯と沈線により曲線文を施文する。19-2は19-1と同一個体の底部破片である。

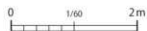
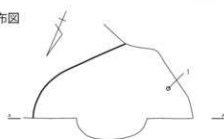
20は隆帯による楕円形区画内に角押文を施文する。21は隆帯の上下に押引文が施文される。22は、いわゆる蓮華文を施文する。23は縄文RLを施文した後、刻目を持つ隆帯で三角状に区画し内側に短沈線を充填する。24は刻目をもつ隆帯と斜行する沈線が施文される。25は刺突を加えた隆帯を貼付けし、細い棒状工具による刺突文を施文する。26は燃系Lを施文した後、頸部と胴部に細い隆帯を貼付する。27は刻目をもつ隆帯で渦文状の文様を施文する。28と29は、縄文LRが施された胴部破片である。30は、条線が地文である。31は縄文LRが施され、底面は磨かれている。32は縄文RLが施される。



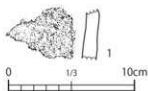
第 67 図 82 号住居址 (1/60)・炉址 (1/30)・ピット (1/60)



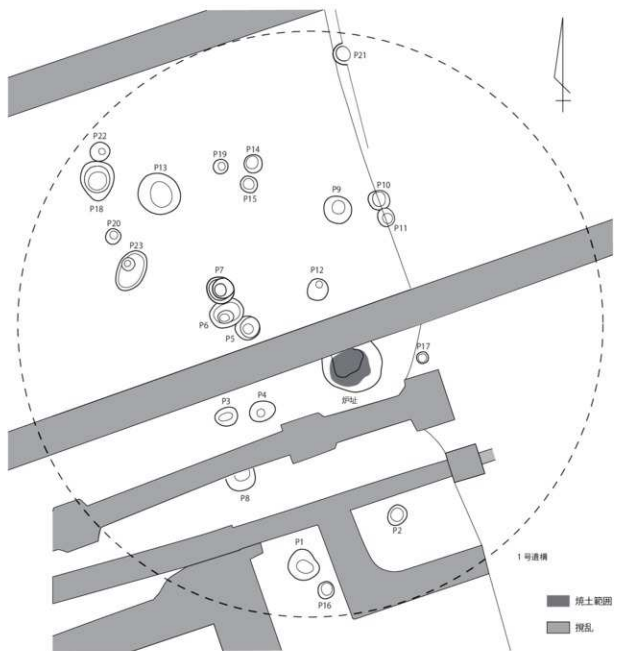
遺物分布図



第 68 図 82 号住居址エレベーション (1/60)・遺物分布図 (1/30)



第 69 図 82 号住居址出土遺物 (1/3)



炉址



● 焼土範囲

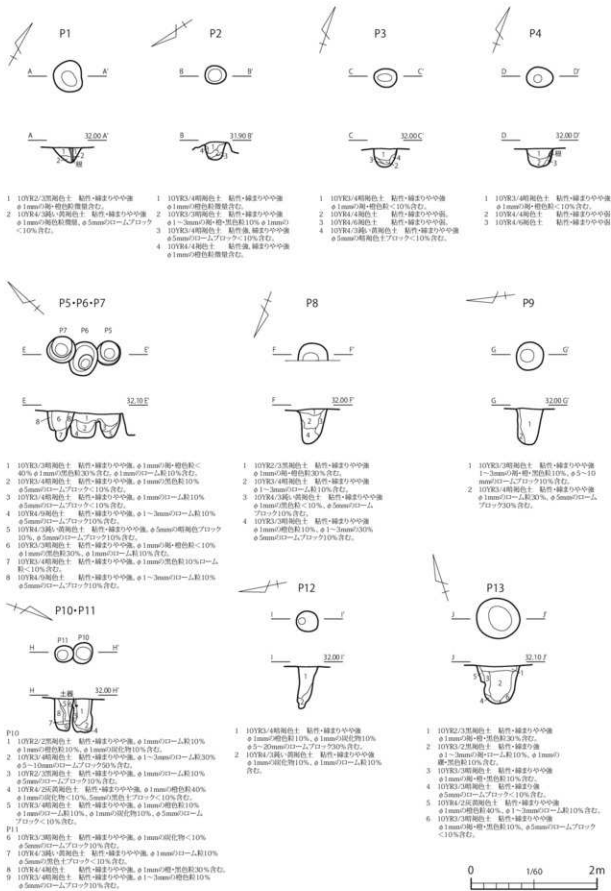


- 1 109E2/2黒褐色土 粘性中～強、細砂り中～強、 $\phi 1\sim 2\text{mm}$ の焼土粒30%、 $\phi 5\sim 50\text{mm}$ の焼土ブロック10%、 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物・ $\text{C}\sim 2$ 粒10%含む。
- 2 109E2/2黒褐色土 粘性中～強、細砂り中～強、 $\phi 1\sim 2\text{mm}$ の焼土粒10%、 $\phi 5\text{mm}$ の焼土ブロック10%、 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物<10%含む。
- 3 7.59E1/5黄褐色土 粘性中～弱、細砂り強、 $\phi 1\sim 2\text{mm}$ の焼土粒30%、 $\phi 5\sim 30\text{mm}$ の焼土ブロック50%含む。
- 4 7.59E4/4黄褐色土 粘性中～強、細砂り強、 $\phi 1\sim 2\text{mm}$ の焼土粒30%、 $\phi 10\sim 30\text{mm}$ の焼土ブロック50%含む。
- 5 7.59E1/5黄褐色土 粘性中～強、細砂り強、焼土の塊、焼土上、 $\text{C}\sim 1$ 、 $\text{C}\sim 2$ 。
- 6 7.59E1/5黄褐色土 粘性中～強、細砂り中～強、 $\text{C}\sim 2$ の上焼土ブロックを少量含む。

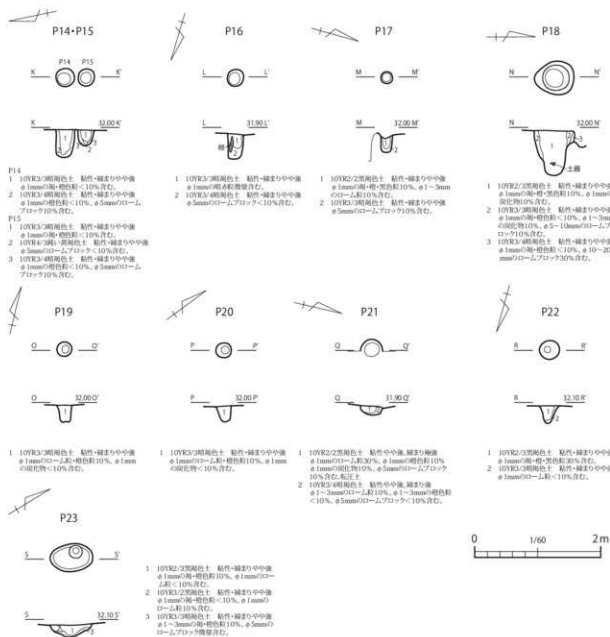
0 1/60 2m

0 1/30 1m

第70図 83号住居址(1/60)・炉址(1/30)



第 71 図 83 号住居址ピット (1) (1/60)

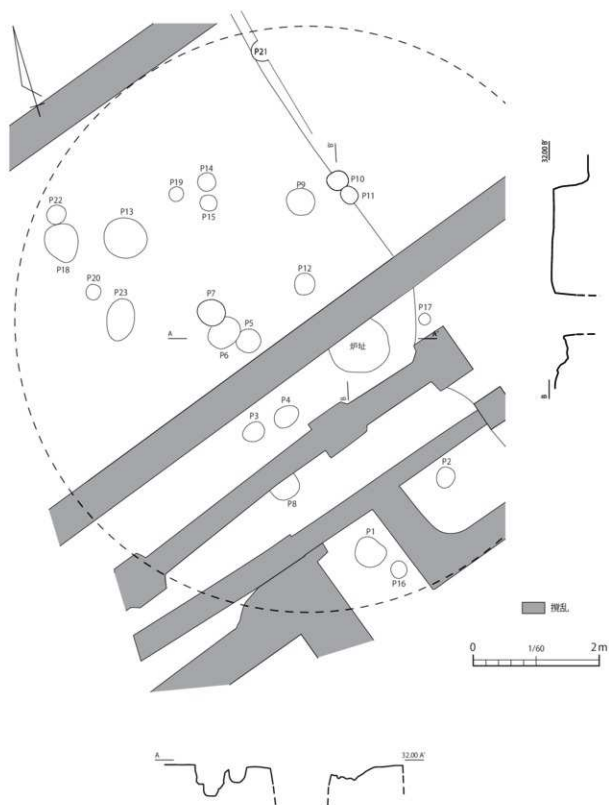


第72図 83号住居址ピット(2)(1/60)

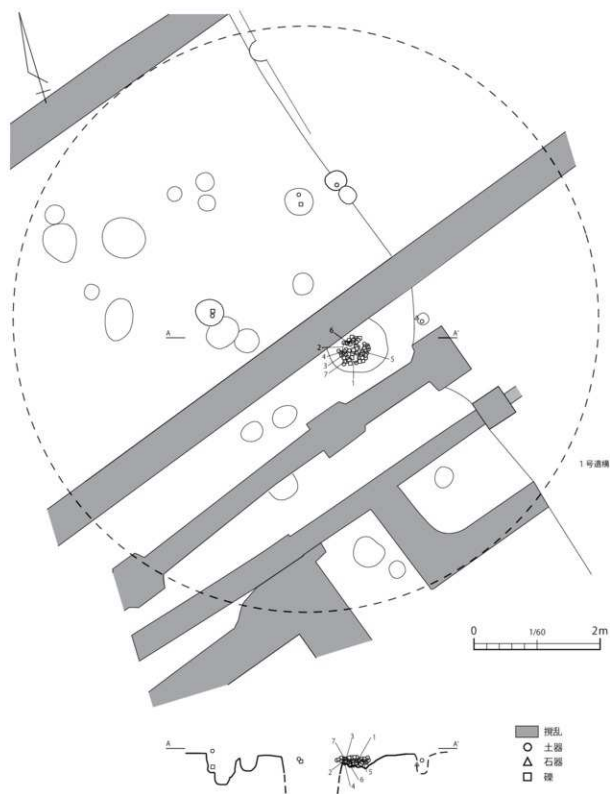
33~37は浅鉢である。33は完形、34~37は底部を欠損する。37は表面が丁寧に磨かれ黒色を呈し、内外面に明瞭な赤彩が残る。

【土製品】38~41は円盤である。42~44は土器片錘である。上下両端に明瞭な摩耗痕が残されている。いずれも中期中葉から後葉にかけての深鉢の破片を素材とした土製品である。

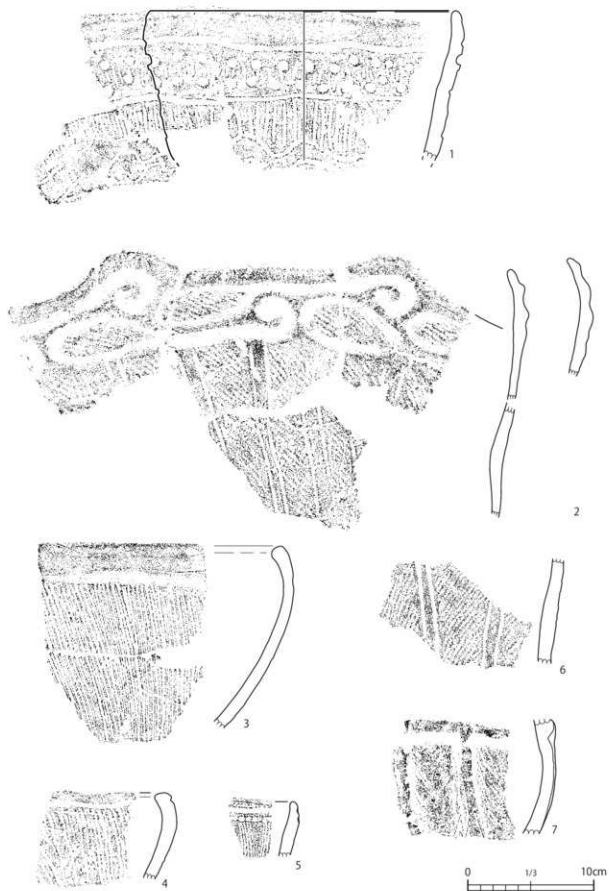
【石器】45~49は、石鏃である。45はチャート製、46~49は黒曜石製である。その内、47と49に産地推定分析を実施し、神津島の結果が得られた(V章第3節参照)。50は、錐形石器である。黒曜石の剥片の先端部に二次加工を施している。51~58は、打製石斧である。51~56は、短冊形である。51、52は完形、53と56は刃部欠損、54と55は基部を欠損する。57、58は撚形である。57は完形、58は刃部を欠損する。59は、局部磨製石斧である。形態は短冊形で、刃部に研磨が施



第73図 83号住居址エレベーション (1/60)



第74図 83号住居址遺物分布図(1/60)



第75图 83号住居址出土遗物(1/3)

されている。刃部の先端と基部側が潰れていることから、使用時の破損が認められる。60は、磨製石斧である。乳棒状を呈し、基部側を欠損する。61は、二次加工剥片である。横長剥片を素材として、剥片の打面側に二次加工が施され、先端側には加工は見られない。刃器のように用いられた石器と思われる。62、63は敲石・磨石である。64は、石皿である。本住居址の南東側の壁に接して出土した両面に凹状の窪みが残される。

本住居址は、床面から出土した土器と炉址の炉体土器から、勝坂3式期に属すると考えられる。

86号住居址（第95～101図、第7・10・13表、図版15・37～38・44）

F18付近に位置する。平面形態は、円形を呈する。住居址の中央部と南側に団地基礎が位置し、西側を下水の本管が敷設されていた影響で大きく壊れている。本遺跡において、覆土が残存し平面形態が把握できる残存状況が比較的良好な住居址である。

覆土は、住居址に関係するものは17層確認した。覆土の上層は、近世と思われる畝痕が残されており、大きく攪乱を受けている可能性が高い。a層とb層は、近世の畝痕の覆土である。2層と5層も攪乱を受けている可能性が高い。床面近くから出土した炭化材を試料として年代測定を実施し、近世の年代が得られている（V章第1節参照）ことから部分的には床面近くまで攪乱が及んでいると思われる。明確な床面は7層でロームブロックを含む貼床である。16層は床面直下の層として捉えた。

本住居址からは、ピット11基と土坑1基、壁溝と思われる溝を2条検出した。主柱穴と思われるピットは、P1、P2、P3、P5、P6、P7、P8である。P6は2本の柱穴が切り合っており、P8と切り合っていることから3本の柱が切り合っていることになる。また、壁溝が2条走ることから最低でも2回の建替が有ったことが示唆される。土坑は建物基礎に挟まれ残存状況はあまり良くなかったが住居の南側に配置されている。本住居址は、配置から4本柱穴の住居であると思われる。

遺物は、床面近くでまとまって出土した。覆土内から、点上げて土器156点/6,582.9g、石器52点/79.2g、礫36点/1,734.2g、一括で土器252点/1,277.2g、石器41点/16.6g、礫73点/877gの遺物が出土した。その内、土器14点、石器1点を図化した。

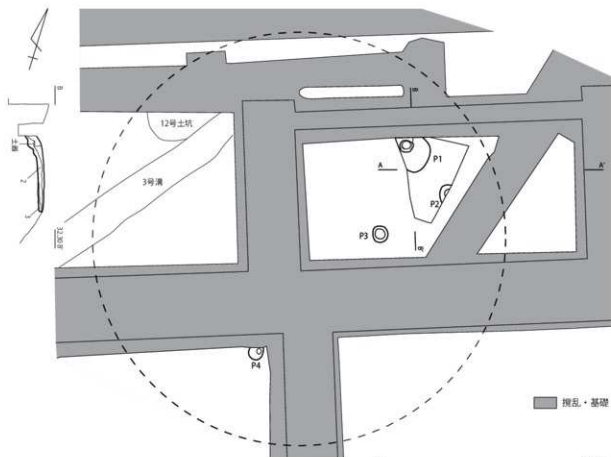
【土器】1は地文縄文RLを施した後、口唇部に連続爪形文、その下に波状沈線を施文する。2は、円筒形深鉢の口縁部で、隆帯による楕円形区画内に沈線を充填する。3は鎖状の隆帯の脇に連続する刻目、ペン先状工具による刺突が施される。区画内には三叉文が施文される。4は隆帯の脇にいわゆる蓮華文が施文される。5は刻目を持つ隆帯を貼付する口縁部破片である。6は刻目を持つ隆帯脇に沈線が施文される。7は床面付近から出土した底部を欠損する深鉢である。燃糸Lを地文として2本1組の隆帯で、口縁部には横S字状の文様、胴部に蕨手状の懸垂文が描かれる。頸部は無文帯となる。8は燃糸Lを地文として、2本1組の隆帯で文様が描かれる。9は条線、10は燃糸Rが施文される。10は表面に被熱によると思われる弾けが観察された。11は浅鉢の口縁部である。12は表面が黒く薄手に作られた鉢の底部である。13は口縁部を欠く浅鉢である。

【石器】14は、黒曜石製の石鏃である。基部をわずかに欠損する。産地推定分析を実施し、神津島の結果が得られた（V章第3節参照）。

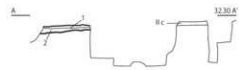
本住居址は、床面から出土した土器から、中期後葉の加曾利E1式期に属すると考えられる。

87号住居址（第102～114図、第7・10～11・13表、図版16～17・38～41・44～46）

E15付近に位置する。平面形態は、円形を呈する。住居址の北側と東側は、調査範囲外に続く。本



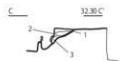
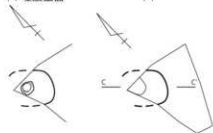
- BB
- 1 10YR2/3黒褐色土 黏性やや強、締まりやや強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム土粒30%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック<10%含む。
 - 2 10YR2/2黒褐色土 黏性やや強、締まり強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の褐色粒<10%、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
 - 3 10YR3/4暗褐色土 黏性やや強、締まりやや強、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック<10%含む。



- AA'
- DC
- 1 10YR3/4暗褐色土 黏性やや強、締まり有り、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒10%含む、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム土粒30%含む。
 - 2 10YR2/2黒褐色土 黏性やや強、締まり強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の褐色粒<10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック<10%含む。
 - 3 10YR2/3黒褐色土 黏性やや強、締まりやや強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の褐色粒10%含む、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック50%含む。

ピット

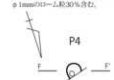
P1 埋設土器



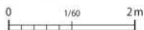
- 1 10YR3/4暗褐色土 黏性やや強、締まり強、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒30%、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒10%含む。
- 2 10YR3/4暗褐色土 黏性やや強、締まり強、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒が少なく、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ の褐色粒<10%含む。
- 3 10YR4/1暗褐色土 黏性やや強、締まり強、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック10%含む。



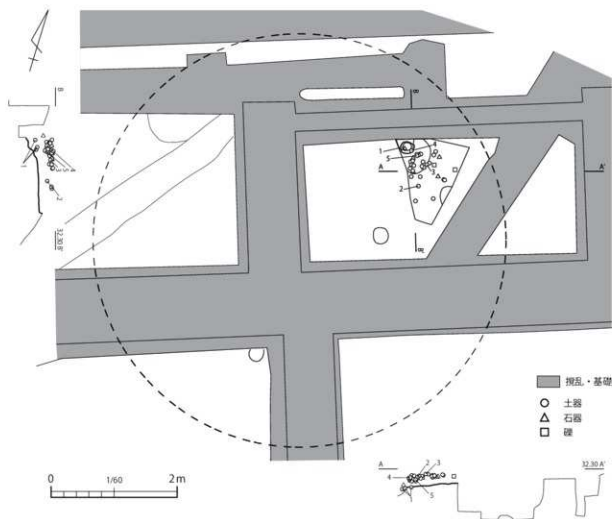
- 1 10YR2/3黒褐色土 黏性やや有り、締まりやや有り、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム土粒30%含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 黏性やや有り、締まりやや有り、 $\phi 1\text{mm}$ のローム土粒30%含む。



- 1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まりやや強、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒30%、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒10%含む。
- 2 10YR3/3暗褐色土 黏性・締まりやや強、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒<10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
- 3 10YR4/4暗褐色土 黏性・締まりやや強、 $\phi 5\text{mm}$ の褐色土ブロック<10%、 $\phi 1\text{mm}$ のロームブロック主。
- 4 10YR2/4暗褐色土 黏性・締まりやや強、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒<10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック30%含む。



第76図 84号住居址埋設土器・ピット (1/60)



第 77 図 84 号住居址出土遺物分布図 (1/60)

遺跡において、攪乱の影響を受けずに覆土が残存し平面形態が把握できる最も良好な住居址である。

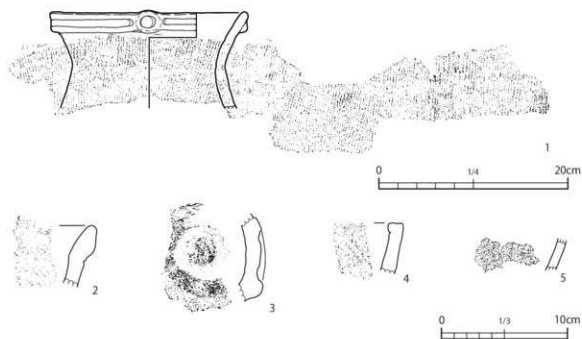
覆土は、住居址に関係するものは 11 層確認した。床面は 11 層でロームブロックを含む貼床である。

本住居址からは、炉址 3 基、ピット 18 基（内 2 基は埋設土器）、壁溝と思われる溝を 2 条検出した。2 回以上の建替があったと思われる。炉址 1 は、石囲炉である。焼土が厚く堆積していることから長期間使用されたことが推測される。囲いに用いられた石の多くは、破損した石皿や打製石斧など石器の転用品であった。炉址 2 と炉址 3 は、床面の 11 層より下層で検出された。焼土層は炉址 1 より薄く堆積する。古い住居址の炉址と思われる。主柱穴と思われるピットは、P3、P4、P5、P8、P9、P10、P11、P14、P16、P17、P18 である。P1 と P7 は埋設土器を伴う。壁溝と柱穴の配置から以下のようにまとめられる。

旧住居【炉址 2、炉址 3、柱穴《P4、P5、P9、P10、P16、P17、P18》】

新住居【炉址 1、埋設土器《P1、P7》、柱穴《P3、P8、P11、P14》】

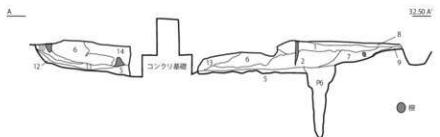
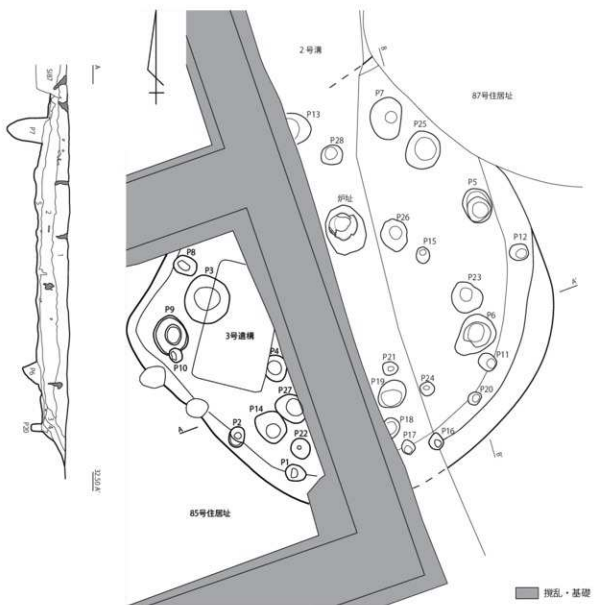
遺物は、覆土内の全ての層から出土が見られた。また、遺構内からも埋設土器を含めて遺物が出土している。覆土内から、点上げて土器・土製品 972 点 / 39,327g、石器 137 点 / 21,594.4g、礫 212



第78図 84号住居址出土遺物 (1/4・1/3)

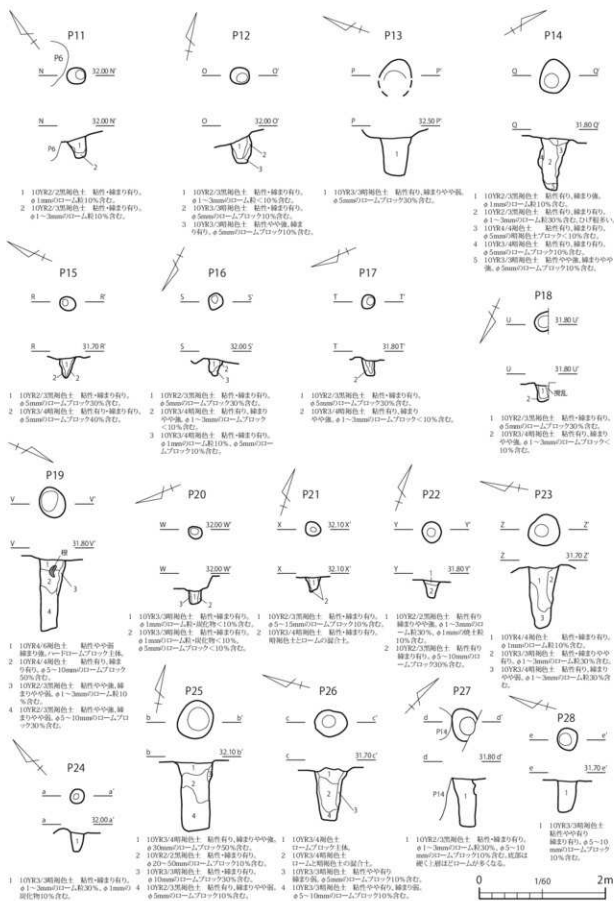
点/26,457.9 g、一括で土器・土製品 1,230 点/13,081g、石器 129 点/93.8g、礫 106 点/2,175.6 g の遺物が出土した。その内、土器 68 点、土製品 3 点、石器 20 点を図化した。

【土器】 1 は楕円形区画の隆帯脇に押引文、区画内に波状沈線を施文する。2 は口縁部の隆帯上に連続爪形文による刻みが施文される。3 は沈線で渦巻文、三叉文を施文する。4 は口縁部を沈線で区画し、その下に集合沈線を施文する。5 は楕円形区画の隆帯脇に押引文を施文する。6 はいわゆる蓮華文が施文される。7 は稜杉状の刺突を加えた隆帯による区画内に三叉文が描かれる。8 は縄文 RL を地文として、2 本 1 組の隆帯と貼付する。9 は隆帯による立体的な突起が付される口縁部破片である。10 は 2 本 1 組の隆帯を貼付し、丁寧なナデを加える。11 は 2 本 1 組の隆帯を貼付する。12・17～19 は縄文 RL を地文として、隆帯で口縁部を区画し、蕨手状の文様を施文する。13 は隆帯と沈線による横位の区画内に縦方向の条線を施文する。14 は沈線と隆帯によって横方向の区画を行い内部に沈線を充填する。沈線間には斜行する細い沈線が施される。15 は縄文 RL を地文として、沈線で懸垂文が描かれる。16 は縄文 RL を地文として、細い粘土紐で蕨手状の文様を施文する。20 は P7 で出土した埋設土器である。縄文 RL を施文した後、口縁部は 2 本 1 組の隆帯で区画および蕨手状の文様を施文し、胴部は半裁竹管による 2 本 1 組の沈線で懸垂文を施文する。21～23 は縄文 LR を地文として、低い隆帯と沈線により口縁部を区画する。24・26・27 は櫛歯状条線を地文とし、3 本 1 組の沈線で連弧文が描かれる。26 と 27 は口縁部に円形刺突が施される。25 は条線を地文とし 2 本 1 組の沈線で大きな波状文を施文する。口唇部には円形刺突を施文する。28 は縄文 LR を地文として、2 本 1 組で連弧文が描かれる。口縁部には交互刺突が加えられる。29・30 は燃糸 L を地文として、3 本 1 組の沈線で連弧文が描かれる。31 は条線を地文として、条線と格子状に交差する粘土紐を張り付ける。いわゆる籠目文である。32・33・35～37 は口縁部に沈線により斜行文、重弧文が描かれる。33・35・36 は口唇部が折り返し状となり、内面にも施文が及ぶ。34 は口縁部に斜

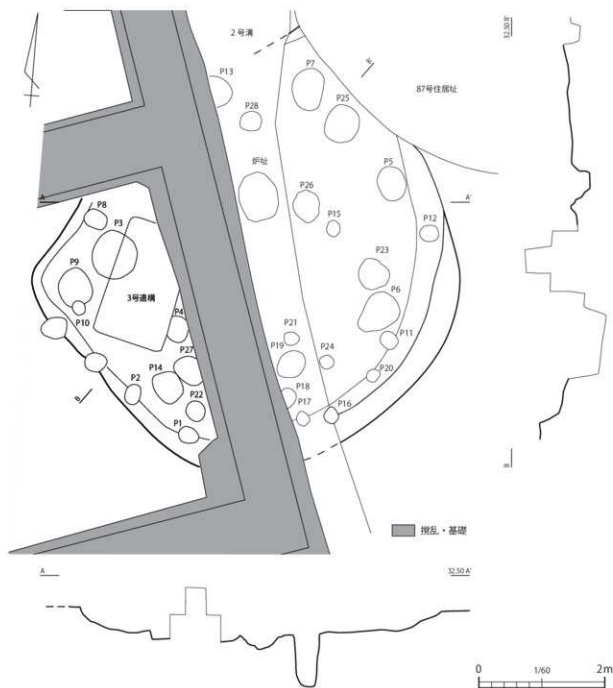


- 1 10YK2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、φ1-3mmの石-土粒-炭化物30%、φ1mmの硝子粒30%含む。
- 2 10YK2/3黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、φ1-3mmの石-土粒-炭化物30%、φ5mmの石-土粒-炭化物10%含む。
- 3 10YK2/4黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、φ1mmの石-土粒-炭化物10%、φ5mmの石-土粒-炭化物<10%含む。
- 4 10YK4/2白土 粘性有り、締まり有り、φ5mmの石-土粒-炭化物10%含む。
- 5 10YK2/5黒褐色土 粘性有り、締まり強、φ5-30mmの石-土粒-炭化物50%含む。
- 6 10YK2/6黒褐色土 粘性やや有り、締まりやや強、φ1-3mmの石-土粒30-50%、φ1mmの硝子粒30%含む。
- 7 10YK3/7黒褐色土 粘性有り、締まりやや強、φ1mmの炭化物<10%、φ1-3mmの石-土粒10%含む。
- 8 10YK2/8黒褐色土 1層に類似するがやや粗粒。
- 9 10YK4/2白土 粘性土、粘性やや強、締まり有り、φ1mmの硝子粒<10%含む。
- 10 10YK2/9黒褐色土 粘性有り、締まり有り、φ1-3mmの石-土粒10%含む。
- 11 10YK2/10黒褐色土 粘性やや強、締まり有り、φ1mmの石-土粒<10%含む。
- 12 10YK4/2白土 粘性土、粘性やや強、締まり有り、φ1-3mmの石-土粒30%含む。
- 13 10YK2/11黒土 粘性弱、締まり弱、φ5mmの石-土粒10%含む。
- 14 10YK2/12黒土 粘性弱、締まり弱、φ1-3mmの石-土粒10%含む。

第79図 85号住居址 (1/60)



第81図 85号住居址ピット(2)(1/60)



第 82 図 85 号住居址掘方・エレベーション (1/60)

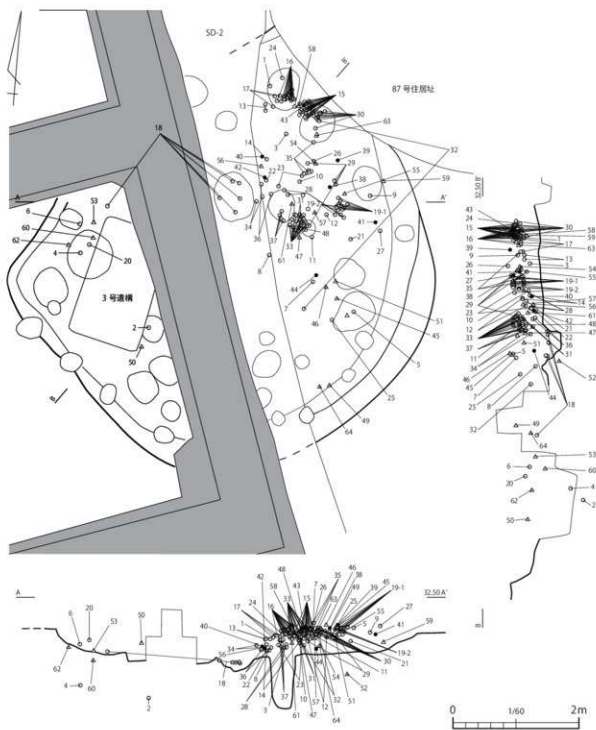
行する縄文 RL を施文する。口唇部内面にも施文が及ぶ。38 は P1 から出土した埋設土器である。口縁部は無文で、頸部に刺突を加えた隆帯を横位に巡らせて区画する。胴部は縄文 RL を施文した後、沈線で懸垂文を施文する。39 は炉址 1 の直上から出土した。縄文 RL を地文として、2 本 1 組の沈線の内部に円形刺突を加え、口縁部と頸部にそれぞれ横位に施文する。口縁部から胴部にかけて大きく歪んだ土器である。40～45 は無文の口縁部破片である。44 以外は、浅鉢の口縁部の可能性がある。40 には内面の一部に赤彩が明瞭に残る。42 と 43 にも表面にわずかだが赤彩が施されていた痕跡が



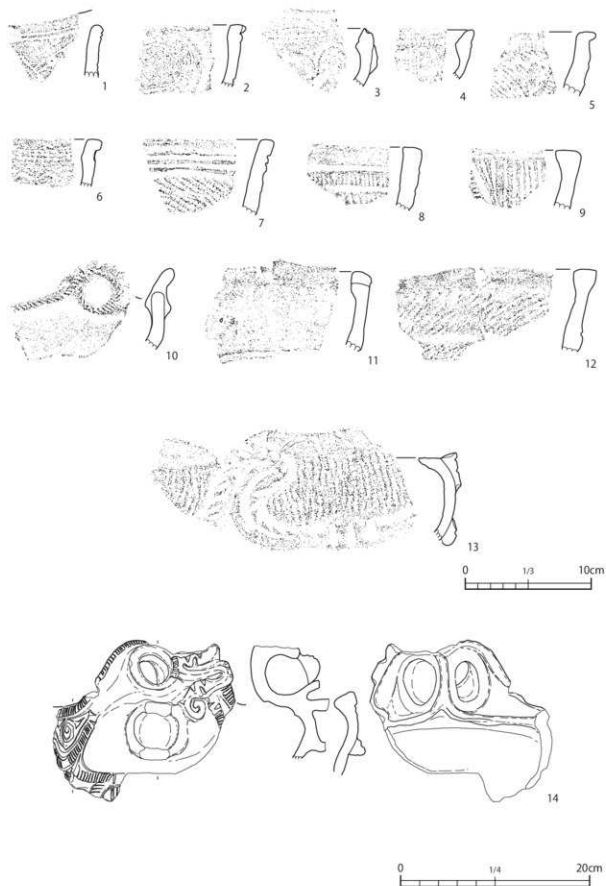
第83図 85号住居址出土遺物分布図(1) (1/60)

観察された。

46から63は深鉢の胴部破片である。46は頸部に隆帯による区画、胴部に懸垂文を施文する。47・50は条線、49は燃糸L、51～53は縄文RLを地文とし、沈線で頸部区画および胴部の懸垂文を施文する。54は沈線と隆帯で文様が描かれる。48は縄文RLに隆帯による懸垂文が施される。56は縄文LRを地文として、3本1組の沈線で渦巻き状の文様が描かれる。57は燃糸Lに沈線で連弧



第 84 图 85 号住居址出土遺物分布图 (2) (1/60)



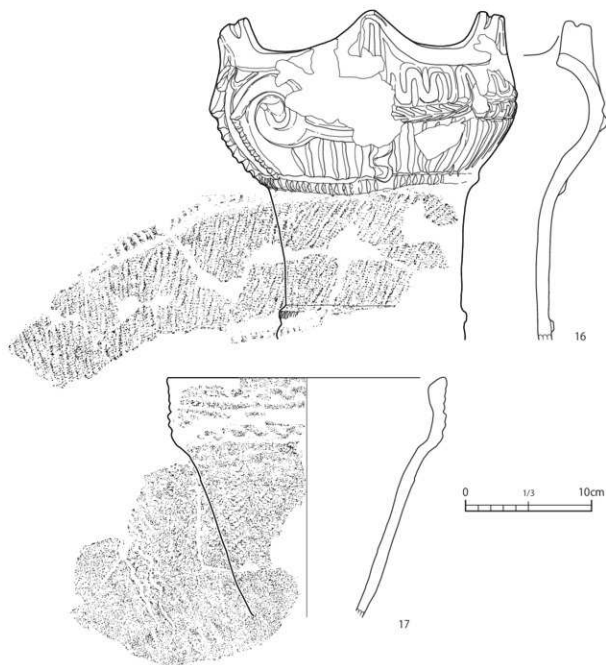
第 85 図 85 号住居址出土遺物 (1) (1/3・1/4)



15



第 86 图 85 号住居址出土遗物 (2) (1/3)

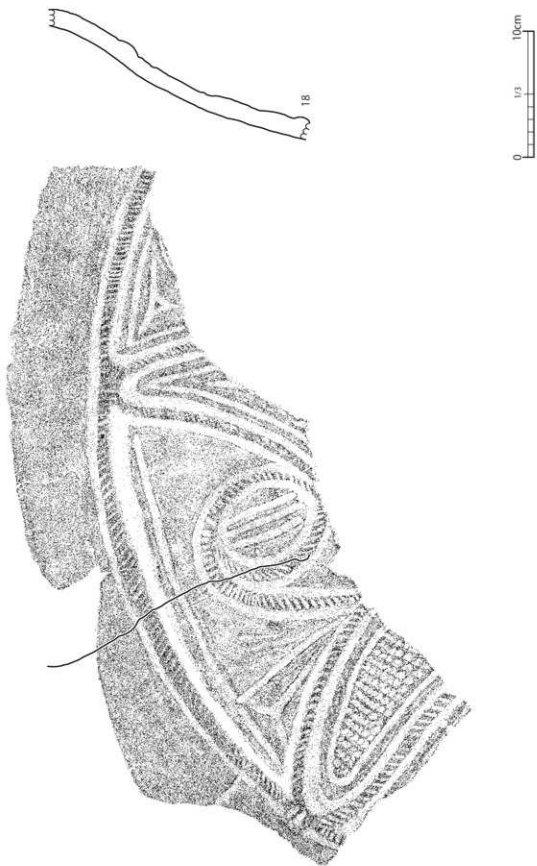


第 87 図 85 号住居址出土遺物 (3) (1/3)

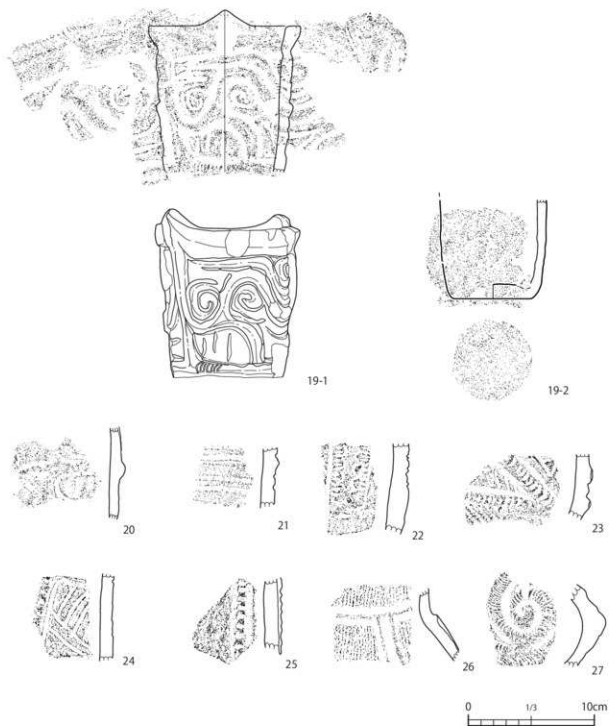
文が描かれる。58 は条線を地文とし頸部に横位の沈線を施し波状の粘土紐を貼付する。59 は縄文 RL を地文として、粘土紐を貼りつける。60 は縄文 RL に隆帯による懸垂文が施される。61 は縦位の沈線で区画された間に、綾杉状の沈線を施文する。62 は隆帯による区画内に沈線を充填し、2 本 1 組の沈線で弧状の文様を施文する。63 は縄文 RL を地文とし刺突を加えた隆帯が貼付される。

64・65 は底部で、65 は沈線間に縦位の逆ハの字状の沈線を施文する。64 は底部に網代痕が残る。

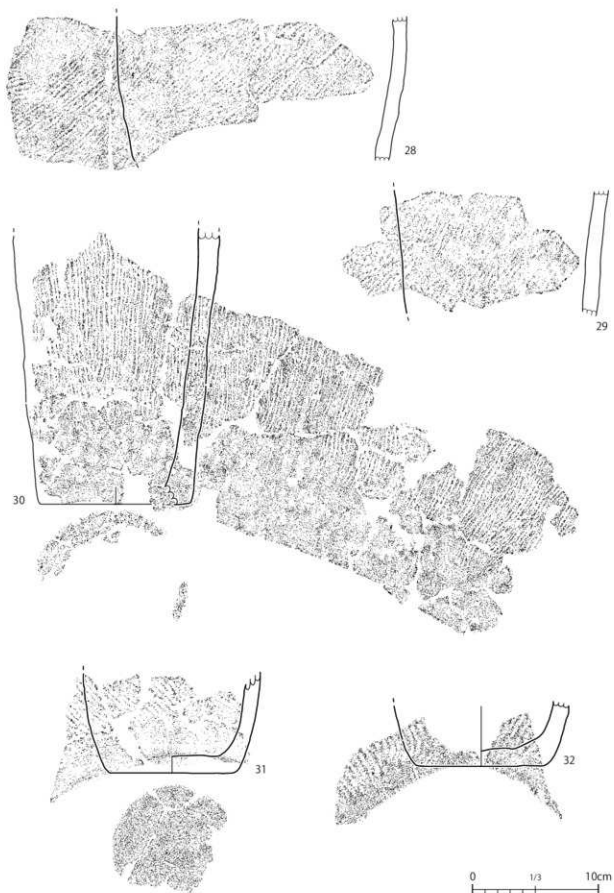
66 は有孔鈔付土器である。鈔部に 2 組の穿孔痕が等間隔で並んでいる。67 は沈線による带状区画の内側に縄文 RL を充填する。



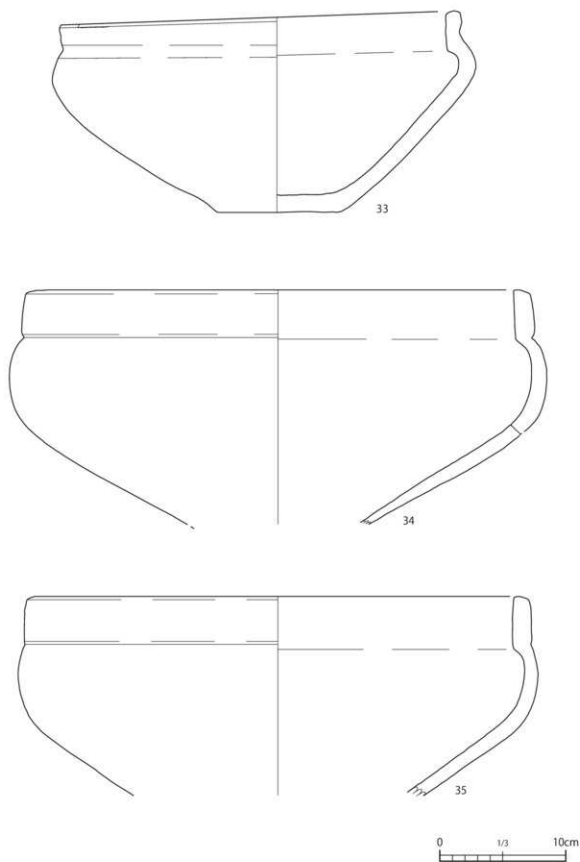
第88图 85号住居址出土遗物(4)(1/3)



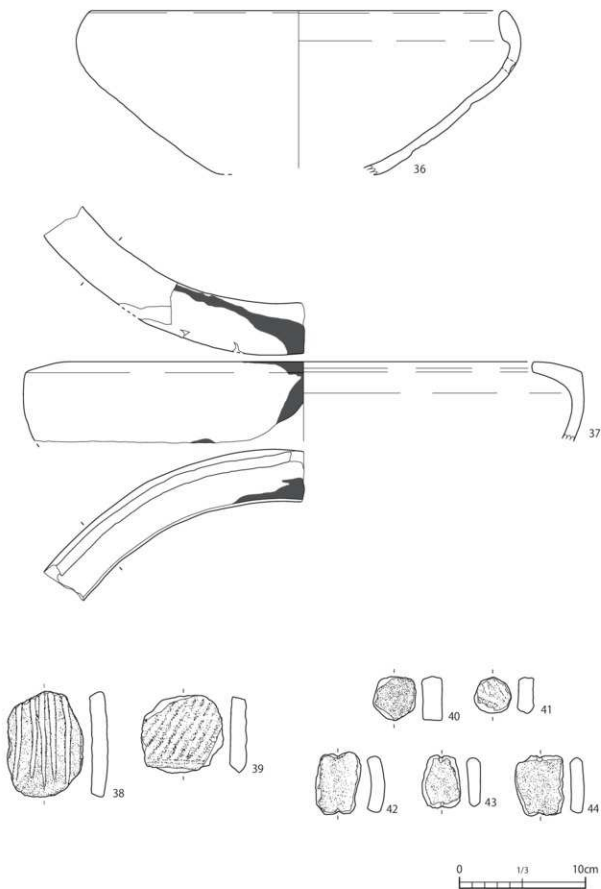
第 89 図 85 号住居址出土遺物 (5) (1/3)



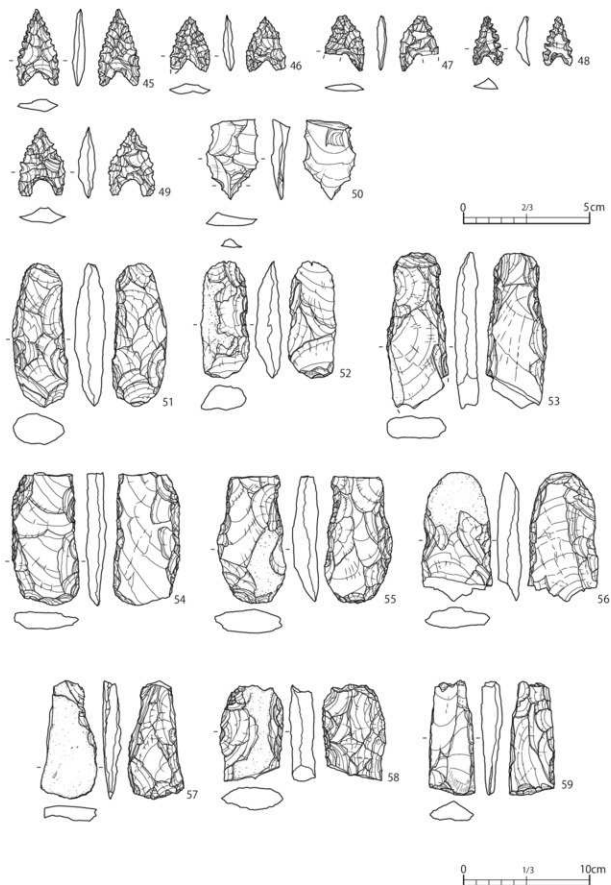
第90图 85号住居址出土遗物(6)(1/3)



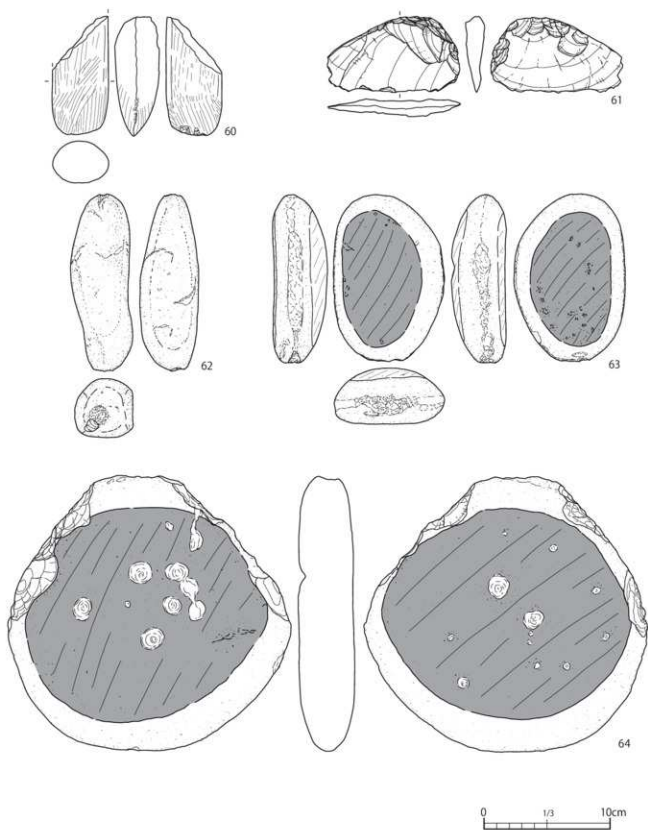
第91図 85号住居址出土遺物(7)(1/3)



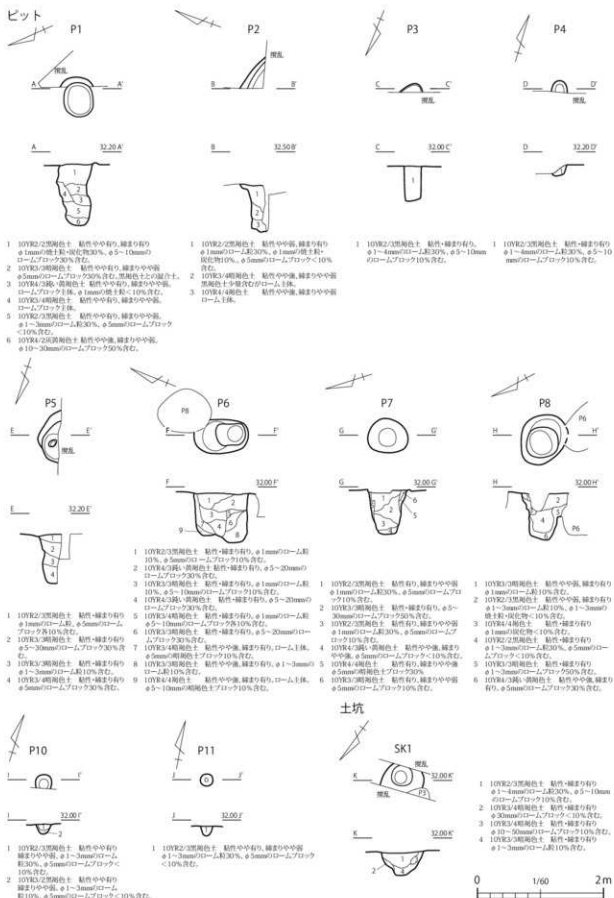
第92图 85号住居址出土遗物(8)(1/3)



第93図 85号住居址出土遺物(9)(2/3・1/3)



第 94 图 85 号住居址出土遺物 (10) (1/3)



- 1 10YR2/3黒褐色土 粘質やや中硬、締まり有り
φ1mmのローム土30%含む、φ5-10mmの
ロームブロック20%含む。
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘質やや中硬、締まり有り
φ5mmのロームブロック20%含む、黒褐色土との混合土。
- 3 10YR4/2緑・黄褐色土 粘質やや中硬、締まりやや弱。
ロームブロック主体、φ1mmのローム土<10%含む。
- 4 10YR3/4暗褐色土 粘質やや中硬、締まりやや弱。
ロームブロック主体。
- 5 10YR2/3黒褐色土 粘質やや中硬、締まりやや弱。
φ1-3mmのローム土30%、φ5mmのロームブロック
<10%含む。
- 6 10YR4/2緑・黄褐色土 粘質やや中硬、締まりやや弱。
φ10-30mmのロームブロック50%含む。

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘質やや中硬、締まり有り
φ1mmのローム土30%、φ1mmのローム土10%
炭化物10%、φ5mmのロームブロック<10%
含む。
- 2 10YR4/4暗褐色土 粘質やや中硬、締まりやや弱
黒褐色土少量含むローム主体。
- 3 10YR4/4暗褐色土 粘質やや中硬、締まりやや弱
ローム主体。

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり有り、
φ1-4mmのローム土30%、φ5-10mm
のロームブロック10%含む。

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり有り
φ1-4mmのローム土30%、φ5-10
mmのロームブロック10%含む。

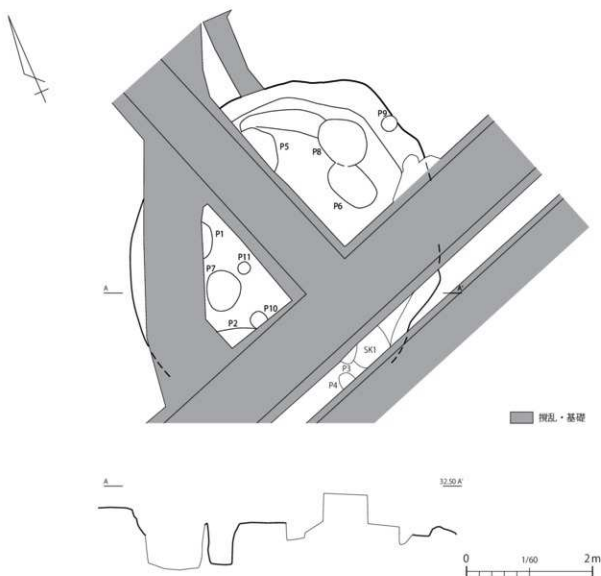
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり有り、
φ1mmのローム土、φ5mmのローム
ブロック10%含む。
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まり有り
φ5-30mmのロームブロック30%含む。
- 3 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まり有り
φ1-3mmのローム土10%含む。
- 4 10YR4/2緑・黄褐色土 粘質・締まり有り
φ5-10mmのロームブロック10%含む。

- 1 10YR3/4暗褐色土 粘質・締まり有り、
φ1mmのローム土
φ5-10mmのロームブロック10%含む。
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まり有り、
φ5-20mmのロ
ームブロック10%含む。
- 3 10YR3/4暗褐色土 粘質・締まり有り、
ローム主体、
φ5mmのロームブロック10%含む。
- 4 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まり有り、
φ1-3mmのロ
ーム土10%含む。
- 5 10YR4/4褐色土 粘質・締まり有り、
φ5-10mmの暗褐色土ブロック10%含む。

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘質有り、締まりやや中硬
φ1mmのローム土30%、φ5mmのロームブ
ロック10%含む。
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まり有り、
φ5-
30mmのロームブロック50%含む。
- 3 10YR2/3黒褐色土 粘質有り、締まりやや中硬
φ1mmのローム土30%、φ5mmのロームブ
ロック10%含む。
- 4 10YR4/2緑・黄褐色土 粘質・締まりやや中硬、
締まりやや弱、締まり
やや弱、φ5mmのロームブロック<10%含む。
- 5 10YR4/4暗褐色土 粘質有り、締まりやや中硬
φ5mmの暗褐色土ブロック20%
含む。
- 6 10YR3/3暗褐色土 粘質有り、締まりやや中硬
φ5mmのロームブロック10%含む。

- 1 10YR3/3暗褐色土 粘質やや中硬、締まり有り
φ1mmのローム土10%含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘質やや中硬、締まり有り
φ1-3mmのローム土10%、φ1-3mmの
暗褐色土10%含む。
- 3 10YR4/4暗褐色土 粘質・締まり有り
φ1-3mmのローム土30%、φ5mmのロ
ームブロック10%含む。
- 4 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まり有り
φ1-3mmのローム土30%、φ5mmのロ
ームブロック10%含む。
- 5 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まり有り
φ1-3mmのローム土30%含む。
- 6 10YR4/2緑・黄褐色土 粘質・締まり有り
φ5mmのロームブロック30%含む。

第96図 86号住居址ピット・土坑 (1/60)

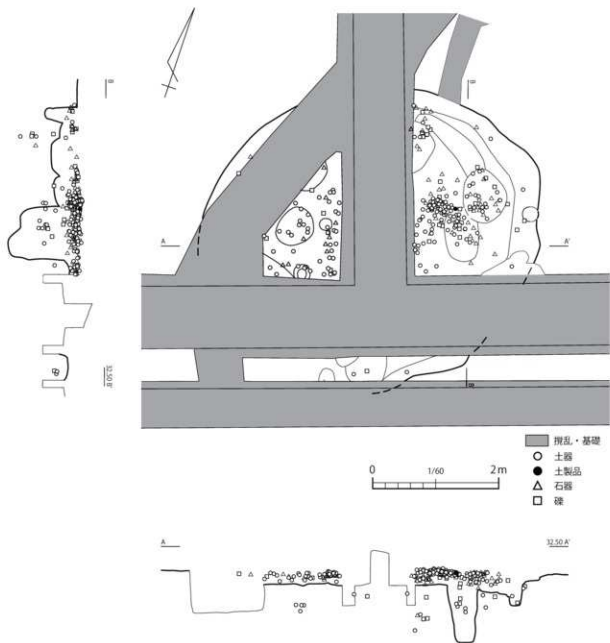


第97図 86号住居址掘方・エレベーション (1/60)

【土製品】68は土器片鏃、69は有孔円盤、70は土製円盤である。いずれも中期後葉の土器片を素材としている。

【石器】71～75は黒曜石製の石鏃である。76は、黒曜石製の石鏃未製品である。78は、黒曜石製の錐形石器である。素材となった剥片の稜や縁辺に二次加工が施されている。79は石核である。両極打法によって剥片を剥離している。黒曜石製石器の74と79を試料として、産地推定分析を実施し、神津島の結果が得られた（V章第3節参照）。

80～84は打製石斧である。80、84は撥形、81～83は短冊形である。80～83は刃部欠損、84は刃部、基部両端とも欠損している。85は磨石である。86～91は石皿である。88、90、91は、裏面に凹状の窪みが残る。特に88、91は複数の窪みが設けられており、91は貫通するまで使用されている。報告した石器のうち、炉址1の石囲いの構築に用いられていたものは、81、86、87、



第98図 86号住居址出土物分布図(1) (1/60)

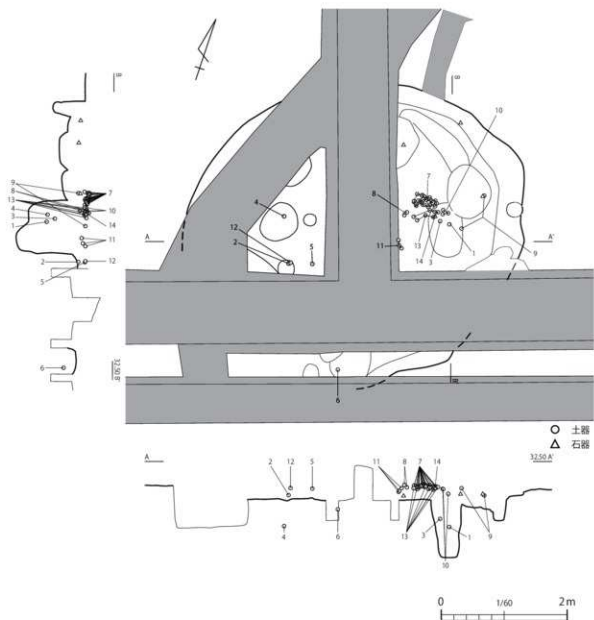
88、89、91である。

本住居址は、覆土から出土した土器と埋設土器から、加曾利E2式期に属すると考えられる。

88号住居址（第115～116図、第7表、図版18）

H16付近に位置する。平面形態は、近現代の工事によってローム面まで削平されており明確ではないが、壁溝と思われる溝から隅丸方形を呈すると推測する。住居址の大部分は、団地基礎と埋設管によって壊されており、覆土も残っていないため残存状況は良くない。

本住居址からは、炉址1基、ピット11基、壁溝と思われる溝を2条検出した。炉址は、被熱して硬化したロームと焼土粒の混合土のみが残存していた。主柱穴と思われるピットは、P1、P2、P3、



第99図 86号住居址出土遺物分布図(2) (1/60)

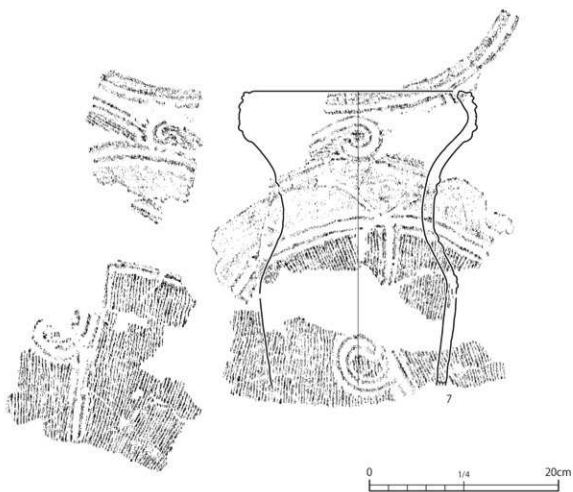
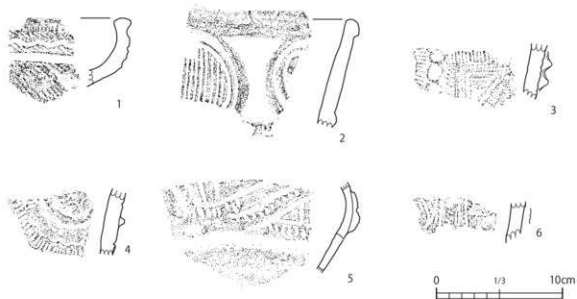
P4、P7、P8、P10である。P2は攪乱を除去した底面で検出した。溝2は壁溝と推測するが、溝1は住居の付属施設でない可能性がある。いずれのピットからも遺物の出土は無かった。

本住居址は周辺から検出された住居址から縄文時代中期に属する住居と推測する。

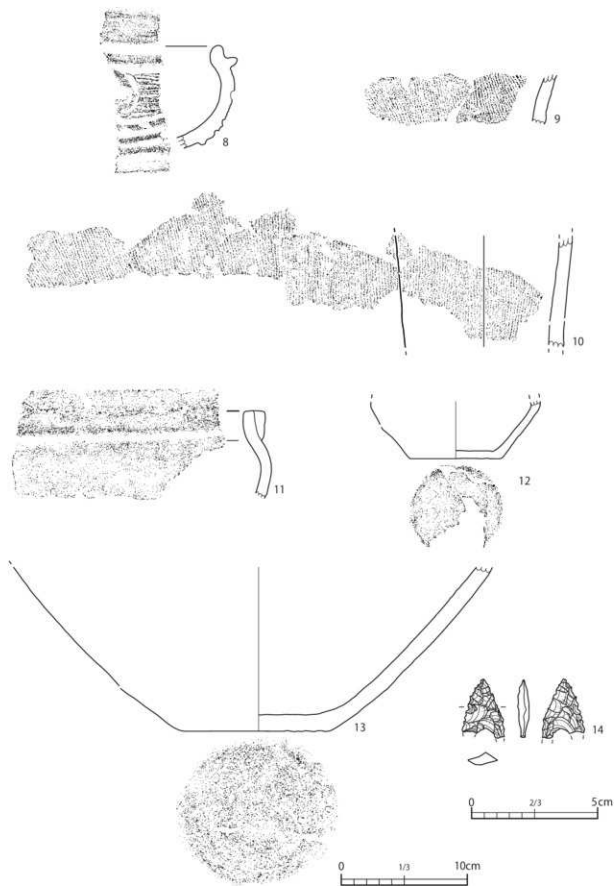
89号住居址（第117～119図、第7・10・13表、図版19～20・2・41・46）

H18付近に位置する。平面形態は、近現代の工事によってローム面まで削平されており不明である。住居址の大部分に団地基礎が位置しているため全体が大きく壊れている。ピットの配置と埋設土器から住居址と判断した。

本住居址からは、ピット16基（内、埋設土器1基）を検出した。主柱穴と思われるピットは、



第 100 图 86 号住居址出土遗物 (1) (1/3 · 1/4)



第101図 86号住居址出土遺物(2)(1/3・1/4)

P2、P3、P4、P5、P7、P8、P9、P10、P11、P12、P13、P14、P15である。P4、P5とP9、P10は隣接して配置されている。P15は、本住居址の他のピットと比較して深さと規模が大きいため他の住居址のものである可能性もある。柱穴と思われるピット群の北東側にP1埋設土器が位置しており、住居址とするには配置が歪であるが、周辺から検出できたピットが無かったため詳細は不明である。

遺物は、P1から出土した土器1個体と石器1点である。両者とも図化した。

【土器】1はP1から出土した埋設土器である。条線地文に、胴部は2本1組の粘土紐で横位の波状文を貼付し、頸部、口縁部、胴部にも波状の粘土紐を貼付する。口縁は内側に折り返されており文様が続く。

【石器】2は、黒曜石製の石鏃である。先端と基部を一部欠損している。両面に素材となった剥片の剥離面が残されている。

本住居址は、埋設土器から、中期後葉の加曾利E2式期に属すると考えられる。

90号住居址（第120～121図、第7・10・13表、図版20-3～20-4・41・46）

D17付近に位置する。平面形態は、隅丸方形を呈すると思われる。東壁清掃時に検出された。住居址の大部分が調査範囲外に続いている。調査できた面積が狭く付属施設の検出も出来なかったため詳細は不明である。調査できた範囲は、本住居址の壁から床へ続く立ち上がりである。

遺物は、住居の中央に近い調査区の壁際から、土器7点/91.9g、石器3点/1.3g、礫9点/899.3g出土した。

【土器】1は押引文とヒダ状圧痕が見られる破片である。2は降帯の脇に複列の押引文が施される。3は縄文RLが施文される。

【石器】4は黒曜石製の石鏃である。最大長16mmの小形の石鏃である。

詳細が不明であるが、周辺から検出された住居址と出土した遺物から、縄文時代中期中葉に属する住居と推測する。

91号住居址（第122～125図、第7・10・13表、図版20-5・41・46）

I17付近に位置する。平面形態は、周囲を団地基礎や埋設管などにより壊されており、覆土も工事によってローム面まで削平されていることから、不明である。攪乱除去時に住居内炬屋と思われる焼土層を検出し周囲からピットを5基検出したため住居址と判断した。炬屋は、厚く焼土が堆積しており長期間の使用が窺える。主柱穴と思われるピットは、P1、P3、P5である。遺物は、炬屋とピットから、土器10点/119.4g、石器3点/56.1g、礫1点/2.4g出土した。炬屋とP2から出土した土器2点とP1から出土した石器1点を図化した。

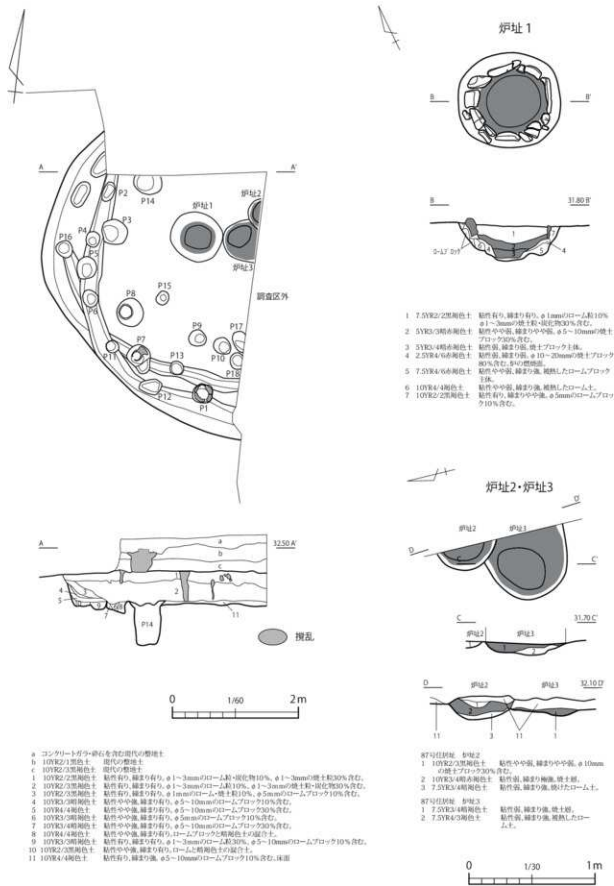
【土器】1は胴部で複列の角押文が施文される。2は無文の口縁部である。

【石器】3は頁岩製の二次加工剥片である。剥片の縁辺に粗い二次加工が施された石器である。

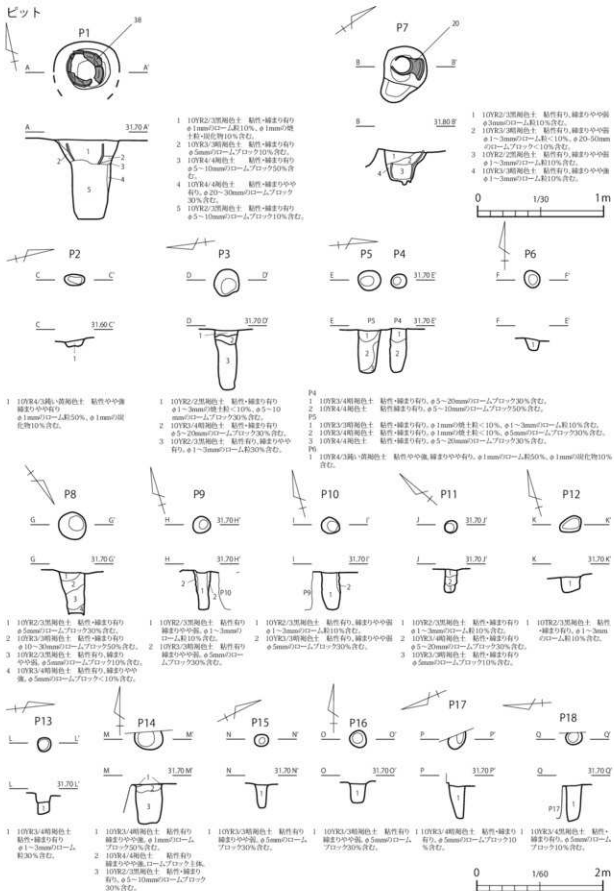
詳細が不明であるが、周辺から検出された住居址と出土した遺物から、縄文時代中期に属する住居と推測する。

92号住居址（第126～127図、第7表）

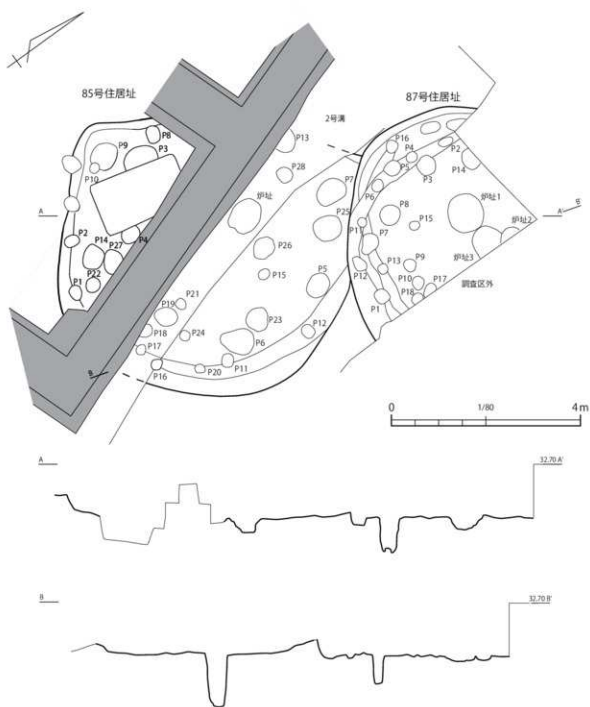
M17付近に位置する。平面形態は、西側を1号遺構によって壊されているが、ピットの配置から円形であると推測する。本住居址は、ピットの配置から住居址と判断した。近現代の工事による掘削



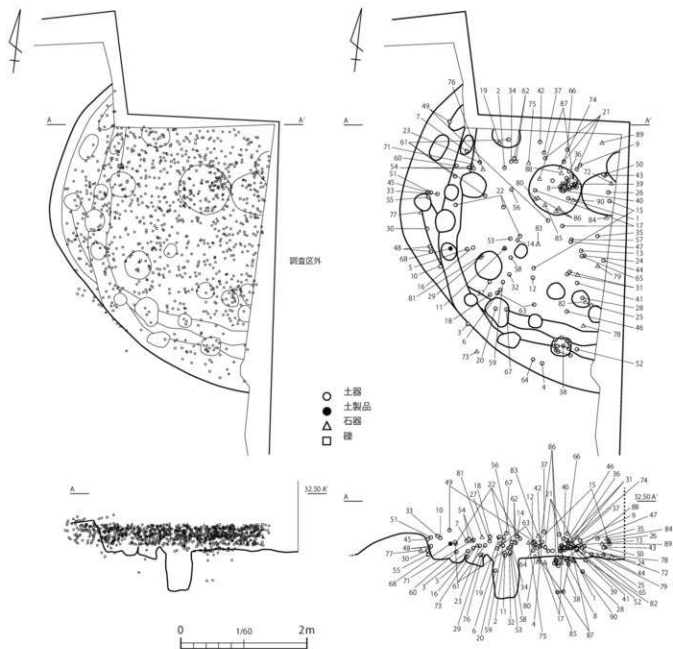
第 102 図 87 号住居 (1/60)・炉址 (1/30)



第103図 87号住居址埋設土器・ピット (1/60)



第104図 85・87号住居址掘方・エレベーション (1/60)

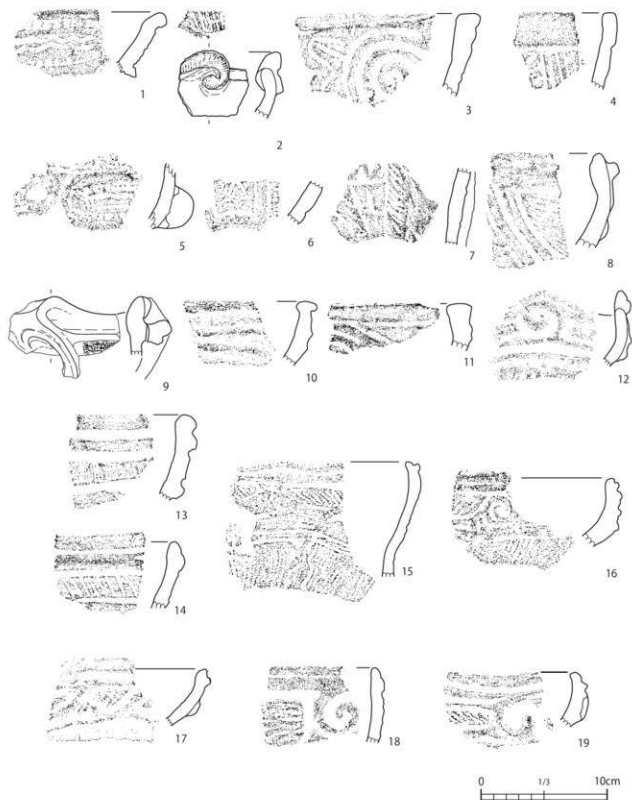


第105図 87号住居址出土遺物分布図 (1/60)

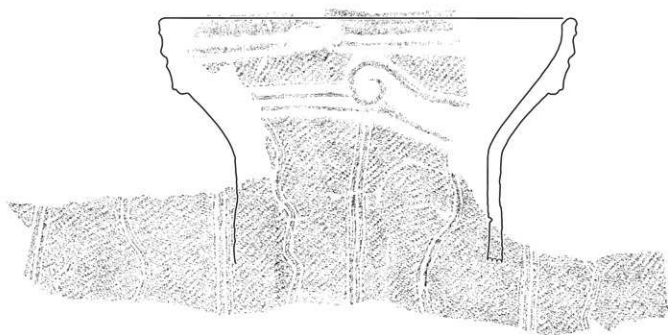
が立川ルームIV層まで及んでおり検出したピットは、いずれも浅くなっている。遺物はP5から土器1点が出土した。小片のため図化しない。

93号住居址 (第128図、第7表)

J 19付近に位置する。西側は79号住居址と隣接する。調査終盤に柱穴と思われるピット群を検出し住居址と判断した。P1、P2が本住居址の主柱穴と推測され、79号住居址の外側に位置するため独立して別住居址と捉えたが、両住居址の前後関係等は不明である。南側に団地基礎が位置しており、住居址の大半が壊れている状況であるため平面形態も不明である。遺物も出土していない。



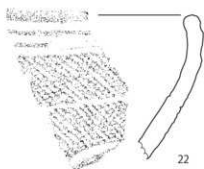
第 106 図 87 号住居址出土遺物 (1) (1/3)



20



21



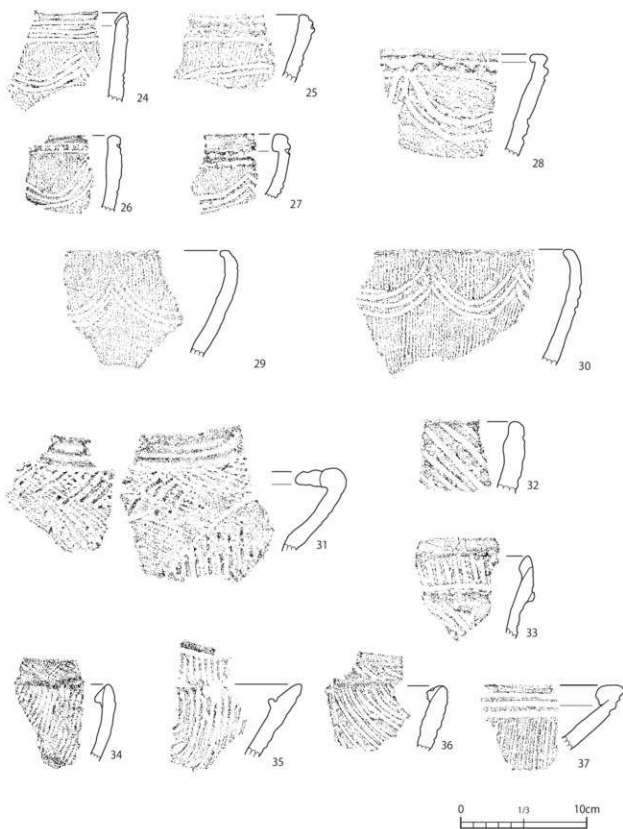
22



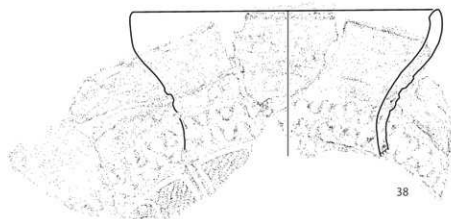
23



第 107 图 87 号住居址出土遺物 (2) (1/3)



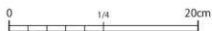
第 108 図 87 号住居址出土遺物 (3) (1/3)



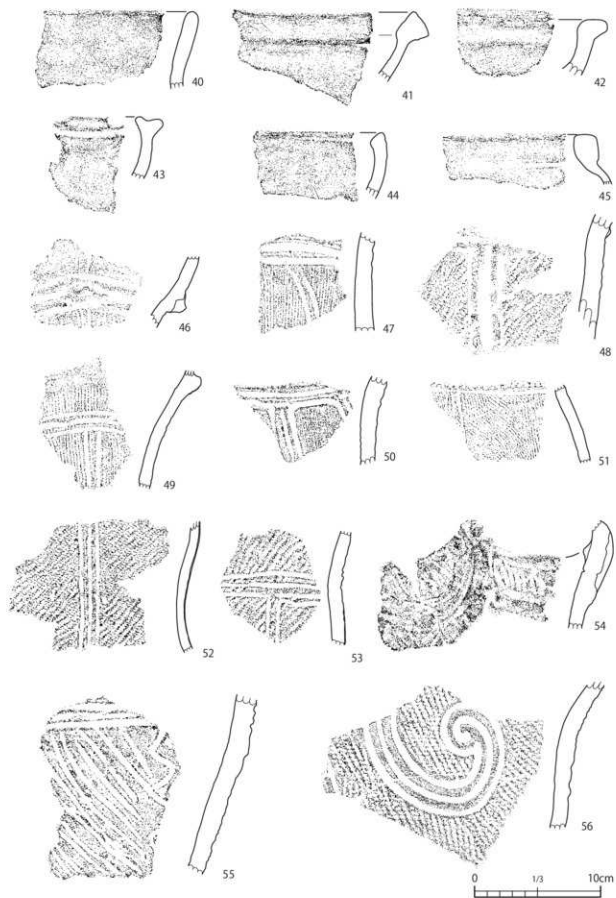
38



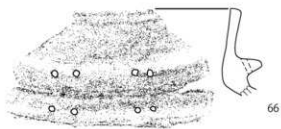
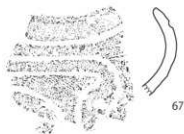
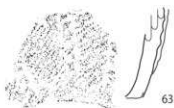
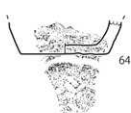
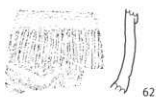
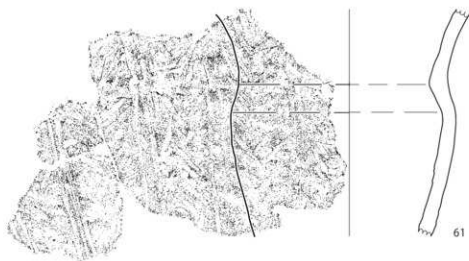
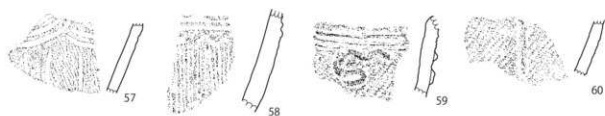
39



第 109 图 87 号住居址出土遺物 (4) (1/4)



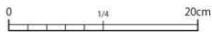
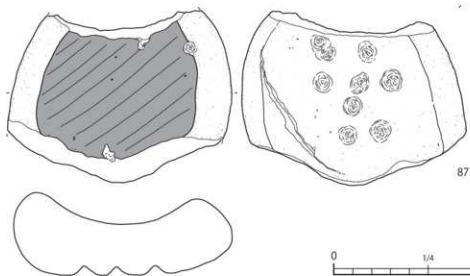
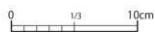
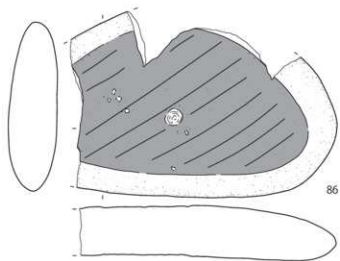
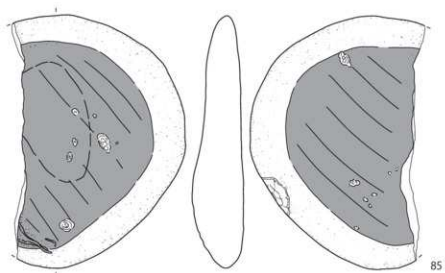
第 110 図 87 号住居址出土遺物 (5) (1/3)



第 111 图 87 号住居址出土物 (6) (1/3)



第112図 87号住居址出土遺物(7)(2/3・1/3)



第113图 87号住居址出土遗物(8)(1/3·1/4)



第114図 87号住居址出土遺物(9)(1/6・1/3)

B 土坑・焼土遺構

土坑（第129～130図・第8表・図版21～23-4）

1号土坑（SK1）

位置 O22 付近に位置する。

形態 南北が1号遺構と2号遺構によって壊されているため詳細は不明だが、不整な円形を呈すると思われる。西側は緩く立ち上がるが東側の立ち上がりは急である。

検出状況 1号遺構と2号遺構の間に残ったローム層上面にて検出された。土坑の底面から別の遺構であるP19が検出されている。

覆土 12層を確認した、全てが黒褐色土であり、硬化した層が見られる。ロームブロックを含む層があることから縄文時代より新しい時期のものである可能性も残る。

時期 縄文時代～近世

2号土坑（SK2）

位置 P19 付近に位置する。

形態 円形を呈する。

検出状況 包含層であるⅡc層の調査を終了し、調査区の南西側のみで認められたⅡ層から立川ロームⅣ層との間に堆積するa層上面で検出された。

覆土 5層に分かれる。a層に似た粘性の高い黒褐色ないしは暗褐色土が堆積する。

時期 包含層の下層から検出されたことから縄文時代に属すると思われる。

3号土坑（SK3）

位置 N19 付近、建物基礎枠2に位置する。

形態 大型の隅丸方形を呈する。

検出状況 建物基礎枠2内で遺構検出を行い、焼土が混じるプランを確認し、調査したところSK3、SK4、SA1が切り合う遺構であることが分かった。SA1を切る遺構である。

覆土 6層に分かれる。1号焼土遺構から流れ込んだ焼土粒を全体的に含む。

時期 5層から縄文土器片が出土したことから、縄文中期に属すると思われる。

4号土坑（SK4）

位置 N19 付近、建物基礎枠2に位置する。

形態 楕円形状を呈する。

検出状況 SK3の短軸方向の断面調査時に検出した。

覆土 2層に分かれる。

時期 SK3よりは新しい遺構である。覆土から新しい時期のものでは無いと推測する。

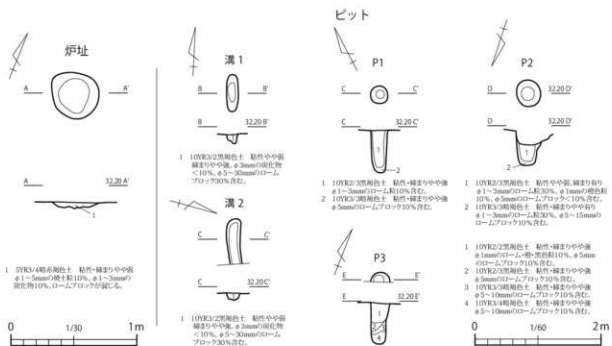
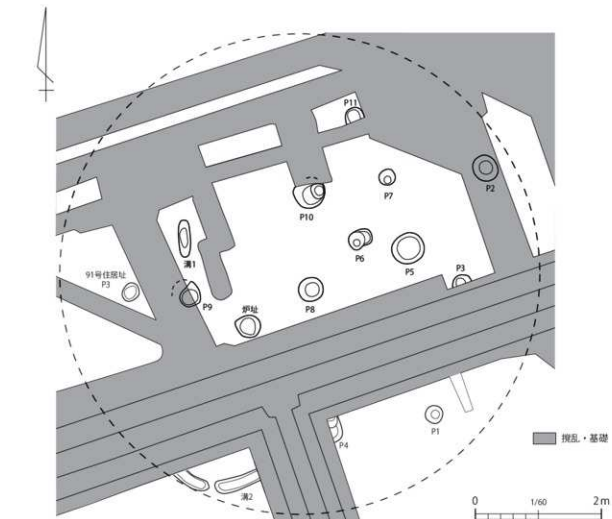
5号土坑（SK5）

位置 O19 付近に位置する。

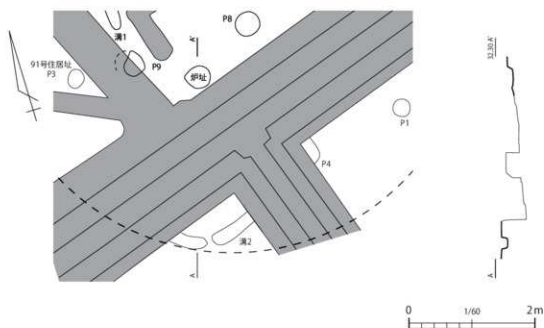
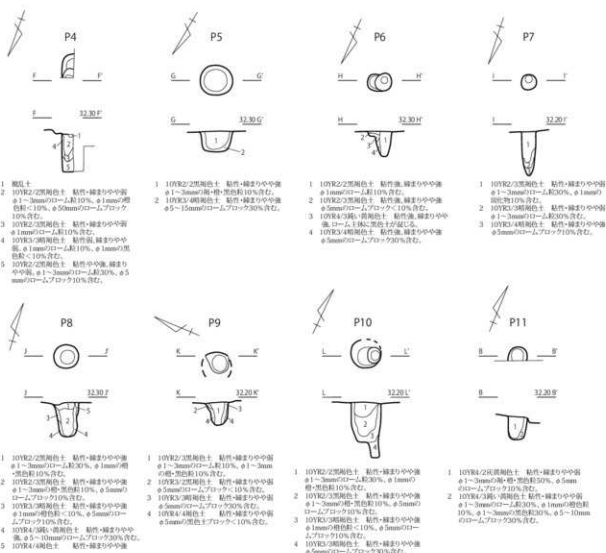
形態 円形を呈する。

検出状況 包含層であるⅡc層の調査を終了し、調査区の南西側のみで認められたⅡ層から立川ロームⅣ層との間に堆積するa層上面で検出された。

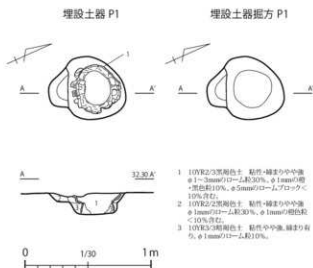
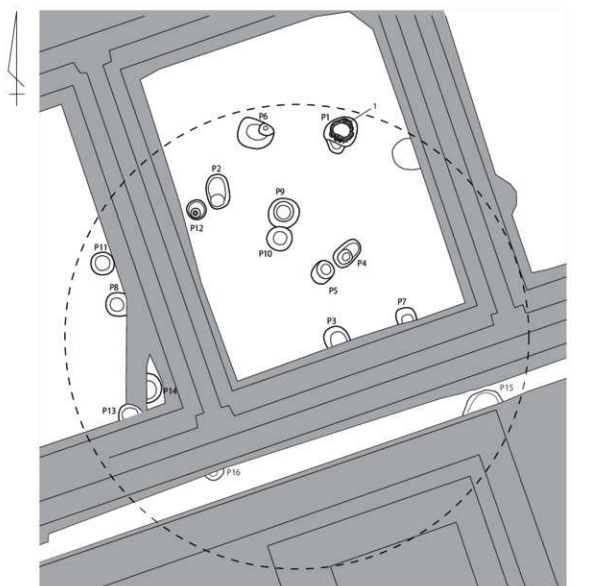
覆土 7層に分けられる。



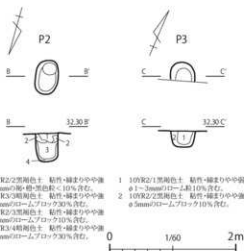
第115図 88号住居址 (1/60)・炉址 (1/30)・溝・ピット (1) (1/60)



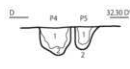
第116図 88号住居址ピット(2)・掘方・エレベーション(1/60)



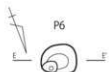
ビット



第117図 89号住居址 (1/60)・埋設土器 (1/30)・ビット (1) (1/60)



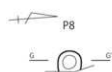
- P4
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmの屑・顔料粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5mmのローム・ムフロック30%含む。
- P5
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmの屑・顔料粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmのローム・ムフロック30%含む。



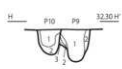
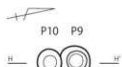
- P6
1 10YR4/2黄褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5-10mmの黒色土・フロック10%含む。
2 10YR4/4褐色土 黏性・締まり中や中強
3 10YR4/4褐色土 黏性・締まり中や中強



- P7
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmの屑・顔料粒<10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmの屑・顔料粒10%、φ5mmのローム・ムフロック10%含む。
3 10YR4/4褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5mmの屑・顔料土・フロック10%含む。



- P8
1 10YR2/1黒褐色土 黏性・締まり中や中強、φ5-20mmのローム・ムフロック10%含む。
2 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強、φ1mmの屑・顔料粒10%含む。
3 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強、φ5mmのローム・ムフロック10%含む。



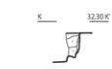
- P10
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmの屑・顔料粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5-10mmのローム・ムフロック30%含む。
3 10YR3/4暗褐色土 黏性強、締まり中や中強
φ3-30mmのローム・ムフロック30%含む。
- P9
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmの屑・顔料粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5-10mmのローム・ムフロック30%含む。



- P11
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1-3mmのローム・ムフロック10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5mmのローム・ムフロック10%含む。



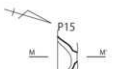
- P12
1 10YR2/3黒褐色土 黏性中や中強、締まり中や中強
φ1-3mmのローム・ムフロック10%、φ5mmのローム・ムフロック<10%、φ1mmの屑・顔料粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり中や中強、φ1-3mmの屑・顔料粒<10%、φ5mmのローム・ムフロック10%含む。



- P13
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ1mmのローム・ムフロック10%含む。
2 10YR2/4黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5mmのローム・ムフロック<10%含む。
3 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5mmのローム・ムフロック10%含む。
4 10YR4/2黄褐色土 黏性・締まり有り
φ5-10mmのローム・ムフロック10%含む。



- P14
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5-20mmのローム・ムフロック<10%含む。
2 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5-10mmのローム・ムフロック10%含む。

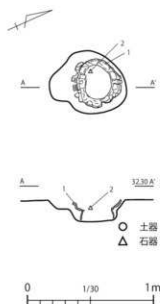


- P15
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり有り
φ1-3mmのローム・ムフロック10%、φ5mmのローム・ムフロック<10%含む。
2 10YR3/4暗褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5mmのローム・ムフロック<10%含む。
3 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり有り
φ5mmのローム・ムフロック<10%含む。
4 10YR4/2黄褐色土 黏性中や中強、締まり有り、φ5mmのローム・ムフロック10%含む。
5 10YR3/3黒褐色土 黏性・締まり有り
φ1-3mmのローム・ムフロック、φ1mmの屑・顔料粒10%、φ5mmのローム・ムフロック10%含む。
6 10YR3/4暗褐色土 黏性・締まり中や中強
φ5-10mmのローム・ムフロック10%含む。

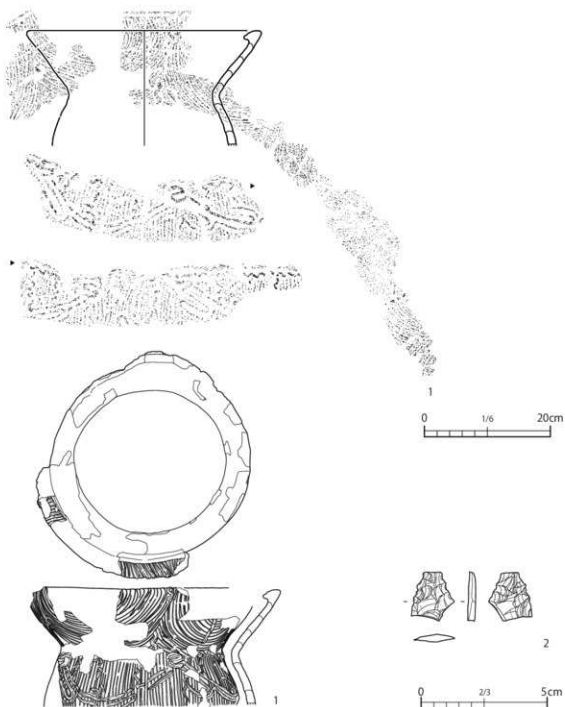


- P16
1 10YR2/3黒褐色土 黏性・締まり有り
φ5-15mmのローム・ムフロック30%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 黏性・締まり有り
φ5-10mmのローム・ムフロック30%含む。

P1 遺物分布図



第118図 89号住居址ビット(2)(1/60)・遺物分布図(1/30)



第119図 89号住居址出土遺物 (1/6・2/3)

時 期 覆土と周辺から出土した遺物から縄文時代中期に属すると思われる。

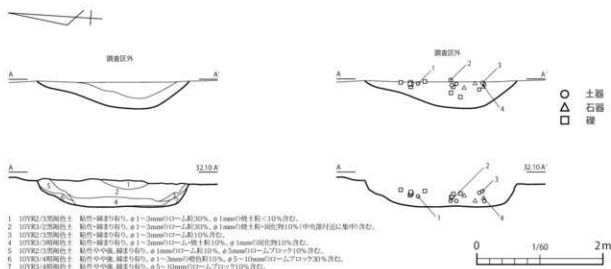
6号土坑 (SK6)

位 置 O22 付近に位置する。

形 態 楕円形状を呈する。

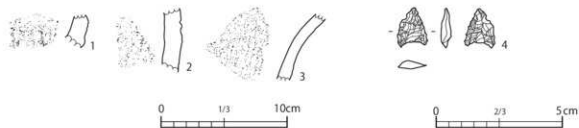
検出状況 1号遺構と2号遺構の間に残ったローム層上面にて検出された。

覆 土 3層に分けられる。



- 1 10YR2-3黒褐色土 粘性・細まわり有り、φ1-3mmのローム粒30%、φ1mmの焼土粒<10%含む。
- 2 10YR3-2黒褐色土 粘性・細まわり有り、φ1-3mmのローム粒30%、φ1mmの焼土粒・炭化物10%（中央部付近に集中含む）。
- 3 10YR2-3黒褐色土 粘性・細まわり有り、φ1-3mmのローム粒10%含む。
- 4 10YR3-2黒褐色土 粘性・細まわり有り、φ1-3mmのローム粒10%、φ1mmの炭化物10%含む。
- 5 10YR2-3黒褐色土 粘性やや強、細まわり有り、φ1mmのローム粒10%、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 6 10YR3-4暗褐色土 粘性やや強、細まわり有り、φ1-3mmの焼土粒10%、φ5-10mmのロームブロック30%含む。
- 7 10YR3-4暗褐色土 粘性やや強、細まわり有り、φ5-10mmのロームブロック10%含む。

第120図 90号住居址・遺物分布図(1/60)



第121図 90号住居址出土遺物(1/3・2/3)

時期 覆土から縄文時代に属すると思われる。

7号土坑 (SK7)

位置 M19 付近、建物基礎枠 2 に位置する。

形態 円形状を呈する。

検出状況 攪乱除去後の壁断面において検出した。

覆土 4層に分かれる。

時期 覆土から縄文時代に属すると思われる。

8号土坑 (SK8)

位置 O20 付近に位置する。

形態 西側が攪乱によって壊されているが、円形を呈すると思われる。

検出状況 包含層であるⅡc層の調査を終了し、調査区の南西側のみで認められたⅡ層から立川ロームⅣ層との間に堆積するa層上面で検出された。

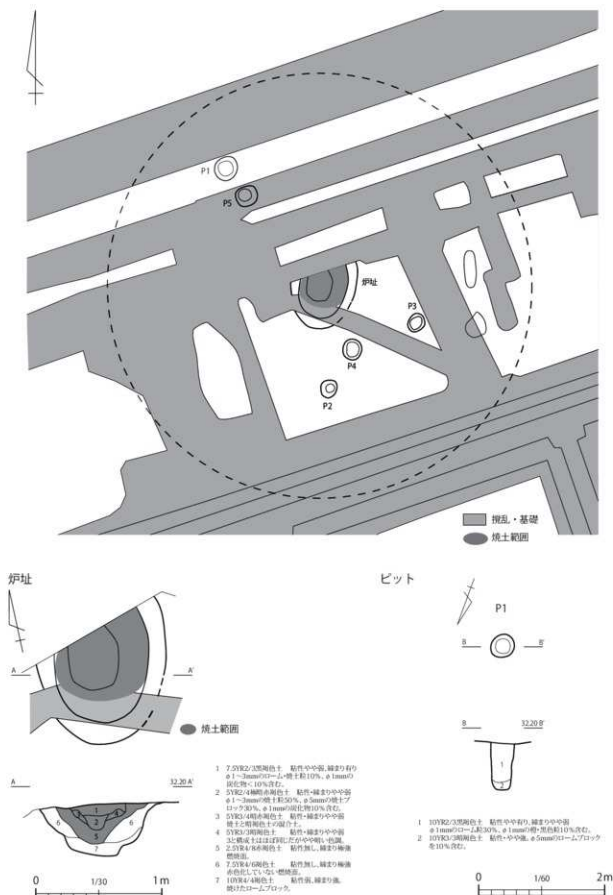
覆土 5層に分かれる。

時期 覆土から縄文時代に属すると思われる。

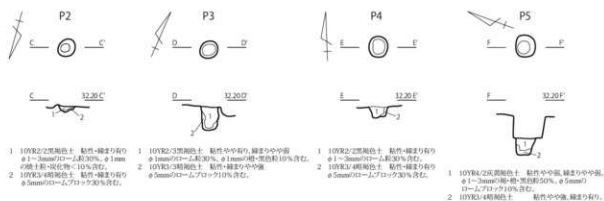
9号土坑 (SK9)

位置 O16 付近に位置する。

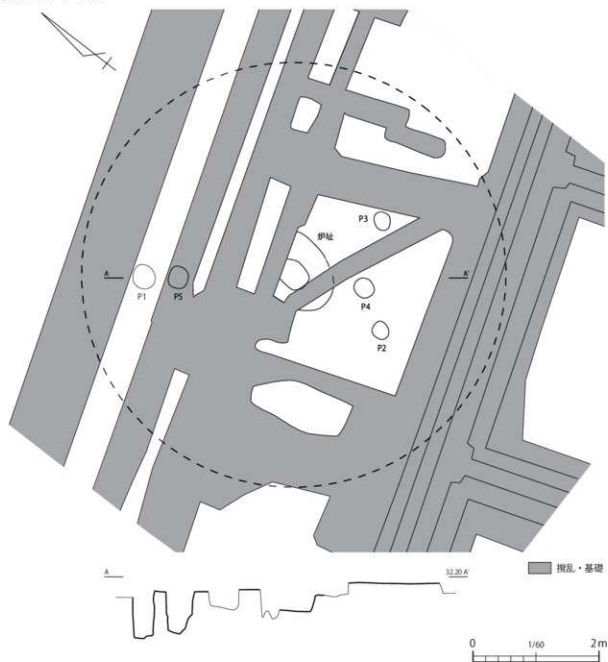
形態 楕円形状を呈すると思われる。



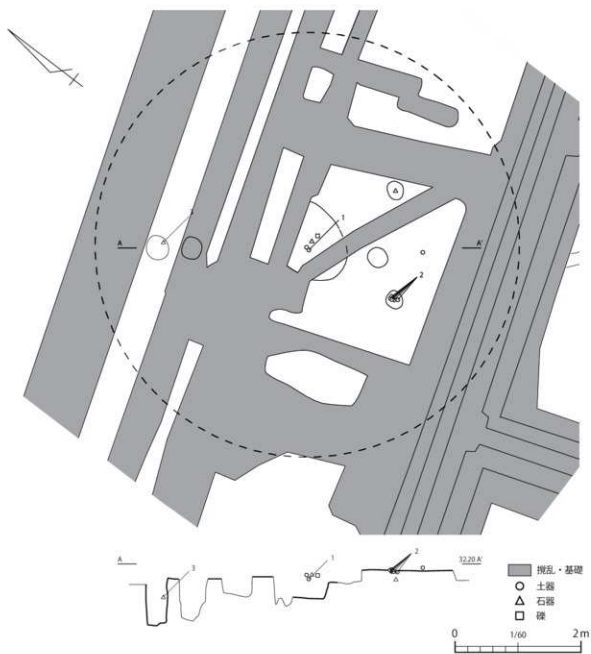
第122図 91号住居炉址(1/30)・ピット(1)(1/60)



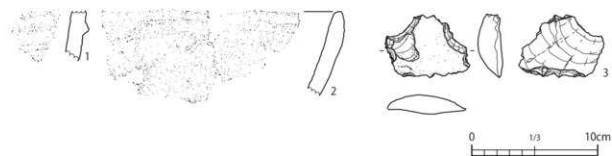
掘方・エレベーション



第123図 91号住居址ビット(2)・掘方・エレベーション(1/60)



第124図 91号住居址出土遺物分布図 (1/60)



第125図 91号住居址出土遺物 (1/3)

検出状況 表土除去後に立川ローム上面にて検出された。

覆 土 3層に分かれる。

時 期 覆土から縄文時代に属すると思われる。

10号土坑 (SK10)

位 置 N18付近に位置する。

形 態 円形を呈すると思われる。

検出状況 表土除去後に立川ローム上面にて検出された。

覆 土 3層に分かれる。

時 期 覆土から縄文時代に属すると思われる。

11号土坑 (SK11)

位 置 S17付近に位置する。

形 態 楕円形を呈すると思われる。

検出状況 2号墳周濠調査後の精査時に検出された。

覆 土 1層に分かれる。非常に浅く覆土は1cmに満たない。

時 期 覆土と周辺の状況から縄文時代に属すると思われる。

12号土坑 (SK12)

位 置 G15付近に位置する。

形 態 円形を呈すると思われる。

検出状況 表土除去後に立川ローム上面にて検出された。84号住居址の推定範囲内に位置し3号溝と隣接する。

覆 土 4層に分かれる。覆土内にロームブロックが多く含まれる。

時 期 覆土と周辺の状況から縄文時代～近世に属すると思われる。

焼土遺構 (第129図・第8表・図版21～23-4)

1号焼土遺構 (SA1)

位 置 N19付近、建物基礎枠2に位置する。

形 態 楕円形状を呈する。

検出状況 建物基礎枠2内で遺構検出を行い、焼土が混じるプランを確認し、調査したところSK3、SK4、SA1が切り合う遺構であることが分かった。SK3に切られる遺構である。

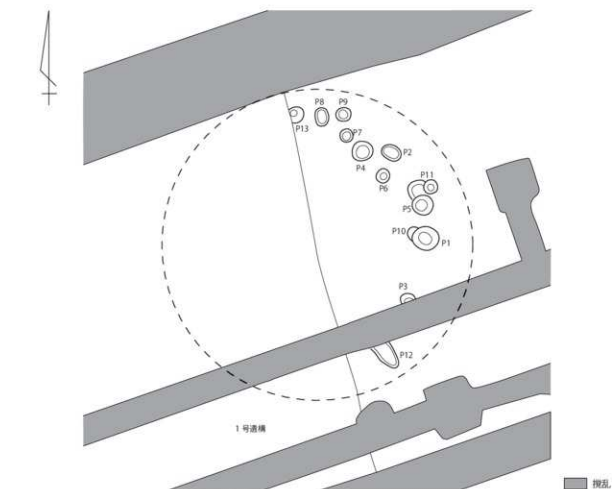
覆 土 6層に分かれる。5層に焼土が多く堆積することから燃焼面である。

時 期 中期と思われる縄文土器の小片が出土しており、SK3より古い時期の縄文時代に属する遺構である。

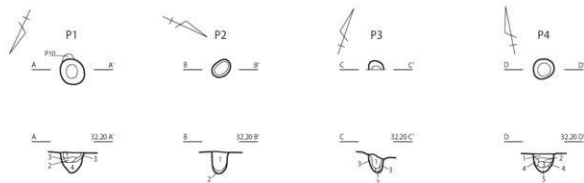
C ピット

ピット (第131～141図・第9表)

本調査では、152基の単独ピットを検出した。紙面の都合上、個別の記載は割愛する。全体的には、過度な削平、攪乱を受けていない限り、調査区全域からピットが検出されていた。今回の調査で検出した単独ピットは全て縄文時代に属するものと捉えた。多くのピットでは遺物の出土は無かったが、覆土の様相から判断した。



ピット



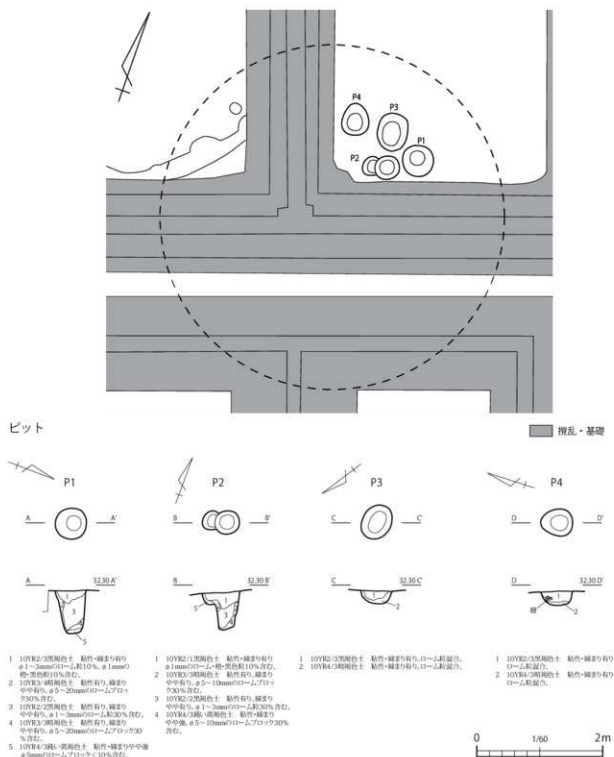
- 1 10YR2/2暗褐色土 黏性・締まりやや強
φ1mmのコーム粒10%、φ1~3mmの洞
・褐色粒30%含む。
- 2 10YR4/3褐色土 黏性・締まりやや強
φ1mmのコーム粒10%、φ1mmの洞・褐色粒
30%含む。
- 3 10YR4/4褐色土 黏性やや強、締まりやや強
φ1mmの洞・暗・黒色粒10%含む。
- 4 10YR3/4暗褐色土 黏性やや強、締まりやや強
φ1~3mmの洞・粒数豊富含む。

- 1 10YR2/3暗褐色土 黏性・締まりやや強
φ1~3mmの洞・褐色粒30%、φ1~3mm
のコーム粒10%、φ5mmのコーム粒フロック
10%含む。
- 2 10YR4/3褐色土 黏性やや強、締まり
やや強、φ1mmの褐色粒10%、φ1mm
のコーム粒10%含む。

- 1 10YR3/2暗褐色土 黏性・やや強
φ1~3mmの洞・褐色粒30%、φ1
~3mmのコーム粒10%、φ5mmの
コーム粒フロック10%含む。
- 2 10YR4/3褐色土 黏性・締
まりやや強、φ1mmの洞・褐色粒10
%含む。
- 3 10YR5/3暗・黄褐色土 黏性強
締まりやや強、φ1mmの洞・暗・黒色
粒30%含む。

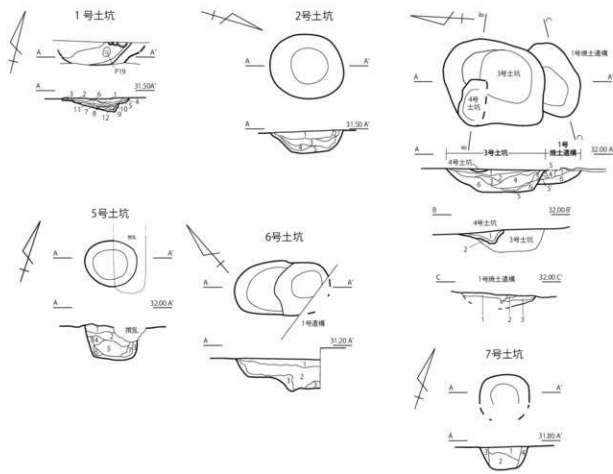
- 1 10YR3/2暗褐色土 黏性・締まりやや強
φ1mmの洞・褐色粒30%、φ1~3mmの
コーム粒10%、φ5mmのコーム粒フロック
10%含む。
- 2 10YR4/3褐色土 黏性・締まりやや強
φ1mmの洞・褐色粒10%含む。
- 3 10YR5/3暗・黄褐色土 黏性・締まりやや強
φ1mmの洞・暗・黒色粒30%含む。
- 4 10YR4/4褐色土 黏性・締まりやや強
φ1~3mmのコーム粒10%、φ5mmのコーム
粒フロック豊富含む。
- 5 10YR5/4暗・黄褐色土 黏性・締まりやや強
φ1mmのコーム粒10%含む。

第126図 92号住居址ピット (1) (1/60)



第128図 93号住居址ビット (1/60)

14~57は中期後葉の土器である。14~17は降帯と沈線により口縁部に渦巻文や楕円形区画内などを配するものである。18~20、23~25、33、35~38は微隆起帯により文様を描出するものである。18・19・33は微隆起帯の脇や上に縄文地文が施文される。19・36・38は口縁部に円形刺突が施される。21、22、26~32は細い沈線で文様を描出するものである。21、22、27、28、



1号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細り微く酸化、褐色炭粉子を1%含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細り微。
- 3 10YR2/3黒褐色土 粘性、細り微、酸化。
- 4 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細り微、褐色粘土を含む、壁面にローム状物を含む。
- 5 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細り微。
- 6 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細り微、酸化。1層に壁状。
- 7 10YR2/3黒褐色土 粘性、細りや中強。
- 8 10YR2/3黒褐色土 粘性、細りや中強。
- 9 10YR2/3黒褐色土 黒褐色土と黒色土が混在し連続する。
- 10 10YR2/3黒褐色土 粘性、細りや中強、ローム状・ブロックを30%含む。
- 11 10YR2/3黒褐色土 壁面上に6層の壁状。
- 12 10YR2/3黒褐色土 細り微の塊で強く、酸化。

2号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の角・粒・黒褐色粘30%、 $\phi 1mm$ の焼土・炭化灰10%を含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、 $\phi 1mm$ の角・粒・黒褐色粘10%を含む。
- 3 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、 $\phi 1mm$ の角・粒・黒褐色粘10%、 $\phi 1mm\sim 30\mu m$ の土層20%を含む。
- 4 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、 $\phi 1mm$ の角・粒・黒褐色粘10%、 $\phi 5\sim 20mm$ のローム・ブロック10%を含む。
- 5 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、 $\phi 5\sim 10mm$ のローム・ブロック5~10%を含む。

3号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の焼土粘30%、 $\phi 1mm$ の炭化灰10%、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の焼土粘30%、 $\phi 5mm$ の焼土粘7~10%、 $\phi 1mm$ の褐色粘・炭化物10%、 $\phi 5\sim 10mm$ のローム・ブロック少量を含む。
- 3 10YR4/4黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ の炭化灰粘、 $\phi 1mm$ の炭化粘、 $\phi 1mm\sim 30\mu m$ の土層10%を含む。
- 4 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の焼土粘30%、 $\phi 1mm$ の炭化灰粘30%、 $\phi 1mm$ のローム・土層10%、 $\phi 5mm$ の褐色粘を含む。
- 5 10YR4/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%、黒色粘1mmの黒色粘少量を含む。

4号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘少量を含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の褐色粘10%を含む。

1号土溝横

- 1 10YR4/4黒褐色土 細りや中強・粘り強、細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の焼土粘30%、 $\phi 5\sim 30mm$ のローム・土層10%を含む。
- 2 10YR4/3黒褐色土 粘性強、細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ の焼土粘10%、 $\phi 5\sim 10mm$ の炭化物30%、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量を含む。
- 3 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細りや中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の焼土粘10%、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%を含む。
- 4 10YR4/4黒褐色土 粘性・細りや中強、細りに細り微く、 $\phi 1mm$ の焼土粘10%、 $\phi 5\sim 30mm$ の粘土ブロック50%、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量を含む。
- 5 7.5YR4/6黒褐色土 粘性は酸化し、細り強、粘強、 $\phi 10\sim 30$ 焼土ブロック80%を含む。
- 6 10YR4/4黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%、 $\phi 10\sim 30mm$ のローム・ブロック50%、 $\phi 30mm$ の焼土ブロック10%を含む。

5号土坑

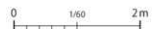
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘30%、焼土粘少量を含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の褐色粘10%、 $\phi 1\sim 3mm$ のローム・土層10%を含む。
- 3 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、 $\phi 2mm$ の褐色粘少量、 $\phi 5mm$ のローム・土層少量を含む。
- 4 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、 $\phi 4mm$ の褐色粘少量、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量を含む。
- 5 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 2mm$ の褐色粘10%、 $\phi 1mm$ のローム・土層10%、 $\phi 1mm$ の焼土粘・炭化物10%を含む。
- 6 10YR4/4黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、 $\phi 3\sim 5mm$ のローム・土層少量を含む。
- 7 10YR4/4黒褐色土 粘性や中強・細りや中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の褐色粘10%を含む。

6号土坑

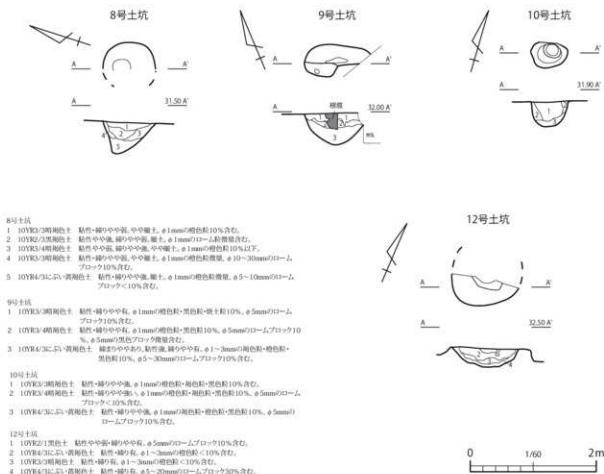
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強・細り強、や中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%、 $\phi 1\sim 3mm$ のローム・土層10%、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量を含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1\sim 2mm$ の褐色粘10%、 $\phi 1\sim 3mm$ のローム・土層10%、 $\phi 30mm$ のローム・土層10%、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量を含む。
- 3 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、や中強、 $\phi 1\sim 3mm$ の褐色粘10%、 $\phi 1\sim 3mm$ のローム・土層10%、 $\phi 10\sim 30mm$ のローム・土層10%、 $\phi 1mm$ の炭化粘少量を含む。

7号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細りや中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%を含む。
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、細りや中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%を含む。
- 3 10YR4/4黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ の褐色粘10%、 $\phi 5\sim 20mm$ のローム・ブロック10%を含む。
- 4 10YR4/3黒褐色土 粘性・細りや中強、や中強、 $\phi 1mm$ のローム・土層10%を含む。



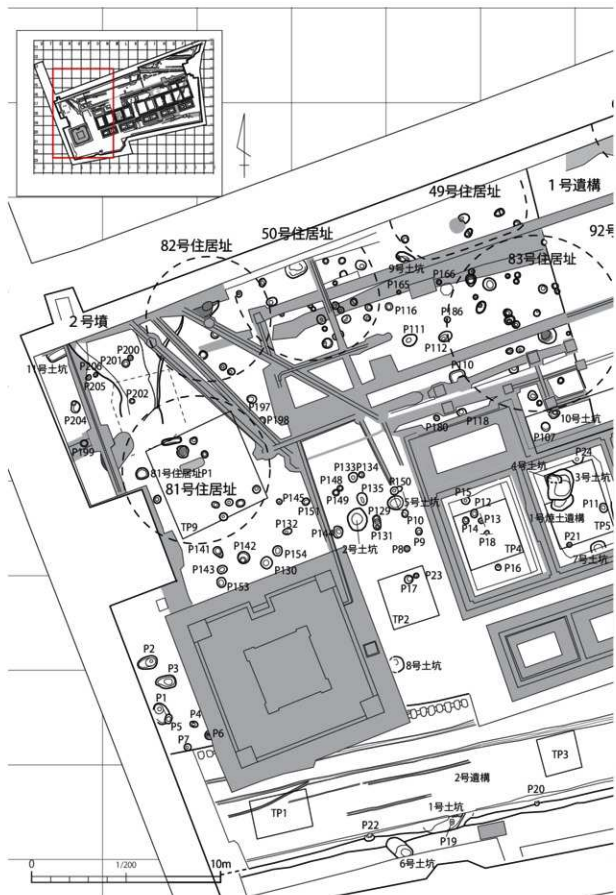
第129図 縄文時代土坑(1)・焼土遺構(1/60)



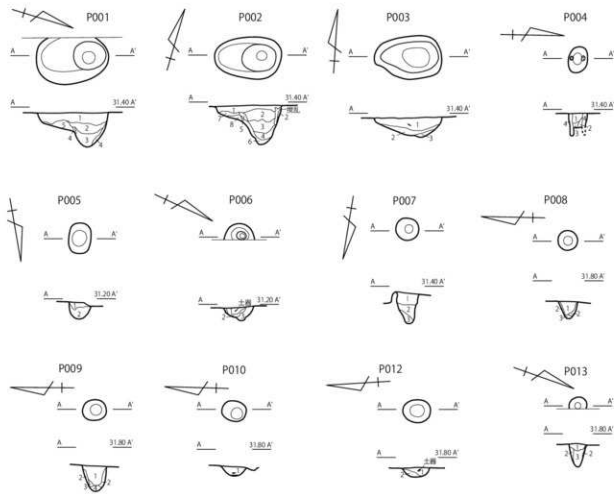
第130図 縄文時代土坑 (2) (1/60)

32は口唇部付近と胴部で縄文地文の施文方向を変えている。32は2本1組の細い沈線で文様を描出する。26は口縁部に橋状の把手を貼付する。39は曾利式土器の口縁部である。集合沈線を施した後、蛇行する粘土紐を貼付する。35は降帯を貼付し、円形刺突を加える。器面は磨かれており、瓢箪形の壺形土器と考えられる。40・42~47・52~56は胴部破片である。40は3本1組の沈線による懸垂文を施文し、その内部を磨り消す。42は条線を施文する。43~45・54・56は2本1組の沈線による懸垂文を施文する。43~45、54は懸垂文間に波状条線あるいは円形刺突を地文として施文する。56は懸垂文内部の縄文地文を磨り消す。46は3本1組の沈線により懸垂文を施文し懸垂文間に横位の集合沈線を充填する。47は沈線による対向U字状の区画を施文した後、区画外を磨り消す。52は集合沈線を地文として施文した後、降帯を貼付し交互に刺突を加える。53は条線地文に3本1組の沈線を横位に施文し、弧状の文様を施文する。連弧文土器と考えられる。55は波状の条線を施文する。

41、48~51は両耳壺である。41、48は頸部で、いずれも降帯と幅広の沈線による区画が行われる。49~51は頸部の把手である。49は小型で、外面に指頭による凹みが増えらる。50、51は橋状把手で、51は把手外面にも縄文地文が施文される。



第 131 図 縄文時代ピット配置図 (1) (1/200)



- P001**
- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性有, 締り強, 粘土中硬, ϕ 1mmの橙色粒<1%, ϕ 1~2mmのローム粒1%含む。
 - 2 10YR2/3黒褐色土 粘性・締り強, 凝結, ϕ 1~2mmの橙色粒1%, ϕ 1~3mmのローム土粒1%含む。
 - 3 10YR3/3黒褐色土 粘性・締り強, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%, ϕ 1~3mmのローム土粒2%, ϕ 1mmの黒色粒<1%含む。
 - 4 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締り弱, やや凝結, ϕ 1mmのローム土粒<1%, ϕ 1mmの黒色粒<1%含む。
 - 5 10YR3/3黒褐色土 粘性有, 締り強, 粘土中硬, ϕ 1mmの橙色土粒<1% ϕ 1mm含む。

- P002**
- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性有, 締り強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色土粒<1%, ϕ 1mmのローム土1%, ϕ 1~2mmの炭化物1%含む。
 - 2 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒1%, ϕ 1mmの炭化物1%含む。
 - 3 10YR2/3黒褐色土 粘性・締り強, やや凝結, ϕ 1~2mmの橙色粒<1%, ϕ 1~10mmのローム土粒3%, ϕ 1~3mmの炭化物1%含む。
 - 4 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 1~2mmの橙色粒1%, ϕ 1~5mmのローム土粒2%含む。
 - 5 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締りやや凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%含む。
 - 6 粘性有, 締り強, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒1%, ϕ 1~5mmのローム土粒5%含む。
 - 7 10YR2/2黒褐色土 粘性有, 締り強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%, ϕ 1mmの炭化物1%含む。
 - 8 10YR2/3黒褐色土 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒1%, ϕ 1~2mmのローム土粒1%, ϕ 1~2mmの炭化物1%含む。

- P003**
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性有, 締り強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%含む。
 - 2 10YR2/2黒褐色土 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒2%, ϕ 1mmのローム土粒1%, ϕ 1~2mmの炭化物1%含む。
 - 3 10YR3/3黒褐色土 粘性やや強, 締り強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒1%含む。

- P004**
- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性有, 締り強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%含む。
 - 2 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締り強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色土粒<1%, ϕ 1~2mmのローム土粒1%含む。
 - 3 10YR3/3黒褐色土 粘性やや強, 締り強, やや凝結, ϕ 1~3mmのローム土粒1%含む。
 - 4 10YR2/2黒褐色土 粘性強, 締り強, 粘土中硬, ϕ 1~5mmのローム土粒5%含む, 粘結は概ね良好?

- P005**
- 1 10YR3/4黒褐色土 粘性やや強, 締り有, 凝結, ϕ 3mmの橙色粒1%, ϕ 1mmのローム土粒<1%含む。
 - 2 10YR4/6褐色土 ソフトロー, 粘性やや強, 締り強, ϕ 1mmの橙色土粒2% ϕ 1%含む。

- P006**
- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%含む。
 - 2 10YR3/4黒褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%, ϕ 1mmのローム土粒<1%含む。
 - 3 10YR3/3黒褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒<1%, ϕ 1mmのローム土粒強含む。

- P007**
- 1 10YR2/1黒褐色土 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 1mmのローム土粒<10%含む。
 - 2 10YR2/2黒褐色土 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 10mmのローム土粒20%含む。
 - 3 10YR2/1黒褐色土 粘性強, 締り強, 凝結, ϕ 5mmのローム土粒25%含む。

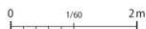
- P008**
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締り有, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒強含む。
 - 2 10YR3/3黒褐色土 粘性やや強, 締り有, 凝結, ϕ 5mmのローム土粒20%含む。
 - 3 10YR3/4黒褐色土 粘性やや強, 締り有, 凝結, ϕ 1mmの橙色粒強含む, ϕ 3~5mmのローム土粒20%含む。

- P009**
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締り有, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒強含む, ϕ 1mmのローム土粒10%含む。
 - 2 10YR3/3黒褐色土 粘性やや強, 締り有, やや凝結, ϕ 3mmのローム土粒10%含む。
 - 3 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締り有, やや凝結, ϕ 1mmのローム土粒強含む, ϕ 3mmのローム土粒10%含む。
 - 4 10YR3/4黒褐色土 粘性やや強, 締り有, やや凝結, ϕ 1mmのローム土粒強含む, ϕ 3mmのローム土粒10%含む。

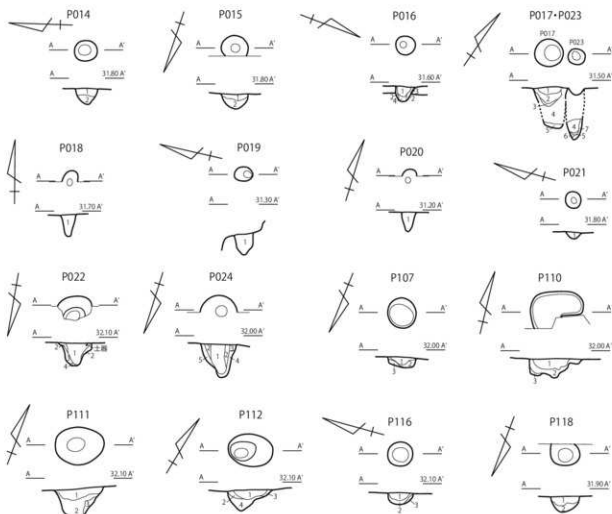
- P010**
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締り有, ϕ 1~3mmのローム土粒10%, ϕ 1~3mmの炭化物強含む。

- P012**
- 1 10YR2/3黒褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒強含む。
 - 2 10YR3/4黒褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmのローム土粒強含む。

- P013**
- 1 10YR3/4黒褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmの橙色粒強含む。
 - 2 10YR4/6褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmのローム土粒10%含む。
 - 3 10YR3/6褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや凝結, ϕ 1mmのローム土粒10%含む。



第132図 縄文時代ピット (1-1) (1/60)



P014

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒少量含む。
- 2 109R3/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmのローム粒少量含む。

P015

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒少量含む。
- 2 109R3/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmのローム粒少量含む。

P016

- 1 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmのローム粒10%含む。
- 2 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmのローム粒10%含む。
- 3 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒10%含む。

P107-P023

- 1 109R2/2葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒2%、φ1mmの炭化物<1%含む。
- 2 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1-2mmの褐色粒1%、φ1-2mmのローム粒1%、φ1mmの炭化物<1%、φ1mmの炭化物<1%、φ1mmのローム粒1%含む。
- 3 109R3/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの炭化物<1%、φ1mmのローム粒1%含む。
- 4 109R4/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの炭化物<1%、φ1-2mmのローム粒10%、φ1mmの褐色粒30%含む。
- 5 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの炭化物<1%、φ1-2mmのローム粒30%含む。
- 6 7.09R3/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒<1%、φ1-2mmのローム粒30%含む。
- 7 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmのローム粒10%含む。

P018

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒少量含む。

P019

- 1 109R3/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、褐色粒<1%含む。

P020

- 1 109R2/2葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmのローム粒70%含む。粗土。

P021

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1-2mmのローム粒1%、φ1mmの褐色粒<1%含む。

P022

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒30%、φ1mmのローム粒10%、φ1mmの炭化物少量含む。
- 2 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒10%、φ3mmのロームブロック少量含む。
- 3 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、粗土と粘土の混在。
- 4 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、粗土と粘土の混在、φ1mmの褐色粒少量含む。

P024

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒10%、φ1mmのローム粒少量含む。
- 2 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒少量、φ5-10mmのロームブロック少量含む。
- 3 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmのローム粒少量含む。
- 4 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1mmの褐色粒少量、φ10mmのロームブロック10%含む。
- 5 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、や中硬土、φ1-2mmの褐色粒<10%含む。

P107

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 2 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 3 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ5mmのロームブロック10%含む。

P110

- 1 109R2/2葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒30%、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 2 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒10%、φ5-10mmのロームブロック10%含む。
- 3 109R4/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ5mmの褐色土10%含む。

P111

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 2 109R4/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ5mmの褐色土ブロック<10%含む。
- 3 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P112

- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 2 109R3/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 3 109R4/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒少量含む。
- 4 109R4/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ5mmの褐色土ブロック<10%含む。

P116

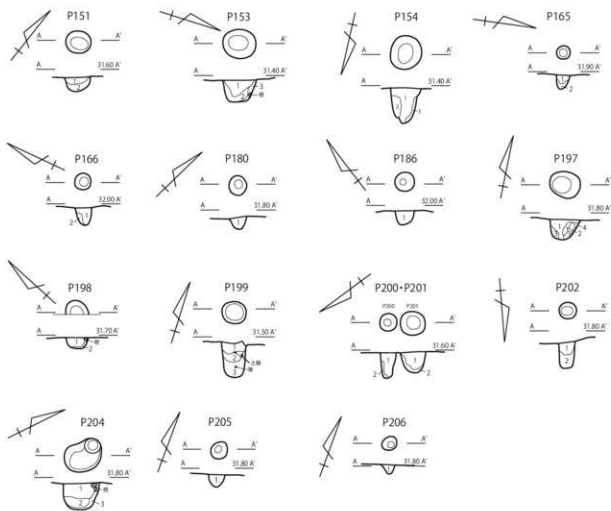
- 1 109R2/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 2 109R3/4葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒10%含む。
- 3 109R4/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P118

- 1 109R2/2葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 2 109R4/3葉肉土 粘性や中気、締りや中気、φ1mmの褐色粒<10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。



第133図 縄文時代ビット (1-2) (1/60)



P151
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの海・褐色粒30%、φ1~3mmの黒色粒<10%含む。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%、φ3mmのロームブロック<10%含む。

P153
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの海・褐色粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmのローム粒<10%含む。
3 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P154
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの海・褐色粒10%含む。
2 10YR3/2黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmのローム粒<10%含む。
3 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P165
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粒<10%、φ1~3mmのローム粒30%、φ5mmのロームブロック10%含む。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック10%含む。

P166
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粒10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック10%含む。

P180
1 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%、φ1~3mmの褐色粒10%、φ1~3mmのローム粒<10%含む。

P186
1 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmのローム粒10%、φ1mmの炭化物<10%含む。

P197
1 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの褐色粒80%、φ5~10mmのロームブロック10%含む。
2 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック10%含む。
3 10YR4/4暗色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの褐色粒10%、φ5~20mmのロームブロック10%含む。
4 10YR4/4暗色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmのローム粒10%含む。

P198
1 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粒<10%、φ5~20mmのロームブロック10%含む。
2 10YR4/3暗・黄褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P199
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粒<10%、φ1mmの炭化物<10%、φ5~10mmのロームブロック10%含む。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの炭化物30%、φ5~10mmのロームブロック10%含む。
3 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmのローム粒10%、φ1mmの炭化物<10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P200
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%、φ1mmの炭化物<10%含む。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。

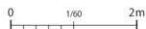
P201
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%、φ1mmの炭化物<10%含む。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P202
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。粗多数。
2 10YR3/3明褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック10%含む。

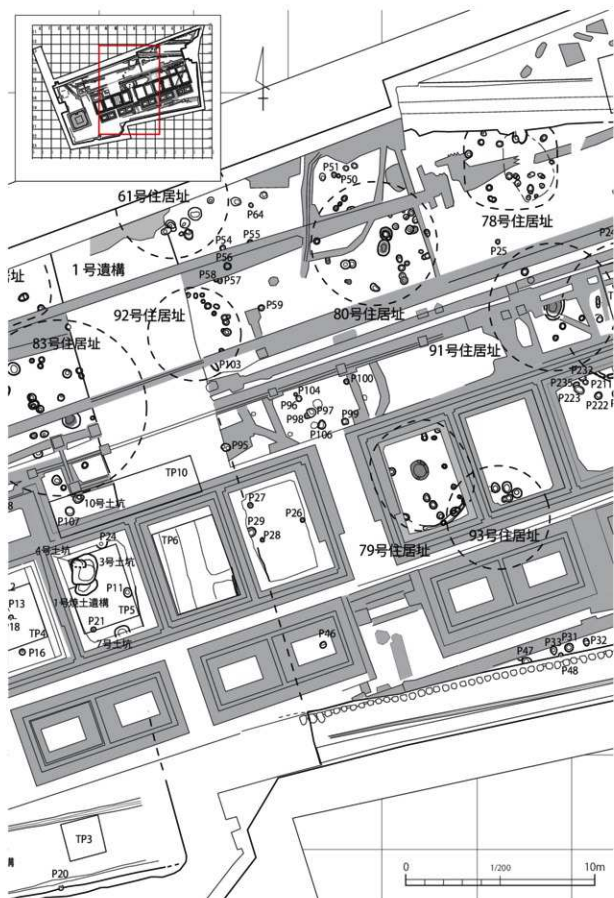
P204
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%含む。
2 10YR4/2灰褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ10mmのロームブロック10%含む。
3 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粒10%、φ5mmのロームブロック10%含む。

P205
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%、φ1~3mmのローム粒<10%含む。

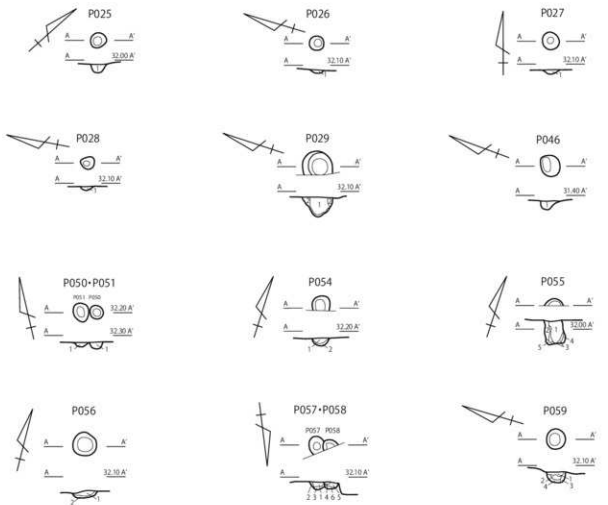
P206
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの海・褐色粒10%、φ1~3mmのローム粒<10%含む。



第135図 縄文時代ピット (1-4) (1/60)



第136図 縄文時代ピット配置図(2) (1/200)



P025
1 10YR2/2黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、やや細粒、φ1mmの褐色粘菌類、φ1mmの炭化物<10%、φ1mmのローム粒10%含む。

P026
1 10YR2/3黒褐色土 粘性有、締り有、φ1mmの褐色色粘・褐色粘菌類含む。

P027
1 10YR2/3黒褐色土 粘性有、締り有、φ1mmの褐色色粘・褐色粘菌類含む。

P028
1 10YR2/3黒褐色土 粘性有、締り有、φ1mmの褐色色粘・褐色粘菌類含む。

P029
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、やや細粒、φ1~3mmの褐色粒10%、φ1mmの炭化物微量、φ1mmのローム粒10%含む。
2 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、やや細粒、φ1mmの褐色粘菌類、φ1mmのローム粒10%、φ5mmのロームブロック微量含む。

P046
1 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、やや粗土、φ1mmのローム粒30%、φ5mmのロームブロック10%、φ1mmの炭化物10%含む。

P050
1 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締り有、φ5mmの暗褐色褐色ロームブロック10%含む。

P051
1 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締り有、φ5mmの暗褐色褐色ロームブロック10%含む。

P054
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類30%含む。
2 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの褐色粒10%、φ5~10mmのロームブロック10%含む。

P055
1 10YR2/2黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの暗褐色粘・褐色粘菌類30%、φ1~3mmのローム粒10%、φ5mmのロームブロック10%含む。
2 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類30%、φ5~10mmの褐色ブロック10%含む。

3 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類10%、φ1mmのローム粒10%、φ5mmのロームブロック微量含む。

4 10YR4/4褐色土 粘性中強、締り中強、φ5mmのロームブロック微量、φ5mmの褐色土ブロック微量含む。

P056
1 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmの暗褐色粒10%含む。
2 10YR4/3褐色土 粘性強、締り強、φ5mmのロームブロック10%含む。

P057-P058
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締り強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類10%含む。
2 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強。

3 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類30%含む。

4 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類10%、φ1~5mmの褐色粘菌類含む。

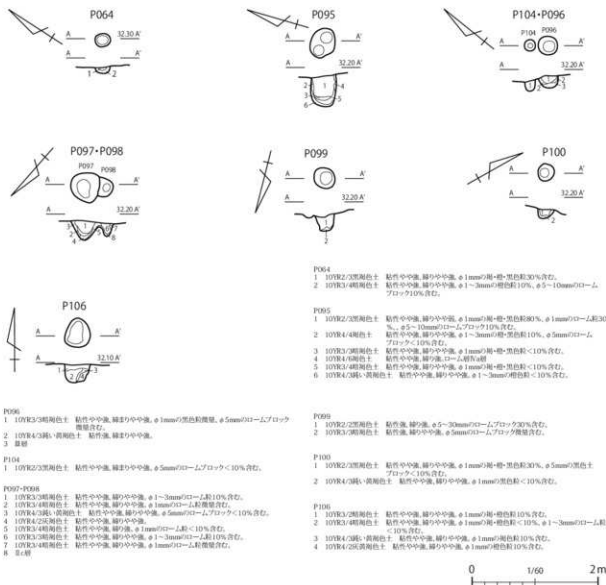
6 10YR4/4褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類10%含む。

P059
1 10YR2/3黒褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1mmの褐色粘・褐色粘菌類10%含む。
2 10YR3/3暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ1~3mmのローム粒30%、φ5mmのロームブロック10%含む。

3 10YR3/4暗褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmの褐色土ブロック10%含む。

4 10YR4/3褐色土 粘性や中強、締りや中強、φ5mmのロームブロック<10%含む。

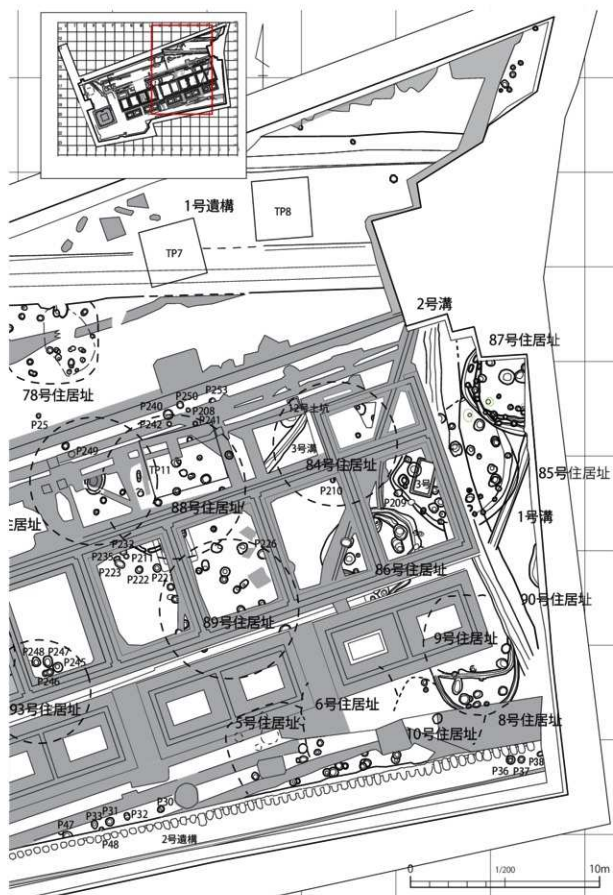
第137図 縄文時代ピット (2-1) (1/60)



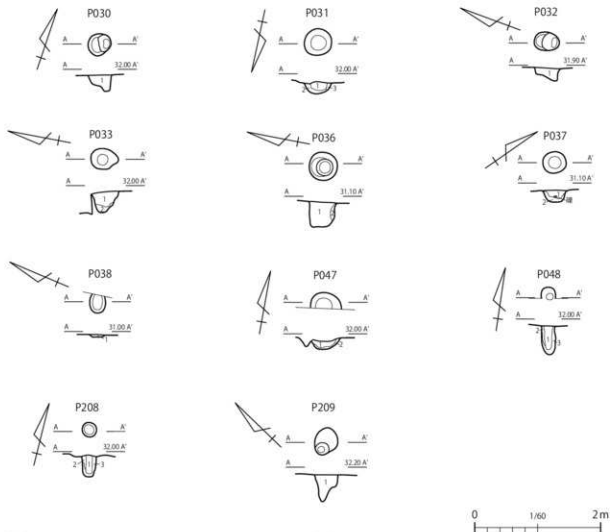
第138図 縄文時代ピット (2-2) (1/60)

57~70は称名寺式土器である。57は波状口縁の頂部に環状の突起を付すもので、側面が鳥形を呈する。58~61、63~65は、帯状区画内に縄文を充填し、62、66~70は帯状区画内に列点を施文する。

72~78は、堀之内式土器である。72~74、78は口唇部に沈線と円形刺突を施文するもので、71は波状口縁の波頂部に円環状の突起を加える。78は隆帯による渦巻状の文様を配し、一部隆帯に沈線と円形刺突を加えている。81号住居地で類似する資料(第65図83)が出土しており、同一個体の可能性がある。75~77は胴部で、75は2本1組の沈線により渦巻状の文様を施文する。76は2本1組の隆帯を弧状に貼付する。77は細い沈線を格子目状に施文する。



第 139 図 縄文時代ピット配置図 (3) (1/200)



P030
1 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有, 締り有, ϕ 1mmのローム粒微量含む。

P031

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量, ϕ 5mmのロームブロック30%含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量, ϕ 5mmのロームブロック<10%含む。

P032

- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有, 締り有, ϕ 1mmのローム粒微量含む。

P033

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや強, 締りやや強, 乾土, ϕ 5~15mmのロームブロック30%含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや強, 締り強, 乾土, ϕ 5mmのロームブロック10%含む。

P036

- 10YR2/2黒褐色土 粘性有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1~3mmのローム粒微量, ϕ 1mmの炭化物微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量含む。

P037

- 10YR4/3黄褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, 炭土とローム土との混在。
- 10YR4/4褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, 1層よりローム土の割合が多い。

P038

- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有, 締りやや有, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量含む。

P047

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量, ϕ 5mmのロームブロック30%含む。

P048

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや強, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmの褐色粒微量, ϕ 5mmのロームブロック微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有, 締りやや強, やや乾土, ϕ 1mmのローム粒微量, ϕ 5mmのロームブロック30%含む。

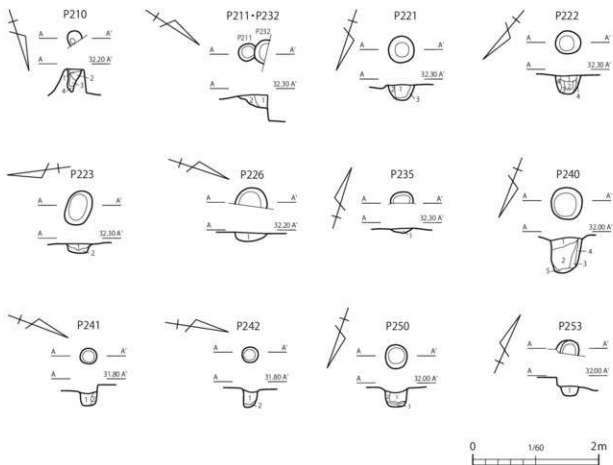
P208

- 10YR4/2灰黄褐色土 粘性やや強, 締りやや強, ϕ 1~3mmの黒・赤・灰色炭50%, ϕ 5mmのロームブロック10%含む。
- 10YR4/3黄褐色土 粘性やや強, 締りやや強, ϕ 1~3mmのローム粒20%, ϕ 1mmの褐色炭10%, ϕ 1~3mmの灰色炭30%, ϕ 5~10mmのロームブロック10%含む。
- 10YR4/3黄褐色土 粘性やや強, 締りやや強, ϕ 1~3mmのローム粒30%, ϕ 1mmの褐色炭10%, ϕ 1~3mmの灰色炭30%, ϕ 5~10mmのロームブロック30%含む。

P209

- 10YR2/2黒褐色土 粘性有, 締り強, ϕ 5~10mmのロームブロック30%, ϕ 5mmの暗褐色土ブロック10%含む。

第140図 縄文時代ピット (3-1) (1/60)



P210

- 1 109R2/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒30%、φ1mmの粗粒粒10%含む。
- 2 109R3/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒<10%、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 3 109R4/4褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5mmの黒色土ブロック<10%、φ1mmのロームブロック10%含む。
- 4 109R3/4黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒<10%、φ5mmのロームブロック30%含む。

P211・P232

- 1 109R2/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒-炭化物10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。
- 2 109R4/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒<10%、φ5-30mmのロームブロック30%含む。

P221

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒<10%含む。
- 2 109R4/3褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5mmの黒色土ブロック10%含む。
- 3 109R3/4黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒10%、φ5mmのロームブロック10%含む。

P222

- 1 109R2/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色-黒色粒30%含む。
- 2 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色-黒色粒<30%含む。
- 3 109R3/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色-黒色粒30%、φ5mmのロームブロック<10%含む。
- 4 109R4/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色-黒色粒30%、φ5mmのロームブロック30%含む。

P223

- 1 109R2/1黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。
- 2 109R4/3褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5mmのロームブロック10%、黒色土ブロック<10%含む。

P226

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒-炭化物10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P241

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒-炭化物10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P242

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒-炭化物10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P250

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色粒-炭化物10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P253

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5-15mmのロームブロック10%含む。

P235

- 1 109R2/1黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmの褐色-黒色粒10%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P240

- 1 109R2/1黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1-3mmのローム粒30%、φ1-3mmの粘土-炭化物10%含む。
- 2 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5mmのロームブロック<10%含む。
- 3 109R2/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 4 109R3/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1mmのローム粒30%、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 5 109R4/3褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5-10mmのロームブロック10%含む。

P241

- 1 109R2/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5-15mmのロームブロック10%含む。
- 2 109R3/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1-3mmのローム粒30%、φ5mmのロームブロック<10%含む。

P242

- 1 109R4/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1-3mmの褐色-黒色粒50%、φ5mmのロームブロック10%含む。
- 2 109R4/3褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1-3mmのローム粒20%、φ1mmの褐色粒10%、φ1-3mmの褐色粒30%、φ5-10mmのロームブロック10%含む。

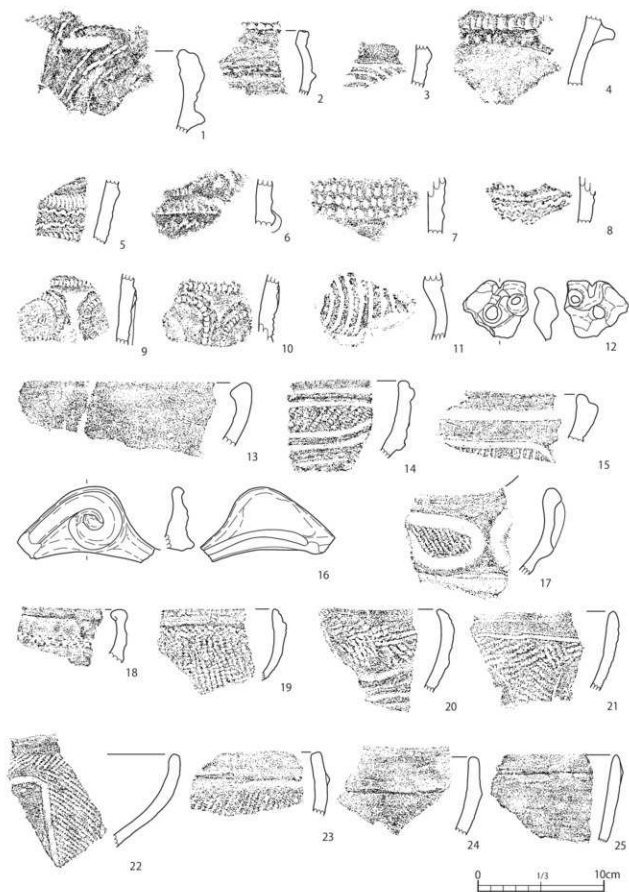
P250

- 1 109R2/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1-3mmのローム粒-粘土炭化物30%、土層片僅かに含む。
- 2 109R3/3黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ1-3mmのローム粒-粘土炭化物30%、φ5-10mmのロームブロック少量、土層片僅かに含む。
- 3 109R3/4黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5mmのロームブロック<10%含む。

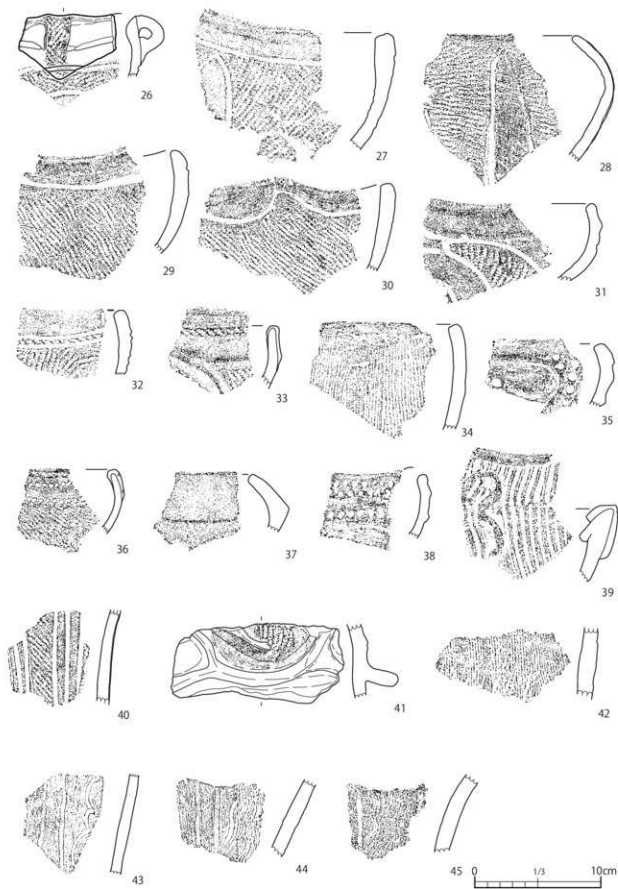
P253

- 1 109R2/2黒褐色土 粘質や中泥、締りや中泥、φ5-15mmのロームブロック10%含む。

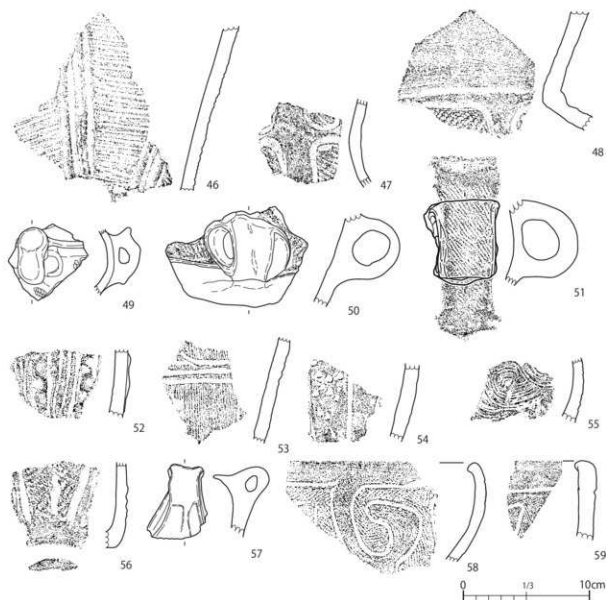
第141図 縄文時代ピット (3-2) (1/60)



第 142 図 遺構外出土遺物 (1) (1/3)



第 143 図 遺構外出土遺物 (2) (1/3)

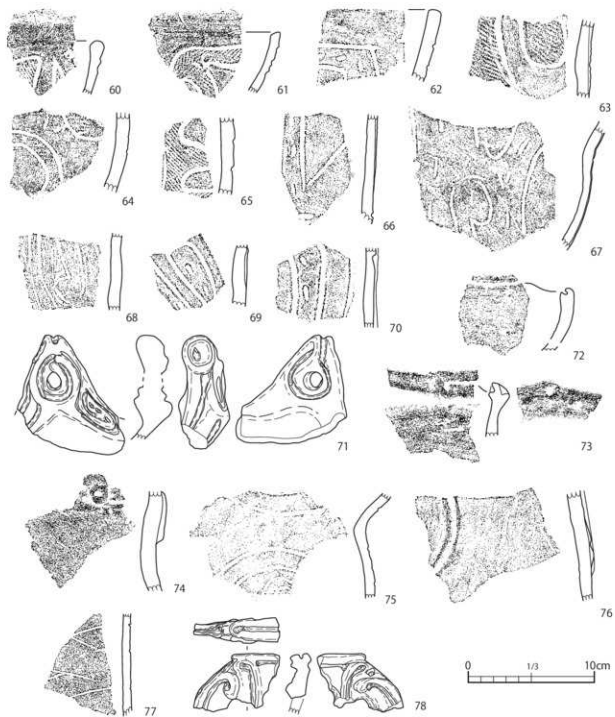


第144図 遺構外出土遺物 (3) (1/3)

B 石器 (第146図・第14表・図版50)

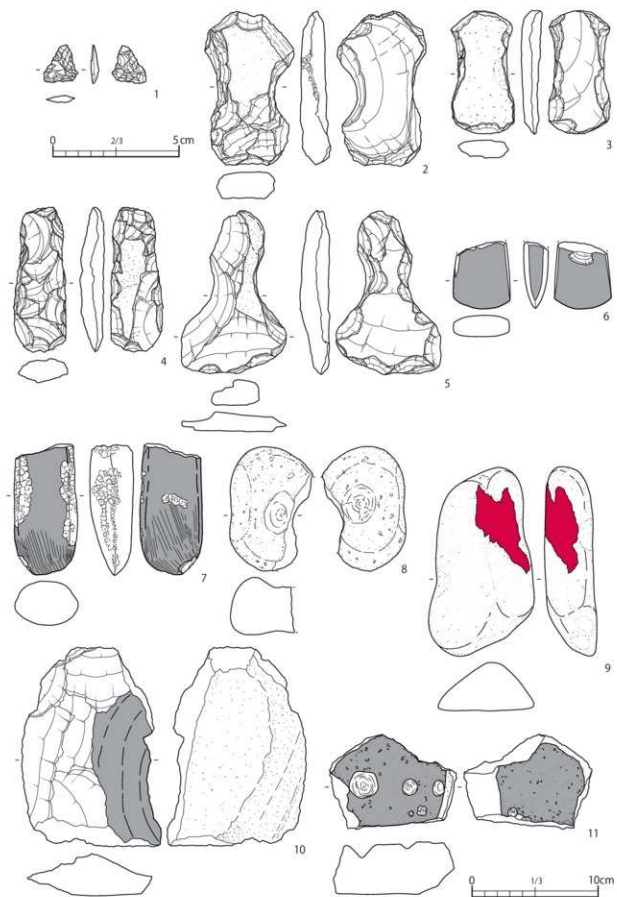
11点を図化して報告する。1は、無茎の黒曜石製石鏃である。剥片を素材として両面加工が施される。2～5は打製石斧である。2と5が分冊形、3と4が短冊形である。2と3が片状砂岩製、4が粘板岩製、5が全面が風化し黄褐色を呈するホルンフェルス製である。2には、両側縁に着柄による潰れが明瞭に残されている。6と7は、磨製石斧である。6が定角状の磨製石斧、7が乳棒状磨製石斧である。6は細粒緑色凝灰岩製、7は角閃岩製である。6、7とも、基部を欠損する。

8は、両面の中央部に窪みを持つ磨石ないしは凹石である。側縁の一部を欠損する。9は、表面に赤彩が付着する磨石である。赤彩は顔料であると思われる。顔料が平坦面に残されている箇所が、使用面であると推測される。



第145図 遺構外出土遺物(4) (1/3)

10と11は石皿である。10は裏面に自然面が残る粗削した礫を素材としている。表面には粗い加工を施して整形している。11は表面に窪みが残されていることから凹石としても考えられる。両面が平坦面を呈し磨痕が僅かに認められる。なお、遺構外から出土した石器の内1と11は、野毛2号墳周濠の覆土からの出土である。



第 146 図 遺構外出土遺物 (5) (2/3・1/3)

第7表 縄文時代 住居一覧表(1)

棟号	区画番号	工区	遺構名	グリッド	規模 (m) 長径 短径 高さ	主軸 方向	備考	棟号	区画番号	工区	遺構名	グリッド	規模 (m) 長径 短径 高さ	主軸 方向	備考					
27	3-3 3-4	C	5号住居	F-G-18-19	4.12 3.40 0.05	N2.0°W	第3次調査	35	5	B	78号住居	I14-15				N7.0°W				
			炉址																	
			壁溝																	
			P1-12																	
			P13	G19	0.37 0.35*	0.33														
28	3-5 3-6	C	6号住居	F18-19			第3次調査	40	6	C	79号住居	J17-18					N28.0°W			
			壁溝																	
			P1-6																	
			P7	F19	0.45 0.42	0.38														
			P8	F19	0.30 0.31	0.42														
			P9	F19	0.38 0.36	0.35														
			P10	F19	0.53* 0.49	0.30														
			P11	F19	0.57 0.41	0.44														
			P12	F19	0.38 0.34	0.44														
			P13	F19	0.37 不明	0.55														
29	-	C	8号住居	D-E18	4.16*4.39*0.36*	N6.0°E	第3次調査	47	6	C	炉址	J17-18	1.06 0.89	0.33						
			炉址																	
			P1-15-25																	
29	-	C	9号住居	D-E18	4.80*4.46*0.20	N5.0°E	第3次調査	47	6	C	埋設土器	J18	0.19 0.19	0.14						
			壁溝																	
29	4-1 4-2	C	10号住居	E18-19	4.50*4.50*0.11	N35°E	第3次調査	48	7	D	80号住居	J-K-15-16					N120°E			
			炉址	E18	0.90 0.60	0.06														
			壁溝																	
			P1-4																	
			P5	E19	0.45 0.43*	0.33														
			P1-18																	
			P19	O16	0.50 0.38	0.23														
30	4-3	D	49号住居	N-O16	7.20*7.20*0.15*	N10.3°W	第16次調査	52	8-1 8-4	D	炉址-1	J-K15	0.68 0.62	0.20						
			土坑1																	
			壁溝																	
			P1-18																	
			P20	O16	0.60* 0.52	0.74														
			P21	O16	0.38 0.36	0.22														
			P22	N16	0.53 0.37	0.22														
			P23	N16	0.40* 0.33	0.30														
			P24	O16	0.62* 0.45*	0.38														
			P25	P16	不明 0.38	0.16														
			P26	Q17	0.25* 0.25	0.29														
31	4-3 -33	D	50号住居	P-Q-16-17	7.03 7.00 0.28	N45°W	第16次調査	52	8-1 8-4	D	埋設土器	J15	0.22 0.17	0.13						
			炉址	P-Q16	1.05 0.90*	0.23														
			壁溝																	
			P1-24																	
			P25	P16	不明 0.38	0.16														
			P26	Q17	0.25* 0.25	0.29														
			P27	P17	0.50 0.43	0.77														
			P28	P17	0.28 0.26	0.29														
			P29	P17	0.55 0.55	0.19														
			P30	P17	0.49 0.47	0.21														
			P31	P17	0.29 0.28	0.21														
			P32	P17	0.46 0.40	0.54														
			P33	P17	0.62* 0.45*	0.38														
			P34	P17	0.62* 0.45*	0.30														
			P35	P17	0.38 0.35	0.18														
P36	P17	0.36 0.32	0.17																	
P37	P16	0.37 0.34	0.09																	
P38	P16	0.56 0.48	0.42																	
P39	P16	0.30 0.30	0.52																	
P40	Q17	0.55 0.42	0.70																	
P41	P17	不明 0.28	0.36																	
P42	P16	0.21 0.21	0.32																	
P43	P17	0.31* 0.23	0.25																	
P44	Q17	0.32 0.26	0.30																	
P45	P17	0.37 0.34	0.18																	
34	-	D	61号住居	L-M-14-15	7.00*7.00*0.10		第16次調査	52	8-1 8-4	D	炉址-2	J-K15	0.84 0.60	0.24						
			壁溝																	
			P1-9																	
			P10	M15	0.26 0.20	0.06														
			P11	M15	0.56 0.46	0.23														

*⇒推定値

*⇒推定値

第9表 縄文時代 ビット一覧表(1)

検出 番号	遺構名	グリッド	規模 (m)			備考
			長径	短径	最深	
131・132	P001	R21	1.16	0.82*	0.54	
131・132	P002	R20	1.06	0.68	0.62	
131・132	P003	R21	1.06	0.70	0.32	
131・132	P004	R21	0.44	0.31	0.22 (0.36)	
131・132	P005	R21	0.50	0.35	0.28	
131・132	P006	Q21	不明	0.47	0.22	
131・132	P007	R21	0.37	0.37	0.51	
131・132	P008	O19	0.31	0.30	0.29	
131・132	P009	O19	0.39	0.33	0.42	
131・132	P010	O19	0.39	0.33	0.15	
131	P011	M19	0.50	0.41	0.13	
131・132	P012	O19	0.45	0.37	0.15	
131・132	P013	N19	0.28*	0.28	0.38	
131・132	P014	O19	0.37	0.32	0.26	
131・132	P015	O19	0.43	0.41*	0.24	
131・132	P016	N19	0.34	0.30	0.26	
131・132	P017	Q20	0.43	0.44	0.66	
131・132	P018	N19	不明	不明	0.35	
131・132	P019	Q22	0.29	0.23	0.33	
131・132	P020	N22	不明	0.23	0.30	
131・132	P021	N19	0.26	0.25	0.12	
131・132	P022	P22	不明	不明	0.37	
131・132	P023	O20	0.27	0.27	0.82	
131・132	P024	M18	0.58	不明	0.54	
136・137	P025	I15	0.26	0.25	0.14	
136・137	P026	K18	0.23	0.23	0.07	
136・137	P027	L18	0.28	0.27	0.07	
136・137	P028	L18	0.23	0.20	0.06	
136・137	P029	L18	0.52*	0.47	0.32	
139・140	P030	H19	0.37	0.36	0.26	
139・140	P031	I19	0.46	0.43	0.18	
139・140	P032	H19	0.40	0.29	0.20	
139・140	P033	I19	0.44	0.33	0.33	
	P034	F19	0.45	0.42	0.38	3次調査 S6P7へ移行
	P035	F19	0.30	0.31	0.42	3次調査 S6P8へ移行
139・140	P036	D19	0.46	0.44	0.40	
139・140	P037	D19	0.37	0.35	0.18	
139・140	P038	D19	0.34*	0.25	0.05	
	P039	F19	0.38	0.36	0.35	3次調査 S6P9へ移行
	P040	F19	0.53*	0.49	0.30	3次調査 S6P10へ移行
	P041	G19	0.37	0.35*	0.33	3次調査 S5P13へ移行
	P042	G19	0.29	0.26*	0.24	3次調査 S5P14へ移行
	P043	E19	0.45	0.43*	0.33	3次調査 S10P5へ移行
	P044	F19	0.57	0.41	0.44	3次調査 S6P11へ移行
	P045	F19	0.37	不明	0.55	3次調査 S6P13へ移行
136・137	P046	K19	0.34	0.30	0.14	
136・140	P047	I19	0.49	不明	0.15	
136・140	P048	I19	0.26*	0.23	0.46	
	P049	F19	0.38	0.34	0.44	3次調査 S6P12へ移行
136・137	P050	K14	0.22	0.21	0.11	
136・137	P051	K14	0.30	0.25	0.07	
	P052	M15	0.26	0.22	0.06	16次調査 S61P10へ移行
	P053	M15	0.57	0.45	0.24	16次調査 S61P11へ移行
136・137	P054	L15	0.32*	0.29	0.12	
136・137	P055	L15	不明	不明	0.40	

*⇒推定値

検出 番号	遺構名	グリッド	規模 (m)			備考
			長径	短径	最深	
136・137	P056	L15	0.38	0.38	0.12	
136・137	P057	L15	0.32*	0.24*	0.13	
136・137	P058	L15	0.26*	0.22*	0.12	
137	P059	L16	0.33	0.30	0.17	
	P060	L16	0.40	0.37	0.32	
	P061	L16	0.32	0.24	0.34	
	P062	L16	0.24*	0.24*	0.28	
	P063	L16	0.33	0.32	0.29	
136・138	P064	L15	0.25	0.22	0.12	
	P065	K15	0.27	0.25	0.32	S80P3へ移行
	P066	K15	0.21	0.18	0.15	S80P4へ移行
	P067	K15	0.32	0.27	0.42	S80P5へ移行
	P068	K15	0.34	0.34	0.35	S80P6へ移行
	P069	L16	0.34	0.33	0.18	
	P070	L16	0.23	0.21	0.09	
	P071	L16	0.22	0.21	0.10	
	P072	M16	0.30	0.22	0.19	
	P073	L16	0.25	0.22	0.18	
	P074	K15	0.49*	0.46	0.76	S80P7へ移行
	P075	K15	0.44	0.38*	0.80	S80P8へ移行
	P076	K15	0.26	0.25*	0.24	S80P9へ移行
	P077	K15	0.18	0.15*	0.13	S80P10へ移行
	P078	K15	0.24	0.22	0.21	S80P11へ移行
	P079	K15	0.24	0.22	0.26	S80P12へ移行
	P080	J15	0.40	0.39*	0.56	S80P13へ移行
	P081	J15	0.36	0.35*	0.57	S80P14へ移行
	P082	J15	0.29	0.29	0.50	S80P15へ移行
	P083	J15	0.32	0.29	0.49	S80P16へ移行
	P084	J15	0.36	0.33	0.34	S80P17へ移行
	P085	J15	0.32	0.32	0.34	S80P18へ移行
	P086	K15	不明	不明	0.69	S80P19へ移行
	P087	J15	0.20	0.22*	0.20	S80P20へ移行
	P088	J15	0.15	0.14*	0.20	S80P21へ移行
	P089	J15	0.36	0.32*	0.22	S80P22へ移行
	P090	J15	0.39	0.28	0.28	S80P23へ移行
	P091	J15	0.41	0.31	0.46	S80P24へ移行
	P092	J15	0.50	0.32	0.44	S80P25へ移行
	P093	L16	0.19	0.19*	0.19	
	P094	L16	0.48	0.22	0.16	
136・138	P095	L17	0.50	0.41	0.50	
136・138	P096	K17	0.31	0.30	0.19	
136・138	P097	K17	0.47	0.45	0.32	
136・138	P098	K17	不明	0.30	0.21	
136・138	P099	K17	0.34	0.33	0.26	
136・138	P100	K17	0.28	0.26	0.15	
	P101	K16	0.53	0.36	0.14	S80P26へ移行
	P102	J15	0.65	0.48	0.80	S80P27へ移行
136	P103	L16	不明	0.31	0.34	
136・138	P104	K17	0.19	0.17	0.16	
	P105	J15	0.27	0.24	0.55	S80P28へ移行
136・138	P106	K17	0.47	0.41	0.20	
131・133	P107	N18	0.49	0.46	0.18	
	P108	N18	0.50	0.46	0.23	S80P21へ移行
	P109	P16	不明	0.38	0.18	16次調査 S50P25へ移行
131・133	P110	O17	0.84	不明	0.30	
131・133	P111	O17	0.79	0.62	0.48	

*⇒推定値

第9表 縄文時代 ビット一覧表(2)

検出番号	遺構名	グリッド	規模 (m)			備考
			長径	短径	最深	
131・133	P112	O17	0.72	0.52	0.34	
	P113	N17	0.34	0.30	0.28	S83P2へ移行
	P114	N17	0.36	0.30	0.30	S83P3へ移行
	P115	N17	0.42	0.33	0.30	S83P4へ移行
131	P116	O17	0.40	0.38	0.20	
	P117	P17	0.37	0.34	0.19	16次調査 S10P45へ移行
131・133	P118	O18	0.46	0.40*	0.25	
	P119	O16	0.50	0.33	0.21	16次調査 S49P19へ移行
	P120	O16	0.63*	0.51	0.74	16次調査 S49P20へ移行
	P121	O16	0.39	0.36	0.22	16次調査 S49P21へ移行
	P122	N17	0.68	0.45	0.21	S83P23へ移行
	P123	N16	0.53	0.38	0.20	16次調査 S49P22へ移行
	P124	N17	0.55	0.46	0.40	S83P6へ移行
	P125	N16	0.68	0.64	0.60	S83P13へ移行
	P126	O16	0.32	0.30	0.29	S83P22へ移行
	P127	N17	不明	0.48	0.56	S83P8へ移行
	P128	N17	0.40	0.40	0.38	S83P5へ移行
131・134	P129	P19	不明	0.38	0.58	
131・134	P130	Q19	0.62	0.60	0.35	
131・134	P131	P19	0.40*	0.40	0.28	
131・134	P132	Q19	0.48	0.32	0.53	
131・134	P133	P18	0.30	0.29	0.42	
131・134	P134	O18	0.50	0.46	0.60	
131・134	P135	P19	0.66	0.51	0.54	
	P136	Q19	0.47	0.38	0.30	S81P2へ移行
	P137	Q19	0.40	0.37	0.18	S81P3へ移行
	P138	Q19	0.40	0.32	0.16	S81P4へ移行
	P139	Q19	0.42	0.41	0.37	S81P5へ移行
	P140	Q19	0.40	0.40	0.36	S81P6へ移行
131・134	P141	Q19	0.65	0.44	0.50	
131・134	P142	Q19	0.63	0.63	0.47	
131・134	P143	Q19	0.52	0.43	0.21	
131・134	P144	P19	0.58	0.47	0.30	
131・134	P145	Q19	0.29	0.28	0.55	
	P146	R19	0.42	0.36	0.32	S81P7へ移行
	P147	N17	0.44	0.42	0.49	S83P7へ移行
131・134	P148	P19	0.30	0.29	0.20	
134	P149	P19	0.35	0.34	0.16	
131・134	P150	O19	0.65	0.40	0.53	
131・135	P151	P19	0.40	0.35	0.24	
	P152	Q17	0.24*	0.24*	0.28	16次調査 S10P26へ移行
131・135	P153	Q20	0.53	0.47	0.34	
131・135	P154	Q19	0.52	0.50	0.56	
	P155	P17	0.50	0.43	0.76	16次調査 S10P27へ移行
	P156	P17	0.26	0.26	0.28	16次調査 S10P28へ移行
	P157	P17	0.55	0.51	0.20	16次調査 S10P29へ移行
	P158	P17	0.39	0.36	0.22	16次調査 S10P30へ移行
	P159	P17	0.34	34.00	0.21	16次調査 S10P31へ移行
	P160	P17	0.44	0.39	0.55	16次調査 S10P32へ移行
	P161	P17	不明	不明	0.38	16次調査 S10P33へ移行
	P162	P17	不明	不明	0.30	16次調査 S10P34へ移行
	P163	P17	0.36	0.36	0.19	16次調査 S10P35へ移行

*⇒推定値

検出番号	遺構名	グリッド	規模 (m)			備考
			長径	短径	最深	
	P164	P17	0.36	0.32	0.17	16次調査 S10P36へ移行
131・135	P165	O16	0.22	0.22	0.23	
131・135	P166	O16	0.26	0.26	0.28	
	P167	R18	1.03	0.31	0.16	S81P8へ移行
	P168	R18	0.39	0.36	0.27	S81P9へ移行
	P169	Q18	0.36	0.34	0.19	S81P10へ移行
	P170	N16	0.45	0.42	0.57	S83P9へ移行
	P171	N16	0.33	0.32	0.52	S83P10へ移行
	P172	N16	0.30	0.26	0.51	S83P11へ移行
	P173	N17	0.34	0.32	0.66	S83P12へ移行
	P174	N16	0.30	0.30	0.44	S83P14へ移行
	P175	N16	0.26	0.25	0.25	S83P15へ移行
	P176	P16	0.37	0.33	0.09	16次調査 S10P37へ移行
	P177	P16	0.56	0.52	0.44	16次調査 S10P38へ移行
	P178	P16	0.30	0.31	0.52	16次調査 S10P39へ移行
	P179	Q17	0.55	0.43	0.72	16次調査 S10P40へ移行
131・135	P180	O18	0.33	0.28	0.21	
	P181	N18	0.27	0.26	0.40	S82P16へ移行
	P182	Q17	不明	0.28	0.35	16次調査 S10P41へ移行
	P183	N16	不明	0.33	0.30	16次調査 S49P23へ移行
	P184	N16	0.35	0.34*	0.16	S83P21へ移行
	P185	M16	0.28*	0.26	0.28	
131・135	P186	O17	0.30	0.30	0.23	
	P187	N17	0.19	0.18	0.28	S83P17へ移行
	P188	J15	0.25	0.21	0.16	S80P29へ移行
	P189	P16	0.22	0.21	0.32	16次調査 S10P42へ移行
	P190	O16	0.63	0.55	0.71	S83P18へ移行
	P191	N16	0.24	0.23	0.30	S83P19へ移行
	P192	O17	0.25	0.23	0.25	S83P20へ移行
	P193	Q17	0.30*	0.24	0.26	16次調査 S10P43へ移行
	P194	Q17	0.37	0.34	0.31	S82P1へ移行
	P195	Q17	0.36	0.34	0.57	S82P2へ移行
	P196	Q17	0.42	不明	0.24	S82P3へ移行
131・135	P197	Q18	0.50	0.42	0.34	
131・135	P198	Q18	不明	0.36	0.17	
131・135	P199	S18	0.39	0.36	0.56	
131・135	P200	R17	0.28	0.27	0.40	
131・135	P201	R17	0.40	0.38	0.34	
131・135	P202	R18	0.28	0.27	0.43	
	P203	Q17	0.33	0.26	0.30	16次調査 S10P44へ移行
131・135	P204	S18	0.64	0.45	0.43	
131・135	P205	S17	0.30	0.27	0.19	
131・135	P206	S17	0.25	0.21	0.15	
	P207	Q17	0.42	0.42*	0.34	S82P4へ移行
139・140	P208	H15	0.24	0.23	0.33	
139・140	P209	E16	0.45	0.37	0.43	
139・141	P210	F16	0.27*	0.23	0.36	
139・141	P211	H17	0.32*	0.28	0.19	
	P212	H17	0.56	0.38	0.45	
	P213	G17	不明	0.38	0.26	
	P214	G17	0.50	0.32	0.44	
	P215	G16	0.56	0.47	0.71	
	P216	G17	0.38	0.33	0.36	

*⇒推定値

第9表 縄文時代 ビット一覧表(3)

採掘番号	遺構名	グリッド	規模 (m)			備考
			長径	短径	最深	
	P217	G17	0.33*	0.31	0.29	
	P218	H17	0.40*	0.38	0.40	
	P219	G16	0.28	0.28	0.67	
	P220	H17	0.36	0.36	0.54	
139・141	P221	H17	0.42	0.40	0.25	
139・141	P222	H17	0.40	0.38	0.30	
139・141	P223	H17	0.58	0.38	0.15	
	P224	G17	0.50	0.50	0.52	
	P225	G17	0.40	0.39	0.40	
139・141	P226	G17	0.52*	0.50	0.16	
	P227	H16	0.52	0.47	0.32	
	P228	H16	0.38	0.29	0.40	
	P229	H16	0.26	0.24	0.70	
	P230	H16	0.40	0.39	0.55	
	P231	H16	0.41	0.35	0.37	
139・141	P232	H16	0.50	0.38	0.64 (0.87)	
	P233	H16	0.48	0.47	0.88	
	P234	H17	0.31	0.31	0.30	
139・141	P235	H17	0.36	0.26*	0.08	

* = 推定値

採掘番号	遺構名	グリッド	規模 (m)			備考
			長径	短径	最深	
	P236	G15	0.42	0.38	0.54	
	P237	H15	不明	0.30	0.38	
	P238	G16	不明	0.28	0.66	
	P239	H16	不明	不明	0.68	
139・141	P240	H15	0.50	0.48	0.55	
139・141	P241	H15	0.27	0.25	0.22	
139・141	P242	H15	0.26	0.26	0.28	
	P243	H17	不明	不明	0.38	
	P244	H17	0.47	0.47*	0.28	
139	P245	H18	0.50	0.50	0.67	
139	P246	H18	0.60	0.38	0.60	
139	P247	H18	0.57	0.46	0.20	
139	P248	H18	0.51	0.43	0.23	
139	P249	H15	0.36	0.30	0.28	
139・141	P250	H15	0.39	0.34	0.29	
	P251	G17	不明	不明	0.58	
	P252	H18	0.27	不明	0.24	
139・141	P253	G15	不明	不明	0.15	

* = 推定値

第10表 縄文時代 遺構出土土器観察表(1)

採掘番号	図面番号	出土地点	時期	型式	器種	保存部位	外面色調	焼成	施文等	備考
39-1	27-178	号住居址	伊	中期中葉	腰盤 3	深鉢	口縁	7.5YR6/8 橙	良	沈線・連続的彫文
39-2	27-278	号住居址	伊	中期中葉	腰盤 3	深鉢	胴部	7.5YR4/3 褐色	良	沈線・隆線(幅広刻文)
39-3	27-328	号住居址	伊	中期中葉	腰盤 3	深鉢	胴部	7.5YR7/8 黄褐色	良	沈線・隆線(刻文)
39-4	27-428	号住居址	F4	中期中葉	腰盤 3	深鉢	胴部	10YR3/1 黒褐色	良	縄文 LR・波状沈線
39-5	27-528	号住居址	P10	中期中葉	腰盤 3	深鉢	胴部	7.5YR4/3 褐色	良	縄文 LR
44-1	27-179	号住居址		中期前葉	阿玉台 1 b	深鉢	胴部	7.5YR4/4 褐色	良	押文・隆帯
44-2	27-279	号住居址		中期後葉	加曾利 E3	深鉢	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	縄文 LR・溝巻文
44-3	27-379	号住居址	一送	中期後葉	加曾利 E3	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	縄文 LR・溝巻文・隆帯
44-4	27-479	号住居址		中期後葉	曾利 III	深鉢	口縁	7.5YR3/4 暗褐色	良	斜行沈線
44-5	27-579	号住居址		中期後葉	加曾利 E2	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	条線・懸垂文
44-6	27-679	号住居址		中期後葉	連弧文	深鉢	胴部	5YR6/6 橙	良	条線・横位沈線・連弧文
44-7	27-779	号住居址	伊	中期後葉	加曾利 E2	深鉢	胴部	10YR8/6 黄褐色	良	縄文 LR・懸垂文
44-8	27-879	号住居址	P10	中期後葉	加曾利 E2	深鉢	胴部	5YR6/8 橙	良	隆帯・条線・懸垂文
44-9	27-979	号住居址		中期後葉	加曾利 E3 末期	深鉢	底部	7.5YR5/6 明褐色	良	横行條線文・斜行沈線・波状沈線
44-10	27-1079	号住居址		中期後葉	加曾利 E	浅鉢	胴部	7.5YR5/6 明褐色	良	無文
44-11	27-1179	号住居址		中期後葉	一	浅鉢	胴部	5YR5/4 土赤褐色	良	無文
52-1	28-180	号住居址	伊	中期後葉	曾利 II	深鉢	胴部	7.5YR5/6 明褐色	良	交互刻文・沈線・隆帯
52-2	28-280	号住居址	伊	中期中葉	腰盤 2	深鉢	胴部	7.5YR6/6 褐色	良	隆帯・沈線・刻目
58-1	28-181	号住居址		中期中葉	腰盤 2	深鉢	胴部	5YR6/8 橙	良	隆帯・横位沈線・波状沈線
58-2	28-281	号住居址		中期後葉	加曾利 E2	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	隆帯・沈線
58-3	28-381	号住居址		中期後葉	加曾利 E2	深鉢	口縁	7.5YR6/4 土赤褐色	良	溝巻文・沈線
58-4	28-481	号住居址	P1	中期後葉	加曾利 E3	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・溝巻文・懸垂文
58-5	28-581	号住居址		中期後葉	加曾利 E4 初	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	縄文 LR・沈線
58-6	28-681	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文 LR
58-7	28-781	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	5YR6/8 橙	良	縄文 LR・沈線
58-8	28-881	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・沈線
58-9	28-981	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	5YR6/6 橙	良	縄文 LR・沈線
58-10	28-1081	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	5YR6/8 橙	良	縄文 LR・沈線・横隆起
58-11	28-1181	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・沈線・横隆起
58-12	28-1281	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・横隆起・沈線
58-13	28-1381	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	10YR6/6 明褐色	良	交互刻文・沈線
58-14	28-1481	号住居址周辺		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文 LR・沈線
59-15	28-1581	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR5/4 土赤褐色	良	縄文 LR・隆帯
59-16	28-1681	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR5/4 土赤褐色	良	縄文 LR・隆帯
59-17	28-1781	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・波状沈線・横隆起
60-18	29-1881	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	逆 U 字状文・縄文 R・壳
60-19	29-1981	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	逆 U 字状文・縄文 R・壳
60-20	29-2081	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	10YR5/4 土赤褐色	良	逆 U 字状文・縄文 R・壳
60-21	29-2181	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	逆 U 字状文・縄文 R・壳
60-22	29-2281	号住居址		中期後葉	加曾利 E4	深鉢	口縁	5YR6/6 橙	良	帯状区画文・縄文 LR

第10表 縄文時代 遺構出土土器観察表(2)

神岡番号	図版番号	出土地点	時期	型式	器種	残存部位	外面色調	焼成	施文等	備考
60-23	29-2381	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文 LR・近 U 字状文	
61-24	29-2481	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	5YR5/8 明赤褐色	良	縄文 LR・沈線・内周刺突文	
61-25	29-2581	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR6/4 IC 赤い褐色	良	結節縄文・沈線	
61-26	29-2681	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文 LR・沈線	
61-27	30-2781	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	近 U 字状文・縄文 LR・充満縄文	
61-28	30-2881	号住居址 P1	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	縄文 LR・沈線・内周刺突文	
61-29	30-2981	号住居址 P1	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・沈線・内周刺突文	
61-30	30-3081	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文 LR・沈線	
61-31	30-3181	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	縄文 LR・沈線・沈線	
61-32	30-3281	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	近 U 字状文・結節状沈線	
61-33	30-3381	号住居址 P1	中期後葉	遺孤文	深鉢	口縁	7.5YR8/8 黄褐色	良	糸線・沈線・遺孤文・遺粉刺突	
61-34	30-3481	号住居址周辺	中期後葉	遺孤文	深鉢	口縁	10YR6/6 明黄褐色	良	糸線・沈線・遺孤文・遺粉刺突	
61-35	30-3581	号住居址周辺	中期後葉	遺孤文	深鉢	口縁	10YR6/4 IC 赤い黄褐色	良	縄文 LR・沈線・遺孤文・交互刺突	
61-36	30-3681	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	10YR6/3 IC 赤い黄褐色	良	散形縄文	
61-37	30-3781	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	10YR7/3 IC 赤い黄褐色	良	無文	
61-38	30-3881	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	10YR8/6 黄褐色	良	無文	
61-39	30-3981	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	無文	
62-40	30-4081	号住居址 P1	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-41	30-4181	号住居址 P1	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-42	30-4281	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-43	30-4381	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR6/6 褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-44	30-4481	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR6/6 褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-45	30-4581	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-46	30-4681	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	10YR4/2 灰黄褐色	良	縄文 LR・磨消縄文・磨粉文	
62-47	30-4781	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	縄文 LR・磨粉文	
62-48	30-4881	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	10YR8/6 黄褐色	良	縄文 R・磨消文	伊土器
62-49	30-4981	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	10YR7/6 明黄褐色	良	沈線・磨粉・縄文 LR・充満縄文	
62-50	30-5081	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR7/6 褐色	良	U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
62-51	31-5181	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR7/6 褐色	良	U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
62-52	31-5281	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR3/1 黒褐色	良	U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
62-53	31-5381	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR7/8 黄褐色	良	U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
62-54	31-5481	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR6/6 褐色	良	対向 U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
62-55	31-5581	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR2/2 黒褐色	良	磨粉状沈線・縄文 LR・磨粉文	
63-56	31-5681	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	10YR3/4 暗褐色	良	磨粉状沈線・充満文 LR・磨消縄文	
63-57	31-5781	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	10YR3/1 黒褐色	良	対向 U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
63-58	31-5881	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	10YR2/3 黒褐色	良	対向 U 字状文・縄文 LR・磨消縄文	
63-59	31-5981	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR7/6 褐色	良	U 字状文・縄文 LR・磨粉文	
63-60	31-6081	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR5/4 IC 赤い褐色	良	磨粉状沈線・縄文 LR・充満縄文	
63-61	31-6181	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR2/2 黒褐色	良	磨粉状沈線・縄文 LR・充満縄文	
63-62	31-6281	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	胴部	7.5YR8/6 洗黄褐色	良	磨粉状沈線・縄文 LR・充満縄文	伊土器
63-63	31-6381	号住居址	中期後葉	加群利 E4 砂	深鉢	胴部	5YR6/8 褐色	良	縄文 LR	
63-64	31-6481	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	高直筒	把手	7.5YR5/8 明褐色	良	縄文 LR	
63-65	31-6581	号住居址周辺	中期後葉	群利 V 砂	深鉢	胴部	7.5YR3/2 黒褐色	良	磨粉文・刺突文	
63-66	31-6681	号住居址周辺	中期後葉	群利 V 砂	深鉢	胴部	7.5YR3/2 黒褐色	良	磨粉文・刺突文	
63-67	31-6781	号住居址周辺	中期後葉	群利 III	深鉢	底部	7.5YR6/6 褐色	良	糸線・磨粉 (内周押線)	
64-68	31-6881	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	底部	7.5YR7/8 黄褐色	良	無文	
64-69	31-6981	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E4	深鉢	底部	7.5YR5/4 IC 赤い褐色	良	沈線	
64-70	32-7081	号住居址	中期後葉	加群利 E4	深鉢	底部	10YR6/4 IC 赤い黄褐色	良	縄文 LR	
64-71	32-7181	号住居址	後期初葉	称名寺中	深鉢	口縁～胴部	10YR8/3 洗黄褐色	良	磨粉状区画文・縄文 LR・充満縄文	
64-72	32-7281	号住居址周辺	後期初葉	称名寺中	深鉢	口縁	7.5YR7/4 IC 赤い褐色	良	磨粉状区画文・縄文 LR・充満縄文	
64-73	32-7381	号住居址	後期前葉	称名寺中	深鉢	口縁	10YR4/4 褐色	良	並行沈線・縄文 LR・充満縄文	
64-74	32-7481	号住居址周辺	後期前葉	称名寺中	深鉢	口縁	7.5YR5/8 明褐色	良	並行沈線・縄文 LR・充満縄文	
64-75	32-7581	号住居址周辺	後期初葉	称名寺中	深鉢	口縁	5YR6/6 褐色	良	磨粉状区画文・縄文 LR・充満縄文	
64-76	32-7681	号住居址周辺	後期初葉	称名寺中	深鉢	口縁	5YR5/8 明赤褐色	良	磨粉状区画文・縄文 LR・充満縄文	
65-77	32-7781	号住居址周辺	後期前葉	堀之内 1 砂	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	旋巻・内周刺突	
65-78	32-7881	号住居址周辺	後期前葉	堀之内 2 砂	深鉢	口縁	5YR6/6 褐色	良	沈線・刻目	

第10表 縄文時代 遺構出土土器観察表(3)

神岡番号	図版番号	出土地点	時期	型式	器種	残存部位	外面色調	焼成	施文等	備考	
65-79	32-79B1	号住居址周辺	後期初葉	称名寺中	深鉢	胴部	7.5YR5/4 じぶい赤褐色	良	帯状施文・縄文LR・光澤施文		
65-80	32-80B1	号住居址	後期初葉	称名寺中	深鉢	胴部	10YR4/4 褐色	良	直行沈線・縄文LR・光澤施文		
65-81	32-81B1	号住居址	後期初葉	称名寺中	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	帯状施文・縄文LR・光澤施文		
65-82	32-82B1	号住居址周辺	後期初葉	称名寺新	深鉢	胴部	5YR7/6 褐色	良	帯状施文・刺突		
65-83	32-83B1	号住居址周辺	後期初葉	堀之内P1	浅鉢	突起	5YR7/6 褐色	良	法線・内面刺突	施土に赤彩残る	
69-1	32-182	号住居址	中期中	—	深鉢	胴部	10YR5/1 褐色	良	無文		
75-1	32-183	号住居址	中期中後葉	連弧文	深鉢	口縁	5YR6/6 褐色	良	直行沈線・連続刺突・集合沈線・波状沈線	小破片	
75-2	32-283	号住居址	中期中後葉	加磨利E3	深鉢	口縁～胴部	10YR7/3 じぶい赤褐色	良	縄文LR・懸垂文・沈線・連垂文・磨治施文		
75-3	32-383	号住居址	中期中後葉	加磨利E3	深鉢	口縁	2.5YR6/8 褐色	良	条線・沈線		
75-4	32-483	号住居址	中期中後葉	加磨利E3式副	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	条線・沈線		
75-5	32-583	号住居址	中期中後葉	連弧文か	深鉢	口縁	5YR5/6 明黄褐色	良	条線・沈線・連続		
75-6	32-683	号住居址	中期中後葉	加磨利E3	深鉢	胴部	5YR4/4 じぶい赤褐色	良	縄文LR・懸垂文・磨治施文		
75-7	32-783	号住居址	中期中後葉	加磨利E4	深鉢	胴部	7.5YR7/6 黄褐色	良	隆帯・波ノリ文字		
78-1	32-184	号住居址	P1	中期中後葉	加磨利E1	深鉢	口縁	5YR4/4 じぶい赤褐色	良	懸垂文・隆帯・沈線	埋戻土器
78-2	32-284	号住居址	中期中後葉	加磨利E4	深鉢	口縁～胴部	10YR3/2 黒褐色	良	縄文LR・沈線		
78-3	32-384	号住居址	中期中後葉	加磨利E1	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	縄文LR・沈線・隆帯		
78-4	32-484	号住居址	中期中後葉	—	深鉢	胴部	5YR4/4 じぶい赤褐色	良	縄文LR		
78-5	32-584	号住居址	P1	中期中	—	胴部	10YR3/2 黒褐色	良	無文	打磨質化陶器片測定	
85-1	32-185	号住居址	前期	膝輪b	深鉢	口縁	7.5YR6/8 褐色	良	直行沈線(半長竹節)・内面刺突(竹節)		
85-2	32-385	号住居址	P4	中期中葉	脚玉台1b	深鉢	口縁	2.5YR6/8 褐色	良	隆帯・押印文	施土に金雲母含む
85-3	32-485	号住居址	中期中葉	脚玉台1b	深鉢	口縁	10YR4/4 褐色	良	隆帯・押印文	施土に金雲母含む	
85-4	32-485	号住居址	P3	中期中葉	磨覆1	深鉢	口縁	5YR4/6 褐色	良	直行沈線・連続彫形文	
85-5	32-585	号住居址	中期中後葉	磨覆1	深鉢	口縁	7.5YR4/3 褐色	良	縄文LR・斜目・押印文		
85-6	32-685	号住居址	中期中後葉	磨覆1	深鉢	口縁	10YR4/2 黄褐色	良	波状沈線・押印文	施土に金雲母含む	
85-7	32-785	号住居址	中期中中葉	磨覆2	深鉢	口縁	7.5YR5/4 じぶい赤褐色	良	縄文LR・沈線		
85-8	32-885	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁	10YR3/3 暗褐色	良	沈線・幅広刺突		
85-9	32-985	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁	10YR3/2 暗褐色	良	沈線・隆帯(斜目)		
85-10	32-1085	号住居址	中期中後葉	磨覆3	深鉢	口縁	10YR3/3 暗褐色	良	隆帯(斜目)		
85-11	32-1185	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁	10YR3/4 暗褐色	良	沈線		
85-12	32-1285	号住居址	中期中後葉	磨覆3	深鉢	口縁	7.5YR4/6 褐色	良	縄文LR・隆帯(斜目)		
85-13	34-1385	号住居址周辺	中期中後葉	磨覆3	深鉢	口縁	7.5YR6/8 褐色	良	縄文LR・隆帯(斜目)・交互刺突		
85-14	34-1485	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁	7.5YR6/8 褐色	良	磨治質灰赤褐色・隆帯(斜目)・集合紋区画・三叉文		
86-15	34-1585	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	突起	7.5YR5/4 じぶい赤褐色	良	磨治質区画・連続刺突・三叉文・磨治質区画		
87-16	35-1685	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁～胴部	10YR3/4 暗褐色	良	縄文LR・磨治質区画・連続刺突・交互刺突・集合沈線		
87-17	35-1785	号住居址	中期中後葉	加磨利E1	深鉢	口縁～胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	縄文LR・懸垂文・交互刺突	99-0 地点型深鉢	
88-18	35-1885	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	7.5YR6/8 褐色	良	磨治質三角形区画・波状沈線・連続刺突・三叉文・角押文・隆帯(斜目)	伊体土器	
89-19-1	35-19-185	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁～胴部	10YR3/2 暗褐色	良	隆帯・磨治文・沈線		
89-19-2	35-19-285	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部～底部	10YR3/2 暗褐色	良	無文	19-1と同一個体	
89-20	35-2085	号住居址	中期中後葉	磨覆1	深鉢	胴部	7.5YR4/6 褐色	良	隆帯・磨治質区画・角押文	施土に金雲母含む	
89-21	35-2185	号住居址	中期中前葉	磨覆1	深鉢	胴部	7.5YR5/6 明褐色	良	隆帯・押印文		
89-22	36-2285	号住居址	中期中中葉	磨覆2	深鉢	胴部	7.5YR7/8 黄褐色	良	磨治文・沈線		
89-23	36-2385	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	7.5YR5/6 明褐色	良	縄文LR・隆帯(斜目)・明垂文		
89-24	36-2485	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	斜行沈線・隆帯(斜目)		
89-25	36-2585	号住居址	中期中中葉	磨覆3か	深鉢	胴部	10YR3/4 暗褐色	良	隆帯(斜目)・連続刺突		
89-26	36-2685	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	7.5YR4/4 褐色	良	懸垂文・隆帯		
89-27	36-2785	号住居址周辺	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	10YR5/6 黄褐色	良	沈線・隆帯(斜目)		
90-28	36-2885	号住居址	中期中中葉	—	深鉢	胴部	7.5YR3/3 暗褐色	良	縄文LR		
90-29	36-2985	号住居址	中期中中葉	—	深鉢	胴部	7.5YR4/6 褐色	良	縄文LR		
90-30	36-3085	号住居址	中期中中葉	—	深鉢	胴部	7.5YR5/6 明褐色	良	条線		
90-31	36-3185	号住居址	中期中中葉	—	深鉢	底部	7.5YR5/6 明褐色	良	縄文LR		
90-32	36-3285	号住居址	中期中中葉	—	深鉢	底部	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文LR		
91-33	36-3385	号住居址	中期中中葉	磨覆3	浅鉢	突起	5YR6/8 褐色	良	無文	裡方に赤彩残る	
91-34	37-3485	号住居址	中期中中葉	磨覆3	浅鉢	口縁～胴部	10YR7/4 じぶい赤褐色	良	無文		
91-35	37-3585	号住居址	中期中中葉	磨覆3	浅鉢	口縁～胴部	10YR4/4 褐色	良	無文		
92-36	37-3685	号住居址	中期中中葉	磨覆3	浅鉢	口縁～胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	無文	口縁部に特殊丸	
92-37	37-3785	号住居址	中期中中葉	磨覆3	浅鉢	口縁	7.5YR4/3 褐色	良	無文	内外面に赤彩残る	
100-1	37-186	号住居址	P6	中期中中葉	磨覆2	深鉢	口縁	7.5YR2/2 黒褐色	良	縄文LR・連続彫形文・波状沈線	
100-2	37-286	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	口縁	5YR4/6 赤褐色	良	隆帯・磨治質区画・沈線		
100-3	37-386	号住居址	P6	中期中前葉	磨覆1	深鉢	胴部	10YR7/6 明黄褐色	良	隆帯・連続刺突・角押文・三叉文	
100-4	37-486	号住居址	P7	中期中中葉	磨覆2	深鉢	胴部	10YR5/8 黄褐色	良	連続彫形文・隆帯・磨治文	
100-5	37-586	号住居址	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	10YR5/6 黄褐色	良	隆帯(斜目)・沈線		
100-6	37-686	号住居址	SK1	中期中中葉	磨覆3	深鉢	胴部	5YR4/6 赤褐色	良	隆帯(斜目)・沈線	

第 10 表 縄文時代 遺構出土土器観察表 (4)

神岡番号	図版番号	出土地点	時期	型式	器種	残存部位	外面色調	構成	施文等	備考	
100-7	37-786	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁~胴部	7.5YR4/1 褐灰	良	黒丸・隆帯・横 5 字状文・土状隆帯	出土に金倉母倉石	
101-8	38-886	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁	7.5YR4/1 褐灰	良	黒丸・隆帯		
101-9	38-886	号住居址	中期後葉	加群利 E1 片	深鉢	胴部	10YR5/4 IC.赤い黄緑	良	条線		
101-10	38-1186	号住居址	中期後葉	加群利 E1 片	深鉢	口縁	5YR5/8 明赤褐	良	黒丸・隆帯	表面熱帯汗	
101-11	38-1186	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	5YR6/6 橙	良	無文		
101-12	38-1286	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	底部	10YR3/2 黒褐	良	無文		
101-13	38-1286	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	底部	5YR6/6 橙	良	無文		
106-1	38-187	号住居址	中期前葉	瓣蓋 1	深鉢	口縁	10YR5/4 IC.赤い褐	良	隆帯・胸門区画・押引文・波状沈線		
106-2	38-287	号住居址	中期中葉	瓣蓋 2	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	隆帯 (胸門)		
106-3	38-387	号住居址	中期中葉	瓣蓋 3	深鉢	口縁	5YR4/3 IC.赤い黄緑	良	沈線・溝帯文・3 字状文		
106-4	38-487	号住居址	中期中葉	瓣蓋 3	深鉢	口縁	7.5YR6/8 橙	良	沈線・集合沈線		
106-5	38-587	号住居址	中期前葉	瓣蓋 1	深鉢	胴部	10YR6/4 IC.赤い黄緑	良	胸門区画・隆帯・押引文		
106-6	38-687	号住居址	中期中葉	瓣蓋 2	深鉢	胴部	7.5YR4/6 橙	良	沈線・溝帯文		
106-7	38-787	号住居址	中期中葉	瓣蓋 3	深鉢	胴部	7.5YR6/4 IC.赤い褐	良	沈線・隆帯 (胸門)・3 字状文		
106-8	38-887	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁	10YR6/3 IC.赤い黄緑	良	縄文 L 隆帯		
106-9	38-987	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁	7.5YR4/4 橙	良	縄文 L 隆帯		
106-10	38-1087	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁	7.5YR7/6 橙	良	沈線・隆帯		
106-11	38-1187	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁	7.5YR5/8 明褐	良	沈線・隆帯		
106-12	38-1287	号住居址	中期後葉	加群利 E1	深鉢	口縁	7.5YR4/6 橙	良	縄文 L 隆帯・溝帯文・沈線・隆帯		
106-13	38-1387	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	10YR5/6 黄褐	良	条線・沈線・隆帯		
106-14	38-1487	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	7.5YR4/4 橙	良	沈線・隆帯		
106-15	38-1587	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	10YR4/3 IC.赤い黄緑	良	縄文 L 隆帯・旅行壺蓋文		
106-16	38-1687	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	10YR6/4 IC.赤い黄緑	良	縄文 L 隆帯・旅行壺蓋文・溝帯文		
106-17	38-1787	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	10YR3/3 暗褐	良	縄文 L 隆帯・沈線		
106-18	38-1887	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	縄文 L 隆帯・溝帯文		
106-19	38-1987	号住居址周辺	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	10YR3/2 黒褐	良	縄文 L 隆帯・溝帯文		
107-20	39-2087	号住居址	P7	中期後葉	加群利 E2	深鉢	口縁	10YR3/3 暗褐	良	縄文 L 隆帯・溝帯文	埋設土器
107-21	39-2187	号住居址	中期後葉	加群利 E2 片	深鉢	口縁	10YR7/8 黄褐	良	縄文 L 隆帯・沈線		
107-22	39-2287	号住居址	中期後葉	加群利 E2 片	深鉢	口縁	5YR7/8 橙	良	縄文 L 隆帯		
107-23	39-2387	号住居址	中期後葉	加群利 E2 片	深鉢	口縁	7.5YR5/8 明褐	良	縄文 L 隆帯		
108-24	39-2487	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	条線・沈線・溝帯文		
108-25	39-2587	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	10YR6/4 IC.赤い黄緑	良	条線・沈線・溝帯文・溝帯文		
108-26	39-2687	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	10YR8/3 浅黄褐	良	条線・沈線・溝帯文・溝帯文		
108-27	39-2787	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	10YR6/4 IC.赤い黄緑	良	条線・沈線・溝帯文・交互刻文		
108-28	39-2887	号住居址	P10	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	10YR3/1 黒褐	良	縄文 L 隆帯・溝帯文・交互刻文	
108-29	39-2987	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	5YR5/8 明赤褐	良	黒丸・溝帯文		
108-30	39-3087	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	口縁	7.5YR5/8 明褐	良	黒丸・溝帯文		
108-31	39-3187	号住居址	中期後葉	管形 II	深鉢	口縁	10YR5/6 黄褐	良	溝帯文 (条線・隆帯)		
108-32	39-3287	号住居址	中期後葉	管形 III	深鉢	口縁	7.5YR6/8 橙	良	斜行沈線		
108-33	39-3387	号住居址	中期後葉	管形 III	深鉢	口縁	7.5YR6/6 橙	良	隆帯・沈線		
108-34	39-3487	号住居址	中前期	管形 II 片	深鉢	口縁	10YR5/6 黄褐	良	縄文 L 隆帯		
108-35	39-3587	号住居址	中期後葉	管形 II	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	斜行文・溝弧文		
108-36	39-3687	号住居址	中期後葉	管形 II	深鉢	口縁	10YR4/2 灰黄褐	良	斜行文・車轂文		
108-37	39-3787	号住居址周辺	中期後葉	管形 III 片	深鉢	口縁	7.5YR4/3 橙	良	斜行文・車轂文		
109-38	39-3887	号住居址	P1	中期後葉	管形 III	深鉢	口縁	10YR5/3 IC.赤い黄緑	良	縄文 L 隆帯・交互刻文・溝帯文	埋設土器
109-39	40-3987	号住居址	中期後葉	溝弧文系	深鉢	底部	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	縄文 L 隆帯・溝帯文・溝帯文		
110-40	40-4087	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	10YR4/4 橙	良	無文	表面赤褐色	
110-41	40-4187	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	無文		
110-42	40-4287	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	10YR3/1 黒褐	良	無文	表面赤褐色	
110-43	40-4387	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	10YR7/4 IC.赤い黄緑	良	沈線		
110-44	40-4487	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	10YR4/4 橙	良	無文		
110-45	40-4587	号住居址	中期後葉	—	浅鉢	口縁	7.5YR5/8 明褐	良	無文		
110-46	40-4687	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	10YR5/3 IC.赤い黄緑	良	沈線・集合沈線・隆帯		
110-47	40-4787	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	10YR5/4 IC.赤い黄緑	良	条線・沈線・熱帯文		
110-48	40-4887	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐	良	縄文 L 隆帯・熱帯文		
110-49	40-4987	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	7.5YR4/4 橙	良	黒丸・沈線・熱帯文		
110-50	40-5087	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	7.5YR2/2 黒褐	良	条線・沈線・熱帯文		
110-51	40-5187	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	10YR3/4 暗褐	良	縄文 L 隆帯・熱帯文		
110-52	40-5287	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	10YR4/2 灰黄褐	良	縄文 L 隆帯・熱帯文		
110-53	40-5387	号住居址	中期後葉	加群利 E2	深鉢	胴部	7.5YR5/4 IC.赤い褐	良	縄文 L 隆帯・熱帯文		
110-54	40-5487	号住居址	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR6/6 橙	良	胸門区画・隆帯・沈線		
110-55	40-5587	号住居址	中期後葉	加群利 E3	深鉢	胴部	7.5YR6/4 橙	良	旅行沈線・斜行沈線・熱帯文		
110-56	40-5687	号住居址	中期後葉	加群利 E3 片	深鉢	胴部	7.5YR7/4 IC.赤い黄緑	良	縄文 L 隆帯・溝帯文・沈線		
111-57	40-5787	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	胴部	10YR7/4 IC.赤い黄緑	良	黒丸・溝帯文・熱帯文		
111-58	40-5887	号住居址	中期後葉	溝弧文	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐	良	条線・沈線・隆帯		
111-59	41-5987	号住居址	中期後葉	管形 II	深鉢	胴部	10YR3/1 黒褐	良	縄文 L 隆帯		
111-60	41-6087	号住居址	中期後葉	管形 II	深鉢	胴部	10YR4/3 IC.赤い黄緑	良	縄文 L 隆帯・熱帯文		
111-61	41-6187	号住居址	中期後葉	管形 III	深鉢	胴部	5YR5/8 明赤褐	良	斜行文・溝帯文		
111-62	41-6287	号住居址	中期後葉	管形 III 片	深鉢	胴部	10YR2/2 灰白	良	隆帯・沈線・波状沈線		

第 10 表 縄文時代 遺構出土土器観察表 (5)

探跡番号	図版番号	出土地点	時期	型式	器種	残存部位	外面色調	焼成	施文等	備考
111-63	41-6387	号住原址	中期後葉	管形口か	深鉢	胴部	7.5YR5/8 明褐色	良	縄文 R.L.・幾等 (連続列突)	
111-64	41-6487	号住原址	中期後葉	—	深鉢	底部	7.5YR5/6 明褐色	良	網代敷	
111-65	41-6587	号住原址	中期後葉	—	深鉢	底部	7.5YR6/6 褐色	良	沈線	
111-66	41-6687	号住原址周辺	中期後葉	管形口式部分	有孔筒形	胴部	7.5YR4/6 褐色	良	無文	段状歯
111-67	41-6787	号住原址周辺	後期初葉	称名寺中	深鉢	口縁	5YR4/8 赤褐色	良	帯状区画文・縄文 R.L.・几等	
119-1	41-189	号住原址	中期後葉	管形口	深鉢	口縁	10YR5/6 黄褐色	良	帯状区画文・縄文 R.L.・幾等	
121-1	41-190	号住原址	中期前葉	阿玉台 1 b か	深鉢	胴部	5YR6/8 褐色	良	沈線	帯状区画文・縄文 R.L.・幾等
121-2	41-290	号住原址	中期中葉	熊飯 1	深鉢	胴部	10YR4/6 褐色	良	幾等・押引文	
121-3	41-390	号住原址	中期中葉	—	深鉢	胴部	10YR3/1 黒褐色	良	縄文 R.L.	
124-1	41-191	号住原址	中	熊飯 1	深鉢	胴部	5YR6/6 褐色	良	角押文	
124-2	41-291	号住原址	P2	中期中葉	—	浅鉢	口縁	5YR6/6 褐色	無文	管形の口縁部分?

第 11 表 縄文時代 遺構出土土器観察表

探跡番号	図版番号	出土地点	時期	器種	外面色調	焼成	施文等	備考	
64-84	32-8481	号住原址周辺	中期後葉	土器片断	7.5YR5/4 IC.5L・褐色	良	沈線	胴部転用・E4	
64-85	32-8581	号住原址周辺	中期後葉	土器片断	7.5YR6/4 IC.5L・褐色	良	沈線	胴部転用・E4	
92-38	37-3883	号住原址	中期中葉	土製内甕	7.5YR7/6 褐色	良	沈線	胴部転用	
92-39	37-3983	号住原址周辺	中期中葉	土製内甕	7.5YR3/2 黒褐色	良	縄文 R.L.	胴部転用	
92-40	37-4083	号住原址	中期中葉	土製内甕	7.5YR5/4 IC.5L・褐色	良	無文	胴部転用	
92-41	37-4183	号住原址	中期中葉	土製内甕	7.5YR6/6 褐色	良	沈線	胴部転用	
92-42	37-4283	号住原址	中期中葉	土製片断	10YR4/2 IC.5L・黄褐色	良	無文	胴部転用	
92-43	37-4383	号住原址	中期中葉	土製片断	7.5YR3/3 黄褐色	良	無文	胴部転用	
92-44	37-4483	号住原址	中期中葉	土製片断	7.5YR3/1 黒褐色	良	無文	胴部転用	
111-68	41-6887	号住原址	中期	土器片断	5YR4/8 赤褐色	良	無文	胴部転用	
111-69	41-6987	号住原址	一様	中期	有孔内甕	7.5YR5/3 褐色	良	無文	胴部転用
111-70	41-7087	号住原址	中期	土製内甕	10YR6/4 IC.5L・黄褐色	良	条線	胴部転用	

第 12 表 縄文時代 遺構外出土土器観察表 (1)

探跡番号	図版番号	調査区	出土地点	時期	型式	器種	残存部位	外面色調	焼成	施文等	備考
142-1	47-1	A	R21	中期前葉	阿玉台 1 b	深鉢	口縁	5YR7/6 褐色	良	幾等・押引文	粘土に金言母を含む
142-2	47-2	D	Q19	中期前葉	阿玉台 1 b	深鉢	口縁	7.5YR3/1 黒褐色	良	幾等・押引文・刺突	粘土に金言母を含む
142-3	47-3	D	Q19	中期前葉	熊飯中平か	深鉢	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	幾等・押引文	粘土に金言母を含む
142-4	47-4	E	D14	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	5YR5/8 明赤褐色	良	幾等・角押文	
142-5	47-5	D	N17	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	7.5YR4/4 褐色	良	縄文 R.L.・連続凹文・条線・沈線	粘土に金言母を含む
142-6	47-6	A	R21	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	7.5YR6/6 褐色	良	幾等・爪形文・面線状文	
142-7	47-7	D	P18	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	10YR4/3 IC.5L・黄褐色	良	幾等・刺突	粘土に金言母を含む
142-8	47-8	D	O17	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	7.5YR5/3 IC.5L・褐色	良	縄文 R.L.・角押文・帯状区画文・押引文	粘土に金言母を含む
142-9	47-9	D	P19	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	7.5YR7/2 灰褐色	良	帯状区画文・角押文	
142-10	47-10	D	P18	中期前葉	熊飯 1	深鉢	胴部	5YR4/3 IC.5L・赤褐色	良	帯状区画文・角押文	
142-11	47-11	D	Q20	中期中葉	熊飯 3 か	深鉢	胴部	5YR5/6 明赤褐色	良	押引文	粘土に金言母を含む
142-12	47-12	D	P18	中期中葉	—	浅鉢	口縁・突起	5YR6/6 褐色	良	沈線・刺突	網紋状突起か
142-13	47-13	A	R21	中期	—	浅鉢	口縁	10YR4/3 IC.5L・黄褐色	良	無文	
142-14	47-14	E	D15	中期後葉	加賀利 E2	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 R.L.・沈線・幾等	
142-15	47-15	E	D15	中期後葉	加賀利 E2	深鉢	口縁	7.5YR3/1 黒褐色	良	縄文 R.L.・沈線・幾等	
142-16	47-16	D	R18	中期後葉	加賀利 E3	深鉢	口縁	10YR5/2 灰黄褐色	良	沈線・透赤文	
142-17	47-17	D	P19	中期後葉	加賀利 E3	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	縄文 R.L.・沈線	
142-18	47-18	A	M22	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR7/4 IC.5L・黄褐色	良	縄文 R.L.・沈線・帯状区画文	
142-19	47-19	D	P19	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	縄文 R.L.・沈線・帯状区画文・縄文 R.L.・几等	
142-20	47-20	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.5L・褐色	良	帯状区画文・帯状区画文・縄文 R.L.・沈線	
142-21	47-21	D	Q19	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR4/2 灰黄褐色	良	帯 U 字状文・縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-22	47-22	A	R20	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	5YR7/8 褐色	良	帯 U 字状文・縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-23	47-23	D	Q18	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR7/4 黄褐色	良	縄文 R.L.・幾等突起	
142-24	47-24	D	N18	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	5YR6/6 褐色	良	無文・幾等突起	
142-25	47-25	D	R19	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR6/6 褐色	良	無文・幾等突起	
142-26	47-26	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁・把手	7.5YR7/4 IC.5L・褐色	良	縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-27	47-27	D	R17	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/8 黄褐色	良	帯 U 字状文・縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-28	47-28	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.5L・褐色	良	帯 U 字状文・縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-29	47-29	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR3/2 黄褐色	良	縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-30	47-30	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR6/8 褐色	良	縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-31	47-31	A	R20	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR6/4 IC.5L・黄褐色	良	帯状区画文・縄文 R.L.・几等・縄文・沈線	
142-32	47-32	D	N18	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR5/2 灰黄褐色	良	縄文 R.L.・沈線	
142-33	47-33	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR5/4 IC.5L・褐色	良	縄文 R.L.・幾等突起	
142-34	48-34	D	P18	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	7.5YR7/6 褐色	良	条線	
142-35	48-35	D	O18	中期後葉	加賀利 E4	筒形	口縁	7.5YR6/8 褐色	良	幾等突起・沈線・内凹刺突	磁器形
142-36	48-36	A	R21	中期後葉	加賀利 E4	深鉢	口縁	10YR6/6 明黄褐色	良	縄文 R.L.・内凹刺突・幾等突起	

第12表 縄文時代 遺構外出土土器観察表(2)

押附番号	図版番号	調査区	出土 地点	時期	型式	器種	残存部位	外面色調	規尺	施文等	備考
143-37	48-37	E	E15	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	口縁	10YR4/4	良	帯隆起帯	
143-38	48-38	A	O22	中期後葉	加蓋刺E4方	深鉢	口縁	7.5YR3/1 黒褐色	良	沈線、円形刺突、帯隆起帯	
143-39	48-39	E	E15	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	口縁	10YR6/6 明黄褐色	良	帯隆起帯	
143-40	48-40	A	R21	中期後葉	加蓋刺E3	深鉢	胴部	7.5YR6/6 橙	良	縄文LR、円形刺突	
143-41	48-41	A	R20	中期後葉	加蓋刺E3	高耳壺	胴部	7.5YR7/4 橙	良	縄文LR、沈線、隆帯	
143-42	48-42	D	S19	中期後葉	加蓋刺E3	深鉢	胴部	10YR4/2 灰黄褐色	良	条線	
143-43	48-43	A	M22	中期後葉	加蓋刺E3	深鉢	胴部	10YR3/1 黒褐色	良	条線、斜線文、短沈線	
143-44	48-44	A	M22	中期後葉	加蓋刺E3	深鉢	胴部	7.5YR6/4 紅褐色	良	条線、斜線文、短沈線	
143-45	48-45	D	N17	中期後葉	加蓋刺E3	深鉢	胴部	10YR3/1 黒褐色	良	条線	
144-46	48-46	A	N22	中期後葉	加蓋刺E3方	深鉢	胴部	7.5YR6/6 橙	良	斜線文、横線集合沈線、隆帯	
144-47	48-47	A	Q21	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	胴部	7.5YR7/6 橙	良	円筒U字状文、縄文LR、短沈線	
144-48	48-48	E	E15	中期後葉	加蓋刺E4	高耳壺	胴部	10YR6/6 黄褐色	良	短U字状文、縄文LR、沈線	
144-49	48-49	A	P22	中期後葉	加蓋刺E4	高耳壺	把手、胴部	7.5YR7/6 橙	良	縄文LR、隆帯	
144-50	48-50	D	P19	中期後葉	加蓋刺E4	高耳壺	把手、胴部	7.5YR7/6 橙	良	縄文LR、帯隆起帯	
144-51	48-51	A	Q22	中期後葉	加蓋刺E4	高耳壺	把手	7.5YR7/6 橙	良	縄文LR	
144-52	48-52	D	P16	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	胴部	7.5YR6/6 橙	良	集合沈線、隆帯、交互刺突	
144-53	48-53	E	E15	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	胴部	7.5YR5/4 紅褐色	良	条線、沈線、透線文	
144-54	48-54	D	Q18	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	胴部	7.5YR6/6 橙	良	斜線文、刺突	炭化物付着年代測定
144-55	48-55	A	R21	中期	加蓋刺E4	深鉢	胴部	10YR5/4 紅褐色	良	波状条線	
144-56	48-56	D	P16	中期後葉	加蓋刺E3	深鉢	胴部～底部	7.5YR6/4 紅褐色	良	縄文LR、沈線、斜線文	
144-57	49-57	D	Q18	中期後葉	加蓋刺E4	深鉢	口縁、突起	5YR3/2 暗赤褐色	良	沈線	扇形突起
144-58	49-58	A	R21	後期初期	称名寺中	深鉢	口縁	5YR7/6 橙	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
144-59	49-59	D	P18	後期初期	称名寺中	深鉢	口縁	10YR8/2 灰白	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
145-60	49-60	A	R21	後期初期	称名寺中	深鉢	口縁	5YR5/8 明赤褐色	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
145-61	49-61	A	R21	後期初期	称名寺中	深鉢	口縁	10YR6/6 明黄褐色	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
145-62	49-62	D	P19	後期初期	称名寺新	深鉢	口縁	10YR7/4 紅褐色	良	帯状区画文、刺突	
145-63	49-63	D	Q19	後期初期	称名寺中	深鉢	胴部	5YR7/6 橙	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
145-64	49-64	D	Q17	後期初期	称名寺中	深鉢	胴部	10YR8/6 橙	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
145-65	49-65	A	R21	後期初期	称名寺中	深鉢	胴部	7.5YR6/4 紅褐色	良	帯状区画文、縄文LR、沈線	
145-66	49-66	D	P19	後期初期	称名寺新	深鉢	胴部	7.5YR5/3 紅褐色	良	三角形区画文、刺突	
145-67	49-67	D	P19	後期初期	称名寺新	深鉢	胴部	7.5YR4/1 赭褐色	良	帯状区画文、刺突	
145-68	49-68	D	P19	後期初期	称名寺新	深鉢	胴部	5YR7/6 橙	良	帯状区画文、条線	
145-69	49-69	D	Q17	後期初期	称名寺新	深鉢	胴部	7.5YR7/6 橙	良	帯状区画文、刺突	
145-70	49-70	D	P19	後期初期	称名寺新	深鉢	胴部	5YR5/1 明赤褐色	良	帯状区画文、刺突	
145-71	49-71	A	R21	後期前期	堀之内1	深鉢	口縁	7.5YR7/6 橙	良	沈線、円形刺突	
145-72	49-72	E	D15	後期前期	堀之内1	深鉢	口縁	2.5YR5/6 明赤褐色	良	沈線	
145-73	49-73	A	R21	後期前期	堀之内1	深鉢	口縁	7.5YR5/8 明黄褐色	良	沈線、円形刺突	
145-74	49-74	A	R21	後期前期	堀之内1	深鉢	胴部	10YR5/6 黄褐色	良	沈線、円形刺突	
145-75	49-75	D	P18	後期前期	堀之内1方	深鉢	胴部	7.5YR4/1 赭褐色	良	沈線、円形刺突	
145-76	49-76	D	P19	後期前期	堀之内1方	深鉢	胴部	7.5YR7/4 橙	良	隆帯(沈線)	
145-77	49-77	A	Q23	後期前期	堀之内1方	深鉢	胴部	7.5YR6/6 橙	良	縄文LR、沈線	
145-78	49-78	D	Q19	後期前期	堀之内1	浅鉢	突起	7.5YR7/6 橙	良	隆帯、沈線、円形刺突	第65図83と同一個体か

第13表 縄文時代 遺構出土土器観察表(1)

押附番号	図版番号	出土地点	器種	形態	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
47-12	42-12	79号住居址	石硯	凹縁無蓋	黒曜石	190	140	3.5	0.695	
47-13	42-13	79号住居址	石硯	無蓋	黒曜石	150	110	3.0	0.5	
47-14	42-14	79号住居址	打製石片	短冊	砂岩	920	460	25.0	143.2	
47-15	42-15	79号住居址	打製石片	扇	砂岩	710	690	20.0	101.4	刃部、基部欠損
47-16	42-16	79号住居址	磨石	扇	砂岩	1110	690	39.0	427.5	スタンプ印
47-17	42-17	79号住居址	磨石	扇	砂岩	1010	610	27.0	294.0	印
47-18	42-18	79号住居址	石皿・凹石	扇	緑泥片岩	2540	1210	39.0	1231.0	印、石皿
66-84	42-84	81号住居址	石硯	—	黒曜石	164	72	2.6	0.6	基部欠損
66-85	42-85	81号住居址	打製石片	扇	砂岩	1055	534	22.0	160.5	
66-88	42-88	81号住居址	打製石片	扇	ホルンフェルス	1000	480	18.0	84.8	
66-89	42-89	81号住居址	打製石片	扇	片状砂岩	1250	560	10.0	91.8	刃部欠損
66-90	42-90	81号住居址	打製石片	扇	片状砂岩	830	510	15.0	84.7	
66-91	42-91	81号住居址	打製石片	扇	緑泥片岩	900	520	13.0	85.4	
66-92	42-92	81号住居址	打製石片	分銅	砂岩	760	930	24.0	176.0	基部欠損
66-93	43-93	81号住居址	打製石片	分銅	砂岩	620	780	22.0	146.0	基部欠損
66-94	43-94	81号住居址	打製石片	扇	砂岩	570	580	23.0	85.0	基部欠損
66-95	43-95	81号住居址	磨製石片	定角	緑色岩	1100	510	25.0	232.6	刃部欠損
66-96	43-96	81号住居址	磨製石片	定角	角閃岩	1130	540	26.0	286.9	
66-97	43-97	81号住居址	磨石	扇	砂岩	860	380	38.0	188.6	
66-98	43-98	81号住居址	石皿	安山岩	774	1154	34.0	338.0		

第13表 縄文時代 遺構出土石器観察表(2)

押印番号	図版番号	出土地点	器種	形番	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
93-43	43-45	85号住居址	石鏃	凹基無茎	チャート	30.0	16.0	5.0	2.1	
93-46	43-46	85号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	21.0	15.0	3.0	1.0	
93-47	43-47	85号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	22.0	15.0	3.0	1.0	1号地確定分析
93-48	43-48	85号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	19.0	12.0	4.0	0.5	
93-49	43-49	85号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	27.0	18.0	6.0	2.3	1号地確定分析
93-50	43-50	85号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	31.0	20.0	5.0	3.2	
93-51	43-51	85号住居址	打製石斧	短冊	砂岩	113.0	42.0	24.0	131.3	
93-52	43-52	85号住居址	打製石斧	短冊	ホルンフェルス	92.0	36.0	20.0	76.96	
93-53	43-53	85号住居址	打製石斧	短冊	ホルンフェルス	124.0	46.0	17.0	146.6	基部欠損
93-54	43-54	85号住居址	打製石斧	短冊	片状砂岩	104.0	52.0	14.0	122.6	基部欠損
93-55	43-55	85号住居址	打製石斧	短冊	ホルンフェルス	95.0	51.0	20.0	122.6	基部欠損
93-56	43-56	85号住居址	打製石斧	短冊	砂岩	102.0	55.0	16.0	124.0	基部欠損
93-57	43-57	85号住居址	打製石斧	楕	粘板岩	94.0	41.0	14.0	56.6	表面・左・基部欠損
93-58	43-58	85号住居址	打製石斧	楕	粘板岩	76.0	49.0	18.0	90.0	基部欠損
93-59	44-59	85号住居址	磨製石斧	片	頁岩	90.0	36.0	16.0	58.4	
93-60	44-60	85号住居址	磨製石斧	乳棒	角閃岩	94.0	44.0	34.0	206.3	基部欠損
93-61	44-61	85号住居址	二次加工削片		頁岩	60.0	104.0	15.0	73.4	
93-62	44-62	85号住居址	敲石・磨石		閃緑岩	132.0	87.0	43.0	884.0	
93-63	44-63	85号住居址	敲石		砂岩	140.0	46.0	46.0	495.3	
93-64	44-64	85号住居址	石皿・凹石		閃緑岩	218.0	225.0	42.0	3470.0	
101-14	44-14	86号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	21.0	17.0	4.0	1.4	1号地確定分析
112-71	44-71	87号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	24.0	15.0	6.0	1.6	
112-72	44-72	87号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	23.0	13.0	3.0	0.8	
112-73	44-73	87号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	25.0	17.0	5.0	1.5	1号地確定分析
112-74	44-74	87号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	20.0	13.0	3.0	0.5	
112-75	44-75	87号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	18.0	17.0	5.0	0.9	
112-76	44-76	87号住居址	石鏃未製品		黒曜石	18.0	12.0	4.0	0.8	
112-77	44-77	87号住居址	石鏃		黒曜石	26.0	13.0	6.0	1.6	
112-78	44-78	87号住居址	石鏃		黒曜石	30.0	22.0	16.0	10.5	1号地確定分析
112-79	45-79	87号住居址	打製石斧	楕	砂岩	102.0	51.0	18.0	120.3	
112-80	45-80	87号住居址	打製石斧	短冊	砂岩	135.0	53.0	21.0	186.5	伊・石皿
112-81	45-81	87号住居址	打製石斧	短冊	片状砂岩	92.0	37.0	22.0	92.1	
112-82	45-82	87号住居址	打製石斧	短冊	珸質頁岩	82.0	41.0	14.0	75.3	基部欠損
112-83	45-83	87号住居址	打製石斧	楕	粘板岩	65.0	63.0	15.0	67.8	基部・基部欠損
112-84	45-84	87号住居址	磨石		砂岩	89.0	92.0	37.0	425.5	
113-85	45-85	87号住居址	石皿		閃緑岩	201.0	130.0	41.0	1706.0	伊・石皿
113-86	45-86	87号住居址	石皿		砂岩	148.0	208.0	38.0	803.5	伊・石皿
113-87	46-87	87号住居址	石皿		安山岩	185.0	237.0	75.0	3280.0	伊・石皿
114-88	46-88	87号住居址	石皿		砂岩	157.0	280.0	61.0	4350.0	伊・石皿
114-89	46-89	87号住居址	石皿・凹石		緑泥片岩	180.0	141.0	40.0	1246.0	
114-90	46-90	87号住居址	石皿・凹石		緑泥片岩	315.0	135.0	48.0	2370.0	伊・石皿
119-2	46-2	89号住居址	石鏃	—	黒曜石	19.0	17.0	3.0	1.1	1号地・基部欠損
121-4	46-4	90号住居址	石鏃	凹基無茎	黒曜石	16.0	11.0	4.0	0.5	
124-3	46-3	91号住居址	二次加工削片		頁岩	50.0	67.0	16.0	51.3	伊

第14表 縄文時代 遺構外出土石器観察表

押印番号	図版番号	出土地点	調査区	出土地点	器種	形番	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
146-1	50-3	2号墳周濠			石鏃	無茎	黒曜石	15.0	14.0	3.0	0.5	
146-2	50-2	KW0	A	O.P.19～21	打製石斧	分冊	片状砂岩	121.0	70.0	20.0	226.5	
146-3	50-3	KW0	A	O.P.19～21	打製石斧	短冊	片状砂岩	97.0	49.0	15.0	96.6	
146-4	50-4		E	D15	打製石斧	短冊	粘板岩	115.0	41.0	19.0	105.0	
146-5	50-5	KW1	A	N.O.19-20	打製石斧	分冊	ホルンフェルス	129.0	84.0	23.0	162.7	基部一部欠損
146-6	50-6		D	Q18/	磨製石斧	定角	緑泥片岩	54.0	45.0	19.0	77.7	
146-7	50-7		E	E15	磨製石斧	乳棒	角閃岩	103.0	50.0	34.0	278.5	基部欠損
146-8	50-8		D	P18	磨石・凹石		閃緑岩	98.0	65.0	45.0	385.5	
146-9	50-9		D	O19	磨石		砂岩	150.0	82.0	38.0	586.6	表面に赤銅付着
146-10	50-10		D	R18	石皿		緑泥片岩	158.0	103.0	33.0	620.0	
146-11	50-11	2号墳周濠			石皿・凹石		砂岩	75.0	102.0	41.0	439.0	熱・赤化

3 古墳時代

古墳時代の遺構と遺物は、第6次調査と第16次調査で確認されている野毛2号墳の周濠の続きが検出され、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪の破片が出土した。また、遺構外からは埴輪片のほか、土師器片が出土している。

1) 野毛2号墳周濠(第147～155図、第15表、図版24・51～53)

A 遺構(第147～150図、図版24)

調査区北西隅のS・R-17・18に位置し、検出された周濠の規模は長さ5.82m・幅5.76m、最大深度は0.66mを測る。周濠は北側に隣接する第16次調査区で検出されたものから連続しており、第6次調査の成果ともあわせると、今回検出されたのは帆立貝形古墳の前方部隅に相当すると考えられる(第147図)。また、墳丘の推定規模は、後円部径が周濠外側で35.1m、内側で26.2mとなる。前方部は括れ部からの長さ8.2mと推定されるが、幅は西側部分が攪乱・削平を受けているため不明である。墳丘の全長は34.2mと推定され、主軸方向はN-24°-Wと推定される。

今回検出された周濠の平面形は、北から南に向かい急激に窄まる形態を呈する。南端部の前方部東隅の状況は、攪乱・削平により判然としないが、僅かに南西側に屈曲する様子が看取できることから、前方部にも周濠は巡るものと思われる。前方部隅の角度は73°で、台形を呈すると推定される。また、断面は平坦な底面を呈し、周濠の外側は13°と緩やかに、内側は57°と比較的に立ち上がっており、第16次調査の所見と同様である。

周濠の覆土は黒褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈するが、底面付近には黒～暗褐色土ブロック・褐色土ブロック・ロームブロックが混在する褐色土層があり(第148図A-A'7層、B-B'7層・9層、C-C'2層)、周濠掘方の整地層と考えられる。

周濠からは総数1,872点の遺物が出土した。このうち古墳に伴うものは埴輪片367点が出土し、このほか周辺の縄文時代住居などから流れ込んだとみられる縄文土器1,024点・縄文石器55点、礫426点が出土している。遺物は周濠全域から散漫に出土しているが、調査区北西隅の周濠括れ部付近の墳丘側には、埴輪片が重なるようにまとまって出土している(第149図・図版24-2～5)。また、層的には確認面～覆土上層の墳丘側からの出土が主体であり、これらの埴輪片は墳丘から転落したものと考えられる。

B 遺物(第151～154図、第15表、図版50～52)

図示したのは埴輪片39点であり、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪がみられる。いずれの破片にも黒斑は認められなかった。

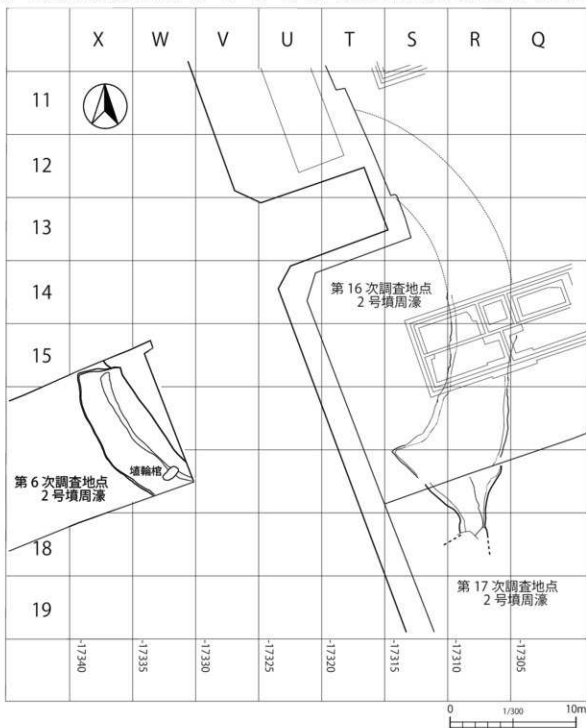
円筒埴輪(第151図1～第154図33)

1～6は、ある程度器形を復元できたものを図示した。全体の器形を復元できるものはなかったが、いずれも2条3段の円筒埴輪と思われる。1・2は口縁部～上半部の破片である。復元口径は1が20.8cm、2が27.6cmとなり、使用された埴輪の法量にバラエティがあったことが窺われる。ともに口縁部は外反し、口唇端面には面取りが施される。1の突帯は口縁部に比較的近い位置に施されている。3・4はともに括れ部付近から出土した胴部の破片であり、3は口縁部に向かって緩やかに広がる器形、4は直線的な器形を呈する。5・6は底部～第1突帯の破片であり、5は括れ部付近か

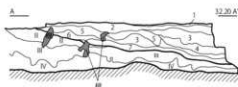
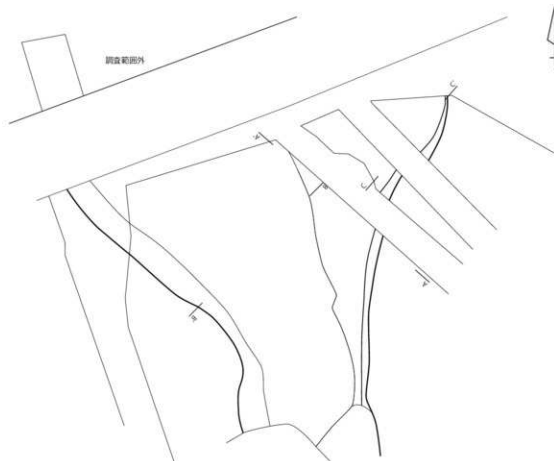
らの出土である。復元底径は5が14.9cm、6が12.3cmとなり、法量の差が窺える。6の底面には、棒状圧痕が認められる。

7～13は口縁部の破片であり、7・8・10～12は括れ部付近から出土している。断面形態には大きく開くもの（8・10・12）と緩やかに開くもの（7・9・11・13）がみられ、11・12の内面は受口状を呈する。口唇端面は、平坦に面取りされるもの（9・13）と弱い凹面を呈するもの（7・8・10～12）が見られる。11には「个」のヘラ記号が施されている。

14～26は胴部の破片であり、14・16・18・19・21・26は括れ部付近から出土している。断面



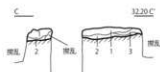
第147図 野毛2号墳全体図 (1/300)



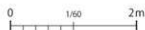
- A-A
- 1 10YR2/1黒褐色土 粘性中砂質、締まり極強、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック10%含む、粘土上。
 - 2 10YR2/1黒色土 粘性中砂質、締まり強、 $\phi 1\text{mm}$ の屑・褐色粒<10%、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック<10%含む。
 - 3 10YR2/1黒褐色土 粘性中砂質、締まり強、 $\phi 1\text{mm}$ の屑・褐色粒10%、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒30%含む。
 - 4 10YR2/2黒褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\sim 20\text{mm}$ のロームブロック30%含む。
 - 5 10YR2/2黒褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ のローム粒10%、 $\phi 5\sim 30\text{mm}$ のロームブロック30%含む。
 - 6 10YR2/4暗褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の褐色粒少量、 $\phi 5\sim 10\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
 - 7 10YR4/4褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\sim 30\text{mm}$ の黒・暗褐色土ブロック10%含む。



- B-B
- 1 10YR2/1黒褐色土 粘性中砂質、締まり極強、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック10%含む、粘土上。
 - 2 10YR2/1黒色土 粘性中砂質、締まり強、 $\phi 1\text{mm}$ の屑・褐色粒<10%、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒10%、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック<10%含む。
 - 3 10YR2/1黒褐色土 粘性中砂質、締まり強、 $\phi 1\text{mm}$ の屑・褐色粒10%、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒30%含む。
 - 4 10YR2/2黒褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 1\text{mm}$ の屑・褐色粒20%、 $\phi 1\text{mm}$ のローム粒<10%含む。
 - 5 10YR2/2黒褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\text{mm}$ の褐色土ブロック少量含む。
 - 6 10YR2/4暗褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の褐色粒少量、 $\phi 5\sim 10\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
 - 7 10YR4/4褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\sim 30\text{mm}$ の黒・暗褐色土ブロック10%含む。
 - 8 10YR2/2黒褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 1\text{mm}$ の褐色粒少量、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ のローム粒10%含む。
 - 9 10YR4/4褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\text{mm}$ のロームブロック少量含む。



- C-C
- 1 10YR2/4暗褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の褐色粒少量、 $\phi 5\sim 10\text{mm}$ のロームブロック10%含む。
 - 2 10YR4/4褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\sim 30\text{mm}$ の黒・暗褐色土ブロック10%含む。
 - 3 10YR2/3暗褐色土 粘性中砂質、締まり中砂質、 $\phi 5\text{mm}$ の褐色土ロームブロック少量含む。



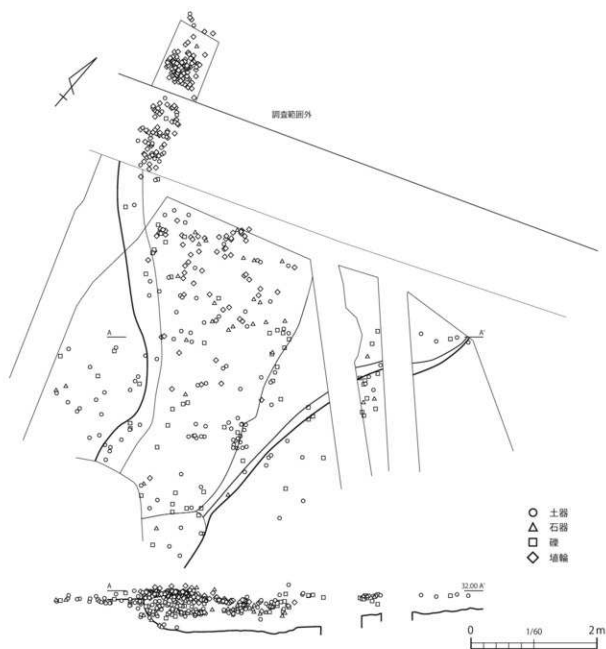
第 148 図 野毛 2 号墳周濠 (1/60)

形態には直線的なものと、口縁部に向かって緩やかに開くものがみられる。透かし孔の形状は良好な遺存個体がないものの、いずれも円形と思われる。21には「/」のヘラ記号が施されている。

27～29は底部の破片であり、いずれも括れ部付近から出土している。27の底面には、棒状痕が認められる。

30～33はヘラ記号が施された破片である。確認できたヘラ記号は「个」「/」であるが、33は口縁部内面に施されている。野毛2号墳では、第6次調査で「×」「ハ」「～」「个」、第16次調査では周濠内で「/」、遺構外で「*」「\」のヘラ記号をもつ破片が、それぞれ確認されている。

円筒埴輪の胎土の色調には、にぶい橙色・橙色のものがみられ、にぶい橙色を呈するものには海綿状骨針を含むものが多くみられる。外面調整は一次調整のハケメのみのものが主体であるが、ヘラナ

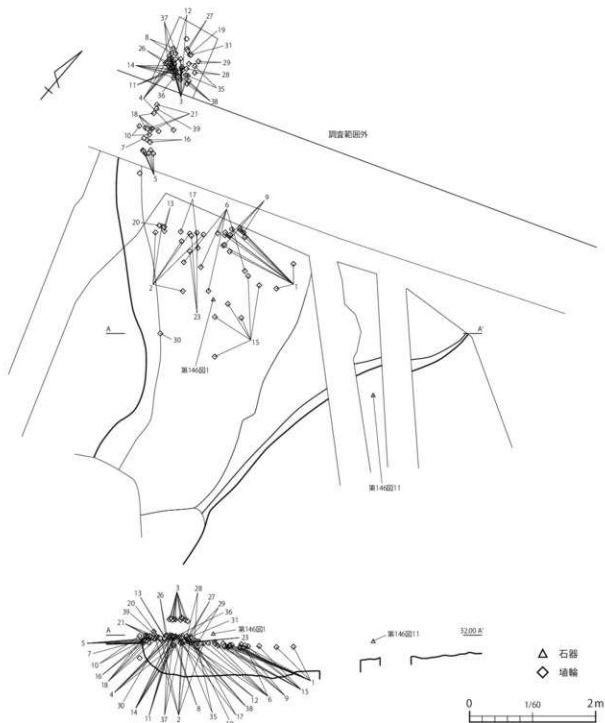


第149図 野毛2号墳周濠出土遺物分布図(1) (1/60)

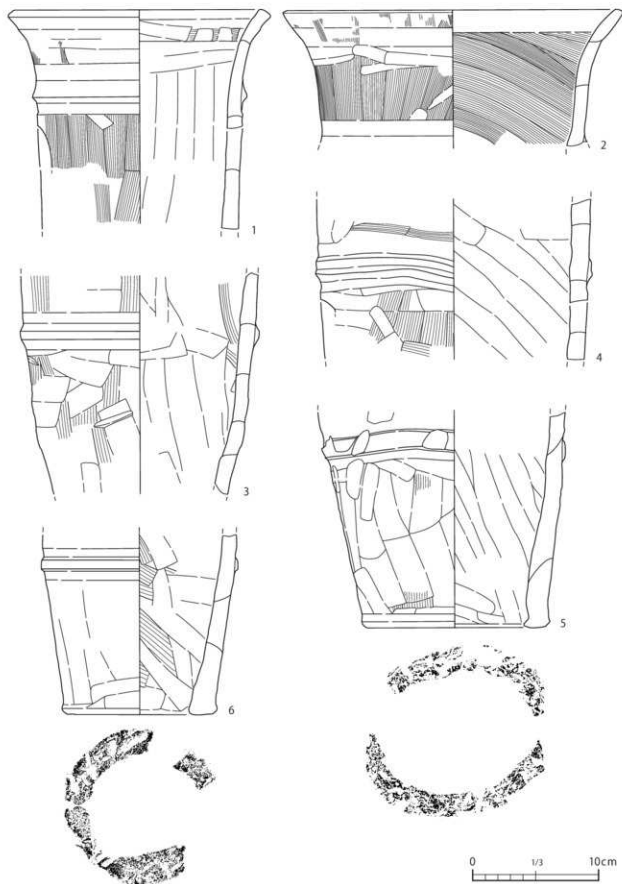
デを施すものもみられる。内面調整は、ハケメ・ヘラナデ・ユビナデがみられる。突帯の断面形状は低平な台形を呈するものが主体であるが、三角形に近いもの(1)や、下辺あるいは上辺が突出し「M」字状に近いもの(4・18・20・21・22)もみられる。また、ハケメの工具には細かいもの(9～12本/cm)、粗いもの(4～6本/cm)、中間のもの(7～8本/cm)が認められる。

朝顔形埴輪(第154図34～38)

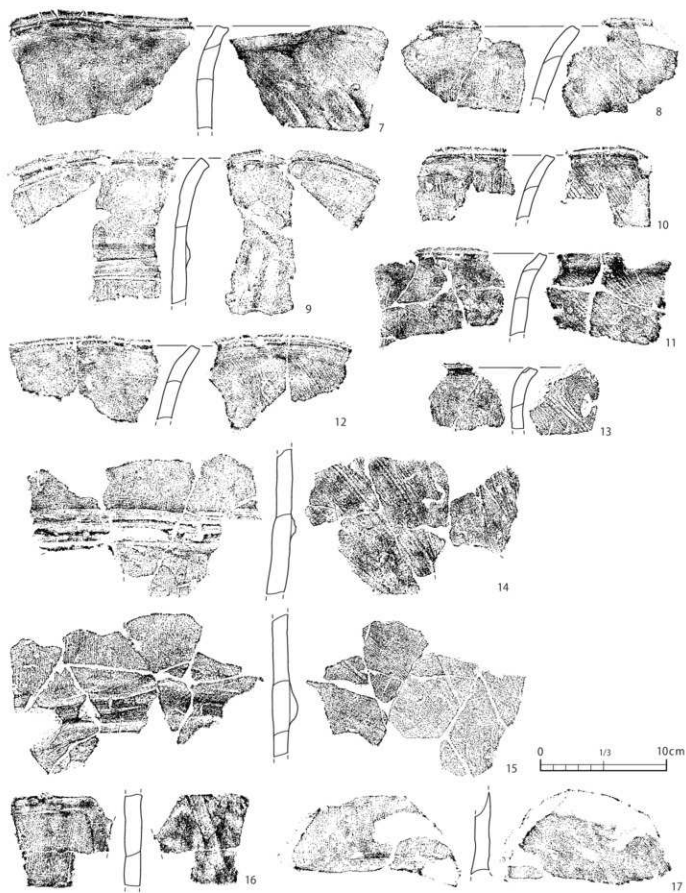
図示したのは口縁部あるいは肩部の破片であるが、37は形象埴輪の基部となる可能性もある。35



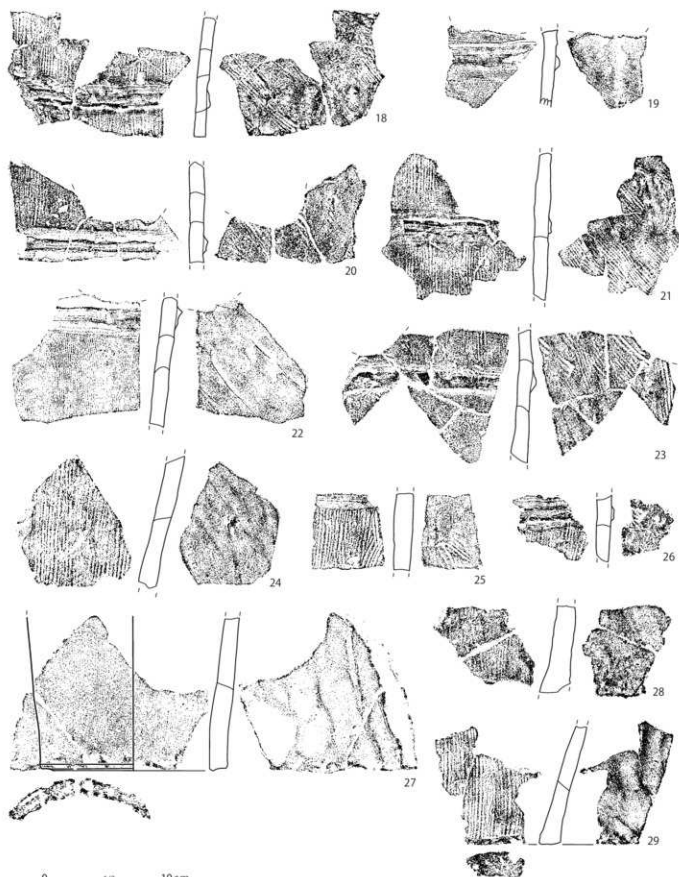
第150図 野毛2号墳周濠出土遺物分布図(2)(1/60)



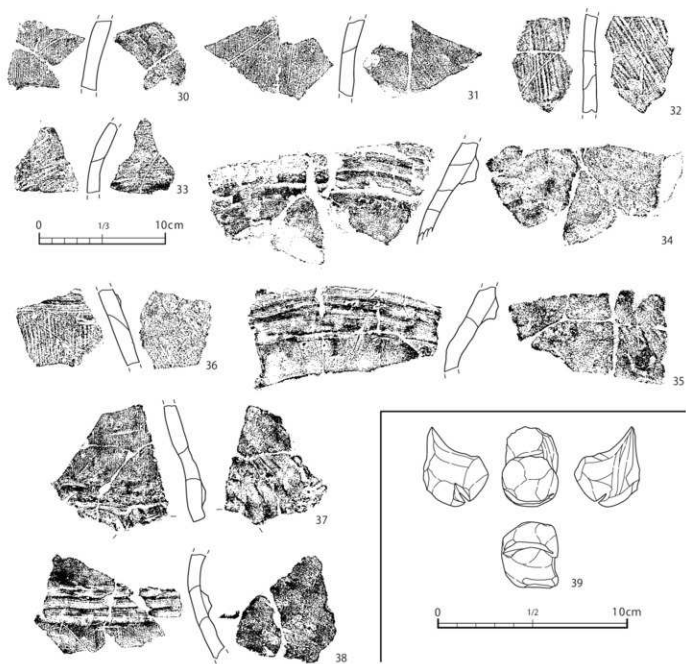
第 151 図 野毛 2 号墳周濠出土遺物 (1) (1/3)



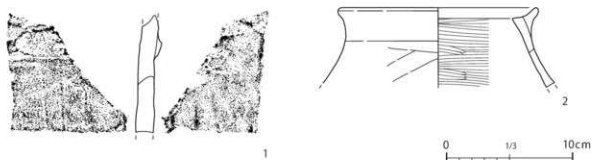
第 152 図 野毛 2 号墳周濠出土遺物 (2) (1/3)



第 153 図 野毛 2 号墳周濠出土遺物 (3) (1/3)



第154図 野毛2号墳周濠出土遺物 (4) (1/3・1/2)



第155図 古墳時代遺構外出土遺物 (1/3)

第15表 古墳時代出土遺物観察表(1)

発掘 番号	出土 地点	層様	部位	器形の特徴・調整		胎土	焼成・色調	備考
				外面	内面			
151-1	2号墳 周濠	普通 内層	口縁 ～胴部 突帯	タテハケ(7～8本/cm)後、口縁部貼付け後ヨコナデ。口縁部は平坦に面取りされる。突帯は裾拡がり低平な台形を呈する。	口縁部ヨコナデ(8本/cm)後、口唇部ヨコナデ。胴部斜位のヘラナデ後、口唇部付込に横位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤帯 内面：5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤帯	復元口径 20.8cm 残存高 17.4cm 透かし孔あり
151-2	2号墳 周濠	普通 内層	口縁 ～胴部 突帯	タテハケ(8～10本/cm)後、口唇部～口縁部ヨコナデ。一部横位のヘラナデ。突帯部貼付け後ヨコナデ。口唇部は平坦に面取りされる。	ナメハケ(8～10本/cm)後、口唇部ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/8～6/6橙。口唇部10YR4/1焼成 内面：2.5YR6/8～6/6橙	復元口径 27.0cm 残存高 10.8cm
151-3	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(6～10本/cm)後。横位・斜位のヘラナデ。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は裾拡がりの低平な台形を呈する。	上半部タテハケ・ナメハケ(5～6本/cm)後、横位・斜位のヘラナデ。下半部横位・斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・赤色粒子・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤帯 内面：2.5YR5/4にぶい赤帯	復元口径 19.0cm 残存高 17.6cm
151-4	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(6～10本/cm)後、横位・斜位のヘラナデ。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈し、下辺が突出する。	横位・斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙～5/3にぶい赤	復元口径 22.0cm 残存高 12.7cm 透かし孔あり
151-5	2号墳 周濠	胴部 突帯 ～ 底部	胴部 突帯 ～ 底部	タテハケ(6～7本/cm)後、横位・斜位のヘラナデ。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈し、先端部ハラの当り處あり。	横位のヘラナデ・ユビナデ。底部ヨコナデ。横位庄磨あり。	小礫を少量、石莖・霞母・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙～6/3にぶい赤 内面：7.5YR6/4にぶい橙～5/3にぶい赤	復元口径 14.9cm 残存高 17.1cm
151-6	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯 ～ 底部	横位・斜位のヘラナデ。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。裾部削れ多し。裾部横位あり。	ナメハケ(4～5本/cm)の後、横位・斜位のヘラナデ。底部横位のヘラナデ。ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・白色粒子を微量含む。普通。	焼成やや不 良 外面：2.5YR6/6橙～6/4にぶい赤 内面：5YR6/6橙～6/4にぶい赤	復元口径 12.3cm 残存高 14.3cm
152-7	2号墳 周濠	普通 内層	口縁	タテハケ(6～7本/cm)後、口唇部ヨコナデ。口唇部は弱い凹面を呈する。	斜位のヘラナデ後、口唇部ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・内角石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	
152-8	2号墳 周濠	普通 内層	口縁	タテハケ(6～7本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。口唇部は弱い凹面を呈する。	斜位のヘラナデ後、口唇部ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	
152-9	2号墳 周濠	普通 内層	口縁 ～ 胴部 突帯	タテハケ(9～10本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。口唇部貼付け後ヨコナデ。口唇部は平坦に面取りされ、突帯は低平な台形を呈する。	口縁部ヨコナデ(9～10本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。胴部斜位のヘラナデ・ユビナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/4にぶい橙 内面：2.5YR6/4にぶい橙	
152-10	2号墳 周濠	普通 内層	口縁	タテハケ(7本/cm)後、ヨコナデ。口唇部は弱い凹面を呈する。裾部削れあり。	口縁部ナメハケ(7本/cm)後、口唇部ヨコナデ。裾部削れあり。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/4にぶい橙～5/3にぶい赤帯 内面：5YR6/4にぶい橙	
152-11	2号墳 周濠	普通 内層	口縁	タテハケ(7本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。口唇部は凹口状を呈し、端部は弱い凹面を呈する。ヘラ記部1個あり。	ナメハケ(7本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙～6/3にぶい赤 内面：7.5YR6/4にぶい橙～6/3にぶい赤	
152-12	2号墳 周濠	普通 内層	口縁	タテハケ(8本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。口唇部は凹口状を呈し、端部は弱い凹面を呈する。	ナメハケ(8本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙～6/3にぶい赤 内面：7.5YR6/4にぶい橙	
152-13	2号墳 周濠	普通 内層	口縁	タテハケ(4～6本/cm)後、横位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。口唇部は平坦に面取りされる。	ナメハケ(4～6本/cm)後、横位・斜位のヘラナデ。口唇部ヨコナデ。	小礫を少量、石莖・霞母を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤 内面：7.5YR6/4にぶい橙	
152-14	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(8本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈し、下辺が突出する。	ナメハケ(6本/cm)後、斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	透かし孔あり
152-15	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(10～12本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。	ナメハケ(10～12本/cm)。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6橙～6/4にぶい赤 内面：5YR6/6橙～6/4にぶい赤	
152-16	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(8本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。	横位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙～6/3にぶい赤	
152-17	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(10～12本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。	ヨコナデ・ナメハケ(10～12本/cm)。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/6橙～6/4にぶい赤 内面：2.5YR6/8～6/6橙	
153-18	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(6～7本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。裾部削れあり。突帯は低平な台形を呈し、下辺が突出する。	ナメハケ(6～7本/cm)後、斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/6橙～5/6赤帯 内面：5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤帯	
153-19	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(10～12本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。	ナメハケ(10本/cm)後、斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6橙 内面：外面：5YR6/6橙	透かし孔あり
153-20	2号墳 周濠	普通 内層	胴部 突帯	タテハケ(6本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈し、上辺が突出する。	ナメハケ(6本/cm)後、斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石莖・霞母を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/6橙～5/4にぶい赤帯 内面：5YR6/4にぶい橙～5/4にぶい赤帯	透かし孔あり

第15表 古墳時代出土遺物観察表(2)

標記番号	出土地点	器種	部位	器形の特徴・調整		胎土	焼成・色調	備考
				外面	内面			
153-21	2号墳 周濠	普通 円筒	胴部 突帯	タナハケ(7本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈し、下辺が突出する。ヘラ記号「/」あり。	ナメハケ(7本/cm)後、部分的に縦位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/6程度～5/4にぶい赤褐色～5YR5/3灰褐色 内面：5YR6/6程度	
153-22	2号墳 周濠	普通 円筒	胴部 突帯	タナハケ(10本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈し、上辺が突出する。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・角閃石・海綿状骨針を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6程度 内面：5YR6/6程度～6/4にぶい赤褐色	透かし孔あり
153-23	2号墳 周濠	普通 円筒	胴部 突帯	タナハケ(6本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。器面剥落あり。	ナメハケ(6本/cm)後、斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成中やや軟弱 外面：2.5YR6/8～6/6程度 内面：5YR6/4にぶい赤褐色～6/4程度	透かし孔あり
153-24	2号墳 周濠	普通 円筒	胴部	タナハケ(6本/cm)。	斜位のヨビナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6程度 内面：2.5YR6/6程度	
153-25	2号墳 周濠	普通 円筒	胴部	タナハケ(5本/cm)。上縁に突帯部貼付け後のヨコナデ。	ナメハケ(5本/cm)後、横位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6程度 内面：5YR6/6程度	
153-26	2号墳 周濠	普通 円筒	胴部 突帯	タナハケ(5本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。	横位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/4程度 内面：2.5YR6/6明赤褐色	
153-27	2号墳 周濠	普通 円筒	底部	タナハケ(9～10本/cm)。底面棒状痕あり。	縦位のヨビナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/6程度 内面：5YR6/6程度	
153-28	2号墳 周濠	普通 円筒	底部	タナハケ(7本/cm)後、部分的に縦位のヘラナデ。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・海綿状骨針・白色粒子・赤色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6程度 内面：2.5YR6/4にぶい赤褐色	
153-29	2号墳 周濠	普通 円筒	底部	タナハケ(5本/cm)。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・海綿状骨針・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/4にぶい赤褐色 内面：5YR5/4にぶい赤褐色	
154-30	2号墳 周濠	普通 円筒	口縁	タナハケ(9～10本/cm)。ヘラ記号「/」あり。下縁に突帯部貼付け後のヨコナデ。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/4にぶい赤褐色 内面：2.5YR6/4にぶい赤褐色	
154-31	2号墳 周濠	普通 円筒	口縁	タナハケ(8～10本/cm)。ヘラ記号「/」あり。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/6程度 内面：7.5YR6/6程度	
154-32	2号墳 周濠	普通 円筒	口縁	タナハケ(4～5本/cm)。ヘラ記号「/」あり。器面剥落あり。	ナメハケ(4～5本/cm)後、横位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR6/4にぶい赤褐色～5YR6/4にぶい赤褐色 内面：5YR6/4程度	
154-33	2号墳 周濠	普通 円筒	口縁	ナメハケ(4～5本/cm)後、横位のヘラナデ。	ヨコハケ(4～5本/cm)後、横位のヘラナデ。ヘラ記号「/」あり。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/4程度 内面：5YR6/4程度	
154-34	2号墳 周濠	朝鮮 突帯	口縁	タナハケ(9～10本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は台形を呈し、下辺が突出する。器面剥落多い。	斜位のヘラナデ。器面剥落多い。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子・赤色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/4にぶい赤褐色 内面：5YR5/4にぶい赤褐色	
154-35	2号墳 周濠	朝鮮 突帯	口縁	タナハケ(9～10本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は台形を呈し、下辺が突出する。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子・赤色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/4にぶい赤褐色 内面：5YR6/4にぶい赤褐色	
154-36	2号墳 周濠	朝鮮 胴部	胴部	タナハケ(6本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。ヘラ記号「/」あり。	ナメハケ(6本/cm)後、斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6～6/4にぶい赤褐色 内面：5YR5/4にぶい赤褐色	
154-37	2号墳 周濠	朝鮮 胴部	胴部	タナハケ(8～9本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は台形を呈し、下辺が突出する。器面剥落あり。	斜位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・海綿状骨針・白色粒子・赤色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：5YR6/6程度～6/4にぶい赤褐色 内面：5YR5/4にぶい赤褐色	透かし孔あり
154-38	2号墳 周濠	朝鮮 胴部	胴部	タナハケ(8～9本/cm)。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は低平な台形を呈する。ヘラ記号「/」あり。	横位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：2.5YR6/4にぶい赤褐色 内面：2.5YR5/4にぶい赤褐色	
154-39	2号墳 周濠	形象 高形	胴部	全面ナデ調整。胴口に横位の切り込み。	—	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 色調：5YR6/4にぶい赤褐色	残存高さ4.2cm 底径3.0cm 高さ3.5cm 重量32.4g
155-1	3号 遺構	普通 円筒	胴部 突帯	タナハケを施すが、器面剥落のため詳細不明。突帯部貼付け後ヨコナデ。突帯は台形を呈し、上辺が突出する。	下平部縦位のヨビナデ。上半部横位のヘラナデ。	小礫を少量、石炭・霞石・白色粒子を微量含む。普通。	焼成中やや軟弱 外面：7.5YR7/6程度 内面：7.5YR7/6程度	
155-2	Q-18 区 R-19 区	土師器 短頸瓶	口縁部 胴部	前縁は下からで、口縁部は縁や中に外反し、口唇部で膨らむ。口縁部ヨコナデ。胴部縦位・斜位のヘラナデ。	口縁部内面は受口状を呈する。口縁部ヨコナデ。胴部縦位のヘラミガキ。	小礫を少量、石炭・角閃石・白色粒子・赤色粒子を微量含む。普通。	焼成良好 外面：7.5YR7/4～6/4にぶい赤褐色～5/1赭灰	底径15.6cm 残存高さ6.3cm

～38は、周濠縁れ部付近から出土している。色調は外面がにぶい橙色・橙褐色を呈するが、内面はにぶい赤褐色を呈するものが多く、円筒短頸とは異なる。胎土は円筒短頸と大きな違いはみられず、37は海綿状骨針を含んでいる。突帯は口縁部破片は台形、肩部破片は低平な台形を呈するが、下辺が突出し「M」字状に近いものもみられる。37には透かし孔があり、円形を呈すると思われる。また、

36には「\」、38には「个」のヘラ記号が施されている。

形象埴輪 (第154図39)

39は馬形埴輪の馬具装飾の鈴と考えられ、周濠括れ部付近から出土している。馬形埴輪片の出土は、第6次調査でも報告されている。

2) 遺構外出土遺物 (第155図、第15表、図版53)

古墳時代の遺構外出土遺物は、野毛2号墳以外の遺構が検出されなかったことから少量であり、2点を図示した。第155図1は、近世以降の2号遺構から出土した円筒埴輪の胴部破片である。

2はQ18・R19区から出土した土師器短頸壺の口縁部破片である。2点は同一個体であり(図版53)、野毛2号墳に近接したグリッドから出土している。口縁部の立ち上りは短く、内面は受口状を呈することから、蓋を伴うものである。胴部は下膨れの球形を呈すると思われる、古墳時代中期のものと考えられる。

4 中世以降

今回の調査における中世以降の遺構として、中世に帰属するものは溝状遺構(2号溝)、中世～近世は溝状遺構(1号溝、3号溝)の3条である。また、近世以降の遺構は、道路跡(2号遺構)、近現代の道路状遺構(1号遺構)と土坑(3号遺構)が該当する。

1) 中世から近世 (第156～157図、図版23・52)

A 溝状遺構 (第156図、図版23)

1号溝

調査区東端のD16に位置し北東から南西方向に走る。縄文時代の85号住居址の東壁を壊し2号溝の覆土上面を切る。検出された溝状遺構の規模は長さ2.1m・幅0.54m、最大深度は0.3mを測る。深さや覆土から2号溝より新しい時期に帰属する遺構であることから、畑などの区画溝と推定する。

2号溝

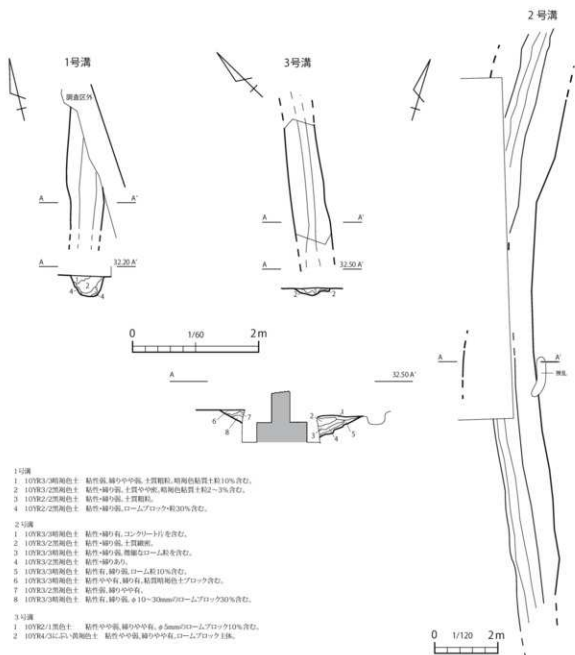
調査区東側E15～D18にかけて緩い弧状を描いて南北に走る。本遺構の北側は調査範囲外にまで続き、南側は近現代の工事によって壊れている。縄文時代の85号住居址の中央部、炬址直上を走る遺構である。検出された溝状遺構の規模は長さ19.2m・幅1.4m、最大深度は0.4mを測る。断面形は、V字状を呈する。本遺跡での過去の調査においても類似する溝状遺構を検出しており、等々力城(砦)に関わる濠の続きと考えられる。覆土からは、中世に帰属する遺物は出土していない。

3号溝

G16に位置し北東から南北方向に走る。溝状遺構である。覆土上面を近現代の工事によって削平され、転圧を受けているため残存状況は不良である。検出された溝状遺構の規模は、長さ2.4m・幅0.6m、最大深度は0.12mを測る。1号溝と並行するように走る溝状遺構であることから、同様に区画溝だと思われる。

B 遺物 (第157図、図版52)

今回の調査で中世に帰属する遺物は、第157図1に図化した常滑焼の壺の底部に近い胴部破片である。1号遺構の覆土から一括遺物として回収した中に含まれていた。色調は、暗赤色を呈し、焼成によって硬く締まる。



第156図 中世以降の遺構 (1/60・1/120)



第157図 中世出土遺物 (1/3)

2) 近世から近代 (第 158～159 図、図版 25・53)

A 1号遺構 (第 158 図、図版 25)

1号遺構は、道路状施設(遺構)として認識でき、『下野毛遺跡』第16次調査(東京都埋蔵文化財センター 2019)において報告された「道路状遺構」に連続し、また2号遺構に後続する遺構である。国土地理院空中写真サービス提供の航空写真(資料番号 8921-C1-12:陸軍 1944 / USA-M58-A-6-130:米軍 1946 / USA-M388-68:米軍 1947—第10図)に照合すると、ここに示される道路状施設と判断される。航空写真では、野毛大塚古墳南西端あたりよりやや南西方向へ直進する。概ね、野毛大塚古墳東側の道路(北端で環状第8号線に交差)に平行する。また、この道路状施設は、東西方向の2条の道路状施設と交差する。一つは、野毛大塚古墳南側に隣接する位置で、また一方は第16次調査範囲および第17次調査範囲境界あたりである。第17次調査区北東端では、後者の東西方向道路状施設の一端を確認している。南北道路状施設は、南側交差点以南で方向をやや南東方向に変化させ南に直進し、さらに第17次調査区南辺で西に直角に屈曲し、当街区西側街路に接続する。以上の道路状施設は、昭和12年(1937)地形図(第8図)および国土地理院空中写真サービス提供の陸軍撮影の航空写真(資料番号 B1-C2-68:陸軍 1936)では見られない。

道路状遺構の形状・構造について、断面形状は箱状および逆台形状である。道路状遺構坑底面は比較的硬化した面を構成する。この硬化面を除去した段階で両側壁に近いところに側溝と理解できる溝が2条確認できた。溝(側溝)で区画される中央部(約3m幅)は、ロームブロックを主体とする堆積層で非常に堅く整地され、円礫を比較的多く含む。溝(側溝)覆土は、円礫(径10～50mm程度)が比較的密に(30～50%程度)充填される。溝(側溝)は、暗渠排水と判断した。調査区南辺の範囲は、調査区で区切られるため、全体幅の1/5程度の確認である。片(北)側側溝を確認している。調査区南辺の中程(A区東端)でほぼ直角に屈曲し、南北方向道路状遺構と連続する。この屈曲部分は、2号遺構埋没後に構築されているため、地山ローム面を基盤としていない。但し、この道路状遺構の範囲の2号遺構覆土である黒色土は、比較的堅く締まった状態であった。また、調査区北東隅の東西方向道路状遺構は、地山ローム層を掘削し構築した状況を良く残す。各区分における道路状遺構のおおよその規模は、以下に示す数値である(*数値:調査区内での現況での確認数値である)。

東西方向道路状遺構(調査区北東隅)

開口部上端幅 約 8.0m 開口部下端幅 約 7.5m 硬化面平坦面幅 約 4.0m 深さ(確認面より平坦面まで) *約 0.6m

溝幅(上端) 1.5～2.0m 溝幅(下端) 0.6～0.8m 溝深さ 約 0.3m

屈曲以北の南北方向道路状遺構

開口部上端幅 6.4～8.0m 開口部下端幅 6.0～7.0m 硬化面平坦面幅 2.0～3.0m

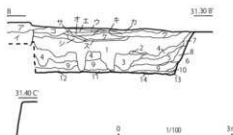
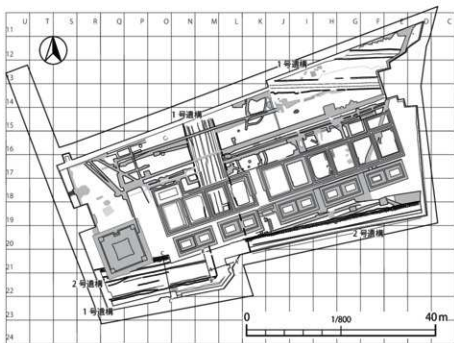
深さ(確認面より平坦面まで) 0.4m

溝幅(上端) 約 1.5m 溝幅(下端) 0.6～0.8m 溝深さ 0.3m

屈曲以西の東西方向道路状遺構

開口部上端幅 *約 1.6m 開口部下端幅 *約 1.4m 硬化面平坦面幅 *約 0.4m 深さ(確認面より平坦面まで) 約 0.6m

溝幅(上端) 約 1.2m 溝幅(下端) 約 0.4m 溝深さ 約 0.3m



1号遺構断面 A-A

- 1 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘性やや中、硬化、硬質。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘りやや良好、硬質。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り欠、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のロームブロック 20%含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 50%含む。
- 5 10YR3/1 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 5%、 P 層を含む。
- 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り良好、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のロームブロック 5%、 P 層を含む。
- 7 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り良好、 $\phi 3 \sim 20\text{mm}$ のロームブロック 10%含む。
- 8 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、硬・硬質層 30%含む。
- 9 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り良好、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粒 3%、 P 層 1%含む。
- 10 10YR3/1 黒褐色土 粘性、粘り欠、硬質。
- 11 10YR4/4 褐色土 粘り良好、ロームブロックの堆積層。
- 12 10YR2/2 黒褐色土 粘性良好、粘り欠、 $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 30%含む。
- 13 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り良好、 $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ のローム粒 30%含む、遺跡状下部硬質層。
- 14 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘りやや欠、硬質。
- 15 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り良好、 $\phi 2 \sim 7\text{mm}$ のロームブロック 30%含む。
- 16 7.5Y4/3 黄赤土 粘質。
- 17 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘り欠、粘オリーブ鉄結晶 50%含む。
- 18 10YR3/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi 3 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 50%、ローム粒均一に含む。
- 19 10YR2/2 黒褐色土 粘性良好、粘り強、 $\phi 10 \sim 40\text{mm}$ のローム粒 10%、 $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ のロームブロック 10%含む。
- 20 10YR4/4 褐色土 粘り強、ロームブロックの堆積層。
- 21 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ のロームブロック 1%含む。
- 22 10YR3/1 黒褐色土 粘性、粘り欠、硬質、遺跡状下部硬質層。
- 23 10YR4/4 褐色土 粘性、粘り良好、ローム粒均一、遺跡状下部硬質層。

2号遺構断面 B-B

- ア 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや欠、粘り強、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 3%、 P 層 10%含む、基礎の礎石。
- イ 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り欠、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 10%含む、埋没物の裏方層土。
- ウ 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや欠、粘り強、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 粘土層 1%含む。
- エ 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや欠、粘り強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粒 10%含む。
- オ 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、 $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ のロームブロック 3%含む。
- カ 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粒 2%含む。
- キ 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 10%含む。
- ク 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り良好、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 30%含む。
- ク 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粒 1%、2%含む。
- コ 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや欠、粘り良好、 $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ のロームブロック 30%、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ のローム粒均一に含む。
- サ 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のロームブロック 20%含む。
- シ 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘り良好、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のロームブロック 30%含む。
- ス 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のロームブロック 10%含む。
- 1 10YR3/1 黒褐色土 粘性、粘り欠、中硬質。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り良好、ブロック状。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ のロームブロック <1%含む。
- 4 10YR3/1 黒褐色土 粘性、粘り欠、硬質。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、硬質なローム粒 1%含む。
- 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、オリーブ鉄結晶 >50%含む。
- 7 10YR3/2 黒褐色土 粘性、粘り欠、 $\phi < 1\text{mm}$ の微細なローム粒均一に含む。
- 8 10YR3/3 褐色土 粘性良好、粘りやや良好、 $\phi 5 \sim 30\text{mm}$ のロームブロック 5%、硬質なローム粒を均一に含む。
- 9 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや良好、粘り強、粘り強。
- 10 10YR4/4 褐色土 粘り欠、ロームブロックの堆積層。
- 11 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘り良好、 $\phi 5\text{mm}$ 以上のロームブロック 10%含む。
- 12 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや良好、粘り欠、硬質。
- 13 10YR3/1 黒褐色土 粘性良好、粘りやや良好、 $\phi 5 \sim 30\text{mm}$ のロームブロック 30%含む。
- 14 10YR4/4 褐色土 粘性良好、粘り強、ローム質の堆積層。

第 158 図 道路状遺構 (2号遺構) (1/800・1/100)

B 2号遺構（第158～159図、図版25・53）

確認時の遺構名称は溝状遺構としたが、道路状遺構と認識した。下野毛遺跡第17次調査区A区・C区南縁にて確認した。2号遺構は、調査区内で東西約70mを確認し、未調査区を含め、東西両公道までの距離は約80mである。本来の地表面を掘削し構築したものである。道路状遺構の幅は、A区の一部でのみ確認できた。開口部の幅は、C-C'の位置で約6.7m以上（推定約7m）を測る。底面幅は、同位置で6.02mである。深さ（高さ）は、同様にC-C'の位置で、北側は1.69m、南側（残存値）は1.19mである。

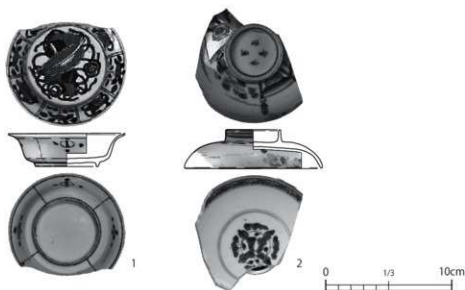
断面の形状は、概ね箱形である。北側の側壁は、あまり傾斜をもたず底面に対し概ね垂直に立ち上がる。南側側壁は、底面より0.3～0.4mの高さで概ね垂直に立ち上がり、その上部は南へ約56°の傾斜をもって連続する。

側壁の成形について、北側側壁は、底面より約1mの位置まで粗い掘削痕を明瞭に残す。掘削は、おおよそ上方より下方に向け、縦方向に行っている。掘削痕（鍬先痕あるいはスコップ痕など）より使用された道具を同定するのは難しいが、痕跡は平らな形状が多いように見えるが、なかに丸みのある掘削の痕跡も認められた（註1）。

南側側壁は、下段の垂直壁は掘削痕を残さず平滑に整形される。また、上段の傾斜壁は凹凸を残しつつも、全体的には概ね平坦面を造り出している。

底面の掘削は概ね平滑に形成され、その上部は硬化層に被覆される。硬化層は、富士黒色土などの混入はおおよそ認められないローム層土であることから、全体を粗く掘削したのち後、掘削土（ローム主体）で底面を平滑に転圧したと考えられる。硬化面は、厚さ数mm単位で板状に薄く剥がれる。

底面の標高値は、西端より約5m東寄りの地点で30.40m、また東端より約10m西寄りの地点で30.96mを測り、おおよそ0.5mの標高差を示し、東へ高くなる。第17次調査区は、東西ともに公道保全のため3～4mほど安全帯を残し設定した。よって、本遺構は、公道との関係については未調査であるため不詳であるが、おそらく接続するものと判断する。



第159図 近世出土遺物（1/3）

覆土の状況について、本遺構は地山ローム層を掘削し構築されている。但し、機能停止後の埋立て覆土にはほとんどロームブロックが認められない。特に、西側（A区）の範囲では顕著である。また、底面の硬化層は、北壁・南壁付近では顕著ではない。

北壁側の溝およびピットは、一部都営アパートの基礎により破壊されているが、概ね調査区内では全貌を把握できた。北側側壁は前述したように掘削痕を明瞭に残し、溝は壁直下に連動する形で構築され、溝内に約0.9m間隔でピットが形成される。ピットの平面形は、壁に直行し長楕円形もしくは隅丸方形を呈する。壁よりの位置では、円形もしくは方形プランで一段深く穿たれる。これは、杭の掘削ピットであり、一部方形の杭（一辺約0.1m）が残存する。以上、北壁側の溝とピットの構造から判断されることは、約半間単位で方形の杭を設置した後、杭と掘削面の間に板材を横位置に設置し、土留めとしたものと考えられる。調査時点では、土留め板は残存していない。

靴状溝跡は、底面の硬化面上で5条確認している。溝は、明確なもので幅約0.2m、深さ0.03mほどである。2号遺構西側においては、この規模の靴状遺構が、約1mの間隔を保ち、並行して2条確認された。道路状遺構のおおよその規模は、以下に示す数値である。

確認全長 約70m 東西公道間 約80m
開口部（上端）幅 C-C' 6.7m以上（推定約7m） 構底面（下端）幅 S.P-B' 6.02m
公道標高値 西側公道 30.4m 東側公道 31.2m（国土地理院基盤地図情報による）
底面標高値 西端 30.40m（西端より約5m東寄りの地点） 東端 30.96m（東端より約10m西寄りの地点）
深さ（高さ） C-C' 北側 1.69m C-C' 南側 1.19m以上

2号遺構出土遺物

出土遺物は総体的に極めて少ない。縄文土器、埴輪片、近世陶磁器・土器、近代陶磁器などである。縄文土器・埴輪片は、2号遺構西端範囲覆土中より多く出土している。陶磁器・土器は、概ね底面付近からの出土である。この底面出土遺物については、出土位置を記録した。

2号遺構東半分（C区：調査区南辺屈曲部より東）の範囲については、大半は調査区外であることもあり、近世・近代遺物の出土はほぼない。図示した遺物は、以下の2点である（第159図）。

磁器皿（第159図1） 底面の硬化面直上より、底部を上に向け伏せた状態で出土した。残存率は、口縁部3/4、底部完形である。口縁部は浅く外反し、高台は削り出し高台、底部外面に放射状の削り痕が明瞭に残る。高台端面無軸。染付磁器で、外面区画・区画間（宝もしくは花）文、内面区画・区画間（芙蓉／宝）文、見込み（宝）文である。中国景德鎮窯の製品と考えられる。17世紀前葉か。

磁器碗蓋（第159図2） 遺構覆土中から出土である。残存率は、口縁部1/4、底部1/2である。口縁がやや内湾気味であることから、広東碗の蓋と考えられる。染付磁器である。文様の一部に金彩の縁取りが残る。天井外面文様（松・花文他）、内面口縁文様帯四方禪文、内面文様（花文：唐花か）、つまみ内銘「富貴長春」である。肥前窯産である。18世紀後半。

その他、提示はしていないが、出土遺物を記録した陶磁器13点についてその概略を記す。

- ・須恵器片 外面平行叩き目痕。瓶か。
- ・土器皿 口縁部片。ロクロ成形。近世。
- ・陶器徳利 口縁部片。ロクロ成形。内外面灰軸（青緑色）。瀬戸・美濃窯産。18世紀後半～19

世紀前半。

- ・磁器碗 体部片。ロクロ成形。白磁。肥前窯産。近世。
- ・磁器水滴 底部片。方形。板作り。内面無軸。白磁もしくは染付。肥前窯産。近世。
- ・陶器碗 口縁部片。ロクロ成形。胎土黒褐色。割れ口シャープ。口縁部白化粧土。透明釉。現川

焼に近似。近世。

- ・磁器碗 腰部片。ロクロ成形。丸碗。染付。外面文様。見込み二重圏線。肥前窯産。近世。
- ・陶器挿鉢 底部片。紐作り。焼き締め。堦。近世。18世紀後半～19世紀前半。
- ・土器脚付き灯明受皿 皿部片。ロクロ成形。施釉。近世。
- ・磁器碗 口縁部片。口縁が内湾気味に立ちあがることから、半球碗と考えられる。ロクロ成形。染付。

外面文様（花文：三つ鱗様）。内面無文。肥前窯産。18世紀中葉。

- ・陶器碗 口縁部片。ロクロ成形。灰釉。外面呉須絵。外面文様（山水文か）。御室碗と考えられる。

瀬戸・美濃窯産。近世。18世紀代。

- ・陶器碗 体部片。ロクロ成形。灰釉。呉器手碗に近似。肥前窯産と考えられる。近世。
- ・磁器碗 ロクロ成形。小丸碗体部片。色絵。外面文様（花文か）。内面無文。肥前窯産か。近代。

19世紀中～後半代。

2号遺構について

2号遺構の性格であるが、底面が平坦であることや硬化面の存在などから道路としての機能が第一義に想定される。下野毛遺跡第17次調査地点は、東を等々力渓谷、西を善養寺より玉川I.C.（第三京浜道路：国道466号線）方向へ延びる台地中央西よりに位置する。北は一応環状第8号線で区切っておくが、東、西、南は崖線が形成される。

この台地上の道路（公道）について概要を記す。まず、現況に照らすと、台地の南北を縦貫する道路は3本ある。縦貫道路① 都営野毛一丁目団地、玉川野毛町公園東側南北道路。玉川I.C.で環状第8号線に接続する。縦貫道路② 同上東側南北道路。等々力渓谷にはぼげう。縦貫道路③ 同上東側南北道路。縦貫道路①・②の中間。以上を「下野毛村村絵図」（江戸期：新修『世田谷区史』上巻1962:p462 第183図）、「東京府武蔵国荏原郡等々力村及用賀村圖」『二万分之一迅速測図原図』（明治十四年フランス式彩色地図 陸軍参謀本部陸地測量部 1881 国土地理院所蔵：註2）、「帝都地形図」（大正11年/1922-昭和22年/1947：井上悦男編 之潮 2005）他の絵図・地図と比較する。

「下野毛村村絵図」は、略図ではあるものの、「六合用水」（註3）・「善養寺」（註3）・「八幡」の記載（図中の記載は活字）などが見られ、六合用水および善養寺の位置から、下野毛遺跡第17次調査地点（都営野毛一丁目団地）、野毛大塚古墳、玉川野毛町公園の範囲が想定されよう。道路と思われる記載は一部認められるものの、詳細は不明である。

陸軍参謀本部陸地測量部「東京府武蔵国荏原郡等々力村及用賀村圖」『二万分之一迅速測図』は、最初期の近代測量地形図である。野毛大塚古墳西裾にはぼ隣接する縦貫道路が描かれるが、縦貫道路①とは位置が異なる。

『帝都地形図』では、縦貫道路①、同②が概ね現況と同じ位置で記載される。同①・②で区画される範囲の南端で、台地を横断する道路が描かれる。これは、等々力ゴルフ場（註4）の南縁を示す区画境（道路）であり、縦貫道路③は描かれない。

「世田谷区玉川村 三枚之中部 3000 分 1」(『道路網図』1929:東京都公文書館所蔵)では、縦貫道路①、同②の位置は『帝都地形図』とほぼ同じであるが、赤道で表示される。また、縦貫道路③が描かれる。台地東西を横断する道路として、野毛大塚古墳北縁に隣接する位置(横断道路①)、縦貫道路②が北東への屈折点を通過する位置(横断道路②)の 2 本が描かれる。環状 8 号線に相当する道路は、青道で表現される。環状 8 号線は、原形が昭和 2 年(1927)に旧都市計画法により決定された(東京都都市整備局より)。本図は、関東大震災以降の都市計画図と考えられる。「世田谷区全図」『都市計画路線入 大東京各別地区別図』(内山模型製図社:東京都公文書館所蔵)は、上記『道路網図』に示される道路とほぼ同じである。内山模型製図社は、関東大震災後の都市図である『東京地籍図』(昭和 6 年/1931～昭和 10 年/1935)を作成している。

上記より、『帝都地形図』に示される等々力ゴルフ場の南緑区画境(道路)は、『道路網図』・『都市計画路線入 大東京各別地区別図』の横断道路②を南側へやや拡幅した位置にあると考えられる。繰り返しになるが、縦貫道路①以東は現況の道路とほぼ同じ位置である。南北縦貫道路、東西横断道路の設置時期は現在のところ不詳であるが、本台地の再開発に伴う道路網の整備に伴う時期と考えられる。おおよそ、大正 8 年(1919)の都市計画法の制定以降の可能性が高いと考えられる(『新編 世田谷区史』)。

以上の絵図・地図、さらに国土地理院空中写真サービス提供の航空写真(資料番号 B1-C2-69:陸軍 1936)などとの対比から、本遺構は等々力ゴルフ場(註 4)開設に伴い設置された区画境・道路と判断する。2 号遺構の北壁上端縁に沿いには、壁に並行するピット列が確認されており、これは『帝都地形図』に見られる南緑区画境(道路)に沿う柵状の表現に示されると判断する。1 号遺構との前後関係もそれを示す。

註 1 日本におけるスコップ(シャベル)の製造は、明治 26 年(1893)浅香工業(大阪府堺市)が生産に成功するとされる。

香工業株式会社 創業地:大阪府堺市 創業年:寛文元年(1661)頃

<https://www.asaka-ind.co.jp/company/history.html>

註 2 小学館編 1998『地図で見る百年前の日本』:原図 国土地理院所蔵『二万分一 迅速測図原図』(フランス式彩色図)

註 3 『新編武蔵風土記稿』巻四十九 荏原郡之十一 世田谷領 下野毛村

「六合用水」『新編武蔵風土記稿』の記載は「六郷用水」とある。「村民八次大夫屋ト云川幅三間ヨリ二間程ナリ村内ヲフルコト凡十四五町字根通ノ下ヲ流ル」

「善養寺」 「(前略)開山ハ阿闍梨祐榮ト云慶安五年(1652)七月二十六日寂ス相傳フ此寺ハ古深澤村ニアリシカ中頃此地へ移スト云其年歴評ラス(後略)」

註 4 等々力ゴルフ場は、昭和 6 年(1931)6月に開設(現 東急株式会社)した。昭和 14 年(1939)10月に閉鎖したのち、内務省防空研究所用地となる。

C 3号遺構(図版 25-5)

建物基礎枠 11 内に位置する。縄文時代の 85 号住居址西側の覆土を掘りぬいて作られた。覆土は締めりのないロームブロックを多量に含み、埋戻し土と思われる。底面には溝が巡っていたことから排水を目的とした構造を伴う。そして、東側の一部が団地基礎に壊されている。以上のことを踏まえて、覆土から現代に作られたと考えるが、団地建築時期よりは古いと思われる。第二次大戦時の防空壕の可能性もある。

V 自然科学分析

1 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子

はじめに

世田谷区の下野毛遺跡より出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

試料と方法

試料は、84 号住居 P1 から出土した土器の内面付着炭化物（試料 No.1 : PLD-52336）と、86 号住居跡の覆土出土の炭化材（試料 No.2:PLD-52337）、遺構外から出土した土器の内面付着炭化物（試料 No.3 : PLD-52338）の、合計 3 点である。なお、炭化材は最終形成年輪が残存していなかった。

測定試料の情報、調整データは第 16 表のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

第 16 表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-52336	遺構：84号住居P1 位置：埋設土器 遺物No.013 試料No.1	種類：土器付着物（内面：おこげ） 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸： 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム： 1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52337	遺構：86号住居跡 試料No.2	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸： 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム： 1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52338	位置：遺構外 遺物No.Q-18-2286 試料No.3	種類：土器付着物（内面：おこげ） 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸： 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム： 1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

結果

第 17 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}C$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した 14C 年代、第 160 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代 (yrBP) の算出には、

14Cの半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、および半減期の違い (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

14C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20、暦年較正結果が 1950 年以降にのびる試料については Post-bomb atmospheric NH2) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第 17 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用半 代 (yrBP ± 1σ)	14C 年代 (yrBP ± 1σ)	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲		14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲		2σ 暦年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-52336 試料 No. 1	-25.02 ± 0.19	4421 ± 22	4120 ± 20	3099-3011 cal BC (64.34%) 2975-2869 cal BC (5.26%) 2944-2938 cal BC (1.87%)	3213-3297 cal BC (1.80%) 3285-3272 cal BC (1.40%) 3269-3261 cal BC (5.57%) 3194-3055 cal BC (186.99%)	5047-6960 cal BP (64.34%) 6024-6916 cal BP (5.26%) 6003-6907 cal BP (1.87%)	5262-5246 cal BP (1.59%) 5234-5221 cal BP (1.40%) 5218-5190 cal BP (5.57%) 5053-4874 cal BP (186.99%)
PLD-52337 試料 No. 2	-28.35 ± 0.18	181 ± 18	190 ± 20	Post-bomb MIE curve (Oxal et al. 2021, Reimer et al. 2020): 1877-1895 cal AD (11.21%) 1755-1742 cal AD (11.34%) 1751-1765 cal AD (8.66%) 1774-1777 cal AD (1.34%) 1759-1811 cal AD (5.72%) 1838-1844 cal AD (5.56%) 1853-1856 cal AD (1.36%) 1862-1866 cal AD (5.91%) 1872-1878 cal AD (5.69%) 1916-1942 cal AD (17.51%) 1948-1949 cal AD (0.40%) 1953-1954 cal AD (0.26%)	Post-bomb MIE curve (Oxal et al. 2021, Reimer et al. 2020): 1870-1698 cal AD (14.89%) 1722-1780 cal AD (28.63%) 1797-1814 cal AD (9.89%) 1834-1889 cal AD (19.20%) 1908-1949 cal AD (21.80%) 1951-1954 cal AD (1.05%)	Post-bomb MIE curve (Oxal et al. 2021, Reimer et al. 2020): 225-208 cal BP (11.26%) 273-205 cal BP (11.21%) 199-185 cal BP (8.66%) 176-172 cal BP (1.34%) 151-136 cal BP (5.72%) 112-106 cal BP (5.56%) 97-84 cal BP (1.28%) 80-84 cal BP (5.91%) 78-72 cal BP (5.69%) 24-8 cal BP (17.51%) 6-5 cal BP (0.40%) -3-4 cal BP (0.26%)	Post-bomb MIE curve (Oxal et al. 2021, Reimer et al. 2020): 280-252 cal BP (14.89%) 229-170 cal BP (28.63%) 153-136 cal BP (9.89%) 116-61 cal BP (19.20%) 42-1 cal BP (21.80%) -1-4 cal BP (1.05%)
PLD-52338 試料 No. 3	-25.74 ± 0.18	4476 ± 22	4075 ± 20	2828-2824 cal BC (1.79%) 3063-2852 cal BC (5.85%) 3631-3372 cal BC (184.83%) 2513-2362 cal BC (5.69%)	2849-2812 cal BC (9.93%) 2742-2722 cal BC (1.36%) 2694-2690 cal BC (0.40%) 2679-2367 cal BC (172.85%) 2520-2466 cal BC (11.26%)	4777-4773 cal BP (1.79%) 4611-4601 cal BP (5.85%) 4580-4521 cal BP (184.83%) 4462-4452 cal BP (5.69%)	4794-4761 cal BP (9.93%) 4691-4681 cal BP (1.36%) 4643-4639 cal BP (0.40%) 4624-4516 cal BP (72.48%) 4479-4445 cal BP (11.26%)

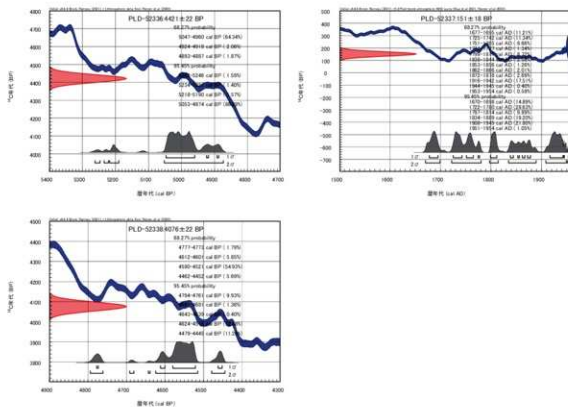
考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち 2σ 暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林 (2017) を参照した。

84 号住居 P1 から出土した土器の内面付着炭化物 (試料 No.1: PLD-52336) は、5262-5246 cal BP (1.59%)、5234-5221 cal BP (1.40%)、5218-5190 cal BP (5.57%)、5053-4874 cal BP (86.89%) の暦年代範囲を示した。

86 号住居跡の炭化材 (試料 No.2: PLD-52337) は、1670-1698 cal AD (14.89%)、1722-1780 cal AD (28.63%)、1797-1814 cal AD (9.89%)、1834-1889 cal AD (19.20%)、1908-1949 cal AD (21.80%)、1951-1954 cal AD (1.05%) の暦年代範囲を示した。これは、17 世紀後半～20 世紀中頃で、江戸時代前期～昭和時代に相当する。

遺構外から出土した土器の内面付着炭化物 (試料 No.3: PLD-52338) は、4794-4761 cal BP (9.93%)、4691-4681 cal BP (1.36%)、4643-4639 cal BP (0.40%)、4624-4516 cal BP (72.48%)、4479-4445 cal BP (11.26%) の暦年代範囲を示した。



第 160 図 暦年較正結果

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- Hua, Q., Turnbull, J., Santos, G., Rakowski, A., Ancapichún, S., De Pol-Holz, Hammer, S., Lehman, S., Levin, I., Miller, J., Palmer, J. and Turney, C. (2021) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2019. *Radiocarbon*, 64(4), 723-745. doi:10.1017/RDC.2021.95. <https://doi.org/10.1017/RDC.2021.95> (cited 23 November 2021)
- 小林謙一 (2017) 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—。263p, 同成社。
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

2 炭素・窒素安定同位体比分析

山形秀樹（パレオ・ラボ）

はじめに

東京都世田谷区に位置する下野毛遺跡から出土した土器より採取した付着炭化物の起源物質を推定するために、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定（放射性炭素年代測定参照）を行っている。

試料および方法

試料の情報は、第18表のとおりである。測定を実施するにあたり、試料に対して、超音波洗浄、アセトン洗浄および酸・アルカリ・酸洗浄を施して試料以外の不純物を除去した。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}_{\text{AIR}}$ ）の測定には、質量分析計DELTA V（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比にはIAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比にはIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムでCO₂とN₂を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度1000℃、還元炉温度680℃、分離カラム温度35℃である。分離したCO₂およびN₂はそのままHeキャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。

得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比を算出した。

結果

第18表に、試料情報と炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N比を示す。なお、試料No.3の窒素安定同位体比については、検出できた窒素含有量が少なく適正出力が得られなかったため、同出力での安定同位体比既知のスタンダード試料にて補正を行っており、通常よりもバラツキが大きくなっている事が予想される。第161図には炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第162図には炭素安定同位体比とC/N比の関係を示した。

第161図において、試料No.1、試料No.3の土器付着炭化物2点は、いずれもC₃植物の位置にプロットされた。

第162図において、試料No.1の土器付着炭化物はC₃植物・草食動物と土壌（黒色土）が重複する位置にプロットされた。試料No.3の土器付着炭化物はC/N比の値が図の範囲を超えているためにプロットされていないが、これは何らかの原因（例えば高温で熱せられたなど）で窒素が殆ど抜けてしまったためと思われる。

第18表 結果一覧表

試料番号	試料情報	$\delta^{13}\text{C}_{\text{org}}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}_{\text{org}}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比 (モル比)
No. 1	遺構：84号住居P1 位置：埋設土器内出土 遺物No. 013 種類：土器附着炭化物 採取箇所：内面（おこげ） 備考：PLD-52336	-25.9	6.83	60.8	3.90	18.2
No. 3	遺構：遺構外 遺物No. Q-18-2286 種類：土器附着炭化物 採取箇所：内面（おこげ） 備考：PLD-52338	-26.5	3.98	64.9	0.732	103.3

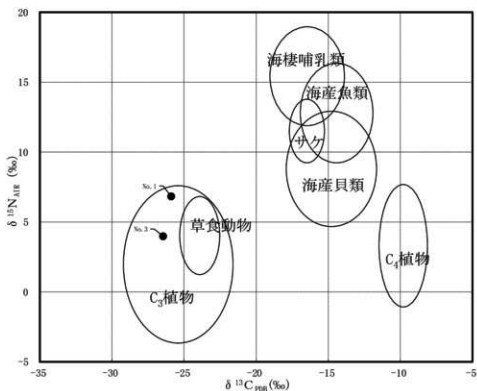
考察

試料No.1の土器附着炭化物は、第161図でC₃植物の位置、第162図でC₃植物・草食動物と土壌(黒色土)が重複する位置にプロットされ、主にC₃植物に由来する炭化物と推定される。

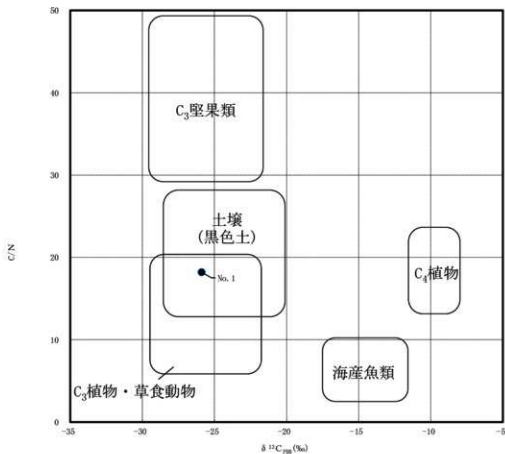
試料No.3の土器附着炭化物は、第161図でC₃植物の位置にプロットされ、第162図でC/N比の値が図の範囲を超えているためにプロットされていないが、主にC₃植物あるいはC₃植物の堅果類に由来する炭化物と推定される。

参考文献

- 赤澤 威・南川雅男（1989）炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元。田中 琢・佐原 眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」：132-143、クバプロ。
- 坂本 稔（2007）安定同位体比に基づく土器附着物の分析。国立歴史民俗博物館研究報告，137，305-315。
- 米田 稔（2008）丸根遺跡出土土器附着炭化物の同位体分析。豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」：261-263、豊田市教育委員会。
- Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44(2), 549-557.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子（2007）煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器附着炭化物の由来についての研究。平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B（課題番号16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」，85-95。
- 吉田邦夫・西田泰民（2009）考古学が探る火炎土器。新潟県立歴史博物館編「火焔土器の国 新潟」：87-99、新潟日報事業社。



第 161 図 炭素・窒素安定同位体比 (吉田・西田 (2009) に基づいて作製)



第 162 図 炭素安定同位体比と C/N 比の関係 (吉田・西田 (2009) に基づいて作製)

3 下野毛遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

はじめに

世田谷区野毛に所在する下野毛遺跡より出土した縄文時代の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

試料と方法

分析対象は、第 19 表に示す黒曜石製石器 5 点である。

試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管ターゲットはロジウム (Rh)、

X 線検出器は SDD 検出器である。測定条件は、測定時間 100sec、照射径 8 mm、電圧 50kV、電流 1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光 X 線分析による X 線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた (望月, 1999 など)。本方法では、まず各試料を蛍光 X 線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計 7 元素の X 線強度 (cps : count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb 分率 = $Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) Sr 分率 = $Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
- 4) $\log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

そして、これらの指標値を用いた 2 つの判別図 (横軸 Rb 分率—縦軸 $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$ の判別図、横軸 Sr 分率—縦軸 $\log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の判別図) を作成し、各地の原石データと遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、 $\log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の値が減少する (望月 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面

第 19 表 分析対象

試料番号	遺構	遺物番号	時期	器種
1	85号住居	050	縄文時代	石鏃
2	85号住居	103	縄文時代	石鏃
3	86号住居	065	縄文時代	石鏃
4	87号住居	360	縄文時代	石鏃
5	87号住居	281	縄文時代	石核



第 163 図 黒曜石産地分布図 (東日本)

を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第 20 表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第 163 図に各原石の採取地の分布図を示す。

分析結果

第 21 表に石器の測定値および算出した指標値を、第 164 図と第 165 図に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくなるため、図では各判別群を楕円で取り囲んだ。

分析の結果、4 点が恩馳島群（東京都、神津島エリア）の範囲にプロットされた。試料番号 4 は、第 164 図では恩馳島群の範囲にプロットされたが、第 165 図では恩馳島群の範囲の下方にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月 1999）、恩馳島群に属する可能性が高い。

第 21 表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。今回分析した 5 点は、すべて神津島産の石器であった。

おわりに

下野毛遺跡より出土した黒曜石製石器 5 点について、蛍光 X 線分析による産地推定を行った結果、5 点いずれも神津島エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書 2—上和田城山遺跡篇—」：172-179、大和市教育委員会。

第 20 表 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
			白滝	白滝2
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂 (43)、八号沢遺跡 (15)	赤石山山頂、八号沢遺跡、八号沢、黒曜の沢、鞍掛林道 (36)
		白滝2	7の沢川支流 (2)、18遺跡 (10)、十勝石炭露頭直下河床 (11)、アンサイの滝露頭 (16)	
	赤井川	赤井川	函川・土木川 (24)	
	上土幌	上土幌	十勝三数 (4)、タウシュベツ川右岸 (42)、タウシュベツ川左岸 (10)、十三沢 (32)	
	置戸山	置戸山	置戸山 (5)	
	所山	所山	所山 (5)	
	豊浦	豊浦	豊泉 (10)	
	旭川	旭川	近文谷 (8)、雨給谷 (2)	
	名寄	名寄	忠烈新川 (19)	
	秋文別	秋文別	秋文別1 秋文別2 秋文別3	中山 (65)
青森	遠軽	遠軽	社名瀬川河床 (2)	
	生田原	生田原	仁田赤川河床 (10)	
	留辺瀨	留辺瀨1 留辺瀨2	ケンマツ川河床 (9)	
	細路	細路	細路市安スキー場 (9)、阿寒川右岸 (2)、阿寒川左岸 (6)	
	木造	出東島	出東島海岸 (15)、鶴ヶ坂 (10)	
	茂田	八森山	岡崎岳 (7)、八森山公園 (8)	
	青森	青森	天田内川 (6)	
	青森	金ヶ崎	金ヶ崎温泉 (10)	
	秋田	男鹿	脇本	脇本海岸 (4)
	岩手	北上川	北上野原1 北上野原2 北上野原3	北上川 (9)、真城 (33)
宮崎		湯ノ倉	湯ノ倉 (40)	
色麻		根岸	根岸 (40)	
山形	仙台	秋保1 秋保2	土蔵 (18)	
	塩竈	塩竈	塩竈 (10)	
	月山	月山荘前 (24)、大蔵沢 (10)		
新潟	羽黒	柳引	たらのき代 (19)	
	新発田	板山	板山牧場 (10)	
	新津	金津	金津 (7)	
栃木	佐渡	真光寺	追分 (4)	
	高原山	甘藷沢 七尋沢	甘藷沢 (22) 七尋沢 (3)、宮川 (3)、枝持沢 (3)	
	西餅屋	芙蓉パーキング	土砂整備場 (20)	
	嵐山	嵐山 (14)、東餅屋 (54)		
	小深沢	小深沢	(42)	
	土屋橋	土屋橋	(10)	
	土屋橋	新和田トンネル北 (20)、土屋橋北西 (58)、土屋橋西 (1)		
	古峠	和町トンネル北 (28)、古峠 (38)、和町トンネル南 (28)		
	ブドウ沢	ブドウ沢	(20)	
	牧ヶ沢	牧ヶ沢	(20)	
神奈川	高松沢	高松沢	(19)	
	諏訪	星ヶ台	星ヶ台 (35)、星ヶ塔 (20)	
	荻科	冷山	冷山 (20)、変草峠 (20)、変草峠東 (20)	
	芦ノ湯	芦ノ湯	(20)	
	箱根	強宿	強宿 (51)	
	箱根	鍛冶屋	鍛冶屋 (38)	
	箱根	上多賀	上多賀 (20)	
	静岡	天城	和峠 (20)	
	東京	神津島	恩馳島 砂輪崎	恩馳島 (27) 砂輪崎 (20)
	島根	隠岐	久見 粟浦	久見パーライト中 (6)、久見採掘現場 (5) 粟浦海岸 (3)、加茂 (4)、岸浜 (3)

第 21 表 測定値および産地推定結果

試料番号	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb/分率	Mn\times100 / Fe	Sr/分率	Fe / K	判別群	エリア	試料番号
1	261.4	136.6	1719.1	480.3	629.6	390.4	998.4	19.22	7.94	25.20	0.82	恩馳島	神津島	1
2	203.8	107.2	1313.4	395.8	528.8	327.8	845.5	18.87	8.16	25.21	0.81	恩馳島	神津島	2
3	253.8	132.5	1646.9	479.5	664.3	390.3	998.1	18.93	8.05	26.23	0.81	恩馳島	神津島	3
4	367.8	121.8	1523.3	486.3	569.3	367.6	931.7	20.65	7.99	24.18	0.62	恩馳島?	神津島?	4
5	247.8	126.0	1549.1	453.4	606.8	373.6	963.9	18.91	8.14	25.31	0.80	恩馳島	神津島	5

VI 調査の成果と課題

今回の下野毛遺跡第17次調査では今までの調査と同様、後期旧石器時代、縄文時代、古墳時代、そして中世から近世にかけての遺構と遺物が検出されている。後期旧石器時代ではIX層中部付近から遺物集中部が1ヶ所検出されている。過去の調査から下野毛遺跡で出土している旧石器時代遺物は主にIV～V層のV層・IV層下部段階から砂川期にかけての石器群であったが、第5次調査時にIX・X層から礫が単独で出土し第16次調査において、2号集中部・3号集中部から、接合率が非常に高い剥片及び石核が多く出土したことは重要な成果であった。世田谷区内のIX層段階の石器群は、下野毛遺跡の北東側の瀬田遺跡・瀬田城跡、下山遺跡、鎌ヶ谷遺跡等や、南西側の等々力原遺跡でもIX層で石器群が検出されており、多摩川沿いの国分寺崖線上に帯状にその分布が認められている。今回も小規模ながらIX層を出土層位とする遺物集中部を検出しており、国分寺崖線上に分布する後期旧石器時代前半期における人々の活動を検討する上で、一つのデータを加えることになった。

縄文時代の調査では、削平や攪乱により遺構の遺存状態はあまり良くなかったが、縄文時代の住居址24軒を報告することとなった。特徴的なのは、平面形態を把握しうる住居址の中で、平面形態が円形のもののみならず隅丸方形のものもいくつか認められた。今回の調査以前の事例においても隅丸方形の住居址がいくつも検出されており、下野毛遺跡の特定の段階における特徴の一つとして挙げられる。竪穴住居址については、覆土あるいは周溝まで後世の開発によって削平され、ピットのみが残存し、調査時に把握できなかった住居址もいくつか存在するかもしれない。

古墳時代では、第6次および第16次調査時に検出された野毛2号墳周濠に続く周濠を今回の調査区の北西隅付近で検出した。周濠は西側で切れており、前回の調査時に示唆された野毛2号墳が帆立貝形古墳である可能性が高まった。また周濠内の覆土上層からは埴輪片が多数出土している。いずれも6世紀前半に帰属し、過去の調査成果と矛盾するものではなかった。

中世では、調査範囲の南北を横断する断面がV字状の溝状遺構を検出した。下野毛遺跡における過去の調査においても「等々力城(砦)」の堀や濠と推測されてきた同様の特徴を持つ遺構が検出されている。今回の調査で検出した溝状遺構も等々力砦に関連する遺構の一つとして捉えられる。

このように下野毛遺跡第17次調査の成果は、複数の時期にわたって重要な資料を得ることが出来た。ここまで調査成果の概要を記したが、次に各時期における調査成果について個別に触れる。

1 旧石器時代

今回の調査において立川ルームIXb層としたIX層下部から遺物集中部を検出した。トゥールの出土が無く全て石核と剥片が組成をなす。石器16点(硬質細粒凝灰岩12点、黒曜石4点)、礫1点と小規模な遺物集中部ながら接合率が44%の値を示す。得られた接合資料は2個体である。接合した資料は全て、硬質細粒凝灰岩製である。

接合資料1は、亜円礫の原形形状を利用した資料で、上面に剥離を加えて打面を形成し、打面調整を行うことなく剥片や石刃の剥離を行おうとしたと推測する。接合した資料は、打面形成に関わり自然除去に関わる剥片である。石核に残された最終剥離面を観察すると、剥離された剥片の先端部

にステップフラクチャーが生じ、石核中央部の作業面に剥離を行うためには障害となる段差が形成されていた。段差を除去するための剥離などを行わずに廃棄されたと思われる。そのことから、剥片・石刃生産の初期工程のみが行われた資料であることが分かる。

類似する技術に第16次調査次に出土した母岩4が挙げられる。この資料も、拳大の亜円礫から単発剥離の打面形成を行い、打面調整をせずに剥片剥離を行っている。作業面と打面再生を繰り返しながら打面を維持しつつ石刃生産を行った資料である。今回の調査で得られた接合資料1も同じ技術系統の中で製作され廃棄された資料だと思われる。

隣接する第16次調査の成果を踏まえつつまとめる。前回と同様に硬質細粒凝灰岩を主体として、黒曜石などの石材を僅かに組成し、亜円礫・円礫からの縦長剥片・石刃生産を行うという点で一致することから、今回の調査で出土した遺物集中部も同一の石器群に含まれる可能性が高い。本遺跡と近接する瀬田遺跡・瀬田城跡、下山遺跡、鎌ヶ谷遺跡など積極的に石器製作を行っている同様の遺跡が存在する。前回の調査においても指摘されたように、ツールの組成率、主体とする石材の違いといった点において、国分寺崖線上に展開する後期旧石器時代前半期におけるIX層段階の他の石器群と比較してどのような位置づけが可能となるのか、当時の人々の居住や移動についてどのような視点を与えることが出来るのかを検討するのが、今後の課題である。

2 縄文時代

遺構・遺物

今回の第17次調査では、縄文時代の遺構として、住居址24軒、土坑(SK)12基、焼土遺構(SA)1基、ピット152基を検出した。住居址の内、第3次調査で検出した住居址を再検出したものが5軒、16次調査で検出されたものの続きが3軒、今回新たに検出した住居址が16軒である。これらの遺構は、縄文時代中期中葉から後期初頭に属すると考えられる。調査区の地表面の大部分は、近代から現代における開発工事の影響によって、削平・攪乱を受けており、覆土が残存しない遺構が多かったものの、炉址や埋設土器などの検出から住居址と確認したものが多く見られた。そのため、単独のピットとしてとらえたものの中にも本来は住居址などの遺構を形成していた可能性がある。一方で、近現代の開発工事の影響が少なかった、調査区の東西隅には比較的多くの包含層が残されており、覆土が残存する住居址も検出された。

遺物は、中期後葉を主体として中期前葉から後期前葉にかけての土器が出土している。特に調査区西側に残されていた包含層からは、今回の調査で出土した遺物の6割近くが出土し、81号住居址周辺の包含層から出土した土器が住居址内出土のものとも接合するのを確認した。

下野毛遺跡では、これまでの調査により77軒の住居址が検出され、舌状台地上に環状集落が展開するものと捉えられてきた(下野毛遺跡第15次調査会 2014)。集落は勝坂3式期に始まり加曾利E式期を主体とし、今回の発掘調査範囲は第16次調査範囲を含めて中央広場に相当するものと考えられてきていたが、前回の調査結果で指摘されたように、多くの住居址が見られ、集落が遺跡全面に広がっていることが明らかにされたことから、集落の通時的な変遷について改めて検討が必要になったと言える。集落の変遷についての検討は、前回の発掘調査報告書内に記している(東京都埋蔵文化財センター 2019)ため今回は新たに加わった住居址についてまとめるに留める。

下野毛遺跡では、第17次調査までに勝坂3式期の住居址が8軒検出されてきた。今回の調査で新たに検出した住居址では、当該期の住居址を1軒(85号住居址)検出した。また、詳細は不明であるが中期中葉に属するとした住居址が2軒(78・90号住居址)ある。85号住居址は、遺存状態が比較的良く、掘り込みが深く、ピットの重複があることから複数回の建替が想定される点が特徴である。第16次調査時には当該期の住居址は円形を呈すると指摘されたが、本住居址の平面形態は隅丸方形を呈する。78号と90号住居址も、隅丸方形を呈すると推定する。当該期に属する住居址は、調査範囲の東側、下野毛遺跡の範囲中央部に集中することから、台地の内寄りに位置することが想定される。

加曽利E1式期に属する住居址は、2軒(84・86号住居址)検出された。86号住居址は、比較的遺存状態が良く、平面形態は円形を呈する。深い掘り込みと壁溝、ピットの重複から複数回の建替が考えられる。当該期のいずれの住居址も調査範囲の東側に集中しており、勝坂3式期と同様に台地内寄りに位置する。

加曽利E2式期に属する住居址が今回の調査で最も軒数が多かった。当該期に属する住居址は、4軒である。そのうち遺構覆土が良好に残存する87号住居址は、比較的深い掘り込みと2条検出された壁溝、ピットの重複などから複数回の建替が想定される。その他の当該期の住居址(80・79・89号住居址)は、削平を受けており平面形態や建替など具体的なことは不明である。今回検出された住居址の分布は、調査範囲の中央部から東側にかけてであり、前回同様に西側には見られなかった。

加曽利E3式期に属する住居址は、83号住居址のみである。北側が第16次調査時に検出され、今回は残り半分を調査した、当該期に属する住居址が2軒(49・50号住居址)隣接することが明らかになった。当該期における住居址のある程度のまとまりが示唆される。

加曽利E4式期、中期中葉から後期初頭にかけてに属すると思われる住居址は、81号住居址である。第16次調査時に検出され、当該期に属する55号住居址の南側に近接する。調査範囲の西側から検出される傾向が見て取れる。その他、周辺の住居址の分布から中期に属する住居址としたものが3軒、帰属時期不明を2軒検出した。

集落の変遷として、台地中央部から西側の外周部に向かって移動する傾向は見取れるものの、過去の調査成果を踏まえると、環状を呈する集落とは断定が難しい。今回と前回の調査区の東側、台地中央部における住居址の分布状況など、今後の調査によってさらに集落の様相が明らかになることが期待される。

自然科学分析

今回の調査では、炭化物の年代測定分析、年代測定を行った土器付着炭化物を試料にした炭素・窒素安定同位体分析、遺構内出土の黒曜石製遺物の一部に産地推定分析を株式会社パレオ・ラボが実施した。分析結果の詳細については、「V 自然科学分析」の章に掲載したが、ここでは遺構の成果と合わせて検討したい。

炭化物の年代測定については、84号住居址の埋設土器内の覆土から出土した土器片(第78図5)に付着した炭化物(試料1、PLD-52336)、86号住居址の床面から出土した炭化材(試料2、PLD-52337)、遺構外出土の土器付着炭化物(第144図54、試料3、PLD-52338)を試料にした。試料1は、84号住居址の遺存状態が悪く詳細が不明であったため年代値と埋設土器から時期を判断するた

めに実施した。結果として、2σ 暦年代範囲で 4,874～5,262calBP、埋設土器が加曽利 E1 式あることから両者とも矛盾のない結果となった。試料 2 の 86 号住居址出土の炭化材は、17 世紀後半～20 世紀中ごろまでの年代値となり後世の混入であった。86 号住居址の上面に近世～現代の耕作痕があったことから、その時期に混入した炭化材だと思われる。試料 3 は、土器型式の年代値のデータ蓄積のために実施した。結果として加曽利 E4 式並行の曾利 V 式として矛盾のない年代となった。土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体は、いずれも C3 植物または C3 植物堅果類の結果を示した。

最後に黒曜石産地推定分析の結果について検討する。複数の石質に分類し、それぞれ 1 点ずつを試料として分析を行った結果、全点が神津島馳鳥系となった。谷沢川対岸に位置する等々力原遺跡（世田谷区教育委員会 2000）では 85 点中 77 点、第 16 次調査では 11 点全てが（東京都埋蔵文化財センター 2019）神津島産の結果が得られており、今回も同様の傾向が得られた。両遺跡における黒曜石の利用傾向が同様であり、両遺跡の変遷、土地利用の変化、集団の関係などを示唆するものとなった。

3 古墳時代

今回の第 17 次調査における古墳時代の遺構は、北側に隣接する第 16 次調査区から続く野毛 2 号墳の周濠が検出された。第 16 次調査の成果からは、墳丘南側に周濠が途切れ、外側に開くことが確認されたことから、造出しあるいは前方部の存在が想定されたが（東京都埋蔵文化財センター 2019）、今回の調査によりこれは前方部の東隅部であることが判明した。これにより第 6 次調査（世田谷区教育委員会 1993）の成果とあわせ、野毛 2 号墳はブリッジを伴う帆立貝形古墳であることが確定した。これまでの調査成果から推定される墳丘の規模は、後部円径 25.9 m（周濠内側）・前方部長 8.4 m（周濠内側）となり、墳丘の全長は 34.0 m と推定される。

周濠からは第 16 次調査と同様、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪の破片が出土し、形象埴輪では馬形埴輪の鈴が確認された。野毛 2 号墳出土埴輪の産地については、胎土の蛍光 X 線分析から群馬県藤岡市本郷埴輪窯跡との想定がなされているが（寺田 2016）、第 16 次調査出土遺物とあわせ肉眼観察ではあるが、胎土に結晶片岩や海綿状骨針が含まれるものが多くみられることは、1 つの証左といえる（志村 1995・1999）。多摩川中～下流域左岸の後期古墳への埴輪供給については、毛野・比企系埴輪が野毛古墳群および喜多見古墳群（世田谷区）・狛江古墳群（狛江市）に、生出土塚窯系埴輪が田園調布古墳群（大田区）・高倉古墳群（府中市）にそれぞれ供給されており、これは古墳被葬者と供給元の集団との政治的関係を示すものと指摘されている（寺田 2021）。

野毛 2 号墳の年代については、第 6 次調査においてブリッジ付近の周濠覆土より出土した MT15 型式の須恵器坏から、6 世紀初頭と位置付けられている（寺田 2016）。また、第 16 次調査では周濠内より土師器甕の口縁部破片が出土しており、祭祀での使用の可能性も指摘されている（東京都埋蔵文化財センター 2019）。世田谷区野毛地域における首長墓系列は、5 世紀初頭の野毛大塚古墳（全長 82 m）に始まり、天慶塚古墳（全長 52 m）―八幡塚古墳（全長 33.5 m）―御岳山古墳（全長 57 m）―狐塚古墳（全長 33 m）と、5 世紀代を通じて帆立貝形古墳あるいは造出し付円墳が築造されていく。今回の調査において、野毛 2 号墳が帆立貝形古墳であることが明らかになったことにより、これまで野毛古墳群では 6 世紀代になると首長墓系列は途絶えると考えられてきたが、野毛 2 号墳が狐塚

古墳に続く本地域における6世紀代の首長墓と位置付けることができよう。

また、ブリッジを伴う帆立貝形古墳という墳形は、野毛古墳群の上流域に位置する狛江市狛江古墳群の亀塚古墳(5世紀末～6世紀初頭:全長40m)と同じであり、野毛2号墳(全長32.7m)より墳丘規模は大きく、築造時期は近い。狛江古墳群は、5世紀代の野毛古墳群における一連の造墓活動を受け、やや遅れた5世紀中葉から造墓活動が始まったものと考えられており(狛江市教育委員会2014)、両古墳の墳形の一致は前述の埴輪の供給関係ともあわせ、野毛古墳群と狛江古墳群の関係を示すものともいえる。一方、下流域の大田区田園調布古墳群では前方後円墳が6世紀代を通じて築造されており、これとの関係についても改めて考えていく必要がある。

このほか、近年の調査では本遺跡の北西に隣接する六所東遺跡において、6世紀前半とされる野毛14号墳の周濠が調査され、円筒埴輪・人物埴輪・須恵器が出土している(箕浦2024)。さらに、本遺跡の南東に隣接する下野毛根遺跡では、5世紀末葉とされる野毛15号墳の周濠が新たに検出され、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪(人物/馬/その他)・鳥形土製品・土師器が出土している(世田谷区立郷土資料館2024)。これらからも明らかとなり、今後の周辺地域の調査の進展により、野毛古墳群の範囲や古墳の数はさらに拡大・増加することが想定される。今回の調査も含めた新たな成果を元に、多摩川下流域左岸地域の古墳時代の様相について、今後さらに検討を進めていかなければならないだろう。

引用・参考文献

- 稲荷丸北遺跡調査団 1983『稲荷丸北遺跡』ニューサイエンス社
- 遠藤邦彦・千葉達朗・杉中祐輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉 陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀伸三郎 2019『武蔵野台地の新たな地形区分』『第四紀研究』58 pp353-375
- 大西雅也 2013『多摩川下流域左岸における終末期古墳・横穴墓の様相』『文化財の保護第45号』東京都教育委員会
- 大西雅也 2023『多摩川下流域の後・終末期古墳と横穴墓の様相』『東京考古』41 東京考古談話会
- 貝塚爽平 1979『東京の自然史 増補第2版』紀伊國屋書店
- 川西宏幸 1978『円筒埴輪総論』『考古学雑誌』第64巻第2号 日本考古学会
- 黒尾和久・小林謙一・中山真治 2004『シンポジウム縄文中期の集落研究の新天地 3—勝坂から曾利へ—発表要旨資料集』縄文中期集落研究グループ・セツルメント研究会
- 黒尾和久・小林謙一・中山真治 2016『シンポジウム縄文研究の地平 2016—新地平編年の再構築 発表要旨』縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 小林謙一 2017『縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—』同成社
- 小林達雄編 2008『総覧縄文土器』アム・プロモーション

- 狛江市教育委員会 2014 『猪方小川塚古墳と狛江古墳群』こまえ文化財ブックレット2
 狛江市史編集専門委員会 2021 『新狛江市史 通史編』狛江市
 坂詰秀一 2006 『東京の古墳を考える』品川区立品川歴史館
 志村 哲 1995 『本郷塚輪竈跡とその周辺』『日本考古学協会 1995 年度大会研究発表要旨』日本考古学協会
 志村 哲 1999 『藤岡産埴輪が供給された前方後円墳』『考古学ジャーナル 443』
 下山遺跡第 10 次調査会 2002 『下山遺跡Ⅳ』
 世田谷区遺跡調査会・下山遺跡調査団 1982 『下山遺跡Ⅰ』
 世田谷区教育委員会 1966 『Ⅱ 玉川野毛町区立青年の家遺跡』『区内遺跡調査報告』郷土資料館紀要第 1 集
 世田谷区教育委員会・世田谷区遺跡調査会 1984 『下野毛遺跡』
 世田谷区教育委員会 1987 「12. 下野毛遺跡 (第 2 次)」『1986 年度年報』世田谷区遺跡調査報告 8
 世田谷区教育委員会 1992 「9. 下野毛遺跡 (第 7 次)」『1990 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会・下野毛遺跡第 5 次調査会 1992 『下野毛遺跡Ⅱ』
 世田谷区教育委員会・下野毛遺跡第 6 次調査会 1993 『下野毛遺跡Ⅲ』
 世田谷区教育委員会 1994 「1. 下野毛遺跡 (第 8 次)」『1992 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会 1997 『瀬田遺跡Ⅱ』
 世田谷区教育委員会 1998 「8. 等々力原遺跡 (第 2 次)」『1996 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会・野毛大塚古墳調査会 1999 『野毛大塚古墳—東京都世田谷区野毛 1 丁目所在の古墳保存整備・発掘調査記録—』
 世田谷区教育委員会 2000 「2. 下野毛遺跡 (第 9 次)」『1998 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会 2000 『下野毛遺跡Ⅳ・野毛大原横穴群』
 世田谷区教育委員会・放射 3 号線世田谷地区遺跡調査会 2000 『等々力原遺跡Ⅰ・等々力根遺跡Ⅱ・御岳山古墳Ⅰ』
 世田谷区教育委員会 2001 「5. 下野毛遺跡 (第 10・12 次)」『1999 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会 2002 『鎌ヶ谷遺跡Ⅰ』
 世田谷区教育委員会 2002 「4. 瀬田遺跡 (第 14 次)」『2000 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会・等々力原遺跡第 4 次調査会 2003 『等々力原遺跡Ⅱ』
 世田谷区教育委員会 2006 「12. 下野毛根遺跡 (第 3 次)」『2004 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会 2007 「2. 下野毛遺跡 (第 13 次)」『2005 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会 2008 『鎌ヶ谷遺跡Ⅱ』
 世田谷区教育委員会・瀬田遺跡第 24 次調査会 2008 『瀬田遺跡Ⅳ』
 世田谷区教育委員会 2009 「1. 下野毛根遺跡 (第 4 次)」『2007 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会・瀬田遺跡第 26 次調査会 2009 『瀬田遺跡Ⅴ』
 世田谷区教育委員会 2010 「附編 2 下野毛根遺跡第 5 次調査報告」『2009 年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
 世田谷区教育委員会 2012 『下野毛根遺跡Ⅰ・中野田遺跡Ⅳ—東京都世田谷区野毛二丁目 4 番・喜

多見八丁目6番の発掘調査記録ー

- 世田谷区教育委員会 2013 「2. 瀬田遺跡 (第33次)」『2012年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
- 世田谷区教育委員会・板木遺跡第8次調査会 2014 『板木遺跡Ⅷ』
- 世田谷区教育委員会・下野毛遺跡第15次調査会 2014 『下野毛遺跡Ⅴ』
- 世田谷区教育委員会 2016 「附編 下野毛遺跡第14次調査概報」『2014年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
- 世田谷区教育委員会 2016 『国重要文化財指定記念シンポジウム ー最新の研究から迫るー野毛大塚古墳の実像』
- 世田谷区教育委員会 2017 『奥沢台遺跡Ⅲ』
- 世田谷区教育委員会 2017 「2. 瀬田遺跡・瀬田城跡 (第37次)」『2015年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
- 世田谷区教育委員会 2017 「2. 瀬田遺跡 (第36次)」『2016年度 世田谷区埋蔵文化財調査年報』
- 世田谷区教育委員会 2020 『天塚古墳Ⅰ・奈の坂東遺跡Ⅱ』
- 世田谷区郷土資料館 2002 『せたがや最古の狩人たち - 3万年前の世界』(平成14年特別展図録)
- 世田谷区立郷土資料館 2024 『2024 世田谷区遺跡発掘調査速報展ー最新の調査成果から 展示品リスト』
- 世田谷区史編さん室 1975 『世田谷区史料』第8集 考古編
- 寺田良喜 2016 「南武蔵における埴輪の生産と流通ー蛍光X線分析を中心としてー」『埴輪研究会誌第20号』埴輪研究会
- 寺田良喜 2021 「南武蔵における埴輪の生産と流通 (まとめ)」『埴輪研究会誌第25号』埴輪研究会
- 東京帝国大学編 1928 『日本石器時代遺物発見地名表 (第5版)』
- 東京都埋蔵文化財センター 2019 『下野毛遺跡Ⅵ』東京都埋蔵文化財センター調査報告第346集
- 戸田哲也 1999 「関東地方 中期 (加曾利E式)」『縄文時代』第10号第1分冊
- 西岡秀雄 1936 「荏原台に於ける先史及び原始時代の遺跡遺物」『考古学雑誌』第26巻第5号
- 沼澤 豊 2006 『前方後円墳と帆立貝古墳』 雄山閣
- 比田井克仁 1988 「南関東五世紀土器考」『史館 第二十号』 史館同人
- 広瀬和雄・和田晴吾 2011 『講座日本の考古学7 古墳時代 (上)』 青木書店
- 右島和夫 2003 「初期群集墳と帆立貝式古墳」『帆立貝形古墳を考える』 かみつけの里博物館
- 箕浦 絢 2024 「2 世田谷区 六所東遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会49 発表要旨』東京都教育委員会
- 遊佐和敏 1988 『帆立貝式古墳』 同成社
- 山形真理子 1996 「曾利式土器の研究: 内的展開と外的交渉の歴史」『東京大学考古学研究室研究紀要』14
- 山形真理子 1997 「曾利式土器の研究: 内的展開と外的交渉の歴史 (下)」『東京大学考古学研究室研究紀要』15
- 吉田 格 1956 「東京都玉川野毛町公園内遺跡」『武蔵野』第35巻1号



1 調査前状況 (西から)



2 作業風景 (東から)



3 作業風景 (北から)



4 作業風景 (西から)



5 作業風景 (北から)

図版 2



1 BL1 (TP10) 石核出土状況 (北から)



2 BL1 (TP5) 遺物出土状況 (西から)



3 BL1 (TP10) 西壁 (東から)



4 TP1 北壁 (南から)



5 TP2 西壁 (東から)



6 TP3 (北から)



7 TP4 (北から)



8 TP7 (南から)



1 TP8 北壁 (南から)



2 TP9 (南から)



3 5号住居址 P13 (右)・P14 断面 (左) (北から)



4 5号住居址 P13 (右)・P14 (左) 完掘 (北から)



5 6号住居址 P7 (左)・P8 (右) 断面 (北から)



6 6号住居址 P9 (右)・P10 (左) 完掘 (北から)



7 6号住居址 P11 完掘 (南から)



8 6号住居址 P13 完掘 (北から)

図版 4



1 10号住居址 P5断面(北から)



2 10号住居址 P5完掘(北から)



3 49・50号住居址 検出状況(南から)



4 50号住居址 炉址検出状況(北から)



5 50号住居址 炉址燃焼面(北から)



1 78号住居址 全景（東から）



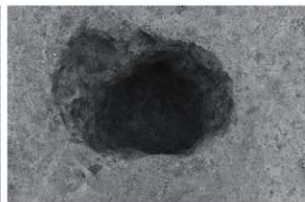
2 78号住居址 炉址断面（東から）



3 78号住居址 炉址燃焼面断面（東から）



4 78号住居址 P6 断面（西から）



5 78号住居址 P15 完掘（東から）



1 79号住居址 全景(東から)



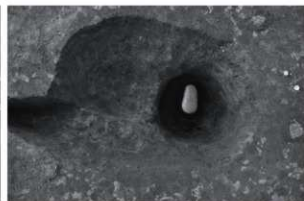
2 79号住居址 炉址燃焼面(北から)



3 79号住居址 炉址内埋設土器(東から)



4 79号住居址 P10埋設土器検出状況(南から)



5 79号住居址 P10石器出土状況(南から)



1 80号住居址 完掘状況(北から)



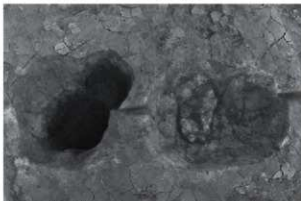
2 80号住居址 炉址断面(西から)



3 80号住居址 炉址埋設土器(西から)



4 80号住居址 炉址下層断面(西から)



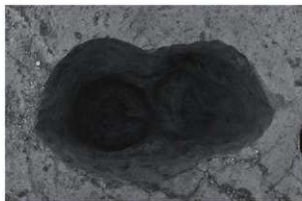
5 80号住居址 炉址・P1・P2 完掘(西から)



1 80号住居址 P1・P2断面（西から）



2 80号住居址 P27完掘（南から）



3 80号住居址 P13左・P14右完掘（東から）



4 80号住居址 P15左・P16右完掘（南から）



5 81号住居址 完掘状況（南から）



1 81号住居址 検出状況(南から)



2 81号住居址 P1土器出土状況(北から)



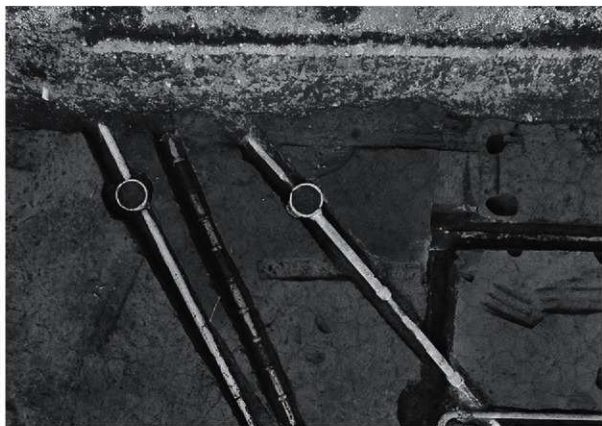
3 81号住居址 P1断面(北から)



4 81号住居址 炉址燃烧面(西から)



5 81号住居址 炉址燃烧面断面(西から)



1 82号住居址 完掘状況（南から）



2 82号住居址 炉址検出状況（北から）



3 82号住居址 炉址燃焼面（北から）



4 82号住居址 炉址完掘（北から）



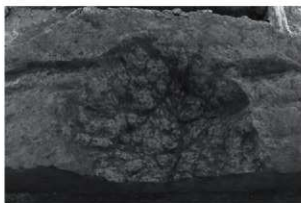
5 82号住居址 炉址燃焼面断面（北から）



1 83号住居址 検出状況（南から）



2 83号住居址 炉址遺物出土状況（北から）



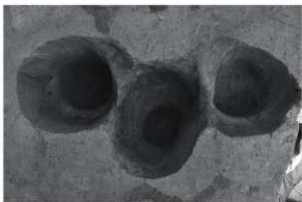
1 83号住居址 炉址完掘（北から）



2 83号住居址 P11左・P10右断面（東から）



3 83号住居址 P7左・P6・P5右断面（西から）



4 83号住居址 P7左・P6・P5右完掘（西から）



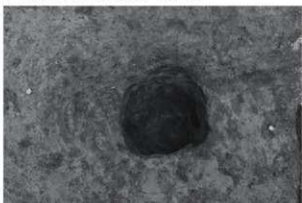
5 84号住居址 硬化面検出（北から）



6 84号住居址 掘方完掘（北から）



7 84号住居址 P1埋設土器（西から）



8 84号住居址 P3（西から）



1 85号住居址 全景（北から）



2 85号住居址 遺物出土状況（西から）



3 85号住居址 遺物出土状況（西から）



4 85号住居址 炉址埋設土器検出状況（北から）



5 85号住居址 炉址掘方断面（北から）



1 85号住居址 浅鉢出土状況(西から)



2 85号住居址 石皿出土状況(北から)



3 85号住居址 P25柱穴完掘(南から)



4 85号住居址 炉址完掘(西から)



5 85号住居址 作業風景(西から)



1 86号住居址 全景(南から)



2 86号住居址 遺物出土状況(東から)



3 86号住居址 SK1完掘(北から)



4 86号住居址 壁溝断面(西から)



5 86号住居址 壁溝完掘(北から)



1 87号住居址 完掘（北から）



2 87号住居址 炉址①燃烧面（南から）



1 87号住居址 全景(北から)



2 87号住居址 炉址①完掘(南から)



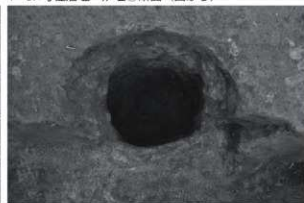
3 87号住居址 炉址②断面(西から)



4 87号住居址 炉址③断面(西から)



5 87号住居址 P1埋設土器検出状況(北から)



6 87号住居址 P1完掘(南から)



7 87号住居址 P7埋設土器断面(南から)



8 87号住居址 P7完掘(南から)



1 88号住居址 炉址断面 (南から)



2 88号住居址 炉址完掘 (南から)



3 88号住居址 P8断面 (南から)



4 88号住居址 P8完掘 (南から)



5 88号住居址 P7断面 (北から)



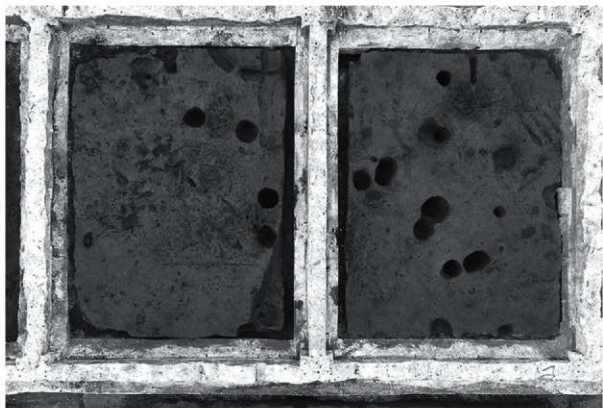
6 88号住居址 P9断面 (西から)



7 88号住居址 P1完掘 (西から)



8 88号住居址 P5完掘 (南から)



1 89号住居址 全景（南から）



2 89号住居址 P1埋設土器検出状況（東から）



1 89号住居址 P1埋設土器断面(東から)



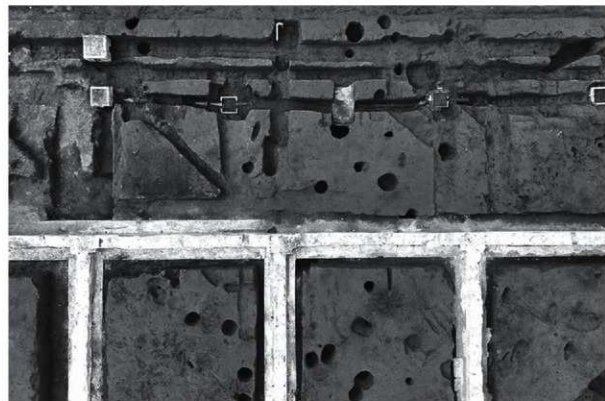
2 89号住居址 P8断面(東から)



3 90号住居址 断面(西から)



4 90号住居址 完掘(南から)



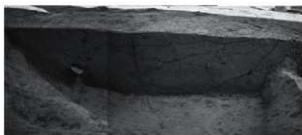
5 91号住居址 完掘(南から)



1 1号土坑 完掘 (西から)



2 2号土坑 断面 (南から)



3 3号土坑・4号土坑 断面 (西から)



4 3号土坑・4号土坑 完掘 (西から)



5 1号焼土遺構 断面 (西から)



6 6号土坑 完掘 (東から)



7 7号土坑 作業風景 (南から)



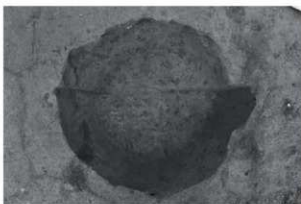
8 7号土坑 完掘 (南から)



1 5号土坑 遺物出土状況(東から)



2 5号土坑 断面(南から)



3 5号土坑 完掘(南から)



4 8号土坑 断面(北から)



5 9号土坑 完掘(東から)



1 10号土坑 断面(南から)



2 10号土坑 完掘(南から)



3 11号土坑 完掘(北から)



4 12号土坑 断面(北から)



5 1号溝 完掘(南から)



6 3号溝 断面(西から)



7 2号溝 完掘(北から)



1 野毛2号墳周濠完掘 (北から)



2 野毛2号墳周濠 埴輪出土状況1段目 (南西から)



3 野毛2号墳周濠 埴輪出土状況2段目 (南から)



4 野毛2号墳周濠 埴輪出土状況3段目



5 野毛2号墳周濠 遺物出土状況 (西から)



1 1号遺構 近現代道路跡・2号遺構 近代道路跡 (東から)



2 2号遺構 近世道路杭痕 (北から)



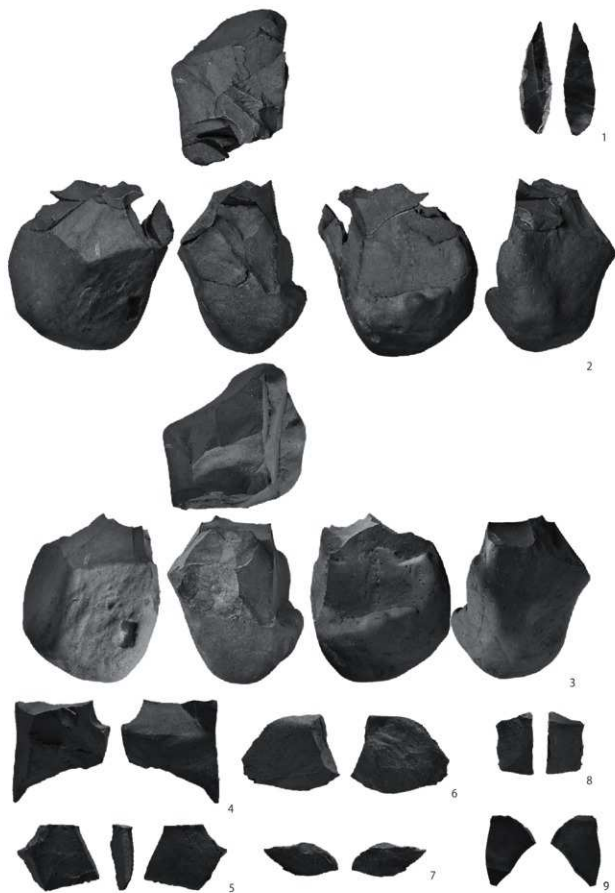
3 2号遺構 (西から)



4 2号遺構 (東から)



5 3号遺構 (東から)



後期旧石器時代 BL 出土石器・単独出土石器

78号住居址



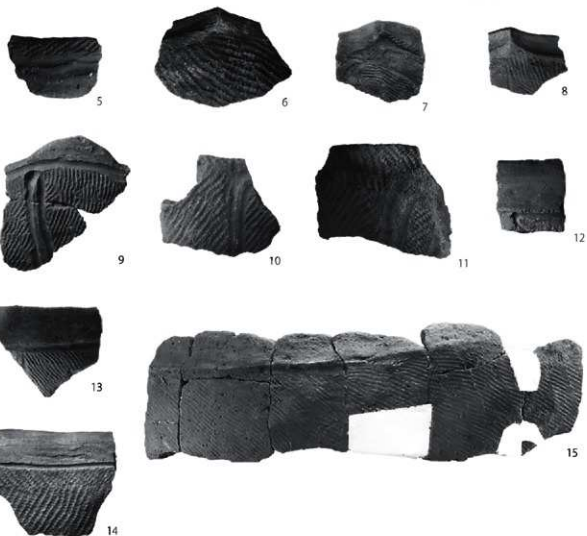
79号住居址



80号住居址

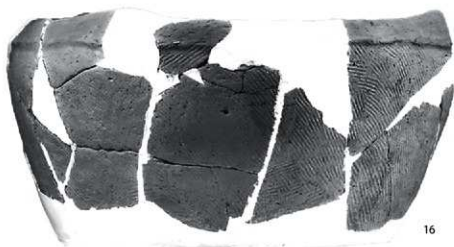


81号住居址



80号住居址出土縄文土器・81号住居址出土縄文土器(1)

81号住居址



16



17



18



19



20



21



22



23



24



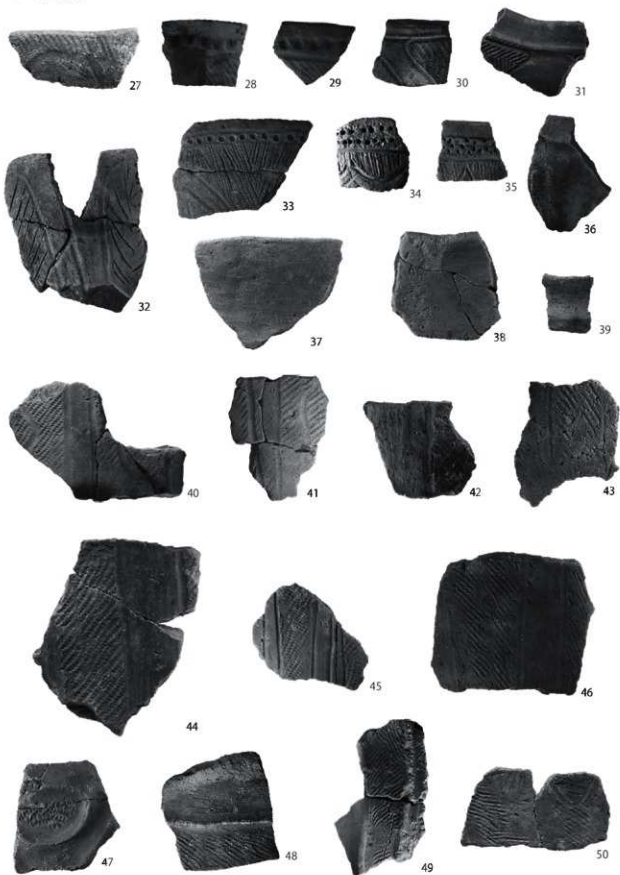
25



26

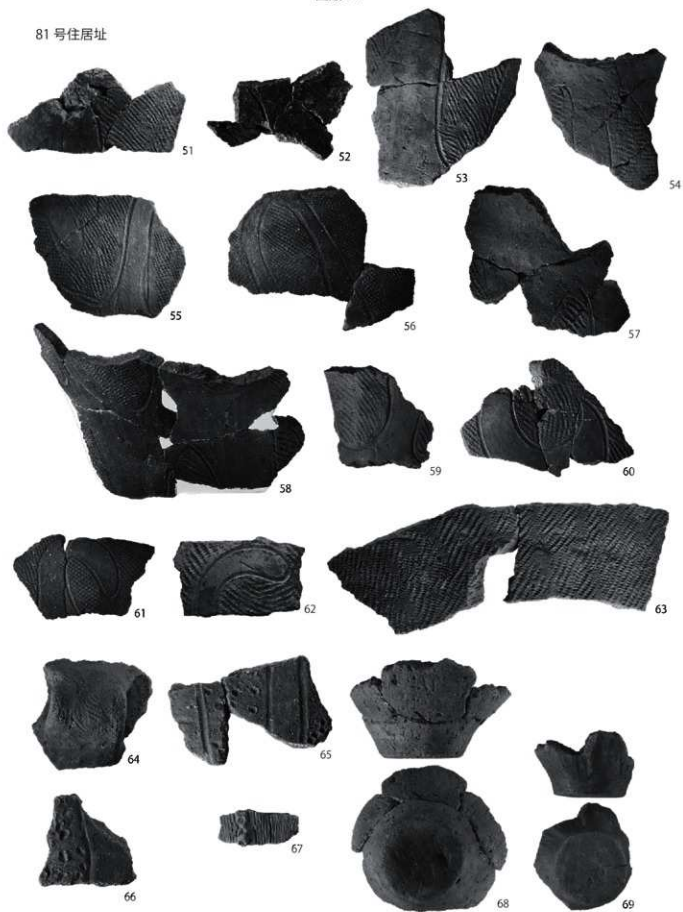
81号住居址出土縄文土器(2)

81号住居址



81号住居址出土縄文土器(3)

81号住居址



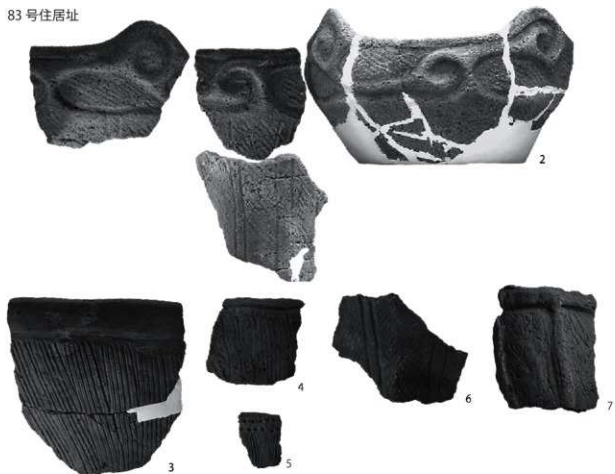
81号住居址出土縄文土器 (4)

81号住居址

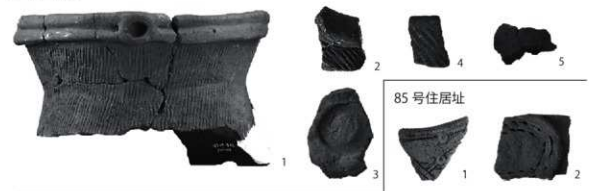


81号住居址出土縄文土器 (5)・82号住居址出土縄文土器・83号住居址出土縄文土器 (1)

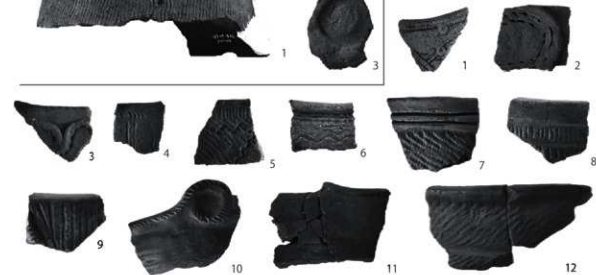
83号住居址



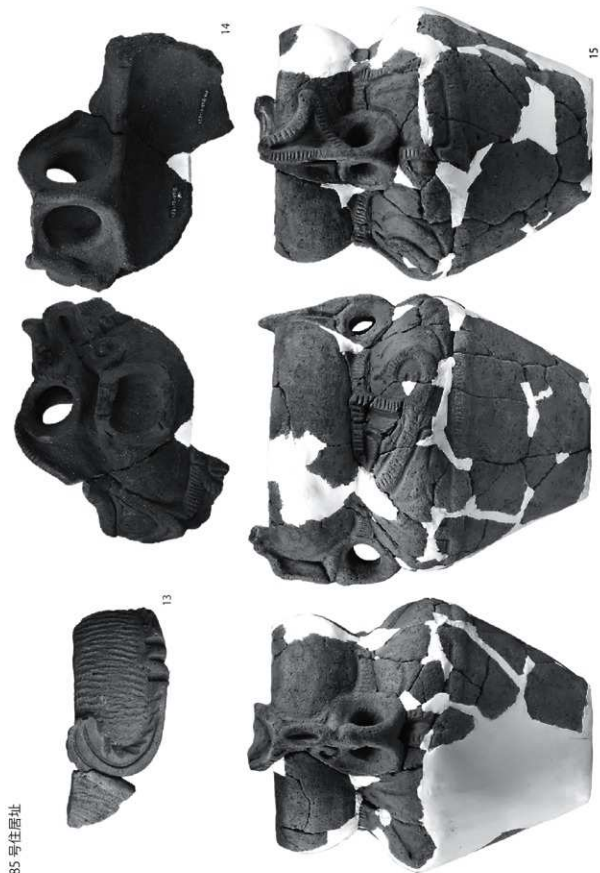
84号住居址



85号住居址



83号住居址出土縄文土器 (2)・84号住居址出土縄文土器・85号住居址出土縄文土器 (1)



85号住居址

85号住居址出土縄文土器(2)

85号住居址



16



17



18



19-1



19-2



20



21

85号住居址出土縄文土器 (3)

85号住居址



85号住居址



86号住居址



85号住居址出土縄文土器 (5)・86号住居址出土縄文土器 (1)

86号住居址

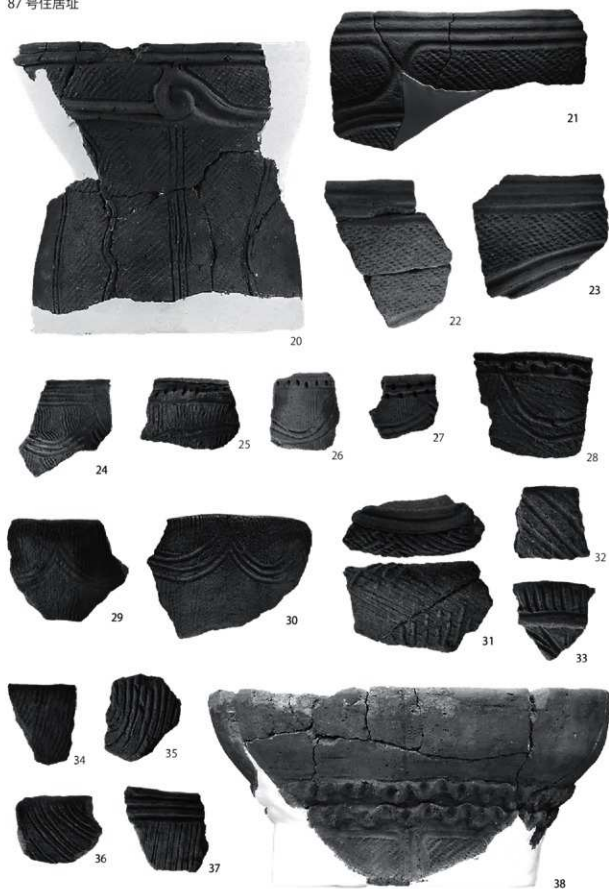


87号住居址



86号住居址出土縄文土器 (2)・87号住居址出土縄文土器 (1)

87号住居址



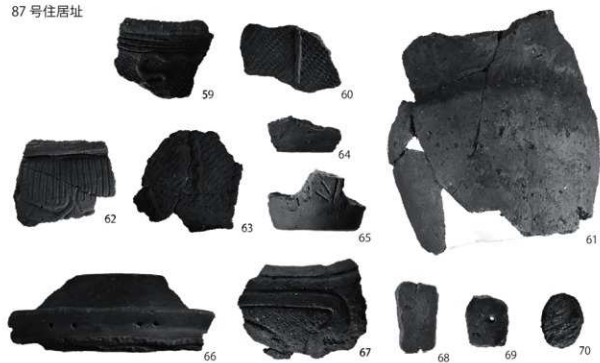
87号住居址出土縄文土器(2)

87号住居址



87号住居址出土縄文土器(3)

87号住居址



89号住居址



90号住居址



91号住居址



图版 42

79号住居址



12



13



14



15



16



18



17

81号住居址



86



87



88



89



90

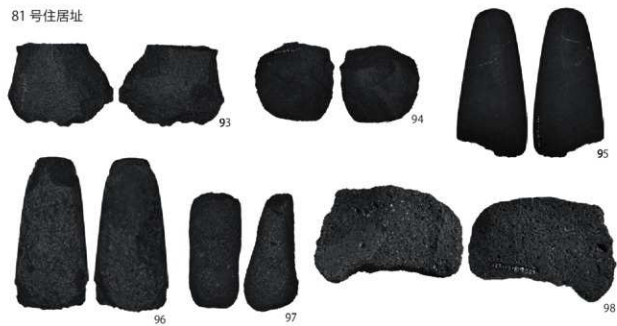


91

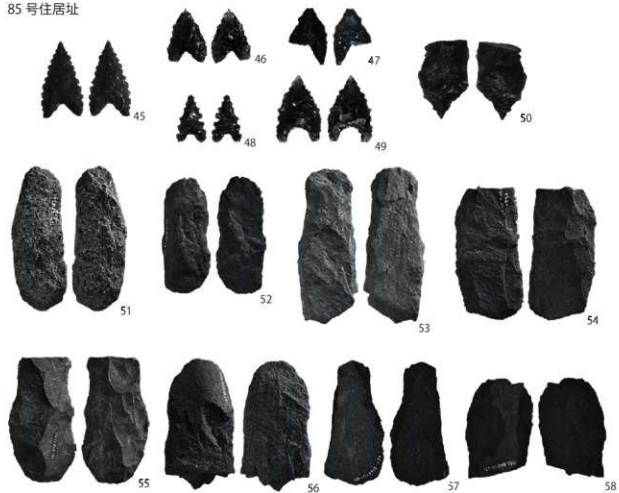


92

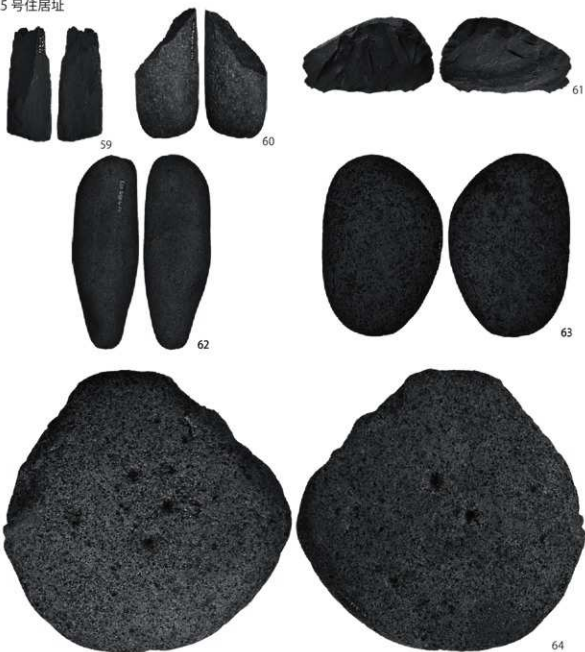
81 号住居址



85 号住居址



85 号住居址



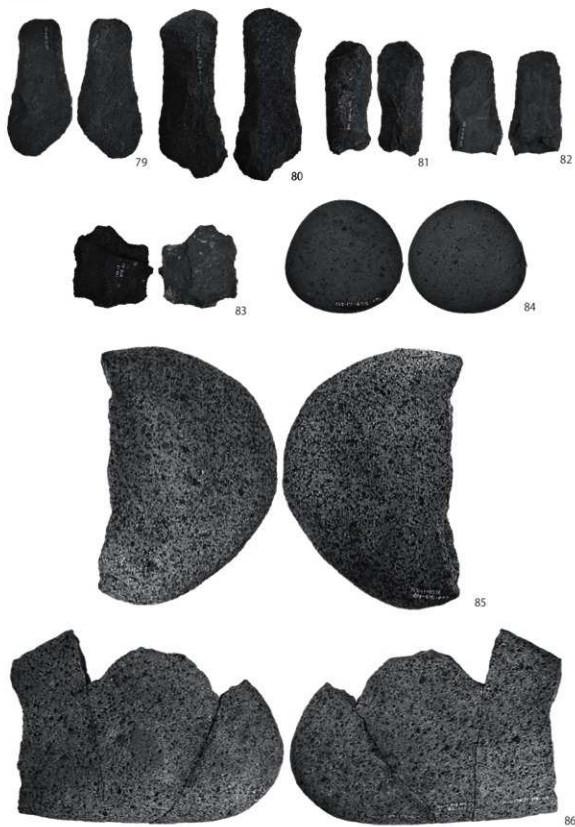
86 号住居址



87 号住居址



87 号住居址



87号住居址



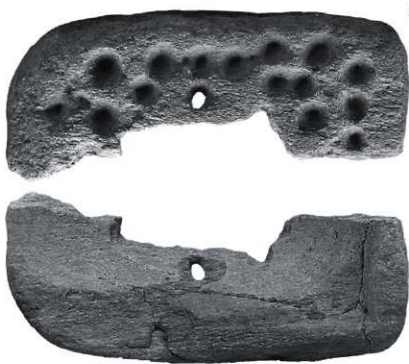
87



88



89



90

89号住居址



2

90号住居址



4

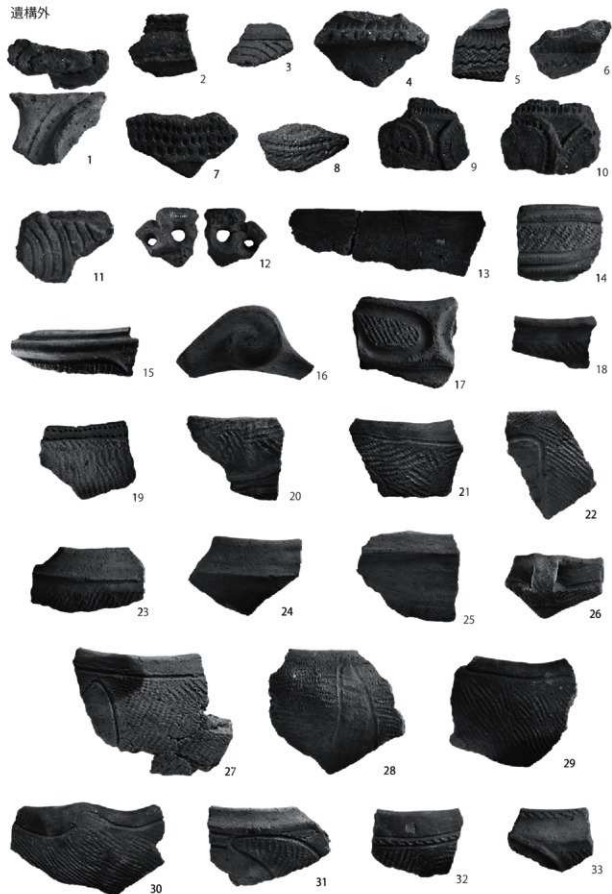
91号住居址



3

87号住居址出土石器(3)·89号住居址出土石器·90号住居址出土石器·91号住居址出土石器

遺構外



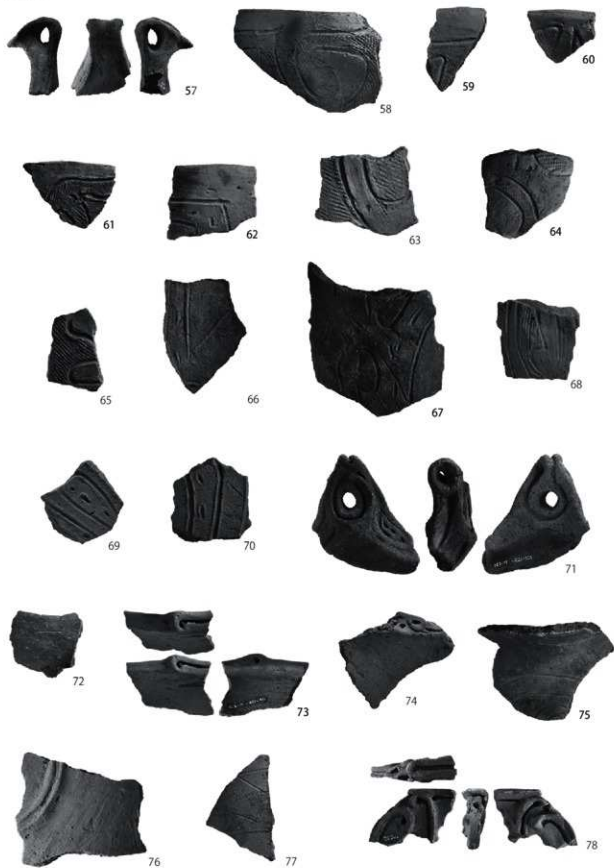
遺構外出土縄文土器 (1)

遺構外



遺構外出土縄文土器 (2)

遺構外



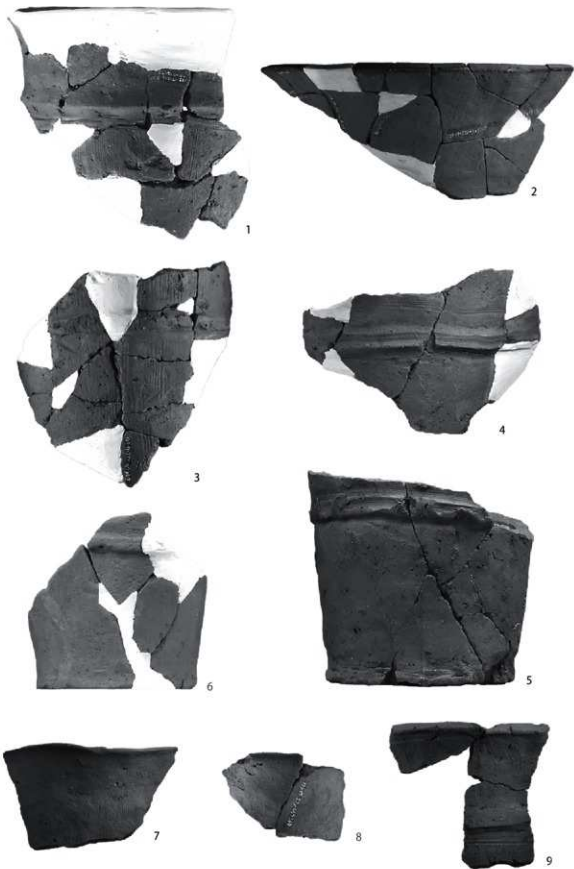
遺構外出土縄文土器 (3)

遺構外



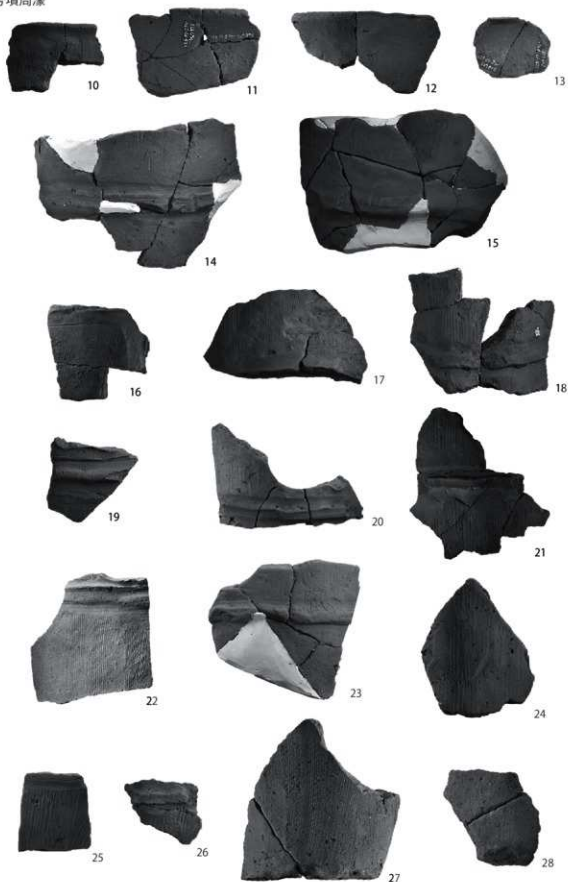
遺構外出土石器

2号填周漆



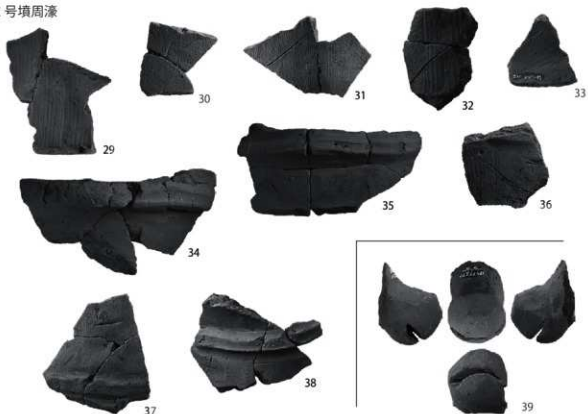
野毛2号填周漆出土遗物 (1)

2号墳周濠



野毛2号墳周濠出土遺物 (2)

2号墳周濠



古墳時代遺構外



中世



近世
2号遺構



報告書抄録

ふりがな	しものげいせきⅦ							
書名	下野毛遺跡Ⅶ							
副書名	都営野毛一丁目団地（第2期）建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次	Ⅶ							
シリーズ名	東京都埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第385集							
編著者名	堀 恭介 大西雅也 石崎俊哉 株式会社パレオ・ラボ							
編集機関	公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター							
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合一丁目14番2 TEL.042-374-8044							
発行年月日	西暦 2024年 6月 28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
しものげいせき 下野毛遺跡	とうきょうとせががやくのび 東京都世田谷区野毛 ちやうめ ほん 一丁目24番	13112	123	35° 36' 14"	139° 38' 33"	20220909 20230707	2,810㎡	都営野毛 一丁目団地 (第2期) 建替事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
下野毛遺跡	旧石器		遺物集中部 1ヵ所	ナイフ形石器・剥片・石核				
	縄文		住居跡 16軒 土坑 12基 竈上遺構 1基 ピット群 152基	土器・土製品・石鏃・打製石斧・磨製石斧・ 磨石・巖石・凹石・石皿・ほか				
	集落跡	古墳	古墳周濠 1基	円筒埴輪・形象埴輪・土師器				
	中世		溝状遺構 1条	常滑焼				
	近世以降		道路状遺構 2条	陶磁器				
要約	<p>旧石器時代：立川ロームⅡ層下部から後期旧石器時代前中期の遺物集中部を検出した。接合率の高い剥片と石核が出土した。ツール類はⅡ層から単独で出土した。</p> <p>縄文時代：縄文時代中期後葉を中心とした住居址を新たに16軒検出した。</p> <p>古墳時代：第6次・16次調査時に検出した野毛2号墳の周濠の続きを検出した。今回の調査で墳丘の平面形態が帆立貝形古墳であることが明らかになった。</p> <p>中世：断面がV字状を呈する溝状遺構を検出した。周辺の調査成果から「等々力城（砦）」の濠と推定される。</p> <p>近世以降：東西に走る道路跡と考えられる遺構を検出した。</p>							

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	135kg (四六判)
本文	コート紙	90kg (四六判)
写真図版	コート紙	90kg (四六判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	ベジタブルインク	
製版線数	150 線 (カラー 175 線)	

本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用

世田谷区

下野毛遺跡Ⅶ

—都宮野毛一丁目団地 (第2期) 建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

東京都埋蔵文化財センター調査報告第385集

2024年6月28日 発行

編集・発行

(公財) 東京都教育支援機構

東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目14番2

TEL 042 - 374 - 8044

印刷 明誠企画株式会社

東京都武蔵村山市榎2-25-5
